

科目名	中国語ⅠA (FV11F110)
英文科目名	Chinese I A
担当教員名	菅未帆＊（すがみほ＊）
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバスなどを理解する。中国語がどのような言語なのかについて概略をつかむ。
2回	第一課 発音① 声調・単母音・複母音を学ぶ。
3回	第二課 発音② 無気音と有気音・そり舌音・消えるoとe・iの違いを学ぶ。
4回	第三課 発音③ 鼻音（-n, -ng）・消えるeを学ぶ。
5回	第四課 発音④ 第3声の声調変化・「一」「不」の声調変化・軽声・隔音マーク・r化を学ぶ。
6回	第五課 人称代名詞・動詞述語文「是」・「的」・語気助詞「吧」を学ぶ。
7回	第六課 助動詞・「想」・「姓／叫」・「在」・指示代名詞を学ぶ。
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。
2回	中国語についての概略を復習しておくこと。自分の名前の読み方・書き方を調べておくこと。
3回	CDを繰り返し聴き、第一課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。
4回	CDを繰り返し聴き、第二課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。
5回	CDを繰り返し聴き、第三課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。
6回	CDを繰り返し聴き、第四課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。自分の名前の読み方を練習しておくこと。
7回	第五課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。自分の名前の読み方を練習しておくこと。
8回	第一課から第六課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	テキストとビデオを参考にしながら、中国語の基礎となる発音の基礎をしっかりと身に付け、導入部分の文法を習得し、中国語に少しでも慣れることを主な目的とする。授業内容を通して、中国古来の生活文化の様子を知るとともに、あわせて、現在の中国において進行している事柄についての知識を得る。将来、社会人として中国語を第二外国語として活用出来る事を目標にする。言語についての理解を深めるため、中国語の表現上の特徴や日中両言語の類似点と相違点にも留意する。（単位認定の方針Aに強く関与する）
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で自分の名前・相手に対する要求を伝えることができるようになる。 ③「基本単語（簡体字で正しく書ける）」、「ピンイン（表音ローマ字）の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」を身につけることができる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中に行う小テスト（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ！ニッポンーふりむけば、中国／相原茂・朱怡穎著／朝日出版社／ISBN：978-4-255-45301-9
関連科目	中国語ⅠB、中国語ⅡA、中国語ⅡB
参考書	デイリーコンサイズ中日・日中辞典／杉本達矢他／三省堂／4385121680：初めての中国語学習辞典／相原茂／朝日出版社／978-4255001135：クラウン中日辞典／松岡栄志／三省堂／4385121753：中国語辞典／伊地智善継／白水社／4560000824：CD2枚付 改訂版 合格奪取！中国語検定 準4級 トレーニングブック／載暁旬／アスク出版／4866390573：その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク

ゲ	
課題に対するフィードバック	小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	ハングルⅠA (FV11F120)
英文科目名	Hangul I A
担当教員名	チェユンジョン＊ (ちえゆんじょん＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス、自己紹介など ハングルⅠAは外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。まずは、学生諸君にハングルの書き方と読み方に慣れてもらい、徐々に韓国語の文法や語彙を習得する授業へと展開する。毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2回	第1課 韓国語の基本母音、合成母音(1)について学習する。
3回	第2課 韓国語の基本子音について学習する。
4回	第2課 韓国語の基本子音について学習する。
5回	第2課 韓国語の平音、激音、濃音の違いについて学習する。
6回	第3課 韓国語の合成母音(2)について学習する。
7回	第4課 韓国語のパッチム(終声)について学習する。
8回	第4課 終声(パッチム) (2) とまとめ(小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。) 授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。 ある程度は時間に余裕を持たせて、韓国語の文字と発音をトレーニングしていくが、その日に学習した内容は必ず復習しておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2回	教科書の6ページと7ページの単語を音読しておくこと。
3回	前回(基本母音、合成母音(1))の復習をし、教科書12ページと13ページの単語を音読しておくこと。
4回	前回(基本子音(1))の復習をし、教科書14ページと15ページの単語を音読しておくこと。
5回	前回(基本子音(2))の復習をし、教科書14ページと15ページの単語を音読しておくこと。
6回	平音、激音、濃音の区別をしながら、教科書14ページから17ページまでの単語を音読しておくこと。
7回	前回(合成母音(2))を復習し、教科書19ページの単語を音読しておくこと。
8回	前回(終声(1))を復習し、教科書22ページと23ページの単語を音読しておくこと。

講義目的	ハングルの読み方、書き方を理解し、簡単な会話ができるようになることを目標にする。基本母音10文字と基本子音14文字など、ハングル文字の読み、書きを学習し、自己紹介や簡単な質問など、韓国語の入門編の日常会話を学ぶ。簡単な会話が理解でき、初歩的なコミュニケーションがとれるよう指導する。また単に言語運用能力の向上を目指すだけではなく、韓国の歴史・文化や現代韓国事情などにも触れることができるようにし、隣国関係、さらには広く異文化を理解する視点を身につける。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	ハングルⅠAの授業を通じて、ハングルを書くことができるようになる。また、簡単な挨拶言葉、自己紹介ができるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ!韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングルⅠB、ハングルⅡA、ハングルⅡB
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014:朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375:ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業の前後で質疑応答をする。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。 講義資料は基本的に授業中に配布する。
アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること。

課題に対するフィードバック	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G110)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間 10 分)
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間 60 分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目ある。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8 回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G120)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	マイケル ライツ リヴェネ (りヴェらまいけるらいあん*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間 10 分)
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間 60 分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目ある。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8 回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	ouscommunicativeenglish@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G130)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	門田シルバルー＊（かどたしるばるー＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。（標準学習時間 10 分）
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間 60 分）

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目ある。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準 60 点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8 回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合があります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G140)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	ガリーバード* (がりーばーど*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間 10 分)
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間 60 分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目ある。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8 回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	8fortrose@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G150)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	鳥生クリスティーン＊ (とりゅうくりすていん＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間 10 分)
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間 60 分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目ある。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8 回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	EMAIL: baby.bird.kris@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G160)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア (わたなべ めりー じゃーん がるしあ)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間 10 分)
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間 60 分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目である。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8 回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合があります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G170)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	クロッカーネンデ化`ット* (くろっかーねいさんでいびっど*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間 10 分)
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間 60 分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目ある。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8 回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	nathcrocker@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I A (FV11G180)
英文科目名	Communicative English I A
担当教員名	大河内ジュリー＊（おおこうちじゅりー＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Chapter 1 事前に学習した「朝」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 2 事前に学習した「通勤通学」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。過去形と不規則変化動詞の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 3 事前に学習した「仕事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 4 事前に学習した「テクノロジー」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Chapter 5 事前に学習した「家事」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。単純現在形と三単現を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
7 回	Chapters 1-5 で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。Used to と Be used to の意味と使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して、会話をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。（標準学習時間 10 分）
2 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 1: In the Morning」を勉強すること。文法のテキストから Unit 2 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
3 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 2: Commuting」を勉強すること。文法のテキストから Unit 5 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
4 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 3: Working」を勉強すること。文法のテキストから Unit 7 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
5 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 4: Smartphone & PC Life」を勉強すること。文法のテキストから Units 8-9 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
6 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary 5: Housework」を勉強すること。文法のテキストから Units 12-13 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
7 回	Quizlet にある単語リスト「Vocabulary Review 1-5」を勉強すること。文法のテキストから Units 17 & 59 の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間 60 分）

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす 1 年次科目ある。IA では、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、失敗を恐れずに英語を口にさせるようになることをめざす。単語の聞き取り練習をすることで英語を聴くことに慣れる。
達成目標	① 日常生活や仕事に関する単語と表現を 150 程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の現在形・過去形・完了形を理解し、正しい時制を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについて短い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準 60 点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8 回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。

教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	Zhulimei2@yahoo.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅠA (FV11K110)
英文科目名	Chinese I A
担当教員名	張永慶* (ちょうえいけい*)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバスなどを理解する。中国語がどのような言語なのかについて概略をつかむ。
2回	第一課 発音① 声調・単母音・複母音を学ぶ。
3回	第二課 発音② 無気音と有気音・そり舌音・消えるoとe・iの違いを学ぶ。
4回	第三課 発音③ 鼻音(-n, -ng)・消えるeを学ぶ。
5回	第四課 発音④ 第3声の声調変化・「一」「不」の声調変化・轻声・隔音マーク・r化を学ぶ。
6回	第五課 人称代名詞・動詞述語文「是」・「的」・語気助詞「吧」を学ぶ。
7回	第六課 助動詞・「想」・「姓/叫」・「在」・指示代名詞を学ぶ。
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。
2回	中国語についての概略を復習しておくこと。自分の名前の読み方・書き方を調べておくこと。
3回	CDを繰り返し聴き、第一課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。
4回	CDを繰り返し聴き、第二課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。
5回	CDを繰り返し聴き、第三課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。
6回	CDを繰り返し聴き、第四課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。自分の名前の読み方を練習しておくこと。
7回	第五課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。自分の名前の読み方を練習しておくこと。
8回	第一課から第六課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	テキストとビデオを参考にしながら、中国語の基礎となる発音の基礎をしっかりと身に付け、導入部分の文法を習得し、中国語に少しでも慣れることを主な目的とする。授業内容を通して、中国古来の生活文化の様子を知るとともに、あわせて、現在の中国において進行している事柄についての知識を得る。将来、社会人として中国語を第二外国語として活用出来る事を目標にする。言語についての理解を深めるため、中国語の表現上の特徴や日中両言語の類似点と相違点にも留意する。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で自分の名前・相手に対する要求を伝えることができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」を身につけることができる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	本科目に引き続き「中国語IB」を履修することが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参加を考へる者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 http://www.chuken.gr.jp/

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回A4ノート2ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。 講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含め）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅠA (FV11Q110)
英文科目名	Chinese I A
担当教員名	宮田さつき＊ (みやたさつき＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバスなどを理解する。中国語がどのような言語なのかについて概略をつかむ。
2回	第一課 発音① 声調・単母音・複母音を学ぶ。
3回	第二課 発音② 無気音と有気音・そり舌音・消えるoとe・iの違いを学ぶ。
4回	第三課 発音③ 鼻音(-n, -ng)・消えるeを学ぶ。
5回	第四課 発音④ 第3声の声調変化・「一」「不」の声調変化・軽声・隔音マーク・r化を学ぶ。
6回	第五課 人称代名詞・動詞述語文「是」・「的」・語気助詞「吧」を学ぶ。
7回	第六課 助動詞・「想」・「姓／叫」・「在」・指示代名詞を学ぶ。
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	中国語についての概略を復習しておくこと。自分の名前の読み方・書き方を調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	CDを繰り返し聴き、第一課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。(標準学習時間180分)
4回	CDを繰り返し聴き、第二課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。(標準学習時間180分)
5回	CDを繰り返し聴き、第三課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。(標準学習時間180分)
6回	CDを繰り返し聴き、第四課の内容を復習しておくこと。自分の発音を録音し、CDと聴き比べて練習する。自分の名前の読み方を練習しておくこと。(標準学習時間180分)
7回	第五課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。自分の名前の読み方を練習しておくこと。(標準学習時間180分)
8回	第一課から第六課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。(標準学習時間240分)

講義目的	テキストとビデオを参考にしながら、中国語の基礎となる発音の基礎をしっかりと身に付け、導入部分の文法を習得し、中国語に少しでも慣れることを主な目的とする。授業内容を通して、中国古来の生活文化の様子を知るとともに、あわせて、現在の中国において進行している事柄についての知識を得る。将来、社会人として中国語を第二外国語として活用出来る事を目標にする。言語についての理解を深めるため、中国語の表現上の特徴や日中両言語の類似点と相違点にも留意する。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で自分の名前・相手に対する要求を伝えることができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」を身につけることができる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。(達成目標①②③を確認)
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	本科目に引き続き「中国語ⅠB」を履修することが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参

	加を考える者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 http://www.chuken.gr.jp/
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回 A4 ノート 2 ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。 講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	ハングルⅠA (FV11Q120)
英文科目名	Hangul I A
担当教員名	チェチャンオク＊ (ちえちゃんおく＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス、自己紹介など ハングルⅠAは外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。まずは、学生諸君にハングルの書き方と読み方に慣れてもらい、徐々に韓国語の文法や語彙を習得する授業へと展開する。毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2回	第1課 韓国語の基本母音、合成母音(1)について学習する。
3回	第2課 韓国語の基本子音について学習する。
4回	第2課 韓国語の基本子音について学習する。
5回	第2課 韓国語の平音、激音、濃音の違いについて学習する。
6回	第3課 韓国語の合成母音(2)について学習する。
7回	第4課 韓国語のパッチム(終声)について学習する。
8回	第4課 終声(パッチム) (2) とまとめ (小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。) 授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。 ある程度は時間に余裕を持たせて、韓国語の文字と発音をトレーニングしていくが、その日に学習した内容は必ず復習しておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2回	教科書の6ページと7ページの単語を音読しておくこと。
3回	前回 (基本母音、合成母音 (1)) の復習をし、教科書12ページと13ページの単語を音読しておくこと。
4回	前回 (基本子音 (1)) の復習をし、教科書14ページと15ページの単語を音読しておくこと。
5回	前回 (基本子音 (2)) の復習をし、教科書14ページと15ページの単語を音読しておくこと。
6回	平音、激音、濃音の区別をしながら、教科書14ページから17ページまでの単語を音読しておくこと。
7回	前回 (合成母音 (2)) を復習し、教科書19ページの単語を音読しておくこと。
8回	前回 (終声 (1)) を復習し、教科書22ページと23ページの単語を音読しておくこと。

講義目的	ハングルの読み方、書き方を理解し、簡単な会話ができるようになることを目標にする。基本母音10文字と基本子音14文字など、ハングル文字の読み、書きを学習し、自己紹介や簡単な質問など、韓国語の入門編の日常会話を学ぶ。簡単な会話が理解でき、初歩的なコミュニケーションがとれるよう指導する。また単に言語運用能力の向上を目指すだけではなく、韓国の歴史・文化や現代韓国事情などにも触れることができるようにし、隣国関係、さらには広く異文化を理解する視点を身につける。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	ハングルⅠAの授業を通じて、ハングルを書くことができるようになる。また、簡単な挨拶言葉、自己紹介ができるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ!韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングルⅠB、ハングルⅡA、ハングルⅡB
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014:朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375:ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。 講義資料は基本的に授業中に配布する。
アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること。
課題に対するフィード	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後

バック	も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅢA (FV11U210)
英文科目名	Communicative English III A
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現
2回	Unit 1: Pilot (Part 1) 現在進行形、打ち明ける表現、短縮表現を学ぶ。
3回	Unit 2: Pilot (Part 2) 現在完了形、強調する表現、母音の脱落を学ぶ。
4回	Unit 3: Run for Your Wife (Part 1) 関係詞 (where, when, why, how)、比較する表現、機能語の発音を学ぶ。
5回	Unit 4: Run for Your Wife (Part 2) 仮定法、励ます表現、音の同化を学ぶ。
6回	Unit 5: The Bicycle Thief (Part 1) 分詞形容詞、丁寧に依頼する表現、末子音の発音を学ぶ。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 1」を勉強すること。テキストのUnit 1からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 2」を勉強すること。テキストのUnit 2からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 3」を勉強すること。テキストのUnit 3からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 4」を勉強すること。テキストのUnit 4からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 5」を勉強すること。テキストのUnit 5からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「Modern Family Review 1-5」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目ある。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅢAでは、アカデミックな場面でよく使われる語彙や表現を学び、パターン・プラクティスをおしてそれらの語彙や表現の定着をはかる。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25%【達成目標①】 Homework (英語の語彙や文法を練習するプリントなど) 25%【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25%【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Modern Family <First Season>-Episodes 1-5/Christopher Lloyd, Steven Levitan/松柏社/ISBN 978-4-88198-708-7
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。

	必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅢA (FV11U220)
英文科目名	Communicative English III A
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア* (わたなべめりーじゅーんがるしあ*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Unit 1: Pilot (Part 1) 現在進行形、打ち明ける表現、短縮表現を学ぶ。
3回	Unit 2: Pilot (Part 2) 現在完了形、強調する表現、母音の脱落を学ぶ。
4回	Unit 3: Run for Your Wife (Part 1) 関係詞 (where, when, why, how)、比較する表現、機能語の発音を学ぶ。
5回	Unit 4: Run for Your Wife (Part 2) 仮定法、励ます表現、音の同化を学ぶ。
6回	Unit 5: The Bicycle Thief (Part 1) 分詞形容詞、丁寧に依頼する表現、末子音の発音を学ぶ。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 1」を勉強すること。テキストのUnit 1からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 2」を勉強すること。テキストのUnit 2からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 3」を勉強すること。テキストのUnit 3からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 4」を勉強すること。テキストのUnit 4からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 5」を勉強すること。テキストのUnit 5からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「Modern Family Review 1-5」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅢAでは、アカデミックな場面でよく使われる語彙や表現を学び、パターン・プラクティスをとおしてそれらの語彙や表現の定着をはかる。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (英語の語彙や文法を練習するプリントなど) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Modern Family <First Season>-Episodes 1-5/Christopher Lloyd, Steven Levitan/松柏社/ISBN 978-4-88198-708-7
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップ

	ロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅢA (FV11U230)
英文科目名	Communicative English III A
担当教員名	門田シルバルー＊ (かどたしるばー＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Unit 1: Pilot (Part 1) 現在進行形、打ち明ける表現、短縮表現を学ぶ。
3回	Unit 2: Pilot (Part 2) 現在完了形、強調する表現、母音の脱落を学ぶ。
4回	Unit 3: Run for Your Wife (Part 1) 関係詞 (where, when, why, how)、比較する表現、機能語の発音を学ぶ。
5回	Unit 4: Run for Your Wife (Part 2) 仮定法、励ます表現、音の同化を学ぶ。
6回	Unit 5: The Bicycle Thief (Part 1) 分詞形容詞、丁寧に依頼する表現、末子音の発音を学ぶ。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 1」を勉強すること。テキストのUnit 1からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 2」を勉強すること。テキストのUnit 2からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 3」を勉強すること。テキストのUnit 3からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 4」を勉強すること。テキストのUnit 4からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 5」を勉強すること。テキストのUnit 5からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「Modern Family Review 1-5」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目ある。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅢAでは、アカデミックな場面でよく使われる語彙や表現を学び、パターン・プラクティスをとおしてそれらの語彙や表現の定着をはかる。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(英語の語彙や文法を練習するプリントなど)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Modern Family <First Season>-Episodes 1-5/Christopher Lloyd, Steven Levitan/松柏社/ISBN 978-4-88198-708-7
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップ

	ロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I A (FV11V110)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読む(音読も含めて)ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテンス
------	---

	が正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深めるために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つである。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。 ② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。 ③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。 ④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解できる。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I A (FV11V120)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	神村伸子＊（かみむらのぶこ＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語 学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該 当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、 writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar points の該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該 当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）

8回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試 の 準備をしておくこと。（標準学習時間60分）
----	---

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能 力を養成することをめざす1年次科目である。IAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピ ックの英文を読む（音読も含めて）ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確 認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテンス が正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深める ために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つである 。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。② 基本構文をも とに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。③ 英文を読むことを通して、異なる文化や 社会などの知識を獲得できる。④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことがで きる。⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が 理解で きる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を 合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-52317832 -3
関連科目	総合英語 I B・II A・II B・III A・III B・IV A・IV B、発信英語 I A・I B・II A・II B・III A・III B・IV A・IV B、専門英語 I A・I B・II A・II B、応用英語 I A・I B・II A・II B、実用英語（アカデミックラ イティング）・（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業です。出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞 書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠 席 1回と数えます。
アクティブ・ラーニン グ	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授 業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする
課題に対するフィード バック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点 後、コメントを入れて返却する
合理的配慮が必要な学 生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供して いますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大(現)で英語科非常勤講師として勤務：他大学での教育経験を活かして、基 礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的 な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I A (FV11V130)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar points の該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)

8回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試 の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション 能力を養成することをめざす1年次科目である。IAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なト ピックの英文を読む（音読も含めて）ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再 確認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテ ンスが正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深め るために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つであ る。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。 ② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。 ③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。 ④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の 論理構成が理解できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60 点）	・ 応用課題20% ・ 小テストの結果30% ・ 最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-52317832 -3
関連科目	総合英語 I B・II A・II B・III A・III B・IV A・IV B、発信英語 I A・I B・II A・II B・III A・III B・IV A・IV B、専門英語 I A・I B・II A・II B、応用英語 I A・I B・II A・II B、実用英語（アカデミックライテ ィング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・ 参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・ 毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。 ・ 単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・ 遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニン グ	演習、ペアワーク、質問 ・ 事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・ 授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがある。
課題に対するフィード バック	・ 応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・ 語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学 生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供してい ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校か ら大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用 的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I A (FV11V140)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読む(音読も含めて)ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテンス
------	---

	が正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深めるために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つである。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。 ② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。 ③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。 ④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I A (FV11V150)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅえらようこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar points の該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅰは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。ⅠAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読む(音読も含めて)ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深めるために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つである。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。 ② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。 ③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。 ④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>/テリー・オブライエンほか/南雲堂/978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語(アカデミックライティング)・実用英語(プレゼンテーション)
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書(電子辞書またはペーパーの辞書)を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	総合英語 I A (FV11V160)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	藤倉晶子＊（とうくらあきこ＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語 学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar points の該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、 grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読む（音読も含めて）ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深めるために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つである。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。

	③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。 ④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523178321-3
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I A (FV11V170)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	菅開* (かんひらき*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4のpp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5のpp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読む(音読も含めて)ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテンス
------	---

	が正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深めるために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つである。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。 ② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。 ③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。 ④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・ 事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・ 授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I A (FV11V180)
英文科目名	Integrated English I A
担当教員名	松原加純＊（まつばらかずみ＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: Our Aging Society reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Holiday memories reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Sport reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Foreign Workers reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Lifestyles reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Sizes reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能
------	--

	力を養成することをめざす1年次科目である。IAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読む（音読も含めて）ことで、基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、その知識を確実に定着させることをめざしている。基本的な構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書けるように練習を行う。また、グローバル化が進んだ世界において異文化理解を深めるために、英文を読むことを通して異なる文化や社会などの知識を獲得することも目標の一つである。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。 ② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。 ③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。 ④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・ 事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・ 授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W210)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢAでは、一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけることをめざす。科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び語彙力の向上をはかり、その語彙力を活用して科学技術関連の英文を読むことに慣れる。また、最新の科学技術関連の記事に興味・関心をもつようになる。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけられること。 ② 科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び、語彙力を向上させ、科学技術関連の英文を読めること。 ③ 最新の科学技術関連の記事に興味・関心を持てること。 ④ Herbivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について理解できること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W220)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	神村伸子＊ (かみむらのぶこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2　ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問　・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。　・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大(現)で英語科非常勤講師として勤務：他大学での教育経験を活かして、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的　な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W230)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢAでは、一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけることをめざす。科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び語彙力の向上をはかり、その語彙力を活用して科学技術関連の英文を読むことに慣れる。また、最新の科学技術関連の記事に興味・関心をもつようになる。
------	---

達成目標	① 一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけられること。 ② 科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び、語彙力を向上させ、科学技術関連の英文を読めること。 ③ 最新の科学技術関連の記事に興味・関心を持てること。 ④ Herbivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について理解できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・ 応用課題20% ・ 小テストの結果30% ・ 最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・ 参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・ 毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。 ・ 単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・ 遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・ 事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・ 授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがあります。
課題に対するフィードバック	・ 応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・ 語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W240)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢAでは、一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけることをめざす。科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び語彙力の向上をはかり、その語彙力を活用して科学技術関連の英文を読むことに慣れる。また、最新の科学技術関連の記事に興味・関心をもつようになる。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけられること。 ② 科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び、語彙力を向上させ、科学技術関連の英文を読めること。 ③ 最新の科学技術関連の記事に興味・関心を持てること。 ④ Herbivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について理解できること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W250)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅえらようこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢAでは、一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけることをめざす。科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び語彙力の向上をはかり、その語彙力を活用して科学技術関連の英文を読むことに慣れる。また、最新の科学技術関連の記事に興味・関心をもつようになる。
達成目標	① 一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけられること。 ② 科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び、語彙力を向上させ、科学技術関連の英文を読めること。 ③ 最新の科学技術関連の記事に興味・関心を持てること。 ④ Herbivores についての現状と問題点を理解できること。

	⑤ 基本的な critical thinking について理解できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W260)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	藤倉晶子* (とうくらあきこ*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語 学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢAでは、一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけることをめざす。科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び語彙力の向上をはかり、その語彙力を活用して科学技術関連の英文を読むことに慣れる。また、最新の科学技術関連の記事に興味・関心をもつようになる。
達成目標	① 一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけられること。 ② 科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び、語彙力を向上させ、科学技術関連の英文を読めること。 ③ 最新の科学技術関連の記事に興味・関心を持てること。 ④ Herbivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について理解できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W270)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	菅開* (かんひらき*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢAでは、一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけることをめざす。科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び語彙力の向上をはかり、その語彙力を活用して科学技術関連の英文を読むことに慣れる。また、最新の科学技術関連の記事に興味・関心をもつようになる。
達成目標	① 一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけられること。 ② 科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び、語彙力を向上させ、科学技術関連の英文を読めること。 ③ 最新の科学技術関連の記事に興味・関心を持てること。 ④ Herbivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について理解できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する

成績評価（合格基準点）	60 応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢA (FV11W280)
英文科目名	Integrated English III A
担当教員名	松原加純＊ (まつばらかずみ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 1: The Giant Leader of the African Plain 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 2: Thinkers of the Forest 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 2: Thinkers of the Forest 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 3: The Heart-Warming Story 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
7回	Unit 3: The Heart-Warming Story 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 1 から Unit 3 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 10-14 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 10-14 の復習と語彙テストの準備、Unit 1 の pp. 15-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 1 の pp. 15-17 の復習と、Unit 2 の pp. 18-22 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 2 の pp. 18-22 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 23-25 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 2 の pp. 23-25 の復習と、Unit 3 の pp. 26-30 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 3 の pp. 26-30 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 31-33 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 3 の pp. 31-33 の復習と、Unit 1 から Unit 3 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢAでは、一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけることをめざす。科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び語彙力の向上をはかり、その語彙力を活用して科学技術関連の英文を読むことに慣れる。また、最新の科学技術関連の記事に興味・関心をもつようになる。
達成目標	① 一般的な科学技術に関連する平易な英文を読むことをとおして科学的な英語表現の基礎を身につけられること。 ② 科学技術関連の接頭辞・接尾辞・語根などの知識を学び、語彙力を向上させ、科学技術関連の英文を読めること。 ③ 最新の科学技術関連の記事に興味・関心を持てること。 ④ Herbivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について理解できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する

成績評価（合格基準点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語 I B (FV12F110)
英文科目名	Chinese I B
担当教員名	菅未帆＊ (すがみほ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中国文化、習慣、現状を知る。
2 回	中国文化、習慣、現状について学んだ内容を復習しておくこと。
3 回	第八課 連動文・量詞・「有」・時間量を学ぶ。
4 回	第九課 疑問詞・お金・「二」と「兩」を学ぶ。
5 回	第十課 年月日、曜日・どうしての「怎么」・年齢を学ぶ。
6 回	単語を復習し、単語テストを実施する。
7 回	自己紹介文の作成、音読練習をする。
8 回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	既習内容を復習し、中国文化について調べておくこと。
3 回	第七課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
4 回	第八課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5 回	第九課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
6 回	第十課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
7 回	既習内容を復習し、中国語による自己紹介文を準備してくる。
8 回	第七課から第十課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	中国語 I A の内容をさらに発展させて、テキストとビデオを参考にしながら、中国語の初級文法を習得し、学校生活と身近生活で使われる表現用語を身につけ、簡単な日常会話ができるようにする。授業内容を通して、中国古来の生活文化の様子を知るとともに、あわせて、現在の中国において進行している事柄についての知識を得る。将来、社会人として中国語を第二外国語として活用出来る事を目標にする。言語についての理解を深めるため、中国語の表現上の特徴や日中両言語の類似点と相違点にも留意する。 (単位認定の方針 A に強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で自己紹介・時間量・存在などについて話することができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」を身につけることができる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	中国語 I A、中国語 I I A、中国語 I I B
参考書	デイリーコンサイス中日・日中辞典/杉本達矢他/三省堂/4385121680:初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/978-4255001135:クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/4385121753:中国語辞典/伊地智善継/白水社/4560000824:CD2枚付 改訂版 合格奪取! 中国語検定 準4級 トレーニングブック/載暁旬/アスク出版/4866390573:その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク
課題に対するフィードバック	小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供している

生への対応	ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	ハングルⅠB (FV12F120)
英文科目名	Hangul I B
担当教員名	チェユンジョン＊ (ちえゆんじょん＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ハングルⅠAの復習 第3課 ハングルでの日本語表記について学習する。 第4課 韓国語の発音変化(1)について学習する。 ハングルⅠBも外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。ハングルⅠAで学習した内容を復習し、教科書の第5課に入っていく予定である。1つの課を2～3回に分けて、授業を進める。また、毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2回	第4課 韓国語の発音変化(2)について学習する。
3回	第5課 韓国語の「私は～です。」を学習し、韓国語で自己紹介を行う。
4回	第5課 韓国語の「私は～です。」を応用し、かしこまった丁寧形について学習する。
5回	第6課 韓国語の「時間ありますか？」を学習し、それに関する文型練習を行う。
6回	第6課 韓国語の「時間ありますか？」を応用し、うちとけた丁寧形について学習する。
7回	かしこまった「です。ます。」体とうちとけた「です。ます。」体との相違について学習し、その作り方の反復練習を行う。
8回	ハングルⅠBのまとめと期末テスト(小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。)授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	ハングルⅠAで学習した内容を復習しておくこと。 この授業では、ハングルⅠAと同じく、韓国語の文字と発音のトレーニングに重点を置くことになるが、確実にハングルが読めるように、その日に学習した内容を復習し、単語の音読もあわせてしておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2回	前回の復習と教科書21ページと24ページを音読しておくこと。
3回	前回の復習と教科書26ページと27ページの単語を音読しておくこと。
4回	教科書31ページから33ページまでの復習・音読をしておくこと。
5回	教科書34ページから35ページまでの復習・音読をしておくこと。
6回	教科書37ページから39ページまでの復習・音読をしておくこと。
7回	教科書40ページから42ページまでの復習・音読をしておくこと。
8回	教科書の第1課と第2課の内容を復習しておくこと。

講義目的	ハングルⅠAの内容を基礎にして、ハングルの読み方、書き方を理解し、簡単な会話ができるようになることを目標にする。基本母音10文字と基本子音14文字など、ハングル文字の読み、書きを学習し、自己紹介や簡単な質問など、韓国語の入門編の日常会話を学ぶ。簡単な会話が理解でき、初歩的なコミュニケーションがとれるよう指導する。また単に言語運用能力の向上を目指すだけでなく、韓国の歴史・文化や現代韓国事情などにも触れることができるようにし、隣国関係、さらには広く異文化を理解する視点を身につける。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	ハングルⅠBの授業を通じて、ハングルを自由に読むことができるようになる。また、韓国語で「～です。～ですか。～ではありません。」を言うことができるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ!韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングルⅠA、ハングルⅡA、ハングルⅡB
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014:朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375:ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業の前後で質疑応答をする。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。 講義資料は基本的に授業中に配布する。

アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること。
課題に対するフィードバック	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G110)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間30分)
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。(標準学習時間30分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合があります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G120)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	マイケル ライツ リヴェネ (りヴェらまいけるらいあん*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間30分)
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。(標準学習時間30分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	ouscommunicativeenglish@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G130)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	門田シルバルー＊（かどたしるばるー＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G140)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	ガリーバード＊（がりーばーど＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	8fortrose@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G150)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	鳥生クリスティーン＊（とりゅうくりすていん＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	EMAIL: baby.bird.kris@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G160)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア (わたなべめりーじゅーんがるしあ)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間30分)
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。(標準学習時間30分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G170)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	クロッカーネイソデ化'ッド* (くろっかーねいさんでいびっど*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間30分)
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。(標準学習時間30分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	nathcrocker@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語 I B (FV12G180)
英文科目名	Communicative English I B
担当教員名	大河内ジュリー＊（おおこうちじゅりー＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Chapter 6 事前に学習した「家での過ごし方」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。WillとBe going toの違いと未来形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
2 回	Chapter 7 事前に学習した「健康・美容」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。未来を表す現在形の使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
3 回	Chapter 8 事前に学習した「趣味」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。CouldとBe able toの違いとCanの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
4 回	Chapter 9 事前に学習した「外食・買い物」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。MayとMightの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
5 回	Chapter 10 事前に学習した「夜」に関する表現の主語や時制を変化させたり、文の形を変えたりして練習する。Shouldの使い方を復習し、今回学んだ表現と文法を活用して会話をする。
6 回	Wouldの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Chapters 6-10で学んだ表現の単語を入れ替えたり、句や節を足したりして、情報を付加していく練習をする。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 6: Relaxing at Home」を勉強すること。文法のテキストからUnit 22の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 7: Health & Beauty」を勉強すること。文法のテキストからUnit 18の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 8: Favorite Things to Do」を勉強すること。文法のテキストからUnits 25-26の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 9: Eating Out & Shopping」を勉強すること。文法のテキストからUnits 28-29の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary 10: At Night」を勉強すること。文法のテキストからUnit 31の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	文法のテキストからUnits 34-35の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7 回	Quizletにある単語リスト「Vocabulary Review 6-10」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IBでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の基礎的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。日常生活でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークによるパターン・プラクティスを行うことにより、英語を話すことに慣れる。センテンスの聞き取り練習をすることで英語を聴く力を向上させる。
達成目標	① 趣味や外出に関する単語と表現を150程度自然に使う・理解することができる。 ② 英語の未来形と法助動詞について理解し、正しい時制と助動詞を選んで文章を作ることができる。 ③ 身近なトピックについてより長い英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 起きてから寝るまで英語表現1000／荒井 貴和、武藤 克彦、吉田 研作／アルク／ISBN 9784757430259 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	Zhulimei2@yahoo.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語 I B (FV12K110)
英文科目名	Chinese I B
担当教員名	張永慶＊ (ちょうえいけい＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中国文化について知る。
2 回	中国文化について学んだ内容を復習しておくこと。
3 回	第八課 連動文・量詞・「有」・時間量を学ぶ。
4 回	第九課 疑問詞・お金・「二」と「兩」を学ぶ。
5 回	第十課 年月日、曜日・どうしての「怎么」・年齢を学ぶ。
6 回	単語を復習し、単語テストを実施する。
7 回	自己紹介文の作成、音読練習をする。
8 回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	既習内容を復習し、中国文化について調べておくこと。
3 回	第七課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
4 回	第八課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5 回	第九課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
6 回	第十課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
7 回	既習内容を復習し、中国語による自己紹介文を準備してくること。
8 回	第七課から第十課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	中国語 I A の内容をさらに発展させて、テキストとビデオを参考にしながら、中国語の初級文法を習得し、学校生活と身近な生活で使用される表現用語を身につけ、簡単な日常会話ができるようにする。授業内容を通して、中国古来の生活文化の様子を知るとともに、あわせて、現在の中国において進行している事柄についての知識を得る。将来、社会人として中国語を第二外国語として活用出来る事を目標にする。言語についての理解を深めるため、中国語の表現上の特徴や日中両言語の類似点と相違点にも留意する。 (単位認定の方針 A に強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で自己紹介・時間量・存在などについて話することができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」を身につけることができる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	「中国語IA」を履修することが望ましい。 本科目に引き続き「中国語IIA」を履修することが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参加を考へる者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 Http://www.chuken.gr.jp/
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回A4ノート2ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含め）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅠB (FV12Q110)
英文科目名	Chinese I B
担当教員名	宮田さつき＊ (みやたさつき＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中国文化について知る。
2回	第七課 疑問詞の「多」・数の数え方・経験の「过」・形容詞述語文を学ぶ。
3回	第八課 連動文・量詞・「有」・時間量を学ぶ。
4回	第九課 疑問詞・お金・「二」と「兩」を学ぶ。
5回	第十課 年月日、曜日・どうしての「怎么」・年齢を学ぶ。
6回	単語を復習し、単語テストを実施する。
7回	自己紹介文の作成、音読練習をする。
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	既習内容を復習し、中国文化について調べておくこと。(標準学習時間180分)
2回	中国文化について学んだ内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)
3回	第七課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
4回	第八課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
5回	第九課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
6回	第十課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
7回	既習内容を復習し、中国語による自己紹介文を準備してくること。(標準学習時間180分)
8回	第七課から第十課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。(標準学習時間240分)

講義目的	中国語ⅠAの内容をさらに発展させて、テキストとビデオを参考にしながら、中国語の初級文法を習得し、学校生活と身近生活で使われる表現用語を身につけ、簡単な日常会話ができるようにする。授業内容を通して、中国古来の生活文化の様子を知るとともに、あわせて、現在の中国において進行している事柄についての知識を得る。将来、社会人として中国語を第二外国語として活用出来る事を目標にする。言語についての理解を深めるため、中国語の表現上の特徴や日中両言語の類似点と相違点にも留意する。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で自己紹介・時間量・存在などについて話すことができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」を身につけることができる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。(達成目標①②③を確認)
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	「中国語ⅠA」を履修していることが望ましい。 本科目に引き続き「中国語ⅡA」を履修することが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。

	遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参加を考える者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 http://www.chuken.gr.jp/
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回 A4 ノート 2 ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。 講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	ハングル I B (FV12Q120)
英文科目名	Hangul I B
担当教員名	チェチャンオク* (ちえちゃんおく*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ハングル I A の復習 第3課 ハングルでの日本語表記について学習する。 第4課 韓国語の発音変化 (1) について学習する。 ハングル I B も外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。ハングル I A で学習した内容を復習し、教科書の第5課に入っていく予定である。1つの課を2～3回に分けて、授業を進める。また、毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2 回	第4課 韓国語の発音変化 (2) について学習する。
3 回	第5課 韓国語の「私は～です。」を学習し、韓国語で自己紹介を行う。
4 回	第5課 韓国語の「私は～です。」を応用し、かしこまった丁寧形について学習する。
5 回	第6課 韓国語の「時間ありますか？」を学習し、それに関する文型練習を行う。
6 回	第6課 韓国語の「時間ありますか？」を応用し、うちとけた丁寧形について学習する。
7 回	かしこまった「です。ます。」体とうちとけた「です。ます。」体との相違について学習し、その作り方の反復練習を行う。
8 回	ハングル I B のまとめと期末テスト (小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。) 授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	ハングル I A で学習した内容を復習しておくこと。 この授業では、ハングル I A と同じく、韓国語の文字と発音のトレーニングに重点を置くことになるが、確実にハングルが読めるように、その日に学習した内容を復習し、単語の音読もあわせてしておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2 回	前回の復習と教科書21ページと24ページを音読しておくこと。
3 回	前回の復習と教科書26ページと27ページの単語を音読しておくこと。
4 回	教科書31ページから33ページまでの復習・音読をしておくこと。
5 回	教科書34ページから35ページまでの復習・音読をしておくこと。
6 回	教科書37ページから39ページまでの復習・音読をしておくこと。
7 回	教科書40ページから42ページまでの復習・音読をしておくこと。
8 回	教科書の第1課と第2課の内容を復習しておくこと。

講義目的	ハングル I A の内容を基礎にして、ハングルの読み方、書き方を理解し、簡単な会話ができるようになることを目標にする。基本母音 10 文字と基本子音 14 文字など、ハングル文字の読み、書きを学習し、自己紹介や簡単な質問など、韓国語の入門編の日常会話を学ぶ。簡単な会話が理解でき、初歩的なコミュニケーションがとれるよう指導する。また単に言語運用能力の向上を目指すだけでなく、韓国の歴史・文化や現代韓国事情などにも触れることができるようにし、隣国関係、さらには広く異文化を理解する視点を身につける。 (単位認定の方針 A に強く関与する)
達成目標	ハングル I B の授業を通じて、ハングルを自由に読むことができるようになる。また、韓国語で「～です。～ですか。～ではありません。」を言うことができるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ! 韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングル I A、ハングル II A、ハングル II B
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014: 朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375: ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業の前後で質疑応答をする。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。 講義資料は基本的に授業中に配布する。
アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること

ゲ	。
課題に対するフィードバック	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅢB (FV12U210)
英文科目名	Communicative English III B
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Unit 6: The Bicycle Thief (Part 2) 関係詞 (who, which, that)、情報を聞き出す表現、音の連結を学ぶ。
2回	Unit 7: Come Fly with Me (Part 1) 未来形、相手の様子を尋ねる表現、語尾破裂音の脱落を学ぶ。
3回	Unit 8: Come Fly with Me (Part 2) 接続詞と前置詞、話題を変える表現、アメリカ英語における
4回	Unit 9: The Incident (Part 1) 助動詞、提案する表現、アメリカ英語における
5回	Unit 10: The Incident (Part 2) 不定詞、依頼を断る表現、
6回	英文法と言語機能のポイントを含んだ文章を作り会話をする。発展演習としてドラマの場面の続きをペアで創作して演じる。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 6」を勉強すること。テキストのUnit 6からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 7」を勉強すること。テキストのUnit 7からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 8」を勉強すること。テキストのUnit 8からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 9」を勉強すること。テキストのUnit 9からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 10」を勉強すること。テキストのUnit 10からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	巻末に掲載されているスクリプトと日本語字幕を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	Quizletにある単語リスト「Modern Family Review 6-10」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8回	全ての単語リストと文法ワークシートを復習すること。

講義目的	発信英語ⅢBは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅢBでは、アカデミックな話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (英語の語彙や文法を練習するプリントなど) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Modern Family <First Season>-Episodes 1-5/Christopher Lloyd, Steven Levitan/松柏社/ISBN 978-4-88198-708-7
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp

	TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅢB (FV12U220)
英文科目名	Communicative English III B
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア* (わたなべめりーじゅーんがるしあ*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Unit 6: The Bicycle Thief (Part 2) 関係詞 (who, which, that)、情報を聞き出す表現、音の連結を学ぶ。
2回	Unit 7: Come Fly with Me (Part 1) 未来形、相手の様子を尋ねる表現、語尾破裂音の脱落を学ぶ。
3回	Unit 8: Come Fly with Me (Part 2) 接続詞と前置詞、話題を変える表現、アメリカ英語における
4回	Unit 9: The Incident (Part 1) 助動詞、提案する表現、アメリカ英語における
5回	Unit 10: The Incident (Part 2) 不定詞、依頼を断る表現、
6回	英文法と言語機能のポイントを含んだ文章を作り会話をする。発展演習としてドラマの場面の続きをペアで創作して演じる。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 6」を勉強すること。テキストのUnit 6からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 7」を勉強すること。テキストのUnit 7からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 8」を勉強すること。テキストのUnit 8からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 9」を勉強すること。テキストのUnit 9からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 10」を勉強すること。テキストのUnit 10からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	巻末に掲載されているスクリプトと日本語字幕を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	Quizletにある単語リスト「Modern Family Review 6-10」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8回	全ての単語リストと文法ワークシートを復習すること。

講義目的	発信英語ⅢBは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅢBでは、アカデミックな話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25%【達成目標①】 Homework (英語の語彙や文法を練習するプリントなど) 25%【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25%【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Modern Family <First Season>-Episodes 1-5/Christopher Lloyd, Steven Levitan/松柏社/ISBN 978-4-88198-708-7
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必

	要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅢB (FV12U230)
英文科目名	Communicative English III B
担当教員名	門田シルバルー＊ (かどたしるばるー＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Unit 6: The Bicycle Thief (Part 2) 関係詞 (who, which, that)、情報を聞き出す表現、音の連結を学ぶ。
2回	Unit 7: Come Fly with Me (Part 1) 未来形、相手の様子を尋ねる表現、語尾破裂音の脱落を学ぶ。
3回	Unit 8: Come Fly with Me (Part 2) 接続詞と前置詞、話題を変える表現、アメリカ英語における
4回	Unit 9: The Incident (Part 1) 助動詞、提案する表現、アメリカ英語における
5回	Unit 10: The Incident (Part 2) 不定詞、依頼を断る表現、
6回	英文法と言語機能のポイントを含んだ文章を作り会話をする。発展演習としてドラマの場面の続きをペアで創作して演じる。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 6」を勉強すること。テキストのUnit 6からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 7」を勉強すること。テキストのUnit 7からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 8」を勉強すること。テキストのUnit 8からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 9」を勉強すること。テキストのUnit 9からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「Modern Family 10」を勉強すること。テキストのUnit 10からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	巻末に掲載されているスクリプトと日本語字幕を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	Quizletにある単語リスト「Modern Family Review 6-10」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8回	全ての単語リストと文法ワークシートを復習すること。

講義目的	発信英語ⅢBは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅢBでは、アカデミックな話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(英語の語彙や文法を練習するプリントなど)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Modern Family <First Season>-Episodes 1-5/Christopher Lloyd, Steven Levitan/松柏社/ISBN 978-4-88198-708-7
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必

	要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・毎回ペアで英会話をします。 ・ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V110)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書け
------	---

	るようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができる。 ② 前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解し、英語で複数文が正確に書くことができる。 ③ 異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで、知識を広めることができる。 ④ 文法が、統合的な「文を作り出すルール」であることを理解し、話し言葉、書き言葉での文法の活用を向上できる。 ⑤ 身近な話題に関する語彙を学び、比較的長い文章のきっかけがつかめるようになる。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>/テリー・オブライエンほか/南雲堂/978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠA・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V120)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	神村伸子* (かみむらのぶこ*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar points の該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。その後、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。(標準 学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)

8回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験 の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書けるようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。
達成目標	① 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、定着できる。② 基本構文をもとに簡単なセンテンスが正確に書くことができる。③ 英文を読むことを通して、異なる文化や社会などの知識を獲得できる。④ situation のある会話を聴き取り、応用会話を行うことができる。⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, sentence structure, paragraph reading
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>/テリー・オブライエンほか/南雲堂/978-4-52317832-3
関連科目	総合英語 I A・II A・II B・III A・III B・IV A・IV B、発信英語 I A・I B・II A・II B・III A・III B・IV A・IV B、専門英語 I A・I B・II A・II B、応用英語 I A・I B・II A・II B、実用英語（アカデミックライティング）・（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大(現)で英語科非常勤講師として勤務：他大学での教育経験を活かして、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V130)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種 comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar points の該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種 comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種 comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験 の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅰは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書けるようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができる。 ② 前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解し、英語で複数文が正確に書くことができる。 ③ 異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで、知識を広めることができる。 ④ 文法が、統合的な「文を作り出すルール」であることを理解し、話し言葉、書き言葉での文法の活用を向上できる。 ⑤ 身近な話題に関する語彙を学び、比較的長い文章のきっかけがつかめるようになる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・応用課題20% ・小テストの結果30% ・最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-52317832-3
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠA・ⅠB・ⅠB・ⅠB・ⅠB・ⅠB・ⅠB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅠA・ⅠB・ⅠB・ⅠB・ⅠB・ⅠB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅠA・ⅠB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅠA・ⅠB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。 ・単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがあります。
課題に対するフィードバック	・応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V140)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書け
------	---

	るようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができる。 ② 前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解し、英語で複数文が正確に書くことができる。 ③ 異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで、知識を広めることができる。 ④ 文法が、統合的な「文を作り出すルール」であることを理解し、話し言葉、書き言葉での文法の活用を向上できる。 ⑤ 身近な話題に関する語彙を学び、比較的長い文章のきっかけがつかめるようになる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠA・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V150)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅえらようこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書けるようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。
------	--

達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができる。 ② 前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解し、英語で複数文が正確に書くことができる。 ③ 異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで、知識を広めることができる。 ④ 文法が、統合的な「文を作り出すルール」であることを理解し、話し言葉、書き言葉での文法の活用を向上できる。 ⑤ 身近な話題に関する語彙を学び、比較的長い文章のきっかけがつかめるようになる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠA・ⅠB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V160)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	藤倉晶子＊（とうくらあきこ＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。その後、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書けるようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができる。 ② 前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理

	解し、英語で複数文が正確に書くことができる。 ③ 異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで、知識を広めることができる。 ④ 文法が、統合的な「文を作り出すルール」であることを理解し、話し言葉、書き言葉での文法の活用を向上できる。 ⑤ 身近な話題に関する語彙を学び、比較的長い文章のきっかけがつかめるようになる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-52317832-3
関連科目	総合英語ⅠA・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V170)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	菅開* (かんひらき*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書け
------	---

	るようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができる。 ② 前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解し、英語で複数文が正確に書くことができる。 ③ 異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで、知識を広めることができる。 ④ 文法が、統合的な「文を作り出すルール」であることを理解し、話し言葉、書き言葉での文法の活用を向上できる。 ⑤ 身近な話題に関する語彙を学び、比較的長い文章のきっかけがつかめるようになる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠA・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・ 事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・ 授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語 I B (FV12V180)
英文科目名	Integrated English I B
担当教員名	松原加純＊（まつばらかずみ＊）
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Bathrooms reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Weather and Global Warming reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Commuting reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: Crumbling Britain reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IAの総復習を行っておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語 I は、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。IBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができるようになることをめざす。未知語があっても前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解できたり、英語で複数文が正確に書け
------	---

	るようになるよう練習を行う。英文を読むことを通して異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで知識を広める。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、トピック・センテンスを中心とした英語の文章構造を理解し、パラグラフ・リーディングができる。 ② 前後の文脈からその意味を推測し、基礎的レベルの英文の内容が辞書を使わずに大まかに理解し、英語で複数文が正確に書くことができる。 ③ 異なる文化や社会などについて考えを深め、関連するトピックの記事をインターネットで検索して読むことで、知識を広めることができる。 ④ 文法が、統合的な「文を作り出すルール」であることを理解し、話し言葉、書き言葉での文法の活用を向上できる。 ⑤ 身近な話題に関する語彙を学び、比較的長い文章のきっかけがつかめるようになる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>／テリー・オブライエンほか／南雲堂／978-4-523-17832-3
関連科目	総合英語ⅠA・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語III B (FV12W210)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IIIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIIAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IIIBでは、1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できるよう練習し、その論旨を日本語で的確に表現することができるようになる。また、読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができるようになる。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できること。 ② 一般的な科学技術に関連した平易な英文の論旨を日本語で的確に表現することができること。 ③ 読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができること。 ④ Birds についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について実践できること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する

成績評価（合格基準点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢB (FV12W220)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	神村伸子＊ (かみむらのぶこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語ⅢAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についてのcritical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についてのcritical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行いcritical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語ⅢAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2　ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問　・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。　・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大(現)で英語科非常勤講師として勤務：他大学での教育経験を活かして、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的　な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢB (FV12W230)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	2 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語ⅢAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3 回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4 回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5 回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6 回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7 回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8 回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語ⅢAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ
------	--

	、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IIIBでは、1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できるよう練習し、その論旨を日本語で的確に表現することができるようになる。また、読解スキル（パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど）を活用して目的に応じた読みができるようになる。
達成目標	① 1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できること。 ② 一般的な科学技術に関連した平易な英文の論旨を日本語で的確に表現することができること。 ③ 読解スキル（パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど）を活用して目的に応じた読みができること。 ④ Birds についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について実践できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・応用課題20% ・小テストの結果30% ・最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。 ・単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがあります。
課題に対するフィードバック	・応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢB (FV12W240)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語ⅢAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語ⅢAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢBでは、1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できるよう練習し、その論旨を日本語で的確に表現することができるようになる。また、読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができるようになる。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できること。 ② 一般的な科学技術に関連した平易な英文の論旨を日本語で的確に表現することができること。 ③ 読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができること。 ④ Birds についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について実践できること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する

成績評価（合格基準点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語III B (FV12W250)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅえらようこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IIIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIIAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IIIBでは、1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できるよう練習し、その論旨を日本語で的確に表現することができるようになる。また、読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど)を活用して目的に応じた読みができるようになる。
達成目標	① 1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できること。 ② 一般的な科学技術に関連した平易な英文の論旨を日本語で的確に表現することができること。 ③ 読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど)を活用して目的に応じた読みができること。 ④ Birds についての現状と問題点を理解できること。

	⑤ 基本的な critical thinking について実践できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語III B (FV12W260)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	藤倉晶子* (とうくらあきこ*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語III Aの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語III Aの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IIIBでは、1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できるよう練習し、その論旨を日本語で的確に表現することができるようになる。また、読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキャンニング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができるようになる。
達成目標	① 1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できること。 ② 一般的な科学技術に関連した平易な英文の論旨を日本語で的確に表現することができること。 ③ 読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキャンニング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができること。 ④ Birds についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について実践できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢB (FV12W270)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	菅開* (かんひらき*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語ⅢAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語ⅢAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢBでは、1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できるよう練習し、その論旨を日本語で的確に表現することができるようになる。また、読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができるようになる。
達成目標	① 1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できること。 ② 一般的な科学技術に関連した平易な英文の論旨を日本語で的確に表現することができること。 ③ 読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができること。 ④ Birds についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について実践できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅣA・ⅣB、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅢB (FV12W280)
英文科目名	Integrated English III B
担当教員名	松原加純＊ (まつばらかずみ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語ⅢAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 本文の内容を音読と読解、内容理解のためのタスクをペアワークを通して行う。
3回	Unit 4: The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross 重要な文法事項の確認、本文についての critical thinking をグループで行う。
4回	Unit 5: Hero or Victim? 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 5: Hero or Victim? 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 6: The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 4 から Unit 6 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語ⅢAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 4 の pp. 34-38 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 4 の pp. 34-38 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 39-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 4 の pp. 39-41 の復習と、Unit 5 の pp. 42-46 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 5 の pp. 42-46 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 47-49 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 5 の pp. 47-49 の復習と、Unit 6 の pp. 50-54 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 55-57 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 50-54 の復習と、Unit 4 から Unit 6 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅲは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅢBでは、1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できるよう練習し、その論旨を日本語で的確に表現することができるようになる。また、読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができるようになる。
達成目標	① 1年次に習得した語彙・文法・構文等の知識を活用して、一般的な科学技術に関連した平易な英文が辞書を使いながら正確に読解できること。 ② 一般的な科学技術に関連した平易な英文の論旨を日本語で的確に表現することができること。 ③ 読解スキル(パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど)を活用して目的に応じた読みができること。 ④ Birds についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 基本的な critical thinking について実践できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅡA (FV13F110)
英文科目名	Chinese II A
担当教員名	菅未帆＊ (すがみほ＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバスなどを理解する。既習内容についての確認・復習をする。
2回	第十一課 「也」と「都」・実現の「了」・副詞の「不」と「没」・前置詞「在」を学ぶ。
3回	第十二課 時刻・変化の「了」・反復疑問文・動詞の重ね型を学ぶ。
4回	第十二課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5回	第十四課 持続の「着」・方位詞・できるの「会」「能」「可以」を学ぶ。
6回	第十五課 結果補語・方向補語・「得」を学ぶ。
7回	復習
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。
2回	既習内容を復習しておくこと。
3回	第十一課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5回	第十三課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
6回	第十四課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
7回	第十五課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
8回	第十一課から第十六課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	中国語ⅠAおよびⅠBの学修を基に、そこで習得した中国語をさらに発展させ、より応用的な会話、例えば、日常会話、旅行会話、ビジネス会話の基礎となる知識・能力を身につけることを目標にする。さらには、簡単な作文力も習得する。また単に中国語の運用能力を高めるだけにとどまらず、授業を通して現在の中国の人々の生活状況とそれに連動する形で進行する考え方の変化も理解できるようにする。異文化理解を深めるという観点から、中国の名勝や中国人の生活習慣なども適宜紹介する。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で時刻・進行態・持続態・補語などを用いて話すことができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」に加え、「平易な中国語を聞き、話すことができる」ようになる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	中国語ⅠA、中国語ⅠB、中国語ⅡB
参考書	デイリーコンサイス中日・日中辞典/杉本達矢他/三省堂/4385121680:初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/978-4255001135:クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/4385121753:中国語辞典/伊地智善継/白水社/4560000824:CD2枚付 改訂版 合格奪取! 中国語検定 準4級 トレーニングブック/載暁旬/アスク出版/4866390573:その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク
課題に対するフィードバック	小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供している

生への対応	ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	ハングルⅡA (FV13F120)
英文科目名	Hangul II A
担当教員名	チェユンジョン※ (ちえゆんじょん※)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ハングルⅠBの復習 第7課 韓国語の「それは何ですか。」について学習し、それに関する文型練習を行う。 ハングルⅡAも外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。ハングルⅠA・Bで学習した内容を復習し、教科書の第7課から授業を始める予定である。1つの課を2～3回に分けて、授業を進める。また、毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2回	第7課 韓国語の「それは何ですか。」を応用し、実際に韓国語で会話練習を行う。
3回	第8課 韓国語の「日曜日に何をしますか？」について学習し、うちとけた「です。ます。」体を作る反復練習を行う。
4回	第8課 韓国語の「日曜日に何をしますか？」を復習し、様々な用言のうちとけた丁寧形を作る復習を行う。
5回	韓国語の漢数詞について学習する。
6回	韓国語の固有数詞について学習する。
7回	数詞を使って、日にちや時間を尋ねる練習を行う。また、教科書76ページや77ページの表現を覚え、実際に買い物する時の表現について学習する。
8回	ハングルⅡAの復習とまとめ(小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。)授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	ハングルⅠA・Bで学習した内容を復習しておくこと。 この授業では、ハングルⅠBと同じく、韓国語の文字と発音のトレーニングに重点を置くことになるが、確実にハングルが読めるように、その日に学習した内容を復習し、単語の音読もあわせてしておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2回	前回の復習と教科書43ページから45ページまでを音読しておくこと。
3回	前回の復習と教科書46ページから49ページまでを音読しておくこと。
4回	前回の復習と教科書51ページから54ページまでを音読しておくこと。
5回	前回の復習と教科書55ページを音読しておくこと。
6回	前回の復習と教科書56ページと57ページを音読しておくこと。
7回	前回の復習と教科書56ページと57ページを音読しておくこと。
8回	前回の復習と教科書58ページを音読しておくこと。

講義目的	ハングルⅠAおよびⅠBを履修して、ハングル文字の読み書きがある程度出来るようになった学生を対象にしたクラスである。まずは初級レベルの会話能力を身につけたのち、より具体的な状況に即した日常会話能力を習得するため、「電話での会話」「否定形の作り方」など、実際の会話内容を繰り返し練習する。また、言語運用能力の向上にとどまらず、韓国での生活や文化の特徴にも目を向け、日本、韓国両国の共通点、相違点を知ることを通じて、言葉の背景にある文化を理解できることを目指す。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	ハングルⅡAの授業を通じて、かしこまった「です。ます。」体とうちとけた「です。ます。」体を自由に作れるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ!韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングルⅠA、ハングルⅠB、ハングルⅡB
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014:朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375:ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業の前後で質疑応答をする。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。

	講義資料は基本的に授業中に配布する。
アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること。
課題に対するフィードバック	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G110)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。ⅡAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(文法の練習問題など)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100/スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ/アルク/ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate/Raymond Murphy, William R. Smalzer/Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G120)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	マイケル ライツ リヴェネ (りヴェらまいけるらいあん*)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。ⅡAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(文法の練習問題など)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100/スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ/アルク/ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate/Raymond Murphy, William R. Smalzer/Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	ouscommunicativeenglish@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合があります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G130)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	門田シルバルー＊ (かどたしるばるー＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。ⅡAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(文法の練習問題など)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100/スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ/アルク/ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate/Raymond Murphy, William R. Smalzer/Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G140)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	ガリーバード* (がりーばーど*)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(文法の練習問題など)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100/スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ/アルク/ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate/Raymond Murphy, William R. Smalzer/Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	8fortrose@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合があります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G150)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	鳥生クリスティーン＊ (とりゅうくりすていん＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。ⅡAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100/スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ/アルク/ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate/Raymond Murphy, William R. Smalzer/Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	EMAIL: baby.bird.kris@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G160)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア (わたなべ めりー じゃーん がるしあ)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3 回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4 回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5 回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6 回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7 回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2 回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。ⅡAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (文法の練習問題など) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100/スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ/アルク/ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate/Raymond Murphy, William R. Smalzer/Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G170)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	クロッカネイソデ化`ット* (くろっかーねいさんでいびっど*)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。ⅡAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(文法の練習問題など)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100/スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ/アルク/ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate/Raymond Murphy, William R. Smalzer/Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	nathcrocker@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合があります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡA (FV13G180)
英文科目名	Communicative English II A
担当教員名	大河内ジュリー＊（おおこうちじゅりー＊）
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現を学習し、会話をする。HopeとWishの使い方を復習する。英会話の基本的な構成を学び、練習する。
3回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現を学習し、会話をする。受動態の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる始まりの挨拶を学び、練習する。
4回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。疑問文と間接疑問文の使い方を復習する。日常的な英会話に使われる別れの挨拶を学び、練習する。
5回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現を学習し、会話をする。法助動詞による省略を復習する。Ask-Answer-Addの会話パターンを学び、練習する。
6回	Stage 5 中学生・高校生がよく使う英語表現を学習し、会話をする。可算名詞と不可算名詞を復習する。会話で質問された時、自分の答えに追加情報を付け加える練習をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。冠詞の使い方を復習する。決まった構成に従って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。（標準学習時間10分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 39の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 40の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnits 47-48の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnit 49の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Stage 5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 67 & 69の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話なるほどフレーズ Review: Stages 1-5」を勉強すること。文法のテキストからUnits 70-71の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。ⅡAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、ペア・ワークをとおして他者に自分の感情や意見を簡単に英語で表現できるようになることをめざす。まとまった文章の聞き取り練習をすることで、重要な情報を聞き取る力を養う。
達成目標	① 英会話フレーズを150程度自然に使う・理解することができる。 ② 文法的に正しい肯定文、否定文、疑問文を使う・理解することができる。 ③ 英語の挨拶や答えの追加情報を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話なるほどフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757402430 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press

	y Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	Zhulimei2@yahoo.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅡA (FV13K110)
英文科目名	Chinese II A
担当教員名	張永慶＊ (ちょうえいけい＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバスなどを理解する。既習内容についての確認・復習をする。
2回	第十一課 「也」と「都」・実現の「了」・副詞の「不」と「没」・前置詞「在」を学ぶ。
3回	第十二課 時刻・変化の「了」・反復疑問文・動詞の重ね型を学ぶ。
4回	第十二課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5回	第十四課 持続の「着」・方位詞・できるの「会」「能」「可以」を学ぶ。
6回	第十五課 結果補語・方向補語・「得」を学ぶ。
7回	復習
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。
2回	既習内容を復習しておくこと。
3回	第十一課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5回	第十三課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
6回	第十四課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
7回	第十五課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
8回	第十一課から第十五課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	中国語ⅠAおよびⅠBの学修を基に、そこで習得した中国語をさらに発展させ、より応用的な会話、例えば、日常会話、旅行会話、ビジネス会話の基礎となる知識・能力を身につけることを目標にする。さらには、簡単な作文力も習得する。また単に中国語の運用能力を高めるだけにとどまらず、授業を通して現在の中国の人々の生活状況とそれに連動する形で進行する考え方の変化も理解できるようにする。異文化理解を深めるという観点から、中国の名勝や中国人の生活習慣なども適宜紹介する。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で時刻・進行態・持続態・補語などを用いて話すことができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」に加え、「平易な中国語を聞き、話すことができる」ようになる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	「中国語ⅠA」を履修することが望ましい。 本科目に引き続き「中国語ⅠIA」を履修することが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参加を考慮する者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 Http://www.chuken.gr.jp/
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。

バック	最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回A4ノート2ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含め）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅡA (FV13Q110)
英文科目名	Chinese II A
担当教員名	宮田さつき＊ (みやたさつき＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバスなどを理解する。既習内容についての確認・復習をする。
2回	第十一課 「也」と「都」・実現の「了」・副詞の「不」と「没」・前置詞「在」を学ぶ。
3回	第十二課 時刻・変化の「了」・反復疑問文・動詞の重ね型を学ぶ。
4回	第十三課 進行の表し方・選択疑問文の「还是」・「喜欢」を学ぶ。
5回	第十四課 持続の「着」・方位詞・できるの「会」「能」「可以」を学ぶ。
6回	第十五課 結果補語・方向補語・「得」を学ぶ。
7回	復習
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間180分)
2回	既習内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)
3回	第十一課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
4回	第十二課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
5回	第十三課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
6回	第十四課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
7回	第十五課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
8回	第十一課から第十六課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。(標準学習時間240分)

講義目的	中国語ⅠAおよびⅠBの学修を基に、そこで習得した中国語をさらに発展させ、より応用的な会話、例えば、日常会話、旅行会話、ビジネス会話の基礎となる知識・能力を身につけることを目標にする。さらには、簡単な作文力も習得する。また単に中国語の運用能力を高めるだけにとどまらず、授業を通して現在の中国の人々の生活状況とそれに連動する形で進行する考え方の変化も理解できるようにする。異文化理解を深めるという観点から、中国の名勝や中国人の生活習慣なども適宜紹介する。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で時刻・進行態・持続態・補語などを用いて話すことができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」に加え、「平易な中国語を聞き、話すことができる」ようになる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。(達成目標①②③を確認)
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	「中国語ⅠB」を履修していることが望ましい。 本科目に引き続き「中国語ⅡB」を履修することが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。

授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参加を考える者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 http://www.chuken.gr.jp/
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回 A4 ノート 2 ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。 講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	ハングルⅡA (FV13Q120)
英文科目名	Hangul II A
担当教員名	チェチャンオク＊ (ちえちゃんおく＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ハングルⅠBの復習 第7課 韓国語の「それは何ですか。」について学習し、それに関する文型練習を行う。 ハングルⅡAも外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。ハングルⅠA・Bで学習した内容を復習し、教科書の第7課から授業を始める予定である。1つの課を2～3回に分けて、授業を進める。また、毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2回	第7課 韓国語の「それは何ですか。」を応用し、実際に韓国語で会話練習を行う。
3回	第8課 韓国語の「日曜日に何をしますか？」について学習し、うちとけた「です。ます。」体を作る反復練習を行う。
4回	第8課 韓国語の「日曜日に何をしますか？」を復習し、様々な用言のうちとけた丁寧形を作る復習を行う。
5回	韓国語の漢数詞について学習する。
6回	韓国語の固有数詞について学習する。
7回	数詞を使って、日にちや時間を尋ねる練習を行う。また、教科書76ページや77ページの表現を覚え、実際に買い物する時の表現について学習する。
8回	ハングルⅡAの復習とまとめ(小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。)授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	ハングルⅠA・Bで学習した内容を復習しておくこと。 この授業では、ハングルⅠBと同じく、韓国語の文字と発音のトレーニングに重点を置くことになるが、確実にハングルが読めるように、その日に学習した内容を復習し、単語の音読もあわせてしておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2回	前回の復習と教科書43ページから45ページまでを音読しておくこと。
3回	前回の復習と教科書46ページから49ページまでを音読しておくこと。
4回	前回の復習と教科書51ページから54ページまでを音読しておくこと。
5回	前回の復習と教科書55ページを音読しておくこと。
6回	前回の復習と教科書56ページと57ページを音読しておくこと。
7回	前回の復習と教科書56ページと57ページを音読しておくこと。
8回	前回の復習と教科書58ページを音読しておくこと。

講義目的	ハングルⅠAおよびⅠBを履修して、ハングル文字の読み書きがある程度出来るようになった学生を対象にしたクラスである。まずは初級レベルの会話能力を身につけたのち、より具体的な状況に即した日常会話能力を習得するため、「電話での会話」「否定形の作り方」など、実際の会話内容を繰り返し練習する。また、言語運用能力の向上にとどまらず、韓国での生活や文化の特徴にも目を向け、日本、韓国両国の共通点、相違点を知ることを通じて、言葉の背景にある文化を理解できることを目指す。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	ハングルⅡAの授業を通じて、かしこまった「です。ます。」体とうちとけた「です。ます。」体を自由に作れるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ!韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングルⅠA、ハングルⅠB、ハングルⅡB
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014:朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375:ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。

	講義資料は基本的に授業中に配布する。
アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること。
課題に対するフィードバック	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅣA (FV13U210)
英文科目名	Communicative English IV A
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現
2回	Unit 1: Job Interview 過去完了形、別れ際の挨拶、アメリカ英語における
3回	Unit 2: First Day on the Job 助動詞と完了形、依頼する表現、音の同化を学ぶ。
4回	Unit 3: Hurricane on the Weekend 関係代名詞と先行詞、反論する表現、短縮表現を学ぶ。
5回	Unit 4: Andy's Makeover 現在進行形、困惑を示す表現、末子音の発音を学ぶ。
6回	Unit 5: Andy Meets Christian 助動詞と原型、聞き返す表現、音の連結を学ぶ。
7回	Unit 6: Miranda's Request 分詞、希望を伝える表現、語尾破裂音の脱落を学ぶ。
8回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 1」を勉強すること。テキストのUnit 1からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 2」を勉強すること。テキストのUnit 2からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 3」を勉強すること。テキストのUnit 3からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 4」を勉強すること。テキストのUnit 4からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 5」を勉強すること。テキストのUnit 5からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 6」を勉強すること。テキストのUnit 6からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおして、タスク活動を用いたコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅣAでは、英語によるスピーチ活動をとおして、人前で英語を話す勇気をはぐくみさらなる発信力の強化をめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (英語の語彙や文法を練習するプリントなど) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Communicate in English with The Devil Wears Prada/Aline Brosh McKenna/松柏社/ISBN 978-4-88198-712-4
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。

	必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅣA (FV13U220)
英文科目名	Communicative English IV A
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア (わたなべ めりー じゃーん がるしあ)
対象学年	2 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ 5 つの英語表現 Classroom English を学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2 回	Unit 1: Job Interview 過去完了形、別れ際の挨拶、アメリカ英語における
3 回	Unit 2: First Day on the Job 助動詞と完了形、依頼する表現、音の同化を学ぶ。
4 回	Unit 3: Hurricane on the Weekend 関係代名詞と先行詞、反論する表現、短縮表現を学ぶ。
5 回	Unit 4: Andy's Makeover 現在進行形、困惑を示す表現、末子音の発音を学ぶ。
6 回	Unit 5: Andy Meets Christian 助動詞と原型、聞き返す表現、音の連結を学ぶ。
7 回	Unit 6: Miranda's Request 分詞、希望を伝える表現、語尾破裂音の脱落を学ぶ。
8 回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。最後の 45 分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間 10 分)
2 回	Quizlet にある単語リスト「The Devil Wears Prada 1」を勉強すること。テキストの Unit 1 から Vocabulary Checkup A & B, Grammar in Focus の練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	Quizlet にある単語リスト「The Devil Wears Prada 2」を勉強すること。テキストの Unit 2 から Vocabulary Checkup A & B, Grammar in Focus の練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	Quizlet にある単語リスト「The Devil Wears Prada 3」を勉強すること。テキストの Unit 3 から Vocabulary Checkup A & B, Grammar in Focus の練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	Quizlet にある単語リスト「The Devil Wears Prada 4」を勉強すること。テキストの Unit 4 から Vocabulary Checkup A & B, Grammar in Focus の練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	Quizlet にある単語リスト「The Devil Wears Prada 5」を勉強すること。テキストの Unit 5 から Vocabulary Checkup A & B, Grammar in Focus の練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	Quizlet にある単語リスト「The Devil Wears Prada 6」を勉強すること。テキストの Unit 6 から Vocabulary Checkup A & B, Grammar in Focus の練習問題をしておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間 60 分)

講義目的	発信英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4 技能のうち、主に listening と speaking に焦点をあて、1 年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす 2 年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をととして、タスク活動を用いたコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅣA では、英語によるスピーチ活動をととして、人前で英語を話す勇気をはぐくみさらなる発信力の強化をめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準 60 点)	Quizzes (毎回実施する語彙や文法についての小テスト) 25% 【達成目標①】 Homework (英語の語彙や文法を練習するプリントなど) 25% 【達成目標②】 Participation (授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく) 25% 【達成目標③】 Final Exam (8 回目に実施する最終評価試験) 25% 【達成目標①②③】 この 4 つの要素により、成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。
教科書	Communicate in English with The Devil Wears Prada / Aline Brosh McKenna / 松柏社 / ISBN 978-4-88198-712-4
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の 3 分の 2 を超える出席を必要とします。遅刻 3 回で欠席 1 回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップ

	ロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅣA (FV13U230)
英文科目名	Communicative English IV A
担当教員名	門田シルバルー＊ (かどたしるばー＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の目標、シラバス内容を確認し、役立つ5つの英語表現Classroom Englishを学ぶ。英語でお互いに自己紹介をする。
2回	Unit 1: Job Interview 過去完了形、別れ際の挨拶、アメリカ英語における
3回	Unit 2: First Day on the Job 助動詞と完了形、依頼する表現、音の同化を学ぶ。
4回	Unit 3: Hurricane on the Weekend 関係代名詞と先行詞、反論する表現、短縮表現を学ぶ。
5回	Unit 4: Andy's Makeover 現在進行形、困惑を示す表現、末子音の発音を学ぶ。
6回	Unit 5: Andy Meets Christian 助動詞と原型、聞き返す表現、音の連結を学ぶ。
7回	Unit 6: Miranda's Request 分詞、希望を伝える表現、語尾破裂音の脱落を学ぶ。
8回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。(標準学習時間10分)
2回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 1」を勉強すること。テキストのUnit 1からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 2」を勉強すること。テキストのUnit 2からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 3」を勉強すること。テキストのUnit 3からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 4」を勉強すること。テキストのUnit 4からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 5」を勉強すること。テキストのUnit 5からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 6」を勉強すること。テキストのUnit 6からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をととして、タスク活動を用いたコミュニケーション・トレーニングを行う。ⅣAでは、英語によるスピーチ活動をととして、人前で英語を話す勇気をはぐくみさらなる発信力の強化をめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(英語の語彙や文法を練習するプリントなど)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Communicate in English with The Devil Wears Prada/Aline Brosh McKenna/松柏社/ISBN 978-4-88198-712-4
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップ

	ロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V110)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Ⅰで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。ⅡAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力を養うことをめざして、英文の大意をつかむために素早く全体を読
------	---

	むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキニング）を身につける練習をおこない、それらのスキルを活用できるようにする。ペア・ワークをとおして他者に内容を的確に説明できるように練習する。異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成する。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力をつけられる。 ② 英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキニング）を身につけられる。 ③ 異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成できる。 ④ 書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高めることができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解でき、かつ summarize によって発信者への転換を図る準備ができる。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V120)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	神村伸子＊ (かみむらのぶこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語 学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの 該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの 該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの 該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)

8回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試 の 準備をしておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という 4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能 力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の 学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文 を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッ ションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者 にその内容を的確に説明できること。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッ ションを行えること。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できること。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できること。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形 に対応できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, group work, discussion
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60 点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を 合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・Ⅳ B、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックラ イティング）・（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞 書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠 席 1回と数えます。
アクティブ・ラーニン グ	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授 業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィード バック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点 後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学 生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供して いますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大学(現)で非常勤講師として勤務：他大学における教育経験を活かして、基礎 的な英語力を土台として、より発展的、応用的 な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V130)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力を養うことをめざして、英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル(スキミング)や特定の情報を探すためのスキル(スキニング)を身につける練習をおこない、それらのスキルを活用できるようにする。ペア・ワークをととして他者に内容を的確に説明できるように練習する。異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力をつけられる。 ② 英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル(スキミング)や特定の情報を探すためのスキル(スキニング)を身につけられる。 ③ 異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成できる。 ④ 書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高めることができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解でき、かつ summarize によって発信者への転換を図る準備ができる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	・応用課題20% ・小テストの結果30% ・最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>/ジョシュア・コーエンほか/南雲堂/978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語IA・IB・IIB・IIIA・IIIB・IVA・IVB、発信英語IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB・IVA・IVB、専門英語IA・IB・IIA・IIB、応用英語IA・IB・IIA・IIB、実用英語(アカデミックライティング)・実用英語(プレゼンテーション)
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・毎回、必ず辞書(電子辞書またはペーパーの辞書)を持参すること。 ・単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがあります。
課題に対するフィードバック	・応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他(注意・備考)	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V140)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Ⅰで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。ⅡAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力を養うことをめざして、英文の大意をつかむために素早く全体を読
------	---

	むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキヤニング）を身につける練習をおこない、それらのスキルを活用できるようにする。ペア・ワークをとおして他者に内容を的確に説明できるように練習する。異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力をつけられる。 ② 英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキヤニング）を身につけられる。 ③ 異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成できる。 ④ 書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高めることができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解でき、かつ summarize によって発信者への転換を図る準備ができる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V150)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅゐらようこ＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8回	Unit 6の語彙小テストを行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Ⅰで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。ⅡAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力を養うことをめざして、英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル(スキミング)や特定の情報を探すためのスキル(スキミング)を身につける練習をおこない、それらのスキルを活用できるようにする。ペア・ワークをとおして他者に内容を的確に説明できるように練習する。異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でト
------	---

	ピックに対する自分の意見を作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力をつけられる。 ② 英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキヤニング）を身につけられる。 ③ 異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成できる。 ④ 書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高めることができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解でき、かつ summarize によって発信者への転換を図る準備ができる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V160)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	藤倉晶子* (とうくらあきこ*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語 学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの 該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの 該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの 該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の 準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Ⅰで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。ⅡAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力を養うことをめざして、英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル(スキミング)や特定の情報を探すためのスキル(スキニング)を身につける練習をおこない、それらのスキルを活用できるようにする。ペア・ワークをとおして他者に内容を的確に説明できるように練習する。異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力をつけられる。

	② 英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキミング）を身につけられる。 ③ 異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成できる。 ④ 書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高めることができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解でき、かつ summarize によって発信者への転換を図る準備ができる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V170)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	菅開* (かんひらき*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 4のpp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5のpp. 30-35 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Ⅰで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。ⅡAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力を養うことをめざして、英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル(スキミング)や特定の情報を探すためのスキル(スキニング)を身につける練習を
------	---

	おこない、それらのスキルを活用できるようにする。ペア・ワークをとおして他者に内容を的確に説明できるように練習する。異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力をつけられる。 ② 英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキミング）を身につけられる。 ③ 異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成できる。 ④ 書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高めることができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解でき、かつ summarize によって発信者への転換を図る準備ができる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡA (FV13V180)
英文科目名	Integrated English II A
担当教員名	松原加純＊（まつばらかずみ＊）
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 1: College Sports reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3回	Unit 1の語彙小テストを行う。 Unit 2: Hip Hop Music reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4回	Unit 2の語彙小テストを行う。 Unit 3: Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5回	Unit 3の語彙小テストを行う。 Unit 4: Video Games reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6回	Unit 4の語彙小テストを行う。 Unit 5: Recycling reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7回	Unit 5の語彙小テストを行う。 Unit 6: Fast Food reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, miscellanyにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8回	Unit 6の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。（標準学習時間60分）
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 1 の pp. 6-11 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Unit 1 の pp. 6-11 の復習と語彙テストの準備、Unit 2 の pp. 12-17 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Unit 2 の pp. 12-17 の復習と語彙テストの準備、Unit 3 の pp. 18-23 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Unit 3 の pp. 18-23 の復習と語彙テストの準備、Unit 4 の pp. 24-29 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Unit 4 の pp. 24-29 の復習と語彙テストの準備、Unit 5 の pp. 30-35の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Unit 5 の pp. 30-35 の復習と語彙テストの準備、Unit 6 の pp. 36-41 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8回	Unit 6 の pp. 36-41 の復習と語彙テストの準備と、Unit 1からUnit 6まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Ⅰで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。ⅡAでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力を養うことをめざして、英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキニング）を身につける練習を
------	---

	おこない、それらのスキルを活用できるようにする。ペア・ワークをとおして他者に内容を的確に説明できるように練習する。異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、実用的な英語読解力をつけられる。 ② 英文の大意をつかむために素早く全体を読むスキル（スキミング）や特定の情報を探すためのスキル（スキミング）を身につけられる。 ③ 異なる文化や社会などについての背景知識をもとに、簡潔な英文でトピックに対する自分の意見を作成できる。 ④ 書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高めることができる。 ⑤ reading passage を、文章の構造を意識しながら読むことにより、英語の論理構成が理解でき、かつ summarize によって発信者への転換を図る準備ができる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W210)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。 ② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。 ③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。 ④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W220)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	神村伸子＊ (かみむらのぶこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語 学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のための タスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワーク などを通して行っていく
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグルー プワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のた めのタスクをペアワークなどを通して行う
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文につい ての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題 を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最 終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IVAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	参総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・（プレゼンテーション） 加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大(現)で英語科非常勤講師として勤務：他大学での教育経験を活かして、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W230)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。その後、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ
------	--

	、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IVAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。 ② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。 ③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。 ④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・応用課題20% ・小テストの結果30% ・最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。 ・単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがあります。
課題に対するフィードバック	・応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W240)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。 ② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。 ③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。 ④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W250)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅえらようこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。 ② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。 ③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。 ④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。

キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W260)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	藤倉晶子＊ (とうくらあきこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語 学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。 ② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。 ③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W270)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	菅開* (かんひらき*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。 ② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。 ③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。 ④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣB、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅣA (FV13W280)
英文科目名	Integrated English IV A
担当教員名	松原加純＊ (まつばらかずみ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。実施したVELC Testの評価について説明し、今後の英語学習の指標にする。また、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 7: The Gray Whale's Struggle for Survival 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 8: The Story of Sheila 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 8: The Story of Sheila 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 9: The Lion Raised in a London Furniture Shop 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行う。
8回	Unit 7 から Unit 9 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 58-62 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 58-62 の復習と語彙テストの準備、Unit 7 の pp. 63-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 7 の pp. 63-65 の復習と、Unit 8 の pp. 66-70 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 8 の pp. 66-70 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 71-73 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 8 の pp. 71-73 の復習と、Unit 9 の pp. 74-78 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 9 の pp. 74-78 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 79-81 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 9 の pp. 79-81 の復習と、Unit 7 から Unit 9 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語Ⅳは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。ⅣAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。 ② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。 ③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。 ④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅡB (FV14F110)
英文科目名	Chinese II B
担当教員名	菅未帆＊ (すがみほ＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中国文化について知る。
2回	第十六課 様態補語・「又～又～」・比較の「比」を学ぶ。
3回	第十六課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
4回	第十七課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5回	第十九課 「把」構文・「是不是」・反語文の「哪儿」を学ぶ。
6回	単語を復習し、単語テストを実施する。
7回	一年間のまとめをする。中国語で文章を書き発表する。
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。
2回	既習内容を復習し、中国文化について調べておくこと。
5回	第十八課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
6回	第十九課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
7回	既習内容を復習し、テーマに沿って中国語による文章を準備してくる。
8回	第十七課から第二十課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	中国語ⅠA、ⅠBおよびⅡAの学修を基に、そこで習得した中国語をさらに発展させ、より応用的な会話、例えば、日常会話、旅行会話、ビジネス会話の基礎となる知識・能力を身につけることを目標にする。さらには、簡単な作文力、読解力も習得する。また単に中国語の運用能力を高めるだけにとどまらず、授業を通して現在の中国の人々の生活状況とそれに連動する形で進行する考え方の変化も理解できるようにする。中国語ⅡAに続き、中国の名勝や中国人の生活習慣なども適宜紹介し、言葉の背後にある中国の文化、社会についてさらに理解を深めたい。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で使役・受け身・近未来などの表現を用いて話すことができるようになる。 ③「基本単語（簡体字で正しく書ける）」、「ピンイン（表音ローマ字）の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」に加え、「平易な中国語を聞き、話すことができる」ようになる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中に行う小テスト（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ！ニッポンーふりむけば、中国／相原茂・朱怡穎著／朝日出版社／ISBN：978-4-255-45301-9
関連科目	中国語ⅠA、中国語ⅠB、中国語ⅡA
参考書	デイリーコンサイス中日・日中辞典／杉本達矢他／三省堂／4385121680：初めての中国語学習辞典／相原茂／朝日出版社／978-4255001135：クラウン中日辞典／松岡栄志／三省堂／4385121753：中国語辞典／伊地智善継／白水社／4560000824：CD2枚付 改訂版 合格奪取！中国語検定 準4級 トレーニングブック／載暁旬／アスク出版／4866390573：その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク
課題に対するフィードバック	小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	ハングルⅡ B (FV14F120)
英文科目名	Hangul II B
担当教員名	チェユンジョン* (ちえゆんじょん*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ハングルⅡ Aの復習 第9課 韓国語の「何が好きですか?」について学習し、それに関する文型の反復練習を行う。 ハングルⅡ Bも外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。ハングルⅠ A・BとハングルⅡ Aで学習した内容を復習し、教科書の第9課から授業を始める予定である。1つの課を2～3回に分けて、授業を進める。また、毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2 回	第9課 韓国語の「何が好きですか?」の復習を行い、それを使って、実際に韓国語で会話を行う。
3 回	韓国語の不規則変化用言 (1) について学習する。
4 回	韓国語の不規則変化用言 (2) について学習する。
5 回	第10課 韓国語の「昨日は何をしましたか?」について学習し、過去形を作る反復練習を行う。
6 回	第10課 過去形を作る練習を復習し、実際に韓国語で会話を行う。
7 回	第10課 韓国語の過去形の作り方を総復習し、過去形を使って、作文する学習を行う。
8 回	教科書71ページから72ページまでの動詞の過去形が出る、簡単な読み物を読む学習を行う。
8 回	ハングルⅡ Bの復習とまとめ (小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。) 授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	ハングルⅠ A・BとハングルⅡ Aで学習した内容を復習しておくこと。 この授業では、ハングルⅡ Aと同じく、韓国語の文字と発音のトレーニングに重点を置くことになるが、確実にハングルが読めるように、その日に学習した内容を復習し、単語の音読もあわせてしておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2 回	前回の復習と教科書59ページから61ページまでの音読をしておくこと。
3 回	前回の復習と教科書62ページを音読しておくこと。
4 回	前回の復習と教科書65ページを音読しておくこと。
5 回	前回の復習と教科書66ページから67ページまでの音読をしておくこと。
6 回	前回の復習と教科書68ページから69ページまでの音読をしておくこと。
7 回	前回の復習をしておくこと。
8 回	ハングルⅡ Bの復習と定期試験の勉強をしておくこと。

講義目的	ハングルⅠ A、Ⅰ BおよびⅡ Aでの学習においてハングル文字の読み書き、および初級レベルの会話能力を相当程度身につけた学生が、初級レベルの会話能力を基礎としつつ、より具体的かつ高度な表現を使って状況に即した日常会話ができるようになるため、さらに実践的な会話内容を繰り返し練習する。また、言語運用能力の向上にとどまらず、韓国での生活や文化の特徴にも目を向け、日本、韓国両国の共通点、相違点を知ることを通じて、言葉の背景にある文化を理解できることを目指す。 (単位認定の方針 A に強く関与する)
達成目標	ハングル2Bの授業を通じて、不規則変化用言を理解し、過去形も自由に作れるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ! 韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングルⅠ A、ハングルⅠ B、ハングルⅡ A
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014: 朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375: ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業の前後で質疑応答をする。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。 講義資料は基本的に授業中に配布する。
アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること

ゲ	。
課題に対するフィードバック	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G110)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌 (Listener Expressions)を学ぶ。
5回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G120)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	マイケル ライツ リヴェラ (りヴェらまいけるらいあん＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌 (Listener Expressions)を学ぶ。
5回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	ouscommunicativeenglish@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G130)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	門田シルバルー＊（かどたしるばー＊）
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌（Listener Expressions）を学ぶ。
5回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合があります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G140)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	ガリーバード＊ (がりーばーど＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌 (Listener Expressions)を学ぶ。
5回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	8fortrose@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G150)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	鳥生クリスティーン＊（とりゅうくりすていん＊）
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌（Listener Expressions）を学ぶ。
5回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	EMAIL: baby.bird.kris@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G160)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア (わたなべ めりー じゃーん がるしあ)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2 回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3 回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4 回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌 (Listener Expressions) を学ぶ。
5 回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6 回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7 回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8 回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7 回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G170)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	クロッカネイソデ化`ット* (くろっかーねいさんでいびっど*)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌 (Listener Expressions)を学ぶ。
5回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	nathcrocker@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語ⅡB (FV14G180)
英文科目名	Communicative English II B
担当教員名	大河内ジュリー＊ (おおこうちじゅりー＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Stage 1 あかちゃんの時に身につける英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。ThereとItの使い方を復習する。「関連質問」という会話ストラテジーの意味を学ぶ。
2回	Stage 2 幼児がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。SomeとAnyの使い方を復習する。関連質問を練習する。
3回	Stage 3 小学校低学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。A lotとMuchの使い方を復習する。相手の話を聞いている時にすべき・してはいけないことを学ぶ。
4回	Stage 4 小学校高学年でよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。関係詞節の使い方を復習する。英語の相槌 (Listener Expressions)を学ぶ。
5回	Stages 5 & 6 中学生と大学生がよく使う英語表現（特によく使う日本語を簡単な英語にされたもの）を学習し、会話をする。-ingと-edで終わる形容詞の使い方を復習する。相手が話している内容によって英語の相槌を適切に使えるように練習する。
6回	Still、Yet、Alreadyなどの使い方を復習する。今まで学んできた文法項目を使って個々の生活についての文章を作り、会話をする。
7回	Stages 1-5で学んだ表現のバリエーションを練習する。これまで学んできた会話ストラテジーを使って英語で完成した会話を練習する。
8回	今まで学んできた語彙や文法を復習する。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 1」を勉強すること。文法のテキストからUnit 82の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 2」を勉強すること。文法のテキストからUnit 83の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 3」を勉強すること。文法のテキストからUnit 85の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stage 4」を勉強すること。文法のテキストからUnits 90-91の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Stages 5 & 6」を勉強すること。文法のテキストからUnit 96の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	文法のテキストからUnit 108の解説を読み、練習問題をしておくこと。（標準学習時間30分）
7回	Quizletにある単語リスト「英会話きちんとフレーズ Review: Stages 1-6」を勉強すること。（標準学習時間30分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語Ⅱは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。IIAでは、大学生にとって役に立つ日常の場面や話題の発展的内容を扱い、英語を聞いて自らの意見が的確に発信できる力を身に付けるためのコミュニケーション・トレーニングを行う。一般的な話題でよく使われる語彙や表現を学び、グループ・ワークをとおして複数の人々と意見の交換ができるようになることをめざす。まとまった文章のシャドーイング練習をすることで聴解力の向上をめざす。
達成目標	① 日本語でよく使われている単語と表現を150程度英語で言う・聞き取ることができる。 ② 英語の代名詞や副詞について理解し、正しく使うことができる。 ③ 関連質問や英語の相槌を取り入れながら、決まった構成に従って英会話ができる。
キーワード	speaking, listening, conversation, grammar
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（文法の練習問題など）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】

	この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	① 英会話きちんとフレーズ100／スティーブ ソレイシィ、ロビン ソレイシィ／アルク／ISBN 9784757420403 ② Grammar in Use Intermediate／Raymond Murphy、William R. Smalzer／Cambridge University Press／ISBN 9780521759366
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	Zhulimei2@yahoo.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はウェブに掲載する場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	文法の宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストは採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅡB (FV14K110)
英文科目名	Chinese II B
担当教員名	張永慶* (ちょうえいけい*)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中国文化について知る。
2回	第十六課 様態補語・「又～又～」・比較の「比」を学ぶ。
3回	第十六課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
4回	第十七課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
5回	第十九課 「把」構文・「是不是」・反語文の「哪儿」を学ぶ。
6回	単語を復習し、単語テストを実施する。
7回	一年間のまとめをする。中国語で文章を書き発表する。
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	既習内容を復習し、中国文化について調べておくこと。
2回	中国文化について学んだ内容を復習しておくこと。
5回	第十八課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
6回	第十九課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。
7回	既習内容を復習し、テーマに沿って中国語による文章を準備してくる。
8回	第十六課から第十九課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。

講義目的	中国語ⅠAおよびⅠBの学修を基に、そこで習得した中国語をさらに発展させ、より応用的な会話、例えば、日常会話、旅行会話、ビジネス会話の基礎となる知識・能力を身につけることを目標にする。さらには、簡単な作文力も習得する。また単に中国語の運用能力を高めるだけにとどまらず、授業を通して現在の中国の人々の生活状況とそれに連動する形で進行する考え方の変化も理解できるようにする。異文化理解を深めるという観点から、中国の名勝や中国人の生活習慣なども適宜紹介する。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で時刻・進行態・持続態・補語などを用いて話すことができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」に加え、「平易な中国語を聞き、話すことができる」ようになる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	「中国語ⅠA」を履修することが望ましい。 本科目に引き続き「中国語ⅠIA」を履修することが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参加を考へる者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 Http://www.chuken.gr.jp/
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回A4ノート2ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含め）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	中国語ⅡB (FV14Q110)
英文科目名	Chinese II B
担当教員名	宮田さつき＊ (みやたさつき＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中国文化について知る。
2回	第十六課 様態補語・「又～又～」・比較の「比」を学ぶ。
3回	第十七課 可能補語・主述述語文・使役の「让」を学ぶ
4回	第十八課 「边～边～」・「有点儿／一点儿」・「是～的」構文を学ぶ
5回	第十九課 「把」構文・「是不是」・反語文の「哪儿」を学ぶ。
6回	単語を復習し、単語テストを実施する。
7回	一年間のまとめをする。中国語で文章を書き発表する。
8回	発音・文法について復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	既習内容を復習し、中国文化について調べておくこと。(標準学習時間180分)
2回	既習内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)
3回	第十六課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
4回	第十七課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
5回	第十八課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
6回	第十九課の内容を復習し、単語を覚えておくこと。練習問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)
7回	既習内容を復習し、テーマに沿って中国語による文章を準備してくる。こと。(標準学習時間180分)
8回	第十六課から第十九課までの単語・文法・本文・練習問題すべてを復習しておくこと。(標準学習時間240分)

講義目的	中国語ⅠA、ⅠBおよびⅡAの学修を基に、そこで習得した中国語をさらに発展させ、より応用的な会話、例えば、日常会話、旅行会話、ビジネス会話の基礎となる知識・能力を身につけることを目標にする。さらには、簡単な作文力、読解力も習得する。また単に中国語の運用能力を高めるだけにとどまらず、授業を通して現在の中国の人々の生活状況とそれに連動する形で進行する考え方の変化も理解できるようにする。中国語ⅡAに続き、中国の名勝や中国人の生活習慣なども適宜紹介し、言葉の背後にある中国の文化、社会についてさらに理解を深めたい。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
達成目標	①中国語会話技能を身につけることで、口頭及び筆記による初歩的な中国語の意思疎通ができるようになる。 ②中国語で使役・受け身・近未来などの表現を用いて話すことができるようになる。 ③「基本単語(簡体字で正しく書ける)」、「ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方」、「単文の基本文型」、「簡単な日常挨拶語」に加え、「平易な中国語を聞き、話すことができる」ようになる。 ④中国語の学習を通して異文化に触れ、多様性を理解することができる。 (単位認定の方針Aに強く関与する)
キーワード	中国語(Chinese)・異文化理解(cross-cultural understanding)・発音(pronunciation)・ピンイン(pinyin system)・中国文化(Chinese culture)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。(達成目標①②③を確認)
教科書	ニーハオ! ニッポンーふりむけば、中国/相原茂・朱怡穎著/朝日出版社/ISBN: 978-4-255-45301-9
関連科目	「中国語ⅡA」を履修していることが望ましい。
参考書	初めての中国語学習辞典/相原茂/朝日出版社/ISBN-13: 978-4255001135: クラウン中日辞典/松岡栄志/三省堂/ISBN-10: 4385121753: 中国語辞典/伊地智善継/白水社/ISBN-10: 4560000824: その他電子辞書でも可
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	発音・発表などには積極的に声を出して参加すること。単位認定には3分の2を超える出席が必要。

	遅刻3回で欠席1回と数える。年3回実施されている日本中国語検定協会主催の中国語検定試験に参加を考える者は、以下を参考にした上で教員と相談することを推奨する。 http://www.chuken.gr.jp/
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 最終評価試験のフィードバックは授業内にて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 毎回 A4 ノート 2 ページ程度の板書があるので、特別な配慮が必要な場合は撮影を許可する。 講義中の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	ハングルⅡ B (FV14Q120)
英文科目名	Hangul II B
担当教員名	チェチャンオク* (ちえちゃんおく*)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ハングルⅡ Aの復習 第9課 韓国語の「何が好きですか?」について学習し、それに関する文型の反復練習を行う。 ハングルⅡ Bも外国語の四大技能のうち、読みと書きに重点を置き、進行する。ハングルⅠ A・BとハングルⅡ Aで学習した内容を復習し、教科書の第9課から授業を始める予定である。1つの課を2～3回に分けて、授業を進める。また、毎時間ではないが、韓国文化の話もしていく予定である。
2 回	第9課 韓国語の「何が好きですか?」の復習を行い、それを使って、実際に韓国語で会話を行う。
3 回	韓国語の不規則変化用言 (1) について学習する。
4 回	韓国語の不規則変化用言 (2) について学習する。
5 回	第10課 韓国語の「昨日は何をしましたか?」について学習し、過去形を作る反復練習を行う。
6 回	第10課 過去形を作る練習を復習し、実際に韓国語で会話を行う。
7 回	第10課 韓国語の過去形の作り方を総復習し、過去形を使って、作文する学習を行う。
8 回	教科書71ページから72ページまでの動詞の過去形が出る、簡単な読み物を読む学習を行う。
8 回	ハングルⅡ Bの復習とまとめ (小テストなどを課す予定。授業7回目に試験についての具体的な話をするので、担当者からその内容をよく聞いておくこと。) 授業の後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	ハングルⅠ A・BとハングルⅡ Aで学習した内容を復習しておくこと。 この授業では、ハングルⅡ Aと同じく、韓国語の文字と発音のトレーニングに重点を置くことになるが、確実にハングルが読めるように、その日に学習した内容を復習し、単語の音読もあわせてしておくこと。この授業では、予習と復習に1時間半を必要とする。
2 回	前回の復習と教科書59ページから61ページまでの音読をしておくこと。
3 回	前回の復習と教科書62ページを音読しておくこと。
4 回	前回の復習と教科書65ページを音読しておくこと。
5 回	前回の復習と教科書66ページから67ページまでの音読をしておくこと。
6 回	前回の復習と教科書68ページから69ページまでの音読をしておくこと。
7 回	前回の復習をしておくこと。
8 回	ハングルⅡ Bの復習と定期試験の勉強をしておくこと。

講義目的	ハングルⅠ A、Ⅰ BおよびⅡ Aでの学習においてハングル文字の読み書き、および初級レベルの会話能力を相当程度身につけた学生が、初級レベルの会話能力を基礎としつつ、より具体的かつ高度な表現を使って状況に即した日常会話ができるようになるため、さらに実践的な会話内容を繰り返し練習する。また、言語運用能力の向上にとどまらず、韓国での生活や文化の特徴にも目を向け、日本、韓国両国の共通点、相違点を知ることを通じて、言葉の背景にある文化を理解できることを目指す。 (単位認定の方針 A に強く関与する)
達成目標	ハングル2Bの授業を通じて、不規則変化用言を理解し、過去形も自由に作れるようになる。
キーワード	韓国語、異文化コミュニケーション、言語学/教育学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	応用課題20%、小テスト結果30%、最終評価試験50%で総合的に評価し、60%で合格とする。
教科書	最新チャレンジ! 韓国語/金順玉・阪堂千津子/白水社/9784560017890
関連科目	ハングルⅠ A、ハングルⅠ B、ハングルⅡ A
参考書	朝鮮語辞典/油谷幸利他編/小学館/4095157014: 朝鮮語の入門/菅野裕臣/白水社/9784560006375: ハングルの誕生/野間秀樹/平凡社/9784582855234 (これらはあくまでも参考書であって、購入する必要はない。)
連絡先	授業の前後で質疑応答をする。
授業の運営方針	参加型の授業なので出席することが重要である。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とする。遅刻3回で欠席1回と数える。 講義資料は基本的に授業中に配布する。
アクティブ・ラーニング	この授業はトレーニング式の授業である。学生諸君は授業で発音練習などに積極的に参加すること

ゲ	。
課題に対するフィードバック	最終試験を実施した後、次の授業で最終試験のフィードバックを実施する。小テストを実施した後も、次の授業でそのフィードバックを実施する。フィードバックの方法は授業中に担当教員が口頭で伝える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語IV B (FV14U210)
英文科目名	Communicative English IV B
担当教員名	トビーカーティス (とびーかーていす)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Unit 7: Nate's Birthday 仮定法、驚きを示す表現、母音の脱落を学ぶ。
2回	Unit 8: Andy's Decision 現在完了形、確認する表現、性質の似た破裂音の脱落を学ぶ。
3回	Unit 9: Breakup with Nate 動名詞、提案する表現、機能語の発音を学ぶ。
4回	Unit 10: The Dream Job 受動態、意思・予定を述べる表現、
5回	Unit 11: Announcement at the Party 関係代名詞の継続用法と限定用法、称賛する表現、
6回	Unit 12: Andy's Final Choice 使役動詞、丁寧に依頼する表現、代名詞の弱形を学ぶ。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 7」を勉強すること。テキストのUnit 7からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 8」を勉強すること。テキストのUnit 8からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 9」を勉強すること。テキストのUnit 9からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 10」を勉強すること。テキストのUnit 10からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 11」を勉強すること。テキストのUnit 11からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 12」を勉強すること。テキストのUnit 12からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada Review」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてタスク活動を用いたコミュニケーション・トレーニングを行う。IVBでは、英語でのディベートあるいはディスカッション活動を行うことをとおして、他者と臆することなく意見を交換できる態度を養い、さらなる発信力の向上をめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(英語の語彙や文法を練習するプリントなど)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Communicate in English with The Devil Wears Prada/Aline Brosh McKenna/松柏社/ISBN 978-4-88198-712-4
関連科目	発信英語I～IV、総合英語I～IV、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必

	要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・毎回ペアで英会話をします。 ・ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語IV B (FV14U220)
英文科目名	Communicative English IV B
担当教員名	渡辺 ミー ジェン ガルシア* (わたなべめりーじえーんがるしあ*)
対象学年	2 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	Unit 7: Nate's Birthday 仮定法、驚きを示す表現、母音の脱落を学ぶ。
2 回	Unit 8: Andy's Decision 現在完了形、確認する表現、性質の似た破裂音の脱落を学ぶ。
3 回	Unit 9: Breakup with Nate 動名詞、提案する表現、機能語の発音を学ぶ。
4 回	Unit 10: The Dream Job 受動態、意思・予定を述べる表現、
5 回	Unit 11: Announcement at the Party 関係代名詞の継続用法と限定用法、称賛する表現、
6 回	Unit 12: Andy's Final Choice 使役動詞、丁寧に依頼する表現、代名詞の弱形を学ぶ。
7 回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8 回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 7」を勉強すること。テキストのUnit 7からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 8」を勉強すること。テキストのUnit 8からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 9」を勉強すること。テキストのUnit 9からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 10」を勉強すること。テキストのUnit 10からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 11」を勉強すること。テキストのUnit 11からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 12」を勉強すること。テキストのUnit 12からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada Review」を勉強すること。(標準学習時間60分)
8 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	発信英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてタスク活動を用いたコミュニケーション・トレーニングを行う。IVBでは、英語でのディベートあるいはディスカッション活動を行うことをとおして、他者と臆することなく意見を交換できる態度を養い、さらなる発信力の向上をめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	Quizzes(毎回実施する語彙や文法についての小テスト)25%【達成目標①】 Homework(英語の語彙や文法を練習するプリントなど)25%【達成目標②】 Participation(授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく)25%【達成目標③】 Final Exam(8回目に実施する最終評価試験)25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Communicate in English with The Devil Wears Prada/Aline Brosh McKenna/松柏社/ISBN 978-4-88198-712-4
関連科目	発信英語 I～IV、総合英語 I～IV、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	janegwatanabe@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップ

	ロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	発信英語IV B (FV14U230)
英文科目名	Communicative English IV B
担当教員名	門田シルバルー＊（かどたしるばるー＊）
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Unit 7: Nate's Birthday 仮定法、驚きを示す表現、母音の脱落を学ぶ。
2回	Unit 8: Andy's Decision 現在完了形、確認する表現、性質の似た破裂音の脱落を学ぶ。
3回	Unit 9: Breakup with Nate 動名詞、提案する表現、機能語の発音を学ぶ。
4回	Unit 10: The Dream Job 受動態、意思・予定を述べる表現、
5回	Unit 11: Announcement at the Party 関係代名詞の継続用法と限定用法、称賛する表現、
6回	Unit 12: Andy's Final Choice 使役動詞、丁寧に依頼する表現、代名詞の弱形を学ぶ。
7回	今まで学んできた文法項目、言語機能表現、発音項目を復習する。
8回	ドラマで視聴した内容に関するトピックについてペアで話し合う。最後の45分に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 7」を勉強すること。テキストのUnit 7からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 8」を勉強すること。テキストのUnit 8からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 9」を勉強すること。テキストのUnit 9からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 10」を勉強すること。テキストのUnit 10からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 11」を勉強すること。テキストのUnit 11からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada 12」を勉強すること。テキストのUnit 12からVocabulary Checkup A & B, Grammar in Focusの練習問題をしておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Quizletにある単語リスト「The Devil Wears Prada Review」を勉強すること。（標準学習時間60分）
8回	最終評価試験のための復習をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	発信英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にlisteningとspeakingに焦点をあて、1年次に培った基礎的発信力を活用して、英語によるさらなる発信能力の向上をめざす2年次科目である。大学生にとって役に立つアカデミックな場面や話題の基礎的内容をとおしてタスク活動を用いたコミュニケーション・トレーニングを行う。IVBでは、英語でのディベートあるいはディスカッション活動を行うことをとおして、他者と臆することなく意見を交換できる態度を養い、さらなる発信力の向上をめざす。
達成目標	① 英会話に役立つ重要単語や語句の意味とその使い方を理解できる。 ② よく使われる文法パターンについて理解し、英会話の中で自然に使うことができる。 ③ 音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化が特徴とする「生の英語」を聞き取ることができる。
キーワード	speaking, listening, vocabulary, pronunciation, grammar, conversation
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	Quizzes（毎回実施する語彙や文法についての小テスト）25%【達成目標①】 Homework（英語の語彙や文法を練習するプリントなど）25%【達成目標②】 Participation（授業に関する熱意、交流、準備を計るルブリックに基づく）25%【達成目標③】 Final Exam（8回目に実施する最終評価試験）25%【達成目標①②③】 この4つの要素により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Communicate in English with The Devil Wears Prada/Aline Brosh McKenna/松柏社/ISBN 978-4-88198-712-4
関連科目	発信英語Ⅰ～Ⅳ、総合英語Ⅰ～Ⅳ、実用英語(アカデミック・ライティング)、実用英語(プレゼンテーション)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	sylviamk1215@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 必要な講義資料は基本的に授業中に配布しますが、参考・自習用の資料はポータルサイトにアップ

	ロードします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、質問、課題解決学習 ・ 毎回ペアで英会話をします。 ・ ペアで宿題の答え合わせを行って、二人の答えが違った時にパートナーと話し合います。
課題に対するフィードバック	宿題に関するフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V110)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。「学位授与の方針」のAに
------	---

	最も強く関与する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できる。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行うことができる。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できる。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できる。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できる。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>/ジョシュア・コーエンほか/南雲堂/978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V120)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	神村伸子＊ (かみむらのぶこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。その後、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。(標準 学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)

8回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験 の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できること。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行えること。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できること。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できること。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, group work, discussion
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>/ジョシュア・コーエンほか/南雲堂/978-4-52317834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大(現)で英語科非常勤講師として勤務：他大学での教育経験を活かして、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的 な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V130)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。その後、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。(標準 学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という
------	--

	4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学により英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できる。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行うことができる。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できる。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できる。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・応用課題20% ・小テストの結果30% ・最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>/ジョシュア・コーエンほか/南雲堂/978-4-52317834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。 ・単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがあります。
課題に対するフィードバック	・応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V140)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
------	---

達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できる。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行うことができる。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できる。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できる。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。または、電子メールで質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V150)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅえらようこ＊)
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8回	Unit 12の語彙小テストを行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できる。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行うことができる。

	③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できる。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できる。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>/ジョシュア・コーエンほか/南雲堂/978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V160)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	藤倉晶子＊（とうくらあきこ＊）
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3回	Unit 7の語彙小テストを行う。Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4回	Unit 8の語彙小テストを行う。Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5回	Unit 9の語彙小テストを行う。Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6回	Unit 10の語彙小テストを行う。Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7回	Unit 11の語彙小テストを行う。Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8回	Unit 12の語彙小テストを行う。その後、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。（標準学習時間60分）
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目である。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できる。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行うことができる。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できる。

	④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できる。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>/ジョシュア・コーエンほか/南雲堂/978-4-52317834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説/江川泰一郎/金子書房/978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V170)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	菅開＊ (かんひらき＊)
対象学年	1 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3 回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4 回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5 回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6 回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7 回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8 回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
------	---

達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できる。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行うことができる。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できる。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できる。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・ 事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・ 授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語ⅡB (FV14V180)
英文科目名	Integrated English II B
担当教員名	松原加純＊（まつばらかずみ＊）
対象学年	1年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IIAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 7: Extreme Weather reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
3回	Unit 7の語彙小テストを行う。 Unit 8: Medical Tourism reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
4回	Unit 8の語彙小テストを行う。 Unit 9: Advertising reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
5回	Unit 9の語彙小テストを行う。 Unit 10: Business Travel reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
6回	Unit 10の語彙小テストを行う。 Unit 11: E-commerce reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
7回	Unit 11の語彙小テストを行う。 Unit 12: Coffee Shop reading passageを精読し、各種comprehensionの理解を行う。また、writing, text completion, conversation, word buildingにあるそれぞれのタスクをこなして、grammar pointsの該当項目の定着できる活動を行う。
8回	Unit 12の語彙小テストを行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。後半の30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IIAの総復習を行っておくこと。（標準学習時間60分）
2回	数値化された客観的な習熟度評価を元に今後の学習計画を立てること。Unit 7 の pp. 42-47 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Unit 7 の pp. 42-47 の復習と語彙テストの準備、Unit 8 の pp. 48-53 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Unit 8 の pp. 48-53 の復習と語彙テストの準備、Unit 9 の pp. 54-59 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Unit 9 の pp. 54-59 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 60-65 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Unit 10 の pp. 60-65 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 66-71 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Unit 11 の pp. 66-71 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 72-77 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8回	Unit 12 の pp. 72-77 の復習と語彙テストの準備と、Unit 7からUnit 12 まで復習し、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語IIは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに関わる基礎力を身につけ、基礎的なコミュニケーション能力を養成することをめざす1年次科目ある。総合英語Iで身につけた英語力をもとに他者との協同の学びにより英語の活用をめざす。IIBでは、文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明し、その内容についてディスカッションを行う。また、協同して英語で簡単なアウトラインを作成する。
------	---

達成目標	① 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、グループ・ワークを通して他者にその内容を的確に説明できる。 ② 文化や社会や生活など様々な一般的なトピックの英文を読み、その内容についてディスカッションを行うことができる。 ③ 協同して英語で簡単なアウトラインを作成できる。 ④ 語は文の中で意味が生まれることを認識し、英語の実際の運用に活用できる。 ⑤ ある程度の長さの文を作ることとともに、素早い対応もでき、様々なコミュニケーションの形に対応できる。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	English Indicator 3 <Pre-Intermediate>／ジョシュア・コーエンほか／南雲堂／978-4-523-17834-7
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W210)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	田口純 (たぐちあつし)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IV Bでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解することができ、関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行う。また、協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成する。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解できるようになること。 ② 一般的な科学技術に関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行えるようになること。 ③ 協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成できるようになること。 ④ Carnivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 効果的な critical thinking について理解を深めることができること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W220)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	神村伸子＊（かみむらのぶこ＊）
対象学年	2 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる
2 回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3 回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4 回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5 回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6 回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7 回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8 回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という
------	--

	4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IVAでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解した上で、ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できるよう練習を行う。また、英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を文章全体の論理的構造を正確に理解できること。② ペア・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明できること。③ 英文の内容について論点を理解し、英語で簡潔な意見を作成できること。④ Marine Mammals についての現状と問題点を理解できること。⑤ 他者の critical thinking を客観的に評価できること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛大学(元)、松山大(現)で英語科非常勤講師として勤務：他大学での教育経験を活かして、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W230)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	高橋伸二＊ (たかはししんじ＊)
対象学年	2 年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2 回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3 回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4 回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5 回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6 回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7 回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8 回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60 分)
5 回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。(標準学習時間 60分)
7 回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IV Bでは、一般的な科学技術をテーマにし
------	---

	た英文記事などの英文を正確に理解することができ、関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行う。また、協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解できるようになること。 ② 一般的な科学技術に関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行えるようになること。 ③ 協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成できるようになること。 ④ Carnivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 効果的な critical thinking について理解を深めることができること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・ 応用課題20% ・ 小テストの結果30% ・ 最終評価試験50% により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業終了後に対応する。
授業の運営方針	・ 参加型の授業ですので、出席することが重要です。 ・ 毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。 ・ 単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。 ・ 遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・ 事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・ 授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりすることがあります。
課題に対するフィードバック	・ 応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。 ・ 語彙小テストと最終評価試験は採点后、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	愛媛県の高등학교に教諭・教頭・校長として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W240)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	菅紀子＊ (かんのりこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IV Bでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解することができ、関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行う。また、協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成する。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解できるようになること。 ② 一般的な科学技術に関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行えるようになること。 ③ 協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成できるようになること。 ④ Carnivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 効果的な critical thinking について理解を深めることができること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W250)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	リヴェラ陽子＊ (りゅえらようこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IV Bでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解することができ、関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行う。また、協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解できるようになること。 ② 一般的な科学技術に関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行えるようになること。 ③ 協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成できるようになること。 ④ Carnivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 効果的な critical thinking について理解を深めることができること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢB・ⅣA・ⅣB、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業中に知らせる。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W260)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	藤倉晶子＊ (とうくらあきこ＊)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IVBでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解することができ、関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行う。また、協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解できるようになること。 ② 一般的な科学技術に関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行えるようになること。 ③ 協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成できるようになること。 ④ Carnivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 効果的な critical thinking について理解を深めることができること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978

	-4523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W270)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	菅開* (かんひらき*)
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。(標準学習時間60分)
2回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
3回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
5回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
6回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
7回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。(標準学習時間60分)
8回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IV Bでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解することができ、関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行う。また、協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解できるようになること。 ② 一般的な科学技術に関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行えるようになること。 ③ 協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成できるようになること。 ④ Carnivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 効果的な critical thinking について理解を深めることができること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を

点)	合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA、 発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、 専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、 実用英語（アカデミックライティング）・ 実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	EMAIL kanhirara@hotmail.com
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元愛媛県立高等学校に教諭として勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	総合英語IV B (FV14W280)
英文科目名	Integrated English IV B
担当教員名	松原加純＊（まつばらかずみ＊）
対象学年	2年
単位数	0.5
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 総合英語IVAの復習と試験の講評を行い、これからの英語学習の計画を立てる。
2回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
3回	Unit 10: The Wise Wolf-King of Currumpaw 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
4回	Unit 11: Never Give Up! 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行っていく。
5回	Unit 11: Never Give Up! 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
6回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 本文の内容を音読、読解し、内容理解のためのタスクをペアワークなどを通して行う。
7回	Unit 12: The Odds of Meeting Again at the Circus 重要な文法事項を確認し、本文についての critical thinking をグループワークで行っていく。
8回	Unit 10 から Unit 12 までで扱われた語彙・文法・イディオムに関する知識の整理と確認を行い、critical thinking の presentation を行う。 そのあと、45分間で最終評価試験を実施する。残りの30分間で試験のフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。これまでに受験したことのある外部英語試験について、取りまとめておくこと。総合英語IVAの総復習を行っておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Unit 10 の pp. 82-86 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Unit 10 の pp. 82-86 の復習と語彙テストの準備、Unit 10 の pp. 87-89 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Unit 10 の pp. 87-89 の復習と、Unit 11 の pp. 90-94 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Unit 11 の pp. 90-94 の復習と語彙テストの準備、Unit 11 の pp. 95-97 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Unit 11 の pp. 95-97 の復習と、Unit 12 の pp. 98-102 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Unit 12 の pp. 98-102 の復習と語彙テストの準備、Unit 12 の pp. 103-105 の課題を行っておくこと。（標準学習時間60分）
8回	Unit 12 の pp. 103-105 の復習と、Unit 10 から Unit 12 までの不明な点や疑問点などをチェックして、最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	総合英語IVは、英語を読む(reading)、聞く(listening)、書く(writing)、話す(speaking)という4技能のうち、主にreadingとwritingに焦点をあて1年次で身につけた基礎的な英語力を定着させ、専門分野の英語への橋渡しとなる2年次科目である。IV Bでは、一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解することができ、関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行う。また、協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成する。
達成目標	① 一般的な科学技術をテーマにした英文記事などの英文を正確に理解できるようになること。 ② 一般的な科学技術に関連した情報をインターネットで検索し、グループ・ワークにおいてその内容を他者に的確に説明したり、論点についてディスカッションを行えるようになること。 ③ 協同で英文の内容について簡単な英語の要約を作成できるようになること。 ④ Carnivores についての現状と問題点を理解できること。 ⑤ 効果的な critical thinking について理解を深めることができること。
キーワード	reading, writing, vocabulary, grammar, sentence structure
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	応用課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom／荒金房子ほか／南雲堂／978

	-4-523-17837-8
関連科目	総合英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA、発信英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB、専門英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、応用英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、実用英語（アカデミックライティング）・実用英語（プレゼンテーション）
参考書	英文法解説／江川泰一郎／金子書房／978-4-7608-2009-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	授業の開始前や終了後で対応します。
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	演習、ペアワーク、質問 ・事前に準備してきた課題を元に各Unitを演習形式で進めていく。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで質問したり、答えたりする。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。語彙小テストと最終評価試験は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本語【月2月3】（FV15B110）
英文科目名	Japanese
担当教員名	藤倉晶子＊（とうくらあきこ＊）
対象学年	1年
単位数	4.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の目的、進め方、内容、成績評価の方針について説明する。 レベルチェックテストを実施する。〔第1部〕1文を理解するストラテジー（1）「語のまとまりをとらえましょう」
2回	原稿用紙やレポート用紙を使った表記のしかた（文字や記号の書き方、句読点の打ち方）を学習する。語彙プリント①
3回	〔第1部〕1文を理解するストラテジー（2） 「『する/される』の関係をつかみましょう」
4回	「助詞の使い方」 間違えやすい助詞・複合助詞について学習する。 語彙プリント①テスト
5回	〔第1部〕1文を理解するストラテジー（3） 「文の構造をとらえましょう」
6回	「動詞の表現」 自動詞・他動詞・受身について学習する。
7回	〔第1部〕1文を理解するストラテジー（4） 「前件と後件の関係をつかみましょう」
8回	ペアになる呼応表現について学習する。 ＊作文実践①「あなたの国の有名な人」
9回	〔第2部〕文の連続を理解するストラテジー（1）「『これ』『それ』が指すものを考えましょう」
10回	「文体と書き言葉」 文体、連用中止形、文末表現の調整について学習する。語彙プリント②
11回	〔第2部〕文の連続を理解するストラテジー（2）「省略されているものが何か考えましょう」
12回	「段落に分ける」文章の構成・段落内の構成（中心文・支持文）について学習する。語彙プリント②テスト
13回	〔第2部〕文の連続を理解するストラテジー（3）「関連のある言葉を探しましょう」
14回	「判明していること」「定義」について述べる表現を学習する。 ＊作文実践②「ゴミのリサイクルについて」
15回	〔第3部〕文章の展開を理解するストラテジー（1）「文末に注目して筆者の意見を見抜きましょう」
16回	「表記の仕方」 ひらがなと漢字のバランス、漢字の選択と誤変換、カタカナについて学習する。 中間試験を実施する。
17回	〔第3部〕文章の展開を理解するストラテジー（2）「筆者の立場を見分けましょう」
18回	「辞書の危険性」「専門用語の選び方」について学習する。

19回	[第3部] 文章の展開を理解するストラテジー(3)「大切なことを伝えるサインをつかみましょう」
20回	「問題点を述べる」表現を学習する。 ＊作文実践③「高齢化問題」
21回	[第3部] 文章の展開を理解するストラテジー(4)「目印を使って内容を整理しましょう」
22回	「文の長さを読みやすさ」読み手への配慮について学習する。 語彙・表現プリント③
23回	[第4部] 知識を使って理解するストラテジー(1)「内容を素早く理解しましょう」
24回	「指示詞」による文の接続について学習する。 語彙・表現プリント③テスト
25回	[第4部] 知識を使って理解するストラテジー(2)「文章の話題を見抜きましょう」
26回	「レポートの基本的な書き方」 意見を表す表現と情報源を表す表現を学習する。 ＊作文実践④「各国の国民性」についてレポートを書く。
27回	[第4部] 知識を使って理解するストラテジー(3)「ストーリーを上手に読みましょう」
28回	「指示詞」による文の接続について学習する。語彙プリント④
29回	[第4部] 知識を使って理解するストラテジー(4)「読み間違いを見つけましょう」
30回	「レポートの基本的な書き方」 複雑な内容を整理して書く方法を学習する。 ＊作文実践⑤「課題未定」
31回	最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。 (学修時間120分)
2回	日本語の書き方について、身の回りにあるものを参考にして特徴をつかんでおくこと。(学修時間120分)
3回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。(学修時間120分)
4回	表記の仕方について復習しておくこと。助詞・複合助詞について予習しておくこと。語彙プリント①テスト準備(学修時間120分)
5回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。(学修時間120分)
6回	助詞・複合助詞について復習しておくこと。自動詞・他動詞・受身について予習しておくこと。(学修時間120分)
7回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。(学修時間120分)
8回	自動詞・他動詞・受身について復習しておくこと。ペアになる呼応表現について予習しておくこと

	。「あなたの国の有名な人」について書く準備をしておくこと。（学修時間１２０分）
９回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
１０回	呼応表現について復習しておくこと。文体、連用中止形、書き言葉について予習しておくこと。返却された作文を清書し、メールで提出すること。（学修時間１２０分）
１１回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
１２回	「文体と書き言葉」について復習しておくこと。段落の内容・構成について予習しておくこと。語彙プリント②テスト準備（学修時間１２０分）
１３回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
１４回	「判明していること」「定義」について述べる表現を予習しておくこと。「ゴミのリサイクルについて」について何を書くか調べておくこと。（学修時間１２０分）
１５回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
１６回	返却された作文を清書し、メールで提出すること。中間試験の準備（学修時間１２０分）
１７回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
１８回	ひらがなと漢字のバランス、漢字の選択と誤変換、カタカナについて復習しておくこと。（学修時間１２０分）
１９回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
２０回	「辞書の危険性」「専門用語の選び方」について復習しておくこと。 「高齢化問題」について何を書くか考えておくこと。（学修時間１２０分）
２１回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
２２回	問題点を述べる表現について復習しておくこと。「読み手への配慮」のある文とはどんなものか、予習しておくこと。返却された作文を清書し、メールで提出すること。（学修時間１２０分）
２３回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
２４回	指示詞について予習しておくこと。語彙プリント③テスト準備（学修時間１２０分）
２５回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
２６回	指示詞について復習しておくこと。意見を表す表現と情報源を表す表現について予習すること。「各国の国民性」について、何を書くか調べて準備すること。（学修時間１２０分）
２７回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）
２８回	指示詞について予習しておくこと。（学修時間１２０分）
２９回	予習としてテキストの「この課のポイント」「ストラテジー」を読んで理解しておくこと。（学修時間１２０分）

	時間 120 分)
30 回	指示詞について復習すること。作文課題に対して準備をすること。(学修時間 120 分)
31 回	最終評価試験の準備をすること(学修時間 180 分)

講義目的	本講義では日本語の 4 技能のうち、主に「読む」「書く」に焦点を当てる。様々なジャンルの日本語文章を読む技術を修得する。日本語の書き言葉のルールおよび文章表現の基礎を身に付ける。中級・中上級レベルの語彙・表現を増やす。 (4 領域のうち、知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	1) 学んだ読解ストラテジーを使って、様々なジャンルの文章を正しく理解できる。 2) 日本語での文章表現の基礎を作り、自然な日本語で文章を書くことができる。 3) 中級・中上級レベルの表現や語彙をできるだけ増やし、大学の講義や生活に役立てることができる。
キーワード	読解ストラテジー 表現 語彙 書き言葉
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	語彙テスト10%、中間試験20%、作文30%、最終評価試験40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	『留学生のための読解トレーニング (読む力がアップする 15 のポイント)』／石黒圭編著／凡人社／ISBN978-4-89358-780-0
関連科目	本科目に引き続き「日本語理解」「日本語表現」を履修することが望ましい。
参考書	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』／石黒圭・筒井千絵 著／スリーエーネットワーク／ISBN978-4-88319-502-2 『留学生の日本語②作文編』／アカデミック・ジャパニーズ研究会編著／アルク／ISBN978-4-7574-2632-0 講義内で適宜紹介する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	提出した作文については次回授業時にコメントを付けて返却する。指摘されたところを直して再提出すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	受講者のレベルやクラスの人数によってはシラバスの内容を変更することがある。

科目名	実用英語（プレゼンテーション）（FV15Q110）
英文科目名	Practical English
担当教員名	田口純（たぐちあつし）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 教科書のIntroductionを読み、P. 7のプレゼンテーションに関するアンケートに回答する。 Unit 1 自己紹介のModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。
2回	Unit 1 自己紹介をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（アイコンタクト、口調）について理解する。
3回	Unit 2 重要な人・物についてのModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 PP. 82-84のA Guide to Writing a Better Presentationを学習する。
4回	Unit 2 重要な人・物をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（身ぶり、Read, Look Up, Present）について理解する。
5回	Unit 3 面白い場所についてのModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 P. 99のA Guide to Warm-ups & Relaxationを学習する。
6回	Unit 3 面白い場所をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（スライド作成、手ぶり）について理解する。
7回	Unit 4 個人的な意見を伝えるModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 PP. 86-98のA Guide to Creating Super Slidesを学習する。
8回	Unit 4 個人的な意見をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（ジェスチャーによる単語強調）について理解する。
9回	Unit 5 有名人の伝記を語るModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 P. 84-85のA Guide to Using Notesを学習する。
10回	Unit 5 有名人の伝記をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（手ぶり）について理解する。
11回	Unit 6 自分の生活の話をするModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 PP. 78-81のA Guide to Better Pronunciationを学習する。
12回	Unit 6 自分の生活の話をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（物語用のジェスチャー、単語強調）について理解する。
13回	Unit 7 社会・世界問題についてのModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 P. 77のA Guide to Vocal Warm-Upsを学習する。
14回	Unit 7 社会・世界問題をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（数字・図の使い方、チャンキング）について理解する。
15回	Unit 8 以前に学んだ内容を整理して、これまでの課題を再確認して、テーマに即した、より発展的なプレゼンテーションを行う。
16回	最終評価試験

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。Unit 1のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Unit 1のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Unit 2のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Unit 2のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Unit 3のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Unit 3のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Unit 4のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	Unit 4のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
9回	Unit 5のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
10回	Unit 5のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）

	)
1 1 回	Unit 6のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	Unit 6のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	Unit 7のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	Unit 7のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	Unit 8のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。(標準学習時間60分)
1 6 回	全てのLanguage to Be Usedを復習し、最終プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	将来アカデミックな英語を用いて論理的構成を踏まえたプレゼンテーションを行うための基礎的な言語知識と言語能力を培うことを目標とする。講義において前述の目標を達成するため、国際学会やビジネス場面を想定したプレゼンテーションの練習等、様々な言語活動およびトレーニングを行う。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① アカデミックな英語を用いて論理的構成を踏まえたプレゼンテーションを行うための基礎的な言語知識と言語能力を理解できること。 ② 簡単なプレゼンテーションを実践することにより、基本的な言語活動ができること。 ③ プレゼンテーションで用いる基本的な表現を身につけられること。 ④ プレゼンテーションの各タイプに用いられる表現を的確に選んで活用できること。 ⑤ 情報倫理を考慮したプレゼンテーションが行えるようになること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	presentation, speech, conversation
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	プレゼンテーションの原稿を作成するなどの応用課題30%（達成目標②④⑤）、英語表現小テスト30%（達成目標①③）、最終評価試験40%（達成目標①②③④⑤）により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Ready to Present/Herman Bartelen・Malcolm Kostiuik/National Geographic Learning/978-4-86312-351-9
関連科目	本講座は「実用英語(アカデミック・ライティング)」と連動しており、本講座受講前または受講後に「実用英語(アカデミック・ライティング)」を受講することが望ましい。
参考書	英語プレゼンハンドブック/味園真紀/ベレ出版/978-4-86064-253-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 講義資料は基本的に授業中に配布しますが、ポータルサイトにアップロードする場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、質問 ・英語でプレゼンテーションを行った後、相互評価や質疑応答を行います。 ・プレゼンテーションに必要なスキルを席から離れて練習します。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	実用英語（アカデミックライティング）（FV15Q120）
英文科目名	Practical English
担当教員名	トビーカーティス（とびーかーていす）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 Chapter 1: Getting Organized リスト項目をグループに分ける練習を行う。英語の大文字と句読点のルールを復習する。
2回	Chapter 2: Understanding Paragraphs (PP. 11-20) 段落の正しい形式と構成について学び、トピックセンテンス、サポート文、および結論文を書く練習を行う。
3回	Chapter 2: Understanding Paragraphs (PP. 21-31) 情報の整理整頓と段落の統一について学習し、練習をする。等位接続詞と重文の文法的な働きを復習する。
4回	Chapter 3: Organizing Information by Time Order 出来事が時系列に整理された段落の書き方を学ぶ。時間を示す前置詞と複文を復習する。
5回	Chapter 4: Organizing Information by Order of Importance 情報が重要度によって整理された段落の書き方を学ぶ。コンマつなぎ文がなぜ文法的に誤っているかと、その直し方について学ぶ。
6回	Chapter 5: Organizing Information by Spatial Order 情報が空間的に整理された段落の書き方を学ぶ。場所を表す前置詞について復習する。
7回	Chapter 6: Understanding the Writing Process 段落を書くための3段階および書き始める前にしておくべきことを学ぶ。断片文がなぜ文法的に誤っているかと、その直し方について学ぶ。
8回	Chapter 7: Supporting the Main Idea 事実、例、引用などを使って段落のmain ideaを支える練習を行う。例を紹介するつなぎ言葉と引用する時の句読点を学ぶ。
9回	Chapter 8: Explaining a Process 過程を説明する段落の書き方を学ぶ。命令形を復習する。
10回	Chapter 9: Writing Descriptions 描写段落の書き方を学ぶ。複数の形容詞が名詞を修飾する際の並び順について復習する。
11回	Chapter 10: Expressing Your Opinion 自分の意見を伝える段落の書き方を学ぶ。つなぎ文（Run-on Sentences）がなぜ文法的に誤っているかと、その直し方について学ぶ。
12回	Chapter 11: Comparing and Contrasting 対照・対比段落の書き方を学ぶ。NeitherやTooを使った対照文と比較級について復習する。
13回	Chapter 12: Analyzing Causes and Effects 原因と結果を明示する段落の書き方を学ぶ。BecauseとSinceを使った複文について復習する。
14回	Chapter 13: Writing Summaries and Answering Test Questions 記事やストーリーを要約する段落の書き方を学ぶ。主語と動詞の一致、動詞と第名詞の一致について復習する。
15回	Chapter 14: Writing Personal Letters and Business Letters 手紙の書き方について学ぶ。 Chapter 1-12で学んだ内容を整理して、これまでの課題を再確認して、テーマに即した、より発展的なパラグラフ作成する。
16回	最終評価試験

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。（標準学習時間10分）
2回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 9 You Be the Editor P. 10 On Your Own （標準学習時間60分）
3回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 18 Practice P. 20 Practice （標準学習時間60分）
4回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 31 You Be the Editor P. 31 On Your Own （標準学習時間60分）
5回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 46 You Be the Editor P. 46 On Your Own （標準学習時間60分）
6回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。

	P. 61 You Be the Editor P. 61 On Your Own (標準学習時間60分)
7 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 71 You Be the Editor P. 71 On Your Own (標準学習時間60分)
8 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 86 You Be the Editor P. 86 On Your Own (標準学習時間60分)
9 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 111 You Be the Editor P. 111 On Your Own (標準学習時間60分)
10 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 126 You Be the Editor P. 126 On Your Own (標準学習時間60分)
11 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 146 You Be the Editor P. 147 On Your Own (標準学習時間60分)
12 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 166 You Be the Editor P. 166 On Your Own (標準学習時間60分)
13 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 191 You Be the Editor P. 192 On Your Own A (標準学習時間60分)
14 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 212 You Be the Editor P. 212 On Your Own (標準学習時間60分)
15 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 227 You Be the Editor P. 227 On Your Own (標準学習時間60分)
16 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間60分)

講義目的	将来アカデミックな英語を用いて論理的な文章の作成や発表を行うための基礎的な言語知識と言語能力を培うことを目標とする。講義において前述の目標を達成するため、実験レポート等の英文報告書の作成やエッセイ・ライティング、交渉の電子メール等のビジネス文書の作成等、社会で実践的に活用できるライティングのトレーニングを行う。
達成目標	① アカデミックな英語を用いて論理的な文章の作成や発表を行うための基礎的な言語知識と言語能力を理解できること。 ② 社会で実践的に活用できるライティングの基礎を養えること。 ③ 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、パラグラフ・ライティングへと応用できること。 ④ ブレイン・ストーミング、パラグラフの構成、校正読み、訂正、書き直しなどを行いながら、パラグラフ・ライティングの流れを修得できること。 ⑤ 様々なパラグラフ・ライティングの種類を学ぶことにより、テーマに即したパラグラフを作成できること。
キーワード	paragraph writing, brainstorming, proof-reading, correcting, various paragraphs
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	練習問題40%（達成目標①～⑤）、最終評価試験60%（達成目標①～⑤）により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

教科書	Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs (Fifth Edition)／Karen Blanchard・Christine Root ／Pearson／978-0-13-439932-4
関連科目	本講座は「実用英語(プレゼンテーション)」と連動しており、本講座受講前または受講後に「実用英語(プレゼンテーション)」を受講することが望ましい。
参考書	大学生のためのアカデミック英文ライティング／中谷安男／大修館書店／978-4-46924-602-5 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 講義資料は基本的に授業中に配布しますが、ポータルサイトにアップロードする場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、質問 ・ペアで書いた段落を交換して読み終わった後、相互評価や質疑応答を行います。 ・席を離れてゲームをすることによって段落の構成などについて学習します。
課題に対するフィードバック	文法に関する練習問題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。段落を書く課題は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。

科目名	日本語理解 (FV16C110)
英文科目名	Japanese Comprehension
担当教員名	藤倉晶子＊ (とうくらあきこ＊)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、進め方、成績評価について説明する。 ユニット1 「自己紹介と本当の自分」 「自分とは何だろう」を読む。
2 回	ユニット1 「自己紹介と本当の自分」 重要表現、文法・語彙を学習する。 P 1 4 課題についてグループで話し合い、意見を述べる。
3 回	ユニット1 語彙・表現確認テスト ユニット2 「若者の自己評価」「日米の大学生のコミュニケーション・スタイル」を読む。
4 回	ユニット2 「若者の自己評価」 重要表現、文法・語彙を学習する。 P 3 2 課題についてグループで話し合い、意見を述べる。
5 回	ユニット2 語彙・表現確認テスト ユニット3 「ジェンダーを考える」 「男の料理 市民権」を読む。
6 回	ユニット3 「ジェンダーを考える」 重要表現、文法・語彙を学習する。 P 4 7 課題についてグループで話し合い、意見を述べる。
7 回	ユニット3 語彙・表現確認テスト ユニット5 「心と体のバランス」 「健康病が心身をむしばむ」を読む。
8 回	ユニット5 「心と体のバランス」 重要表現、文法・語彙を学習する。 P 8 1 課題についてグループで話し合い、意見を述べる。 中間テスト
9 回	ユニット5 語彙・表現確認テスト ユニット6 「働くということ」 「『驚き』や『喜び』を食べて育つ」を読む。
1 0 回	ユニット6 「働くということ」 重要表現、文法・語彙を学習する。 P 9 9 課題についてグループで話し合い、意見を述べる。
1 1 回	ユニット6 語彙・表現確認テスト ユニット8 「環境のためにできること」 「暮らしの無駄、自覚」を読む。
1 2 回	ユニット8 「環境のためにできること」 重要表現、文法・語彙を学習する。 P 1 3 7 課題についてグループで話し合い、意見を述べる。
1 3 回	ユニット8 語彙・表現確認テスト ユニット9 「食の共同性」 「新しい食の共同性を求めて」を読む。
1 4 回	ユニット9 「食の共同性」 重要表現、文法・語彙を学習する。 P 1 5 4 課題についてグループで話し合い、意見を述べる。

15回	ユニット9「食の共同性」重要表現確認テスト これまでに学習した語彙・表現の復習をする。
16回	ユニット10「笑いのちから」 「笑いの効能」を読む 最終評価試験

回数	準備学習
1回	ユニット1 単語リストを予習しておくこと。 P18課題を調べておくこと。 (学修時間120分)
2回	重要表現解説を予習して、例文を作成すること。 P14について意見をまとめてくること。 (学修時間120分)
3回	ユニット1 語彙・表現について復習しておくこと。 ユニット2 単語リストを予習しておくこと。 (学修時間120分)
4回	ユニット2 重要表現解説を予習して、例文を作成すること。P32について意見をまとめてくること。 (学修時間120分)
5回	ユニット2 語彙・表現について復習しておくこと。 ユニット3 単語リストを予習しておくこと。 (学修時間120分)
6回	ユニット3 重要表現解説を予習して、例文を作成すること。P47について意見をまとめてくること。 (学修時間120分)
7回	ユニット3 語彙・表現について復習しておくこと。 ユニット5 単語リストを予習しておくこと。 (学修時間120分)
8回	ユニット5 重要表現解説を予習して、例文を作成すること。P81について意見をまとめてくること。中間テストの準備をする。 (学修時間120分)
9回	ユニット5 語彙・表現について復習しておくこと。 ユニット6 単語リストを予習しておくこと。 (学修時間120分)
10回	ユニット6 重要表現解説を予習して、例文を作成すること。P99について意見をまとめてくること。 (学修時間120分)
11回	ユニット6 語彙・表現について復習しておくこと。 ユニット8 単語リストを予習しておくこと。 (学修時間120分)
12回	ユニット8 重要表現解説を予習して、例文を作成すること。P137について意見をまとめてくること。 (学修時間120分)
13回	ユニット8 語彙・表現について復習しておくこと。 ユニット9 単語リストを予習しておくこと。 (学修時間120分)
14回	ユニット9 重要表現解説を予習して、例文を作成すること。P154について意見をまとめてくること。 (学修時間120分)
15回	ユニット9「食の共同性」重要表現確認テストの準備をする。 (学修時間120分)
16回	最終評価試験の準備をする (学修時間180分)

講義目的	「日本語」講義に続いて、大学の講義に必要な中級・中上級の語彙・表現を増やす。「知っている
------	--

	」だけではなく「使える」ようになるために、口頭で練習したり、実際に文を作って発表する。テキストのトピックを読んで日本社会について理解を進める。（4領域のうち「知識・理解」および「思考・表現」に最も強く関連している。）
達成目標	1) 中級・中上級の表現や語彙をさらに増やし、大学の講義を理解する日本語運用能力を身につける。 2) 「内容を理解する」だけでなく「自分の意見を述べる」ことができる。 3) 言語運用能力のみならず、日本事情に関する話題について自分の考えを述べたり、他の学生の意見を聞いたりして、日本の社会に対する理解を深める。
キーワード	語彙 表現 日本事情
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	語彙・表現テスト結果20%、中間試験30%、最終評価試験50%
教科書	『生きた素材で学ぶ 新 中級から上級への日本語』／鎌田修ほか／ジャパントイムズ／ISBN978-4-7890-1462-5
関連科目	「日本語」「日本語表現」
参考書	『生きた素材で学ぶ 新 中級から上級への日本語ワークブック』／鎌田修ほか／ジャパントイムズ／ISBN978-4-7890-1540-0：くらべてわかる日本語表現文型辞典／大阪YMCA専門学校／岡本牧子ほか／Jリサーチ出版(2016) ISBN978-4-901429-72-6 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	質問はメールで受け付けます。akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	・発表やディスカッションも行うため、積極的な授業参加が求められます。 ・ユニット終了時に語彙・表現テストを行うので、準備をしてください。 ・単位認定には授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。遅刻3回で 欠席1回と数えます。
アクティブ・ラーニング	グループ、ペアワーク ・事前に準備してきた課題について、ペアやグループで意見を出し合う。 ・授業中に出てきた問いに対して、ペアワークで答えたりする。
課題に対するフィードバック	語彙・表現確認テストは終了後、授業中に教員が解答・解説する。中間試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本語表現 (FV16D110)
英文科目名	Japanese Expressions
担当教員名	藤倉晶子＊ (とうくらあきこ＊)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、内容、作文評価、成績評価の方針について説明する。聴解レベルチェックテストを実施する。 第1課「掃除」
2 回	前回の語彙クイズ 第2課「本屋」
3 回	前回の語彙クイズ 第4課「体験プレゼント」
4 回	前回の語彙クイズ 第6課「犬の肥満」
5 回	前回の語彙クイズ 第7課「卵かけご飯」
6 回	前回の語彙クイズ 第8課「女性専用車両」
7 回	前回の語彙クイズ 第11課「そばをすする音」
8 回	前回の語彙クイズ 第13課「南極」 中間試験を実施する
9 回	前回の語彙クイズ 第15課 虚偽の自白
10 回	前回の語彙クイズ 第3課「暗闇イベント」
11 回	前回の語彙クイズ 第5課「開発途上国支援」
12 回	前回の語彙クイズ 第6課「バイオミクリー生物に学ぶ技術」
13 回	前回の語彙クイズ 第7課「フェアトレード」
14 回	前回の語彙クイズ 第13課「子どもの顔」
15 回	前回の語彙クイズ 第15課 丁寧語
16 回	前回の語彙クイズ 最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	聴解レベルチェックテストの準備をすること。 (学修時間60分)
2 回	前回の語彙を復習しておくこと。 (学修時間60分)
3 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間60分)
4 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間60分)
5 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間60分)
6 回	前回の語彙を復習しておくこと。

	指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
7 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
8 回	中間試験の準備をすること。 前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 120 分)
9 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
10 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
11 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
12 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
13 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
14 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
15 回	前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 60 分)
16 回	最終評価試験を実施する。 前回の語彙を復習しておくこと。 指摘された箇所を訂正して再提出すること。 (学修時間 120 分)

講義目的	講義や口頭発表を聞いて、全体のテーマ、構成、内容を理解し、要約する力を養成する。テーマについて、自分の経験や意見を書いたり、話したりする力を身に付ける。
達成目標	1) 講義や口頭発表を聞く際に、内容を理解できるだけでなく、ノートをとって内容をまとめたり、要約することができる。 2) 聞き取った内容について、自分の意見を述べたり、書いたりできる。
キーワード	聴解 要約
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	語彙クイズ 10%、作文 20%、中間試験 30%、 最終評価試験 40%
教科書	教科書は使用しない。毎回プリントを配布する。
関連科目	「日本語」「日本語理解」
参考書	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 中上級』／東京外国語大学留学生日本語教育センター編著／スリーエーネットワーク／ISBN 978-4-88319-687-6 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 上級』／東京外国語大学留学生日本語教育センター編著／スリーエーネットワーク／
連絡先	質問はメールで受け付けます。 akikotokura@gmail.com
授業の運営方針	・発表やディスカッションも行うため、積極的な授業参加が求められます。 ・毎回、要約もしくは自分の意見を書いてもらいます。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク この講義ではアクティブラーニングの一環として、グループディスカッションを行います。
課題に対するフィードバック	提出した要約および作文については、次回授業時にコメントを付けて返却します。指摘されたところを直して再提出してください。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	学生の日本語レベルやクラスの人数により、シラバスを変更する場合があります。

科目名	実用英語（アカデミックライティング）（FV16Q110）
英文科目名	Practical English
担当教員名	田口純（たぐちあつし）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 Chapter 1: Getting Organized リスト項目をグループに分ける練習を行う。英語の大文字と句読点のルールを復習する。
2 回	Chapter 2: Understanding Paragraphs (PP. 11-20) 段落の正しい形式と構成について学び、トピックセンテンス、サポート文、および結論文を書く練習を行う。
3 回	Chapter 2: Understanding Paragraphs (PP. 21-31) 情報の整理整頓と段落の統一について学習し、練習をする。等位接続詞と重文の文法的な働きを復習する。
4 回	Chapter 3: Organizing Information by Time Order 出来事が時系列に整理された段落の書き方を学ぶ。時間を示す前置詞と複文を復習する。
5 回	Chapter 4: Organizing Information by Order of Importance 情報が重要度によって整理された段落の書き方を学ぶ。コンマつなぎ文がなぜ文法的に誤っているかと、その直し方について学ぶ。
6 回	Chapter 5: Organizing Information by Spatial Order 情報が空間的に整理された段落の書き方を学ぶ。場所を表す前置詞について復習する。
7 回	Chapter 6: Understanding the Writing Process 段落を書くための3段階および書き始める前にしておくべきことを学ぶ。断片文がなぜ文法的に誤っているかと、その直し方について学ぶ。
8 回	Chapter 7: Supporting the Main Idea 事実、例、引用などを使って段落のmain ideaを支える練習を行う。例を紹介するつなぎ言葉と引用する時の句読点を学ぶ。
9 回	Chapter 8: Explaining a Process 過程を説明する段落の書き方を学ぶ。命令形を復習する。
10 回	Chapter 9: Writing Descriptions 描写段落の書き方を学ぶ。複数の形容詞が名詞を修飾する際の並び順について復習する。
11 回	Chapter 10: Expressing Your Opinion 自分の意見を伝える段落の書き方を学ぶ。つなぎ文（Run-on Sentences）がなぜ文法的に誤っているかと、その直し方について学ぶ。
12 回	Chapter 11: Comparing and Contrasting 対照・対比段落の書き方を学ぶ。NeitherやTooを使った対照文と比較級について復習する。
13 回	Chapter 12: Analyzing Causes and Effects 原因と結果を明示する段落の書き方を学ぶ。BecauseとSinceを使った複文について復習する。
14 回	Chapter 13: Writing Summaries and Answering Test Questions 記事やストーリーを要約する段落の書き方を学ぶ。主語と動詞の一致、動詞と第名詞の一致について復習する。
15 回	Chapter 14: Writing Personal Letters and Business Letters 手紙の書き方について学ぶ。 Chapter 1-12で学んだ内容を整理して、これまでの課題を再確認して、テーマに即した、より発展的なパラグラフ作成する。
16 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。（標準学習時間10分）
2 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 9 You Be the Editor P. 10 On Your Own （標準学習時間60分）
3 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 18 Practice P. 20 Practice （標準学習時間60分）
4 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 31 You Be the Editor P. 31 On Your Own （標準学習時間60分）
5 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 46 You Be the Editor P. 46 On Your Own （標準学習時間60分）
6 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。

	P. 61 You Be the Editor P. 61 On Your Own (標準学習時間60分)
7 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 71 You Be the Editor P. 71 On Your Own (標準学習時間60分)
8 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 86 You Be the Editor P. 86 On Your Own (標準学習時間60分)
9 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 111 You Be the Editor P. 111 On Your Own (標準学習時間60分)
10 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 126 You Be the Editor P. 126 On Your Own (標準学習時間60分)
11 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 146 You Be the Editor P. 147 On Your Own (標準学習時間60分)
12 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 166 You Be the Editor P. 166 On Your Own (標準学習時間60分)
13 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 191 You Be the Editor P. 192 On Your Own A (標準学習時間60分)
14 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 212 You Be the Editor P. 212 On Your Own (標準学習時間60分)
15 回	テキストから以下の練習問題をしておくこと。 P. 227 You Be the Editor P. 227 On Your Own (標準学習時間60分)
16 回	最終評価試験のための復習をしておくこと。 (標準学習時間60分)

講義目的	将来アカデミックな英語を用いて論理的な文章の作成や発表を行うための基礎的な言語知識と言語能力を培うことを目標とする。講義において前述の目標を達成するため、実験レポート等の英文報告書の作成やエッセイ・ライティング、交渉の電子メール等のビジネス文書の作成等、社会で実践的に活用できるライティングのトレーニングを行う。「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
達成目標	① アカデミックな英語を用いて論理的な文章の作成や発表を行うための基礎的な言語知識と言語能力を理解できること。 ② 社会で実践的に活用できるライティングの基礎を養えること。 ③ 基本的な語彙・文法・構文に関する既習の知識を再確認し、パラグラフ・ライティングへと応用できること。 ④ ブレイン・ストーミング、パラグラフの構成、校正読み、訂正、書き直しなどを行いながら、パラグラフ・ライティングの流れを修得できること。 ⑤ 様々なパラグラフ・ライティングの種類を学ぶことにより、テーマに即したパラグラフを作成できること。 いずれの項目も「学位授与の方針」のAに最も強く関与する。
キーワード	paragraph writing, brainstorming, proof-reading, correcting, various paragraphs
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60	練習問題40%（達成目標①～⑤）、最終評価試験60%（達成目標①～⑤）により、成績を評価し、

点)	総計で60%以上を合格とする。
教科書	Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs (Fifth Edition)／Karen Blanchard・Christine Root ／Pearson／978-0-13-439932-4
関連科目	本講座は「実用英語(プレゼンテーション)」と連動しており、本講座受講前または受講後に「実用英語(プレゼンテーション)」を受講することが望ましい。
参考書	大学生のためのアカデミック英文ライティング／中谷安男／大修館書店／978-4-46924-602-5 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 529号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL a-taguchi@vet.ous.ac.jp TEL 内線8339 外線0898-52-9071
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 講義資料は基本的に授業中に配布しますが、ポータルサイトにアップロードする場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、質問 ・ペアで書いた段落を交換して読み終わった後、相互評価や質疑応答を行います。 ・席を離れてゲームをすることによって段落の構成などについて学習します。
課題に対するフィードバック	文法に関する練習問題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。段落を書く課題は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元徳島県立池田高等学校に勤務：学校現場における教育経験を活かして、高校から大学への英語学習のスムーズな移行を支援し、基礎的な英語力を土台として、より発展的、応用的な英語力向上へと指導する。
その他（注意・備考）	毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。

科目名	実用英語（プレゼンテーション）（FV16Q120）
英文科目名	Practical English
担当教員名	トビーカーティス（とびーかーていす）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、授業の目的、具体的内容、評価基準について説明する。 教科書のIntroductionを読み、P. 7のプレゼンテーションに関するアンケートに回答する。 Unit 1 自己紹介のModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。
2回	Unit 1 自己紹介をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（アイコンタクト、口調）について理解する。
3回	Unit 2 重要な人・物についてのModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 PP. 82-84のA Guide to Writing a Better Presentationを学習する。
4回	Unit 2 重要な人・物をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（身ぶり、Read, Look Up, Present）について理解する。
5回	Unit 3 面白い場所についてのModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 P. 99のA Guide to Warm-ups & Relaxationを学習する。
6回	Unit 3 面白い場所をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（スライド作成、手ぶり）について理解する。
7回	Unit 4 個人的な意見を伝えるModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 PP. 86-98のA Guide to Creating Super Slidesを学習する。
8回	Unit 4 個人的な意見をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（ジェスチャーによる単語強調）について理解する。
9回	Unit 5 有名人の伝記を語るModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 P. 84-85のA Guide to Using Notesを学習する。
10回	Unit 5 有名人の伝記をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（手ぶり）について理解する。
11回	Unit 6 自分の生活の話をするModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 PP. 78-81のA Guide to Better Pronunciationを学習する。
12回	Unit 6 自分の生活の話をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（物語用のジェスチャー、単語強調）について理解する。
13回	Unit 7 社会・世界問題についてのModel Presentationに従ってプレゼンテーションの練習を行う。 P. 77のA Guide to Vocal Warm-Upsを学習する。
14回	Unit 7 社会・世界問題をテーマとしたプレゼンテーションの基本的な構造と表現を学び、分かりやすいプレゼンテーションを行うための必要なスキル（数字・図の使い方、チャンキング）について理解する。
15回	Unit 8 以前に学んだ内容を整理して、これまでの課題を再確認して、テーマに即した、より発展的なプレゼンテーションを行う。
16回	最終評価試験

回数	準備学習
1回	履修ガイドに記載された英語科目に関連する説明を読んでおくこと。Unit 1のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	Unit 1のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
3回	Unit 2のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	Unit 2のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
5回	Unit 3のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
6回	Unit 3のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
7回	Unit 4のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	Unit 4のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）
9回	Unit 5のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。（標準学習時間60分）
10回	Unit 5のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。（標準学習時間60分）

	)
1 1 回	Unit 6のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	Unit 6のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	Unit 7のLanguage to Be Usedを勉強しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	Unit 7のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	Unit 8のPlan & Writeページでプレゼンテーションの原稿を書いておくこと。(標準学習時間60分)
1 6 回	全てのLanguage to Be Usedを復習し、最終プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	将来アカデミックな英語を用いて論理的構成を踏まえたプレゼンテーションを行うための基礎的な言語知識と言語能力を培うことを目標とする。講義において前述の目標を達成するため、国際学会やビジネス場面を想定したプレゼンテーションの練習等、様々な言語活動およびトレーニングを行う。
達成目標	① アカデミックな英語を用いて論理的構成を踏まえたプレゼンテーションを行うための基礎的な言語知識と言語能力を理解できること。 ② 簡単なプレゼンテーションを実践することにより、基本的な言語活動ができること。 ③ プレゼンテーションで用いる基本的な表現を身につけられること。 ④ プレゼンテーションの各タイプに用いられる表現を的確に選んで活用できること。 ⑤ 情報倫理を考慮したプレゼンテーションが行えるようになること。
キーワード	presentation, speech, conversation
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	プレゼンテーションの原稿を作成するなどの応用課題30%（達成目標②④⑤）、英語表現小テスト30%（達成目標①③）、最終評価試験40%（達成目標①②③④⑤）により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	Ready to Present/Herman Bartelen・Malcolm Kostiuik/National Geographic Learning/978-4-86312-351-9
関連科目	本講座は「実用英語(アカデミック・ライティング)」と連動しており、本講座受講前または受講後に「実用英語(アカデミック・ライティング)」を受講することが望ましい。
参考書	英語プレゼンハンドブック/味園真紀/ベレ出版/978-4-86064-253-2 ほか、授業中に適宜指示する。
連絡先	OFFICE 獣医学部棟5階 530号室 オフィスアワー 木曜日3限と事前予約 EMAIL t-curtis@vet.ous.ac.jp TEL 内線8340 外線0898-52-9072
授業の運営方針	参加型の授業ですので出席することが重要です。単位認定には授業回数の3分の2を超える出席を必要とします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 講義資料は基本的に授業中に配布しますが、ポータルサイトにアップロードする場合もあります。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、質問 ・英語でプレゼンテーションを行った後、相互評価や質疑応答を行います。 ・プレゼンテーションに必要なスキルを席を離れて練習します。
課題に対するフィードバック	応用課題のフィードバックは教員が授業中に口頭で伝える。小テストと最終評価試験は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	毎回、必ず辞書（電子辞書またはペーパーの辞書）を持参すること。

科目名	教養演習 A (FV21B110)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生に、自己PRを含む5分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(1)
3 回	受講生に、自己PRを含む5分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(2)
4 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(1)
5 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(2)
6 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(3)
7 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(4)
8 回	これまで演習で実施したディスカッションの講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、演習の進め方を把握しておくこと(30分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること(60分)。受講後に、図書館やwebの利用方法を確認し利用できるようにしておくこと(90分)。
2 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(90分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(90分)。
3 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(90分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(90分)。
4 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(90分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(90分)。
5 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(90分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(90分)。

6回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
7回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
8回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	①主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。②分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。上記のことにより思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Aでは、主に新聞記事などを題材に自由な議論を行なう。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	①教員側が選定した時事問題について自分で調べ正確な内容を把握できる。 ②受講者が自己PRやディスカッションにおいて、自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）／日本ニュース時事能力検定協会監修／毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業の中で取り上げる各テーマにつき主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

グ	主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論A (FV21B120)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義の概要、進め方、評価方法等の説明）と「大学の学び」への招待 学士力、社会人基礎力、グローバル化等をキーワードに、大学での学びについて考察し、自分が今後獲得すべき能力について目標を設定する。
2 回	コミュニケーショントレーニングと人間理解 コミュニケーションの意味と価値を理解し、良好な人間関係を保つためのコミュニケーションについて説明する。
3 回	聴く方法、情報のまとめ方 ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考えることで、情報を能動的に受け取る姿勢を理解する。
4 回	コミュニケーショントレーニング① コミュニケーションを理解したうえで、立場の違いによるコミュニケーションを説明する。
5 回	コミュニケーショントレーニング② 事例を用い、コミュニケーション力を測定する。
6 回	アカデミックライティング レポートと感想の違いについて検討し、アカデミックライティングの構造や特質について説明する。
7 回	社会に求められる人材、グローバル人材になるためには交渉力、異文化理解、異文化コミュニケーションについて説明する。
8 回	講義の総括をする。

回数	準備学習
1 回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認し、大学で学ぶ意義について考えておくこと（90分） 復習として、自身の大学で学ぶ意義をまとめておくこと（90分）
2 回	予習としてテキストの第1章（1 - 36頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
3 回	予習としてテキストの第3・4章（66-117頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
4 回	予習としてテキストの第5・6章（120-168頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
5 回	予習としてテキストの終章（202-225頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
6 回	復習として、大学生に求められる学習スキルに関する課題レポートを完成すること（180分）
7 回	復習として、グローバル化に求められる人材について考えておくこと（180分）
8 回	これまでの講義の振り返り、学んだことをまとめ、疑問点があれば明確にしておくこと（180分）

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。内容として、生涯にわたる「学び」を深めるために①人生の一回性の認識や学びの意味、生涯にわたる学び、自己実現、至高経験について考察する②コミュニケーション力を高めるために、状況判断力、情報伝達力、情報獲得力、傾聴力、人間関係構築力、問題解決力について考察する。（教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する）
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 ②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 ③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 ④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業中に作成したワークシートの提出（30%）、課題小レポート（40%）、最終レポート（30%）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。達成目標の①～④を確認

教科書	学びとは何かー＜探究人＞になるために／今井むつみ／岩波書店／ISBN 978-4-00-431596-4
関連科目	本科目に引き続き「学びの基礎論B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・ 他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・ 授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・ バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・ 許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・ 欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・ 学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ライティング、ディスカッション、プレゼンテーション 学習内容に関する意見をワークシートに書き、グループでディスカッションを行う。その後、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	ワークシートについては、代表的なコメントを次回の授業開始時に提示し、フィードバックを行う。 課題レポートについては、ルーブリック等を用いてフィードバックを行う。 最終レポートについては、Momo-campusに解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論A (FV21C110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	国際社会の特徴と国際法の法源について学修する。国内社会と比較することにより国際社会の特徴について学修する。そのうえで、国際法がいかなる形式で存在し、どのようにして成立するのかという国際法の法源論について学修する。
2 回	国際組織の萌芽について学修する。国際組織が成立する以前の国際社会において、組織化がどのように進展したのかについて学修する。
3 回	国際連盟について学修する。国際連盟の成立の経緯、組織、活動について学修する。
4 回	国際連合について学修する。国際連合の成立の経緯、組織について学修する。
5 回	国際連合に関する諸問題について学修する。国際連合の権限、表決制度、決議の法的拘束力について学修する。
6 回	国際的な経済体制について学修する。貿易や金融などに関する国際的な制度の内容について学修する。
7 回	国際的な人権保障について学修する。人権問題について国際社会がどのように取り組んでいるのかについて学修する。
8 回	欧州連合について学修する。欧州連合の成立の経緯、組織、活動について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際社会の特徴および国際法の法源に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際組織の萌芽に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連盟に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合の諸問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際的な経済体制に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

	復習として、国際的な人権保障に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
8回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、欧州連合に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際関係の歴史を概観した後に、国際機構、特に国際連合成立の経緯、組織構造をみていくことで、現在の国際社会の基本的な仕組みを解説する。そして、そこに込められた人々の平和への願いを読み解き、国際化の真の意味を理解することを目指す。 教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際社会の特徴について説明できるようになること。 ○ 国際社会の成り立ちについて説明できるようになること。 ○ 国際連合の組織および機能について説明できるようになること。 ○ 国際経済体制について説明できるようになること。 ○ 国際的な人権保障制度について説明できるようになること。
キーワード	国際連盟、国際連合、世界貿易機関、国際通貨基金、人権、欧州連合
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際関係論B
参考書	国際連合－軌跡と展望／明石康／岩波書店／978-4004310525：国際組織法／佐藤哲夫／有斐閣／978-4641046344
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学A (FV21C120)
英文科目名	Literature A
担当教員名	大西好幸＊（おおにしよしゆき＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本古典文学の展開を概説する。
2回	上代の文学として『古事記』『万葉集』を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト① 中古の文学（和歌・物語）として『古今和歌集』『源氏物語』を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト② 中古の文学（日記・随筆・説話）として『土佐日記』『枕草子』『今昔物語集』を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト③ 中世の文学（物語・和歌）として『平家物語』『新古今和歌集』を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト④ 中世の文学（随筆・能・狂言）として『徒然草』『風姿花伝』を取り上げ、解説する。連歌にも触れる。
7回	復習小テスト⑤ 近世の文学（俳諧）として『奥の細道』を取り上げ、解説する。
8回	近世の文学（小説・浄瑠璃）として井原西鶴、近松門左衛門を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。日本古典の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2回	教科書「上代の文学」の章を読んで予習をしておくこと。『万葉集』の中から好きな一首を選び、感想をまとめておくこと。【標準学習時間180分】
3回	教科書「中古の文学」（和歌・物語）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト①の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
4回	教科書「中古の文学」（日記・随筆・説話）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト②の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
5回	教科書「中世の文学」（物語・説話・和歌）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト③の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
6回	教科書「中世の文学」（随筆・能・狂言・連歌）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト④の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
7回	教科書「近世の文学」（俳諧）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト⑤の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
8回	教科書「近世の文学」（小説・浄瑠璃）の箇所を読んで予習をしておくこと。これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。「文学A」は近代以前の文学作品を対象とし、それぞれの地域によって異なる風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた人々の思い、心の動き方、社会の中で展開される人間模様などを見てゆく。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	(1) 日本古典文学の基礎的な知識を身につける。（知識・理解） (2) 古典文学を生み出した歴史的背景や上代から近世までどうつながり、どのように展開しているかそのダイナミズムを理解する。（思考・判断・表現） (3) 古典作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。（関心・意欲・態度）
キーワード	上代、中古、中世、近世、日本文学史、詩、詞
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版／兵庫県高等学校教育研究会国語部会編／京都書房／ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	本科目に引き続き「文学B」を履修することが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史A (FV21C130)
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	白石成二＊ (しらいしせいじ＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	初めに自己紹介を行う。獣医学部の立地する愛媛県や今治市に対する理解を深めるために、伊予国の大まかな歴史や国指定史跡をはじめとする貴重な文化財の紹介を行う。次に日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで授業の進め方について説明する。その後、旧石器時代の具体的内容や、その特色について確認するとともに、考古学の捏造事件を取り上げ、一方的な情報を盲信することの危険性についても触れる。
2回	近年の発掘成果によって「貧しい縄文文化」「遅れた縄文文化」のイメージが大きく変化していることを説明する。また縄文時代には一万年にわたって戦争がなかった要因を検討したうえで、縄文時代から現代へのメッセージについて考える。また弥生時代の具体的内容に触れるとともに、その結果、縄文時代にはなかった大規模な戦争が起こるようになったことを確認し、今日各地で起こっている戦争の問題に引きつけて説明する。
3回	古墳時代の前期・中期・後期の内容と特色について触れ、巨大な前方後円墳や八角形墳などがなぜ築かれたのかを説明する。そしてそのあり方は現代日本人の死生観に通じるものがあることを確認する。また古代日本と大陸との交渉のなかで渡来人が多くやってきて文化形成に大きな役割を果たした。現在、国境を越えた人の交流が進んでいる。古代の渡来人の歴史を踏まえ、「日本人とは何か」について検討する。
4回	聖徳太子研究の深化によって推古・厩戸時代のイメージが大きく変容している。その時代の具体的内容の理解とともに、歴史の虚像と実像について触れ、また大化の改新についても木簡の出土によって新しい事実が明らかになり、従来のイメージの転換がおこっている。さらに木簡等によって『日本書紀』の内容について、再検討が進められていることにも触れる。今日、多くの虚実の情報が行き交う中で、その受け取り方について考える。
5回	古代最大の対外戦争がなぜ起こったのか、その敗北によってどれほどの大きな影響があったのかを具体的に説明する。また古代最大の内戦である壬申の乱の背景や経過や結果について触れる。そしてその両方の戦争を経ることによって、古代文明のグローバルスタンダードである律令制に基づく天皇中心の国家体制が成立する。それは文明国の仲間入りであるとともに、かつての「倭国」から新たな国号「日本」の誕生であったことを確認する。
6回	古代の七・八世紀は実に多くの女帝が誕生した。その理由を考えるとともに、論争となっている女帝の「中継ぎ論」と「中継ぎ見直し論」について触れる。その歴史理解うえで現在の皇室をめぐる議論についても考える。次に世紀の発見と言われた長屋王家木簡の出土によって、長屋王という上流貴族の実態が具体的に明らかになってきたことに触れる。新しい史料の発見によって従来の歴史理解が見直されるものであることを確認する。
7回	古代の日本の外交について遣唐使を通して検討する。とりわけ阿倍仲麻呂や井真成の個人的な活動や実質的に最後の遣唐使となる「承和の遣唐使」についてふれ、遣唐使の役割についてみていく。その遣唐使にみられる古代外交の特色が、現代の外交とも重なっていることを確認する。次に奈良時代の精華とされる天平文化の具体的内容に触れるとともに、その文化が仏教のような宗教文化だけでなく、衣食住の全般にわたって大陸の強い影響を受けていることを説明する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	我が国で初めて旧石器時代の存在を確認した相沢忠洋の『岩宿の発見』に目を通すこと。また全体を通しての参考文献である網野善彦『日本社会の歴史（上）』（岩波新書）の旧石器時代の部分を読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
2回	縄文時代については、田中琢・佐原真『考古学の散歩道』（岩波新書）、上田篤『縄文人に学ぶ』（新潮新書）、小林達雄『縄文の思考』（ちくま新書）、瀬川拓郎『アイヌと縄文』（ちくま書房）など、弥生時代については、石川日出志『農耕社会の成立』（岩波新書）、東潮『邪馬台国の考古学』などがあり、どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
3回	古墳時代については松木武彦『古墳とは何か』（角川選書）、外池昇『天皇陵の誕生』（祥伝社新書）、ヤマト王権と渡来人については吉村武彦『ヤマト王権』（岩波新書）、加藤謙吉『渡来氏族の謎』（祥伝社新書）、同『大和の豪族と渡来人』（吉川弘文館）などがあり、図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
4回	推古・厩戸の時代については、聖徳太子虚像説の立場を代表するのが、大山誠一『「聖徳太子」の誕生』（吉川弘文館）、谷沢永一『聖徳太子はいなかった』（新潮新書）で、実在説の立場から吉

	村武彦『聖徳太子』（岩波新書）、東野治之『聖徳太子』（岩波ジュニア新書）であり、必読の書である。大化の改新については遠山美都男『天智と持統』（講談社現代新書）、倉本一宏『蘇我氏』（中公新書）、武光誠『蘇我氏の古代史』（平凡社新書）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
5回	白村江の戦いについては、鬼頭清明『白村江』、壬申の乱については遠山美都男『壬申の乱』（中公新書）、早川万年『壬申の乱を読み解く』（吉川弘文館）、律令制の成立については大山誠一『天孫降臨の夢』がある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
6回	古代の女帝については、吉村武彦『女帝の古代日本』（岩波新書）、仁藤敦史『女帝の世紀』（角川選書）、瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、長屋王の変については寺崎保広『長屋王』（吉川弘文館）、遠山美都男『検証平城京の政変と内乱』（学研新書）、倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
7回	遣唐使をめぐる東アジア外交については、東野治之『遣唐使』（岩波新書）、『遣唐使阿倍仲麻呂の夢』（角川選書）、古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、森公章『遣唐使の光芒』（角川選書）など、天平文化については、直木孝次郎『万葉集と古代史』（吉川弘文館）、東野治之『正倉院』（岩波新書）、同『鑑真』などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	日本列島内における古代史から、中世に至る時代を扱う。日本列島では弥生時代を経て、各地の首長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳時代を迎えた。その後、極東アジア地域からさまざまな文化を導入し、国のかたちを整えていった。中でも律令制は、国家形成等にかかわる重要な制度であり、日本史の方向性を決定したといっても過言ではないだろう。この講義では、日本列島の地勢的状况、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の国家形成等に関わる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握できる。 因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。 歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「旧石器時代」、「縄文時代」、「古墳時代」、「飛鳥時代」、「大化の改新」、「白村江の戦い」、「壬申の乱」、「律令制」、「女帝」、「木簡」、「遣唐使」、「天平文化」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料やプリントを配布する。
関連科目	日本史Bを続けて履修することが望ましい。
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング 歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代的背景や歴史的意義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。 そして今後学ぶべき参考文献などを提示し、授業後においても人の歴史だけではなく、獣医として必要な動物に関する歴史についても興味を持てるようにする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。

その他（注意・備考）	（１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
------------	---

科目名	外国史A (FV21C140)
英文科目名	World History A
担当教員名	松澤仁志＊（まつざわひとし＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2回	オリентと地中海世界について概観する。
3回	アジアの古典文明をインド、中国（秦漢帝国まで）の歴史を中心に説明する。
4回	イスラーム世界の形成と発展について説明する。
5回	ヨーロッパ世界の形成と発展について説明する。
6回	東アジア世界の形成と展開について説明する。
7回	中世から近世にかけてのヨーロッパ世界の形成と展開について説明する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと（90分）
2回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
3回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
4回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
5回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
6回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
7回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
8回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと（270分）

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代は民主主義、資本主義、科学主義などを基本的な要素とした近代社会であるが、これらが世界の各地域においてどのように形作られ、どのような展開を見せたかということを講義する。その後、それらを形成し、各国の世界観や文化に影響を与えたそれぞれの世界の歴史について、古代文明や中世社会の構造とその変質および科学革命などについて解説する。 （教養教育科目の4領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する）
達成目標	近世までの世界史の流れを説明することができる 近世までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 近世までの世界史の現代につながる歴史的影響力について考察することができる
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	予習・復習プリント（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史／桃木 至朗他／大阪大学出版会／ISBN487259469X：ニューステージ世界史詳覧／／浜島書店／ISBN4834320251
関連科目	本科目に引き続き「外国史B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	・授業プリントを毎回事前に配布する。 ・授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学A (FV21C150)
英文科目名	Political Science A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 政治、民主政治、民主主義の発展について概説する。
2 回	権力分立（１）－三権分立と議院内閣制－について講義する。
3 回	国会について講義する。
4 回	内閣と内閣総理大臣について講義する。
5 回	権力分立（２）－権力相互の抑制と均衡－について講義する。
6 回	選挙政治－選挙制度－について講義する。
7 回	政党と圧力団体について講義する。
8 回	これまで講義で扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に政治、民主政治、民主主義の意味について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べる（９０分）。
2 回	第７章の121～125頁を読み、議院内閣制について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における議院内閣制の特徴を整理すること（９０分）。
3 回	第７章「国会」を読み、国会について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における国会の特徴を整理すること（９０分）。
4 回	第８章「内閣と総理大臣」を読み、内閣制度について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における内閣制度の特徴について整理すること（９０分）。
5 回	権力分立について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における権力分立の特徴を整理すること（９０分）。
6 回	第４章「選挙と政治」を読み、選挙制度について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における選挙制度の特徴について整理すること（９０分）。

7回	第4章「選挙と政治」を読み、政党と圧力団体を調べておくこと（90分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における政党と圧力団体の特徴を整理すること（90分）。
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、そこに凝縮されている政治、社会の本質について考えることで、現代政治の意味を理解する手掛かりとしたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Aでは、主として＜政治と経済＞及び＜政治と社会＞について学ぶ。教養教育科目の4領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	本講義の目標は、現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国内の政治について基本的な用語を説明できることである。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、民主政治、民主主義、権力分立、議院内閣制、国会、内閣、選挙政治、政党、圧力団体
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学／川出良枝・谷口将紀編／東京大学出版会／978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジュメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学A」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学A (FV21C160)
英文科目名	Economics A
担当教員名	山中高光＊ (やまなかたかみつ＊)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	〔オリエンテーション〕 〔経済学とは何か〕 経済をとらえる経済学の基本的枠組み・考え方(市場経済、家計、企業、政府、ミクロ経済学、マクロ経済学など)を概観する。 〔需要と供給〕 需要・供給分析の基礎を説明し、その応用として消費税の負担を考える。
2 回	〔需要曲線と消費者行動〕 需要曲線とは何か。家計の選択、消費者余剰を説明する。
3 回	〔供給曲線と企業行動〕 供給曲線とは何か。生産、費用、完全競争市場における企業の行動。消費者余剰を説明する。
4 回	〔市場取引と資源配分〕 市場と価格メカニズム、余剰分析、資源配分の歪み、市場と経済発展について説明する。
5 回	〔独占と競争の理論〕 完全競争、独占、独占的競争について説明する。
6 回	〔市場の失敗〕 市場の失敗、外部効果、公共財について説明する。
7 回	〔不確実性と不完全情報の経済理論〕 不確実性と経済現象、不確実性の経済理論、情報の不完全性について説明する。
8 回	前半で授業全体の復習を行う。後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。家計消費の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。企業活動の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場取引や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場形態による取引の利害や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場の失敗の具体例、特に外部効果と公共財、について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。不確実性に起因する経済事象の具体例について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8 回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Aではその中でも特に家計と企業の行動について講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。 2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	ミクロ経済学、資源配分、需要、供給、家計、企業、政府、消費者理論、生産者理論、市場経済、価格メカニズム、完全競争、独占、独占的競争、市場の失敗、不確実性
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。

教科書	入門経済学第4版／伊東元重／日本評論社／ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Bの履修が望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版／塩澤 修平／有斐閣／ISBN 978-4-641-22004-1：マンキュー入門経済学 第2版／マンキュー／東洋経済新報社／ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する。
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(課題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などの許可します。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を利用する。 定期試験(最終評価試験)は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	フレッシュマンセミナー (FV21D110)
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	尾崎博 (おざきひろし) , 小林忠資 (こばやしただし) , 平井誠士 (ひらいせいじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	《本学での学び》 建学の理念にもとづいて本学のポリシーと学生に求める資質を説明するとともに本学園の沿革なども紹介する。また、獣医学部のポリシーについても紹介する。さらに、地域社会への貢献の重要性についても考える。 (全教員)
2 回	《大学生としての学び》 大学での学びの方、大学生活で求められるコミュニケーションの方法について説明する。 (全教員)
3 回	《大学で提供するさまざまなサポート》 大学が提供する準正課教育プログラム、海外研修、語学学習支援プログラムについて説明する。 (全教員)
4 回	《図書館の活用方法》 文献の検索方法、ラーニングコモンズの使い方、図書館の提供するサービスについて説明する。 (全教員)
5 回	《社会人としての学生の責任》 社会人としての法律順守の考え身に着けるとともに、大学生活において発生したハラスメントへの対応を検討する。 (全教員)
6 回	《社会における大学の役割》 大学の戦略研究や付属研究所、研究施設などを紹介することで、本学の研究力を説明する。また研究倫理教育も実施して、研究者の仲間入りであることを意識化する。 (全教員)
7 回	《自立した個人としてのリスクマネジメント》 健康管理や心の健康をガイダンスして、大学生の時期における心理的発達や生活および学習環境の変化について学びながら大学生活のイメージを考える。また安全対策マニュアルに沿って大学生活における安全・防災についても考える。 (全教員)
8 回	《キャンパスライフデザイン》 自分の将来の目標に向けて、大学で何をすべきかを学科の教員や同級生とのディスカッションを通して考える。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	岡山理科大学のWEBサイトから、本学の建学の理念、獣医学部のポリシー、獣医学部の活動内容を確認し、岡山理科大学獣医学部の特徴をまとめておく (90分)。
2 回	予習として、大学での学びに関する不安や疑問点を自分なりに整理しておくこと (90分)。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと (90分)。

3回	予習として、学生便覧や大学のWEBサイトを確し、大学が提供する学習サポートについてまとめておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
4回	予習として、岡山理科大学図書館のWEBサイトを確し、図書館が提供するサービスをまとめておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
5回	予習として、身の回りでハラスメントや犯罪に関する問題がないかを考えておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
6回	予習として、本学の教員が行っている研究内容について大学のHP等で調べておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
7回	予習として、健康で充実した大学生活を送るために必要な習慣や行動について整理しておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
8回	将来の目標に向けて、卒業までの各年次ですべきこと・やりたいことなどを考えておくこと（270分）。

講義目的	本講義では、入学したばかりの新入生を対象に、岡山理科大学とはどのような大学か、入学した学部とはどのような学部か、ここで何ができるかを説明する。そして4年間あるいは6年間という限られた時間を最大限有効に使うのに必要な事柄、例えば、「話を聞く」「ノートを取る」「論理的に考える」「適切に話し書く」などの学ぶための基本的な技法（アカデミック・スキル）を説明する。この授業を通して、自分がこの大学で何をしたいか、将来どのような社会人・職業人になりたいかを考える第一歩とする。（教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に最も強く関与する）
達成目標	(1) アカデミック・スキル 情報収集や資料整理の方法、ノートの取り方、レポート・論文作成方法、口頭発表の技法、文献講読の方法、論理的思考力、問題発見・解決能力、調査・実験の方法、図書館の活用方法などを理解して「アカデミック・スキル」を磨くこと (2) スチューデント・スキル 進路選択や職業生活に対する動機づけ、集中力や記憶力の醸成、時間管理や学習習慣の確立、大学教育全般に対する動機づけ、受講態度や礼儀・マナー、自己分析とキャリアデザイン、海外留学、インターンシップ、ボランティア活動の活用、学習支援センターやラーニングコモンズ、ポートフォリオなどの活用などを理解して「スチューデント・スキル」を磨くこと (3) 内面的アイデンティティー チームワークを通じての協調性、大学への帰属意識（建学の理念、ポリシー）、地域への帰属意識、市民としての自覚・責任感・倫理観の醸成、自信・自己肯定感の醸成、健全な大学生活（健康・運動・食育・心の病の問題を含む）、法律（交通、カルト、軽犯罪、薬物・飲酒・喫煙、ドラッグ、危険ハープ、飲酒、喫煙）順守の重要性、ハラスメントに関する知識、大学における安全対策などを理解して「内面的アイデンティティー」を確立すること
キーワード	アカデミック・スキル、スチューデント・スキル、内面的アイデンティティー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義で出される提出課題(70%)と最終課題であるキャンパスライフデザイン(30%)により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	全ての科目に関連するが、特に初年次に受講する教養教育科目（人間・社会科学教育科目、キャリア教育科目、科学技術教育）、外国語教育科目や専門教育科目。
参考書	特に指定しないが、必要に応じて冊子や資料を配布する。
連絡先	A-2 6F 631研究室 直通電話：0898-52-9132 e-mail: h-ozaki@vet.ous.ac.jp オフィスアワー：月曜昼休み
授業の運営方針	初回のガイダンスで説明するが、学習管理システムを活用した課題提出（出席管理）を実施するので、そのためのスキルを習得すること。
アクティブ・ラーニング	質問 授業で扱ったテーマに関して学生に問題を提示し、学生が答える。
課題に対するフィードバック	各回の課題に対して、MOMO CAMPUSを通してフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学A (FV21F110)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、心理学とは何か？について概説し、今後の講義方針について説明する
2 回	心理学における心と身体の扱いについて、概説する
3 回	科学としての心理学、および心を測ることについて、概説する
4 回	動物と心理学との関係について、概説する
5 回	人間の一生および発達と心理学について、概説する
6 回	人を取りまく環境と心理学について、概説する
7 回	対人援助技術と心理学について、概説する
8 回	性格と心理学について、概説する

回数	準備学習
1 回	心理学という学問について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
2 回	心とは何か？あるいは身体とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
3 回	科学とは何か？心を測ることはできるのか？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
4 回	動物とは何か？ 人間とそれ以外の動物との違いは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
5 回	発達とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
6 回	環境とは何か？集団とは何か？社会とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
7 回	人を助けるとは何か？について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
8 回	自分とは何か？性格とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)

講義目的	初めて心理学という学問に触れる学生を対象に、特定の学派や立場に偏らないように、多様な切り口から概説する。心理学という学問を体系的に学び、理解することで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	心理学についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	脳、アフォーダンス、操作的定義、アセスメント、動物行動学、発達、遺伝、環境、発達障害、社会、感覚、知覚、認知、行動、行動経済学、認知バイアス、対人援助職、エビデンス、ナラティブ、動機づけ、行動分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別

	に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	法学A (FV21F120)
英文科目名	Law A
担当教員名	渡邊剛央（わたなべたけひさ）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについて学修する。社会には様々なルールがあるが，その中で法はどのような特徴を持ったルールなのかを学修する。そのうえで，法が社会においてどのような形式で存在しているのかを学修する。
2 回	法の解釈について学修する。なぜ法の解釈が必要なのか，解釈にはどのような方法があるのかについて学修する。
3 回	憲法とは何かについて学修する。憲法の目的とは何か，現在の憲法と大日本帝国憲法との違いは何かについて学修する。
4 回	国会について学修する。国会の地位，国会の活動，国会の権限，議院の権限，国会議員の地位について学修する。
5 回	内閣について学修する。内閣の地位，内閣総理大臣の地位，内閣の権限について学修する。
6 回	裁判所について学修する。司法権とは何か，司法権の限界，裁判所の組織について学修する。
7 回	財政について学修する。財政立憲主義，予算制度について学修する。
8 回	地方自治について学修する。地方自治の存在意義，地方自治制度の内容，住民の権利について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として，法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
2 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として，法の解釈に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
3 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として，憲法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
4 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として，国会に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
5 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として，内閣に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
6 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として，裁判所に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）

7回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、財政に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、地方自治に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Aで取り扱う分野は主として「法の解釈」と「日本国憲法」である。公法と私法、民法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。 教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 法とは何かについて説明できるようになること。 ○ 法の解釈方法について説明できるようになること。 ○ 憲法に定められている統治機構について説明できるようになること。
キーワード	法学、法の解釈、日本国憲法、大日本帝国憲法、国会、内閣、裁判所、財政、地方自治
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	この講義では憲法の統治機構を中心に扱うので、人権に興味がある学生は日本国憲法を履修すること。法学B
参考書	現代法学入門（第4版）／伊藤正巳・加藤一郎／有斐閣／978-4641112568：憲法（第6版）／芦部信喜／岩波書店／978-4000227995
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読ん

	で予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間A (FV21F130)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 「教養（リベラル・アーツ）」を学ぶ意義、「社会」に興味関心を持ち積極的に関わる必要性について説明する。
2 回	憲法改正に関する諸問題について解説する。
3 回	アベノミクスの現状と課題について解説する。
4 回	地方が抱える諸問題（地方創生）について解説する
5 回	日本とアメリカが抱える諸問題について解説する。
6 回	働き方改革・社会保障について解説する。
7 回	東日本大震災復興の現状と課題について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べる（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、改正公職選挙法の成立により、18歳での選挙権が認められた現実を鑑み、若者の「市民性＝社会参画の権利と義務」の重要性を論じる。皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議する。これらの教材を通して、受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、・それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・新聞や報道などで取り上げられる用語・内容を理解し、自分で説明できる。 ・日本の抱える諸問題を捉えることができる。 ・問題の背景にある原因を正しく把握し、根拠に基づく自分なりの判断ができる。
キーワード	教養、社会問題、時事、憲法改正、アベノミクス、地方創生、日米問題、働き方改革、社会保障、震災
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80%）と毎授業課題（20%）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間B、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	スポーツとフィールド科学（テニス）（FV21P110）
英文科目名	Sports (Tennis)
担当教員名	明比孝善＊（あけびたかよし＊）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	講義実施場所、内容、目的、受講の心得 テニスの歴史、用具等について説明する。 テニス場の使用方法とマナーについて説明する。ラケットとボールに慣れる練習をする。
2 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
3 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークの復習を行う。 バックハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
4 回	ストレッチウォーミングアップを行う。 フォア・バックハンドストロークの復習を行う。 ストロークを使って、ラリーが出来るようになることを目的とした簡易ゲームをする。
5 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 フォア・バックハンドボレーについて説明を行った後、練習する。
6 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 スマッシュについて説明の後、練習する。
7 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 サービスについて説明を行った後、練習する。
8 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ダブルスのルールの審判法について説明を行った後、ゲーム形式を行う。
9 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 前衛・後衛のポジション・役割について説明の後、ゲーム形式をする。
1 0 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ボーチの役割について説明の後、練習する。
1 1 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーを復習する。 ロビングショットの役割を説明の後、練習する。
1 2 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 アプローチの説明の後、練習する。
1 3 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 平行陣の説明の後、ゲーム形式を行う。
1 4 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 戦術の説明の後、ゲーム形式を行う。
1 5 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 講義全体の振り返りとまとめをする。チーム分けの後、試合を行う。
1 6 回	最終評価のため、試合を行う。

回数	準備学習
1 回	授業内容・目的の確認テニスの歴史と用具について復習を行うこと。テニスのマナーについて予習を行うこと。
2 回	マナーについて復習を行うこと。フォアハンドストロークについて復習を行うこと。
3 回	バックハンドストロークについて復習を行うこと。
4 回	フォア・バックハンドストロークについて復習を行うこと。
5 回	ボレーについて復習を行うこと。

6回	スマッシュについて復習を行うこと。
7回	サービスについて復習を行うこと。
8回	ルール・審判法について復習を行うこと。
9回	ダブルスでのポジションについて復習を行うこと。
10回	ボーチについて復習を行うこと。
11回	ロビングとポジションチェンジについて復習を行うこと。
12回	アプローチについて復習を行うこと。
13回	平行陣について復習を行うこと。
14回	戦術について復習を行うこと。
15回	講義全体について復習を行うこと。テニスを通じて得たものを考えること。
16回	テニスを通じて得たものを考えること。

講義目的	テニスの技術を修得すると同時に、体力の向上や、公正・協力・責任などの社会的態度を身につけ、生涯を通じて継続的にスポーツ（運動）を実践していける習慣や態度を育てる。内容として①テニスの技術（グラウンドストローク、サーブ、レシーブ、ボレー、スマッシュ）を習得すること ②シングルス、ダブルスのゲームのルールと審判法を習得すること ③テニスを楽しむため、プレースタイルや戦術を考えられる能力を身に付けること ④ルールを遵守する態度やマナーを身に付けることを目指す。 （単位認定の方針Dに強く関与する）
達成目標	テニスのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防が出来ること。
キーワード	硬式テニス・軟式テニス・スポーツ傷害
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	積極性（30%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）
教科書	使用しない
関連科目	生涯スポーツ
参考書	指定しない
連絡先	授業終了時にテニスコートで質問を受け付ける。
授業の運営方針	授業計画に沿って講義を進めていくが、学生個々の技術の修得状況を考慮し、レベルに応じた班分けなど対応していく。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業時間内で実技試験、発表、演習等を課すので、評価を確認したい学生には次の講義で対応する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業は、テニスコートで行う。第1回目の授業には必ず出席すること。雨天により体育館に場所を変更になることがあります。

科目名	文章表現法基礎編A (FV21P120)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題①「あなたの趣味・特技」について文章を作成する。
2 回	課題②「他者と話すときに心がけていること」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3 回	課題③「今までで一番印象に残る出来事」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4 回	課題④「社会人になるにあたっての抱負」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」 (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイント指導する。
6 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題⑥「少子高齢化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (30分)。 予習：課題①の概要を準備しておくこと (60分)。 復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること (90分)。
2 回	予習：課題②の概要を準備しておくこと (90分)。 復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること (90分)。
3 回	予習：課題③の概要を準備しておくこと (90分)。 復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること (90分)。

4回	予習：課題④の概要を準備しておくこと（90分）。 復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
5回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（90分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（90分）。
6回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（90分） 復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
7回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（90分）。 復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
8回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（90分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編B、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分

	以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編A (FV21P130)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	さまざまなプレゼンテーションの構成を理解する。
3 回	設定したテーマをもとにプレゼンの構成を検討する。
4 回	スライド資料を作成する
5 回	スライド資料を作成する
6 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
7 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
8 回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習としてシラバスを確認し、優れたプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2 回	予習として複数のプレゼンテーションの動画をWEBサイト等から視聴し、それぞれのプレゼンテーションの構成と工夫についてまとめておくこと (180分)。
3 回	予習として、授業で紹介したプレゼンテーションの動画を視聴し、優れている点と改善点を整理しておくこと (180分)。
4 回	予習として、授業で紹介した効果的なスライド資料の作成方法に関するWEBサイトを閲覧し、スライド資料を作成するうえでの基本を整理しておくこと (180分)。
5 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
6 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
7 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。

8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと（180分）。
----	---

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画・方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、よいプレゼンテーションの例として、TED等の動画の視聴を課題として出し、よいプレゼンテーションとは何かを自分で考えさす機会も設ける（教養教育科目の4領域のうちの技能に技能に最も強く関与する）。
達成目標	①パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 ②図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 ③自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 ④自分の考えや主張を相手に伝えることができる。
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	ワークシート10%、提出課題40%、プレゼンテーション50%により成績を評価し、総計で得率60%以上で合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Bを継続して履修することがのぞましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 与えられたテーマに対して、資料を作成して個人発表を行う。
課題に対するフィードバック	各個人発表の後に、口頭でフィードバックを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

--	--

科目名	現代人の科学C (FV21P140)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	吉川泰弘 (よしかわやすひろ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	宇宙の誕生、膨張と銀河系、地球と太陽の誕生、そして生命の誕生。細菌の多様性は、大まかにいえば化学合成独立栄養細菌、嫌気性従属栄養細菌、嫌気性光合成独立栄養細菌、好気性従属栄養細菌というような順序で出来上がってきたと考えられる。その間に、真正細菌から古細菌が分岐し、由来は、現在でも明らかではないがウイルスが出現した。この経緯を紹介する。
2 回	モネラ界（原核細胞の世界、細菌）の生物から、核と核膜、ミトコンドリアあるいは葉緑体、その他細胞内小器官（リソソーム、ゴルジ体など）を持つ単細胞の真核細胞生物（原生動物、藻類）が出現した。真核細胞の出現機構はまだ不明であるが、原核生物（2種類の細菌、あるいは古細菌と真正細菌）が合体した可能性が考えられる。ミトコンドリアはαプロテオ菌由来、葉緑体はシアノバクテリア由来と考えられる。真核細胞の特性を紹介する。
3 回	10億年くらい前に、単細胞生物は多細胞生物となった。単細胞生物が群をなし、表層と内層に分かれて、体細胞と生殖細胞、組織・器官を形成するようになった。ミトコンドリアを保有する多細胞群は真菌、あるいは2胚葉性動物、3胚葉性の扁形動物、線形動物（条虫や吸虫、線虫）となった。藻類から多細胞化したものが植物となり、5界説がすべて揃う過程を学修する。
4 回	旧口動物の扁形動物は軟体動物に進化し、線形動物は甲殻類（エビ、カニ）からさらに節足動物（昆虫類）に進化して1つの頂点に立つ。新口動物は棘皮動物から、脊索動物を経て、脊椎動物への進化を進める。無顎類から、軟骨魚類、硬骨魚類に進化する。生体防御の最終段階の細胞性免疫、液性免疫を獲得するのが魚類である。魚類から四肢を発達させ、陸上に上がるのが両生類である。陸上で生活するためには鰓呼吸から肺呼吸へと大変化を遂げる。循環器系、内分泌系、神経系の原型はほぼ完成する過程を学修する。
5 回	爬虫類類は恐竜として全盛をむかえ、翼竜は空を飛び、爬虫類の頂点といえる鳥類が分岐する。進化はネオテニー（幼形成熟）と言われるように、幼形で成熟する特質を持つ。空を飛ぶための機能的進化は、昆虫に類似した側面を持つ。また、形態的には哺乳類で空を飛ぶ、翼手目にも類似している。爬虫類と分岐した哺乳類は、卵生から胎生へと変化し、哺乳により子を育てる。齧歯類に類似した祖先から、多くの哺乳類が分岐した経緯を学修する。
6 回	サル類：霊長類は約220種といわれている。7000万年前くらいに霊長類として分岐し、原猿類と真猿類が分かれ、オラウータン、ゴリラが分岐し、ヒトともっとも近いチンパンジーと別れたのが500～700万年前といわれている。現生人類の直接の祖先は6万年前にアフリカ大陸を出たと思われる。ここでは人はどこまでサルか？について比較生物学を展開する。
7 回	6回までで生物進化の概要を講義した。進化の過程をゲノム、増殖・生殖戦略の共通性と多様性、組織・臓器の機能・形態、神経系・生体防御系、内分泌系などの進化という見方で振り返ってみる。それはまた、受精卵からの個体発生とダブる側面を持っていることを学修する。
8 回	このように、生物進化は多様性を生み、現在もその末裔が生物界を作り上げている。同一空間に多くの生物種が存在するためには、共生、寄生、感染といった相互作用を持ち、食料・環境の循環を

	基盤に、一つの世界を作り上げている。8回では、これまでの講義を振り返り、生物学では生物進化における共通性と独自性、多様性を理解し生物間の相互作用を理解することであることを学修する。
--	--

回数	準備学習
1回	細菌は一般にバイキンと呼ばれて嫌われてるが、空気中の窒素や酸素の産生、吸収に重要である。またバイオマスで注目されるように資源循環にも役立っている。確かに感染症の病原体として問題もあるが、細菌感染症などを統御する抗生物質も細菌や真菌によってつくられるものがほとんどである。細菌が出現しなければ、その後の生命体は存在しなかったかもしれない。細菌の役割を調べてみる。
2回	真核生物のうち動物、植物、真菌を除いたものを原生生物という、ややネガティブな定義である。さらに原生生物のうち葉緑体をもって光合成をするものが藻類、ミトコンドリアを持つ従属栄養体が原生動物である。原生動物のうちで病原性を持つものを原虫と定義している。このステージでは無性生殖で増殖するもの、無性生殖と有性生殖をするものが出現する。原虫の生活環を類型化すること。
3回	扁形動物である条虫、吸虫は、複雑な生活環を持つものが多い。1つ、2つといった中間宿主を持つ。終宿主で交配、受精卵を排出し、中間宿主で無性生殖するという戦略を持つもの、また雌雄同体のものが多い。線虫では雌雄異体のものが増える。吸血昆虫などを利用して、感染域を広げる戦略をとるものもある。寄生虫と中間宿主の関係を整理すること。
4回	甲殻類、昆虫はウイルス、細菌、原虫などの立派な宿主である。一方で吸血昆虫はウイルスや細菌、原虫などを運ぶし、ダニなどはミツバチの幼虫に感染する寄生虫である。また、十分な免疫系が発達していないにも拘らず蜂や蟻などは巨大な社会を形成し問題なく暮らしている。彼らがどのような能力を持っているのかは興味ある課題である。また海から陸上に上がったのは両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類だけでなく昆虫類やカタツムリ、ナメクジのような陸生巻貝もある。環境変化にどのように適応したか調べる。
5回	鳥類は爬虫類から進化した一つの頂点といえる。しかし、哺乳類と比較すると、多くの点で共通する部分と異なる点がある。また鳥類でも空を飛ぶものと飛ばないものがあり、昼行性のものと夜行性のものがある。その点は哺乳類も同じである。生活空間の類似した哺乳類と鳥類で形態と機能を比較して調べる。
6回	最も身近なサル類は多くの点でヒトに類似している。大きな違いがあるとすればやはり、脳構造であろう。しかし、構造といっても量的な違いである。ヒトとサル類（原猿、新世界ザル、旧世界ザル、特に尾長ザル、チンパンジー）とヒトの脳についてどのような違いがあるか整理して調べる。また脳に関連する機能や社会性の違いも比較して調べる。
7回	神経系、生体防御系、内分泌系、呼吸器系、造血系、消化器系（肝臓、膵臓を含む）、泌尿器系（腎臓）、骨格・筋肉系を多細胞動物について、どれでもよいから、1～2つほど進化的にどのように変わったかを纏めて調べる。
8回	最近、国際的にOne World, One Healthという言葉が使われるようになってきている。ここで学んだ生物進化と多様性が、このコンセプトとどのように関連しているか考え、まとめて調べる。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・
------	--

	技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学C」では、観察も交えながら、主に生物・地学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 地球上に最初に現れた生物は細菌（約40億年前）で、地球の生命の歴史の約半分は細菌の世界である（ウイルスは30億年くらい前に出現したと考えられている）。約20億年前に真核生物（原生生物：原生動物と藻類）が登場し、10億年前に多細胞生物（真菌、寄生虫）が登場した。寄生虫は節足動物や軟体動物へと進化し、5～6億年前のカンブリア紀の後に高等多細胞生物が出現し、脊椎動物が魚類から哺乳類へと進化、霊長類の中から人類へと進化した。生命の連続性と多様性を基盤として、単純系から複雑系への生物変化を学修する。
達成目標	地球上に生存する様々な生物の多様性を理解すること。またその多様性がどのような経緯をたどってできてきたのか、それぞれの生物種は他の生物種とどのような関係を持っているのか？将来の進路を考えて、生物多様性の中でも、通常病原体と言われているような地球の初期から出現した生物群と宿主と言われる最後に出現した生物群（ヒトや家畜）に至るまでの連続性を理解し、説明できること。
キーワード	細菌、原虫、真菌、寄生虫、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施する質疑応答20%、解答の説明能力（メール回答）30%、定期試験（正誤課題、5択問題）50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。スライドと討議、質疑応答で授業を進める。
関連科目	獣医の専門科目、獣医保健看護の専門科目の基礎となる。感染症学、病原体科学、組織形態・機能学等に関連する。
参考書	生物進化の謎と感染症／吉川泰弘／NHK出版／978-4-14-910914-5 講義内容と質疑応答例は、ホームページ(https://www.ayyoshi.com 、現代生物進化)あるいはポータルサイトの「講義資料」にアップロードしている。
連絡先	獣医学部棟6階学部長室
授業の運営方針	パワーポイントで説明、試験は広範囲なので本質的なことを理解する。 講義内容を予習し、質問等を考えておくこと。
アクティブ・ラーニング	https://www.ayyoshi.com の「現代生物進化」をみて、自分の理解度をチェックする。
課題に対するフィードバック	模範回答はネットおよびポータルサイトに公開します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。←必ずご記入してください。
実務経験のある教員	ア) 国立予防衛生研究所 イ) 感染症法の作成に関与、狂犬病予防法の改正、食品安全委員会でのBSEトレサビ法等について国民に解説し、動物医薬事害議会で議長として生物製剤の害議を進めた。
その他（注意・備考）	

科目名	キャリア形成講座A (FV21Q120)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	アイスブレイクを通して他人とコミュニケーションをとることへの抵抗感をなくす。 (渡邊 剛央)
2回	テストを通して自己分析をする。 (小林 忠資)
3回	自分史の作成を通して自己分析をする。 (小林 忠資)
4回	社会人として求められている能力(コンピテンシー)について知る。 (戸田 修司)
5回	自分の大学での目標を明確にする。 (戸田 修司)
6回	映像から将来に必要な能力を理解する。 (小林 忠資)
7回	自分の将来像を明確にする。 (渡邊 剛央)
8回	これまでの授業を振り返る。 (全教員)

回数	準備学習
1回	予習として, 自己PRを考えてくること。(90分) 復習として, 他人とのコミュニケーションをとるうえでの改善策とより自己PRを行うための改善策を考えること。(90分)
2回	自分の能力, 性格, 価値観, 興味についてそれぞれ整理し, 自己理解を深めてくること(180分)。
3回	これまでの自分の歩みを振り返り, 自分の年表を作成すること(90分)。また, 自分にとっての10大ニュースを選び, その理由をまとめてくること(90分)
4回	予習として, コンピテンシーとは何か, 具体的な内容について調べておくこと。(60分) 復習として, 目標シートを完成させてくること。(120分)
5回	大学における自己の目標を整理しておくこと。(90分) 大学生活の目標に基づく今後の具体的なプランを考えること。(90分)
6回	社会人として働くうえで必要な能力について自分の意見をまとめてくること(180分)。
7回	予習として, 自分の将来像(20年度の自分)を考えてくること(90分)。復習として, 授業の振り返りを通じて, 自分の将来像を見直すこと。(90分)
8回	予習として, これまで授業を振り返り, 学んだことをまとめる。(90分) 復習として, 今後自分が成長するために必要なことをまとめる。(90分)

講義目的	社会で必要とされる力(コミュニケーション力・表現力・チームワーク力)を実践的な演習を通じて習得する。段階的なスキルアップワークと発表機会を通じて、主張力・傾聴力・展開力を強化し、就活対策のみならず、社会人となって以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ。達成目標は下記の通りである。①コミュニケーション力、表現力、チームワーク力、プレゼン力のレベルアップを、ペアワークおよびグループワークを通じて実現すること。②自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむこと。③発想～ミーティング～プレゼンの過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特性・強み・弱みを知ること。 教養教育科目4領域の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 他人と積極的にコミュニケーションをとることができるようになること。

	○ 自分の意見を分かりやすく他人に伝えることができるようになること。 ○ 他人と協力をして目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成, コミュニケーション力, 表現力, チームワーク力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回個人が提出するレポートにより, きちんと振り返りができたかどうかを評価し, 60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座B
参考書	実践キャリア考—体験からキャリアを考える／一般財団法人全国大学実務教育協会／実教出版／978-4407332261
連絡先	授業代表：渡邊 剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	ワーク中心の授業なので, 積極的にワークに参加することがもとめられる。
アクティブ・ラーニング	○ ディスカッション グループや教室全体で, 様々なテーマに関するディスカッションを行う。 ○ ライティング 毎回, 授業を振り返るためのレポートを作成する。
課題に対するフィードバック	レポートに対するフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが, 他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学B (FV21Q130)
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	財部健一 (たからべけんいち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と2回目以降の進め方のガイダンス。
2 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング1)
3 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング2)
4 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング3)
5 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング4)
6 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価 (アクティブラーニング5)
7 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ (アクティブラーニング6)
8 回	アクティブラーニング6のまとめの報告

回数	準備学習
1 回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。(標準学習時間30分)
2 回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	アクティブラーニング1により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	アクティブラーニング2により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	アクティブラーニング3により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	アクティブラーニング4により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	アクティブラーニング5により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	アクティブラーニング6のまとめの報告準備をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー (知識のみならず科学的なものの見方も含む) を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学B」では、実験あるいは実習あるいは討論を交えながら、主に物理・化学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング (自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く) を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付ける事を目標とする。習慣には、人の話を聞く (多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々)、自分の意見を相手に分かりやすく述べる (順序立てて考え述べる)、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	定期試験は行いません。第8回の報告が60%、各回のアクティブラーニングでの積極性40%とする。
教科書	なし
関連科目	①プレゼンテーション基礎編A、B)、 「学びの基礎論A、B」、 「教養演習A、B」 などが平行履修できれば望ましい。
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/2000:アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシャル物理学/草思社/2015
連絡先	岡山キャンパス D2号館3F 財部研究室 電子メール takarabe@das.ous.ac.jp
授業の運営方針	・試験形態はレポート提出とする。 ・提出課題については、講義中の板書で解説を行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、事前に申し出ること。更に取得したデジタルデータについては、個人で利用する場合に限る。他者への再配布 (ネットへのアップロードやSNS掲載を含む) は厳に禁止する。
アクティブ・ラーニング	・4人~6人のグループに分ける。

グ	・ほぼ毎回、テーマ（例えば、“ハインツの薬”問題）について、各自の感想表明、グループ内他者の感想との違いあるいは共通性の理解を行う。 ・感想表明あるいは意見表明は全員がグループリーダーの差配の基で行う。 ・講義最終段階で解決策についての提案書を作成し、発表する。
課題に対するフィードバック	・課題に対する解説は講義中に口頭説明により行う。 ・受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供します。配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。 ・配布資料の多い講義科目です。録画データなどの他者への再配布（SNSなどネットへのアップロードを含む）や転用は禁止します。 ・正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討します。事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、60名以上の場合は受講制限する可能性がある。

科目名	文章表現法応用編A (FV21U210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。課題①「学生生活で苦労したこと」について文章を作成する。
2回	課題②「あなたの長所と短所」について文章を作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3回	課題③「あなたを成長させたこと」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4回	課題④「災害に強いまちづくりについて」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」について(1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7回	課題⑥「地域産業の振興について」についてレポートを作成する。グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと(30分)。予習：課題①の概要を準備しておくこと(60分)。復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
2回	予習：課題②の概要を準備しておくこと(90分)。復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
3回	予習：課題③の概要を準備しておくこと(90分)。復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
4回	予習：課題④の概要を準備しておくこと(90分)。復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
5回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料を準備してくること(90分)。受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること(90分)。
6回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
7回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
8回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと(90分)。

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、さまざまな種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な対応力を養う。エントリーシートや筆記課題の文章がしっかり書けることを目標とする。具体的には、文章スキルの大切さ、文章表現の注意点、リライトのポイント、表記・表現のポイント、小論文を書く(800字の組み立ての説明・文章化)、ストーリーを書く(400字・800字のストーリーを構想)、広告文を書く(指示されたテーマで広告コピーを構想と講評)、文章実務の実例(ビジネスレターや履歴書、エントリーシートのポイント、エントリーシート作成、契約書や企画書)等をテーマに取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・文章作成上の基本的なルールを身につけ表現できる。・個々のテーマに沿って、自身の考えを文章で表現できる。・自身の考えの根拠を具体的に示した上で文章を作成できる。・レポート、小論文、エントリーシート等の字数制限など作成条件のある文章を、条件を満たした上で適切に作

	成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出(60%)、最終評価試験(40%)を合計100点とし、60点以上を合格とする。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編B、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション応用編A (FV21V210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2回	聴衆に合わせたプレゼンテーションの方法を理解する。
3回	発表資料を作成する。
4回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
5回	企画案のプレゼンテーションについて説明する。
6回	発表資料を作成する。
7回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2回	MOMO CAMPUS上にあるプレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bの配付資料を読み、プレゼンテーションの基本を整理しておくこと (180分)
3回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
4回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
5回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。
6回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
7回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力の養成をめざす。具体的には、まずプレゼンテーション用ツールの長所と短所、コミュニケーションにおける自己分析の大切さを理解した上で、必要となる情報の収集と整理のポイント、スクリプト作成上の注意点、プレゼンテーションで用いる技法とその効果について解説する。そして受講生による演習を通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識のレベルを確認し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (20%)、中間発表 (40%)、最終発表 (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜紹介する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為 (私語、立ち歩く等) はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにして下さい。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。

	・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学D (FV21W110)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	澤見英男 (さわみひでお)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	アラビア数字, 漢数字, ローマ数字などの数詞による数値表現と十進数の接頭辞について学ぶ
2 回	n 桁のr進数を用いた四則演算について理解をし, 減算を上位桁から行うといった日常でも使える補数のプチ応用についても学ぶ
3 回	コンピュータの歴史について学習し, 計算機の応用例として, 多桁乗算により精度が百桁以上になる階乗の値を計算できることと高精度の除算と加算による指数関数の底 (ネイピア数), 精度百万桁以上の円周率の求め方についても学ぶ
4 回	統計処理で用いる, 母集団, 平均, 標準偏差, 偏差値などについて理解をし, 簡単な例題を通して, 母集団からの乖離の程度を偏差値表により評価できることを学ぶ
5 回	座標系と座標変換について理解をし, 日常生活に密着した応用例として, 夏至と冬至の日の出と日没時間 (日照時間) の求め方と, 高緯度地域で白夜の現れることを学ぶ
6 回	照明光でもある太陽光の性質と, 黒体放射の理論式に基づく白色光の三原色を用いた表現方法について理解し, ケルビン単位とした照明光の色温度および三原色と人間の視覚特性との関係を学ぶ
7 回	英文書籍におけるアルファベット文字の出現頻度を基に, 0 と 1 の組み合わせにより英文を符号化・復号化できることを学び, 情報量 (エントロピ) をビットで評価することの意味を理解する
8 回	総合演習として模範解答の板書を通した相互学習により学習してきた内容の理解度を確認した後, 最終評価試験を受ける

回数	準備学習
1 回	インターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでに学習してきたことを確認しておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	現代を生きる市民は, 専門分野によらず, 幅広い分野の科学・技術リテラシー (知識のみならず科学的なものの見方も含む) を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は, 様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし, 科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また, 分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では, コンピューターに関係する分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお, この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	日常的に用いているアラビア数字, 漢数字, ローマ数字を用いた計算法について理解する。応用例のひとつとして, 高精度なネピア数や円周率を求めるための多桁計算アルゴリズムについて理解する。偏差値表を用いた簡単な統計処理を行えるようになる。アルファベットの頻度分布を用いた符号化・復号化の演習を通して情報量の単位ビットという概念を理解する。人間の視覚特性と照明光の色温度の単位ケルビンについて理解する。コンピュータグラフィックスで多用される座標変換, 右手系と左手系について理解を深める。
キーワード	数詞と数値, アラビア数字, 漢数字, ローマ数字, 接頭辞, 進数, コンピュータの歴史, 多桁計算, 階乗, ネピア数, 円周率, ガウス分布, 偏差値表, 情報量, エントロピ, 座標変換, 黒体放射, 色温度, ケルビン, 人間の視覚特性
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	演習 (評価割合30%) とレポート (評価割合30%) および試験 (評価割合40%) の総計が60%以上を合格とする
教科書	講義開始時に必要なプリントを配布するが, 必要な資料は講義用サーバーからダウンロードして用いることができる (http://café.mis.ous.ac.jp/Veterinary/)
関連科目	現代人の科学A,B,C
参考書	なし

連絡先	電子メール： sawami@mis.ous.ac.jp（件名および発信者名または学番は必須）
授業の運営方針	板書を含む演習を通して習熟度の確認をしながら進めて行く。演習課題は期限内に提出すること。配布資料の該当部分をよく読んでおくことを必要とする。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習課題の板書を通じて理解度を確認できるようにする
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	レポート課題により受講生の理解の度合いを確認し、演習問題や板書による模範解答の提示により理解のレベルを揃えるようにする

科目名	企業と人間A (FV21W120)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	八木力俊* (やぎりきとし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション～企業組織とキャリア：授業の進め方を解説した後、企業（組織）の中でのキャリアデザインについて学習する
2回	企業寿命と人間の管理：企業が経営(存続)する意味と、そこで働く人間の管理について、現代の企業を例に概観する
3回	企業組織における職場の人間関係：階層化、専門分化された企業組織における人間の職務について解説する。また、相互理解の取り方や協力することについて学習する
4回	職場の人間関係・従業員の心理的側面：企業・職場における人と人との関りについて学ぶと同時に、従業員の社会心理的な側面（傾向）について概説する
5回	企業組織でのコミュニケーション：階層構造や年齢の違い、外部との交渉など、様々な立場での意思疎通について学び、対話の基本を学習する
6回	組織における合意形成と決定：組織内で階層の違いで変化する職務内容を学び、ミーティングなどで合意形成を行うためのスキルを学習する
7回	従業員の職業価値へのアプローチ：H.マズローやD.マクレガーなどの従業員の価値に注目した事例を紹介しつつ、自己分析を通じて仕事に対する価値観（職業観）を確認する
8回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	キャリアデザインとは何か事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約30分）
2回	企業の存在理由について事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約60分）
3回	企業組織の階層や専門分化などの組織図をWeb等で調べておくこと（平均学習時間約30分）
4回	「アサーティブ」の技術及び「メンタルヘルス」問題について、事前にWeb等で調べてくること（平均学習時間約60分）
5回	会話と対話の違いについて調べてくること（平均学習時間約30分）
6回	「管理職の職務」、「ファシリテーション」、について、事前にWeb等で調べてくること（平均学習時間約60分）
7回	日本人の仕事に対する考え方（職業観）の特徴について、働くときの意識と就業行動（総務省）などから観察しておくこと（平均学習時間約60分）
8回	講義ノートを整理しなおし、参考書等を図書館等で読み、重要な事柄をノートしなおしておくこと。また、質問事項について纏めておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力、コミュニケーションスキルの習得を促す。また状況に応じた最適な判断をするための方法として、資料を読み解く力、データを分析する力を養い、文章力や読解力の向上も目指したい（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業と人間をめぐる社会現象（〇〇〇問題）を学問的に解釈し、あわせて自己の卒業後の企業社会における職業人生の送り方をデザインする際の基礎を養うこと
キーワード	科学的管理、官僚制、リーダーシップ、キャリア形成、マネジメント、コミュニケーション
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する 達成目標である、「企業と人間をめぐる社会現象」の理解と、「自己の職業人生の送り方をデザイン力」を確認する 100点満点中60点以上を合格とする
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい。 ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める。

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい。 ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する。
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	企業情報特論A（FV21X210）
英文科目名	Business Leader Lecture Series A
担当教員名	中村修（なかむらおさむ）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。
2回	講演テーマ 鳥獣被害の現状と対策 講師 今治市農林振興課
3回	講演テーマ 家畜診療所の業務 講師 愛媛県農業共済組合
4回	講演テーマ ワクチン開発の現状と今後 講師 （株）微生物化学研究所
5回	講演テーマ 「あかね和牛」と「甘とろ豚」の開発と普及 講師 愛媛県畜産研究センター
6回	講演テーマ 飼育係から見た水族館の現場 講師 桂浜水族館（高知）
7回	講演テーマ 企業の未来像 講師 （株）新日本科学（東京都）
8回	講演テーマ 人体薬と動物薬 講師 大塚製薬（株）（徳島県）

回数	準備学習
1回	獣医学部の人材養成の理念と目的を調べる。（標準学習時間60分）
2回	先端ライフサイエンス研究分野、予防医療や医薬品、医療技術分野の人材へのニーズをしらべ学習すること。（標準学習時間60分）
3回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
4回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
5回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
6回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
7回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
8回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）

講義目的	先端ライフサイエンス研究分野において、動物のデータから人のデータへという研究プロセスにおいて、複雑な生命現象を統合的に把握する力を身につけている人材へのニーズが高まっている。又、社会のグローバル化の進展により、家畜越境感染症や人獣共通感染症が世界的に拡大するリスクが高まっている。更に高齢化社会を迎え、これらに関係する予防医療や医薬品、医療技術の開発に伴い動物を用いた研究が期待されるなど、獣医学科、獣医保険看護学科を卒業した人材の活躍の場は、社会に大きく広がりを持っている。そのような中、獣医学が関係する様々な分野から講師をお招きして、就業可能性のある職種の概要や幅広い関連知識を学習することにより、将来の方向性や職業選択の広がりや理解すること、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。（全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、Cに強く関与する。）
達成目標	獣医学部の人材の活躍の場が社会に大きく広がりを持っていることを学び 1）社会との関わりと社会貢献を理解する。（A） 2）就業の可能性のある職種の概要を知る。（C）
キーワード	ライフサイエンス、公共獣医、食の安全、動物と人、創薬
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、都度毎の講義に関するレポート提出が課せられる。レポート（100%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	インターンシップ概論、キャリア形成講座A、キャリア形成講座B
参考書	
連絡先	教学・学生支援部 小野裕紀
授業の運営方針	企業情報特論Bを受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィード	適宜、優秀レポートを発表することで、フィードバックを行う。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講師の変更により、講義テーマが変更される場合があります。

科目名	インターンシップ概論 (FV21Y210)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ), 小林忠資 (こばやしただし), 渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。 (戸田 修司)
2回	自己PRの基礎 (1) について説明する。自己分析について学習する。 (小林 忠資)
3回	自己PRの基礎 (2) について説明する。効果的な自己PRのまとめ方を学習する。 (渡邊 剛央)
4回	エントリーシートの書き方のポイントを説明する。 (戸田 修司)
5回	企業研究 (公務員を含む) について説明する。 (全教員)
6回	面接におけるポイントを説明する。 (渡邊 剛央)
7回	社会人としての必要なマナーについて説明する。 (小林 忠資)
8回	インターンシップに参加するための準備についてポイントを総括する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスで講義の進め方を把握しておくこと (60分)。 インターンシップの意義について調べ理解しておくこと (120分)。
2回	これまでの自分を振り返り、自己のプロフィールを考えておくこと (180分)。
3回	前回の内容を踏まえて、内容を整理しておくこと (90分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて自己PRを推敲しておくこと (90分)。
4回	エントリーシートの項目を確認し取り上げる内容を選定しておくこと (90分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて項目内容を推敲しておくこと (90分)。
5回	インターンシップとして希望する先を選定しておくこと (90分)。 受講後に、希望先の必要事項を整理しておくこと (90分)。
6回	面接において大切なことは何かを調べておくこと (120分)。 受講後に、再度ポイントを確認し実際に練習すること (60分)。
7回	社会人として求められるマナー (常識) について調べておくこと (120分)。 受講後に、ポイントを整理しておくこと (60分)。
8回	これまでの講義内容を整理し、最終課題レポートを推敲し提出の準備をすること (90分)。

講義目的	インターンシップは、企業や団体等において、学生が就業体験をすることによって社会や企業の実情を知り、自らの職業適性や将来設計を考えるとともに、大学における学習教育目標の達成を向上・促進することを目的とする。本講義では、インターンシップにかかる年間スケジュールや実習時間に応じた単位認定基準を提示し、業界・職種・企業研究や仕事・働くことの意味などについて講義する。また、実際にインターンシップを経験した学生の体験談を聞かせ、インターンシップ実習を行う前にインターンシップについての具体的なイメージを持たせる。教養教育科目の4領域のうち、「関心・意欲・態度」に深く関連する。
達成目標	・インターンシップに参加する意義を理解することができる。 ・参加の流れと参加するために必要な知識や技能を身につけることができる。 ・インターンシップに参加する上で必要な社会人としての心構えやマナーを身につけることができる。 インターンシップに参加することで、社会に貢献できる人材になることを目指すことを目標とする

	。
キーワード	インターンシップ、企業、公務員、自己PR、エントリーシート、プレゼンテーション、面接
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題（20%）と最終課題レポート（80%）を総合し100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	なし マイナビ・HPトップ（→インターンシップ）サイト https://job.mynavi.jp/20/pc/ リクナビ・インターンシップサイト https://job.rikunabi.com/2020/
関連科目	インターンシップA・B・C、キャリア形成講座AB、企業情報特論AB、文章表現法基礎編・応用編AB、プレゼンテーション基礎編・応用編AB、教養演習AB、企業と人間AB
参考書	インターンシップ・キャンパスウェブサイト http://www.campusweb.or.jp/internship/web/ キャリア支援センターホームページ http://www.job.office.ous.ac.jp/
連絡先	管理棟1階教学・学生支援課キャリア支援係・インターンシップ担当まで、mail:syusyoku@office.ous.ac.jp 講義については、担当代表戸田まで（獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp）
授業の運営方針	最後に課題レポート（所定の様式あり）を作成し提出することを課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 5名程度を1グループとして、講義における課題について話し合い、共同作業・発表などを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の提出課題について、次の講義の最初に全体として講評を行う。最終講義の際に、講義全般の総括を行うことで課題に対する講評とする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務（戸田修司）：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として必要な知識やマナーを身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには、この「インターンシップ概論」を必ず履修し修得しておく必要がある。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	教養演習 B (FV22B110)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
3 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(2)
4 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(3)
5 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(4)
6 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(5)
7 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(6)
8 回	これまで演習で実施した発表・討論の講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、発表・討論の進め方を把握しておくこと(30分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること(60分)。時事問題に関する新聞・雑誌やwebの利用方法を確認し利用できるようにしておくこと(90分)。
2 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
3 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
4 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
5 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
6 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。

7回	テーマを選定した者（主報告者）はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること（90分）。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと（90分）。
8回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	①主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。②分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。「教養演習A」に続き、さらなる思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Bでは、受講生自らが作成した資料に基づく発表および討論を中心とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	①時事問題について、受講者自らがグループワークを通してディスカッションを実施することができる。 ②受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）について、簡単な個人発表を通して自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）／日本ニュース時事能力検定協会監修／毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の中で主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論B (FV22B120)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス リフレクションを通じた学びを理解する
2 回	チームワークを高めるコミュニケーションを理解する
3 回	チームワークを高めるリーダーシップを理解する
4 回	批判的に読解する
5 回	文献を分析する
6 回	映像を分析する
7 回	グループで知識を共有する
8 回	まとめと振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを熟読後、リフレクションとは何かについて自分の言葉で整理しておくこと (90分)。
2 回	予習として、グループワークにおいてチームワークを高めるためにはどのような行動が求められるかをまとめておくこと (180分)。
3 回	予習として、リーダーシップについて調べ、さまざまなリーダーシップ論を整理しておくこと (180分)。
4 回	復習として、チームワークを高めるための行動を1600字以上でまとめ、提出すること (240分)。
5 回	予習として、資料を分析するためのスキルについて調べ、自分の言葉でまとめておくこと (120分)。
6 回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
7 回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
8 回	講義内容を自分の言葉でまとめておくこと (60分)。

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得し、活用することである。内容として、「学びの基礎論A」をふまえて①チームビルディングの構築②基本的なアカデミック・スキル（文章表現法、プレゼンテーション）を修得する③テーマに対して、グループで協同して課題発表を行う④一人ひとりが、グループの発表に対してルーブリックにより評価を行う。アクティブ・ラーニングを行う。（教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する）
達成目標	①グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 ②第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 ③自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業中に作成したワークシートの提出（30%）、中間レポート（30%）、最終レポート（40%）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	学びの基礎論Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189

授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション 授業内容に関連するディスカッションをグループで行う ライティング 内容の要約と自分の意見を書く
課題に対するフィードバック	課題に対して、全体的な特徴と改善点を授業中に口頭で説明する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論B (FV22C110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本の領土問題について学修する。国際法上、領土の帰属はどのように決定されるかについて学修する。そのうえで、日本の領土問題について、各国の主張やその妥当性について学修する。
2 回	日韓請求権問題について学修する。日韓請求権協定の内容を学修したうえで、日韓請求権問題の争点、両国の主張とその妥当性について学修する。
3 回	非裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判によらない手続について学修する。
4 回	裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判による手続について学修する。
5 回	国家責任の発生要件について学修する。国家責任の意義とその発生要件について学修する。
6 回	国家責任の追及要件および解除について学修する。発生した国家責任を追及することができるのはどの国か、その国家責任はどうすれば解除されるのかについて学修する。
7 回	国際連合による安全保障について学修する。国際連盟による安全保障の内容とその問題点について学修したうえで、国際連合による安全保障の内容とその問題点について学修する。
8 回	自衛権について学修する。個別的自衛権と集団的自衛権との違い、それぞれの自衛権の行使要件について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日本の領土問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日韓請求権問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、非裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の発生要件に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の追及要件および解除に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合による安全保障に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

復習として、自衛権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）	
講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際紛争の平和的解決や国際安全保障において国際機構が果たしている役割を概観することにより、現在の国際社会の基本的な仕組みや活動内容を解説する。また今後日本が国際社会において貢献できる役割についても考えてみたい。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際連合の安全保障制度について説明できるようになること。 ○ 平和維持活動について説明できるようになること。 ○ 自衛権について説明できるようになること ○ 国家責任について説明できるようになること。 ○ 国際司法裁判所の役割について説明できるようになること。
キーワード	国際連合、安全保障、平和維持活動、自衛権、国家責任、国際司法裁判所
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際社会の特徴や国際連合の概要などの国際関係論の基礎事項は国際関係論Aで講義するので、それを受講してからこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	国際連合－軌跡と展望／明石康／岩波書店／978-4004310525：国際関係論［第3版］／佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編／弘文堂／978-4335002335
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FV22C120)
英文科目名	Literature B
担当教員名	大西好幸＊（おおにしよしゆき＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本近代文学の展開を概説する。
2回	近代文学前期（幕開け）として啓蒙主義、写実主義、擬古典主義を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト① 近代文学前期（試み）として浪漫主義、自然主義を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト② 近代文学前期（確立）として反自然主義、新現実主義を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト③ 近代文学後期（脈流）としてプロレタリア文学、新感覚派、「文学界」を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト④ 近代文学後期（再生）として無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代を取り上げ、解説する。
7回	復習小テスト⑤ 近代の韻文として近代詩、近代俳句・短歌を取り上げ、解説する。
8回	愛媛に関する文学作品を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。 近代文学作品の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2回	前回の復習をしておくこと。教科書「啓蒙主義、写実主義、擬古典主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
3回	前回の復習をしておくこと。教科書「浪漫主義、自然主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
4回	前回の復習をしておくこと。教科書「反自然主義、新現実主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
5回	前回の復習をしておくこと。教科書「プロレタリア文学、新感覚派、『文学界』」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
6回	前回の復習をしておくこと。教科書「無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
7回	前回の復習をしておくこと。教科書「近代詩、近代俳句・短歌」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
8回	愛媛に関する文学作品を調べておくこと。 これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。文学Bは近代以降の文学作品を対象とし、「文学A」に引き続き、風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた近代人の思い、心の動き方、近現代社会での人間模様などを見てゆく。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	(1) 日本近代文学の基礎的な知識を身につける。 (2) 古典文学との関係や西欧文学からの影響について考察し、近代文学の特質を理解する。 (3) 時代背景を手掛かりとして、作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。
キーワード	写実主義、擬古典主義、浪漫主義、自然主義、反自然主義、プロレタリア文学、新感覚派、無頼派、戦後派、近代詩、近代短歌・俳句、日本文学史
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版／兵庫県高等学校教育研究会国語部会編／京都書房／ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	「文学A」を受講していることが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終試験評価のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史B (FV22C130)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	白石成二＊ (しらいしせいじ＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自己紹介を行う。日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで、授業の進め方について説明する。その後、奈良時代末の称徳・道鏡政権の時代の政変について確認する。その時代、政治は混迷を極めるが、その原因・背景を確認するとともに、この称徳天皇をもって古代の女帝の歴史に幕を下ろすことになったのはなぜかについて検討する。
2回	桓武天皇の登場のきっかけは父光仁天皇が即位したことであった。政権を掌握するうえで障壁となる勢力を排除していく過程について説明する。桓武天皇の大きな功績は、長岡京・平安京遷都（造都）と東北地方の蝦夷の征圧（征夷）であったが、その二大政策をなぜ実行する必要があったのかについて考える。天皇の天武系の皇統からの転換という意識、渡来系氏族との強い結びつき、怨霊思想などが背景にあったことを説明する。さらにこの桓武天皇の子孫たちが後に「桓武平氏」となっていたのかについても検討する。
3回	嵯峨天皇の時代は「弘仁の治」と呼ばれ、我が国で唐風化が最も盛んだった時代とされる。その推進役が文人官僚であったことを確認する。そして彼らの知識は遣唐使によって多くもたらされたものであったが、その遣唐使の軌跡を辿ることによって当時の日本外交のあり方を検討する。さらに遣唐使の留学生であった最澄と空海を取り上げ、その仏教の国際性ととともに、その後の日本宗教界に与えた影響について説明する。さらに空海信仰のあらわれとして四国に根付いている四国遍路の現代的意味についても考える。
4回	文人官僚の頂点を極めた菅原道真と藤原氏との対立・抗争の原因や背景について触れ、道真が猛威をふるう怨霊となり、怨霊思想のピークを迎える。それが今日では「学問の神様」となって厚い信仰を受けるようになったのはなぜかを考える。次に平将門と藤原純友の乱を取り上げ、「承平・天慶の乱」から「天慶の乱」への名称変更について説明する。またこの戦乱が、その後の時代にどのような影響をもたらしたか、さらに勇猛さの象徴とされる武士の実像についても検討する。
5回	平安王朝、摂関政治の全盛期を演出した藤原道長の政権獲得の過程にふれるとともに、源氏の棟梁源頼光や紫式部の父藤原為時らを取り上げ、道長政権を支えたのは受領階級の人々であったことを確認する。道長の「御堂関白記」や藤原実資の「小右記」の記事を取り上げ、当時の貴族たちの実態について説明する。そして当時の末法思想や浄土教の流布の様相を具体的に上げるとともに、安倍晴明に代表される陰陽師たちの実像に迫る。その陰陽道は平安時代だけでなく、今日の社会にも根強く残存していることを確認する。
6回	摂関政治の文化は国風文化といわれる。その国風文化の具体的に見ていくとともに「国風」の内容についても考える。紫式部の「源氏物語」を例に取り上げ、その中に中国文化が色濃く残されており、東アジアの交流の中で形成された国際性豊かな作品であることを確認する。その一方で、上級貴族たちが誰一人として外国に赴くことがなかったように、我が国の鎖国的体質についても説明する。また当時の女流文学の作品を残した女性のほとんどは受領層の出身者であったが、それはなぜなのかを検討する。
7回	貴族の時代から武士の時代への大きな転換の時代にいち早く登場した源氏の台頭の経過について触れ、一方、平氏は源氏に遅れをとったものの、やがて源氏を凌駕し、院政を支える重要な軍事力となっていた。その両者が入り乱れて戦った保元の乱や、その後の平治の乱について具体的に説明する。そしてこの戦乱を経過することによって傭兵的存在であった武士が政権の帰趨を決定することが明らかになり、その結果として平清盛による平氏政権が成立する。この保元・平治の乱をもって中世とするのか、また平氏政権は武家政権であったのかという問題についても検討する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	孝謙・称徳天皇と道鏡政権については瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、橋本治『日本の女帝の物語』（集英社新書）、北山茂夫『女帝と道鏡』（中公新書）、その時代の政変については倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）、遠山美都男『古代の皇位継承』（吉川弘文館）などがある。どれか一冊を図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
2回	桓武天皇については、井上満郎『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）、高橋昌明『京都「千年の都」の歴史』（岩波新書）、吉田敏『古代の都はどうつくられたか』（吉川弘文館）、山田雄司『跋扈する怨霊』（吉川弘文館）、蝦夷との戦いについては、熊谷公男『古代の蝦夷と城柵』（吉川弘文館）、高橋崇『坂上田村麻呂』（吉川弘文館）、樋口知志『阿弖流為』（ミネルヴァ書房）、高橋富

	雄『辺境』（教育社）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
3回	嵯峨朝の政治については佐々木恵介『平安京の時代』（吉川弘文館）、吉川真司『平安京』（吉川弘文館）、遣唐使については古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、最澄と空海については、篠原資明『空海と日本の思想』（岩波新書）、木内堯大・多田孝正『最澄』（創元社）、後藤昭雄『天台仏教と平安朝文人』（吉川弘文館）、速水侑『呪術宗教の世界』（塙新書）、星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
4回	菅原道真については坂本太郎『菅原道真』（吉川弘文館）、将門・純友については村上春樹『将門記』（山川出版社）、樋口州男『将門伝説の歴史』（吉川弘文館）、松原弘宣『藤原純友』（吉川弘文館）、下向井龍彦『純友追討記』（山川出版社）、森公章『古代豪族と武士の誕生』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
5回	藤原道長と受領については、北山茂夫『藤原道長』（岩波新書）、山中裕『藤原道長』（吉川弘文館）、隴谷寿『藤原道長』（ミネルヴァ書房）、倉本一宏『藤原道長の日常生活』（講談社現代新書）、同『藤原道長の権力と欲望』（文春新書）、古瀬奈津子『摂関政治』（岩波新書）、森田悌『受領』（教育社）、繁田信一『安陪清明』（吉川弘文館）、元木泰雄『源満仲・頼光』（ミネルヴァ書房）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
6回	平安期の女流文学については、清水好子『紫式部』（岩波新書）、秋山虔『源氏物語』（岩波新書）、隴谷寿『源氏物語の風景』（吉川弘文館）、瀧浪貞子『源氏物語を読む』（吉川弘文館）、岸上慎二『清少納言』（吉川弘文館）、山中裕『和泉式部』（吉川弘文館）、王朝文化については、保立道久『平安王朝』（岩波新書）、木村朗子『女たちの平安宮廷』（講談社選書）、服藤早苗『平安朝女性のライフサイクル』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
7回	武士の成立・台頭については、五味文彦『中世社会のはじまり』（岩波新書）、同『殺生と信仰―武士を探る』、元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）、野口実『列島を翔る平安武士』（吉川弘文館）、保元・平治の乱から平氏政権の成立については、曾我良成『物語がつくった驕れる平家』（臨川書店）、元木泰雄『源頼義』（吉川弘文館）、五味文彦『平清盛』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	「日本史A」に続き、日本列島内における近世以降の歴史を扱い、武士の台頭、明治維新など近現代へとつながる時系列の中で日本がどのような社会を形成してきたか、また文化や信仰・宗教がどのように変遷したかに関して講義を展開する。そのプロセスで歴史的な事象から得られる情報について、批判、そして客観的に再構築できる力を得ることが講義の目的である。諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の古代から武家政権の成立、中世の幕開けまでを取り上げ、時系列の中で客観的に把握できる。 因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。 歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「奈良時代」「平安時代」「最澄・空海」「平将門・藤原純友」「摂関政治」「武士」「平安文学」「国風文化」「清和源氏」「桓武平氏」「保元・平治の乱」「平氏政権」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で資料・プリント等を配布する。
関連科目	日本史A
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング

グ	歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代的背景や歴史的意義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、模範解答を配布する。 最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分注意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告書等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。

科目名	外国史B (FV22C140)
英文科目名	World History B
担当教員名	松澤仁志＊ (まつざわひとし＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2回	近代ヨーロッパ世界の成立について概観する。
3回	近代国民国家の発展について説明する。
4回	アメリカ合衆国の建国と発展について説明する。
5回	帝国主義とアジアの民族運動について説明する。
6回	二つの世界大戦の背景と展開について説明する。
7回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと (90分)
2回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
3回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
4回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
5回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
6回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
7回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
8回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと (270分)

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを「外国史A」に続いて考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代社会は19世紀のヨーロッパによる世界侵略がベースとなって形作られていることは確かであるが、その動きに対して世界の各地域の人々がどのように対応してきたのかが世界の現代史を決定づけたともいえよう。本講義では、近代以降の歴史の流れの中で、世界がお互いにどういう形で影響しあってきたのかを中心に解説する。 (教養教育科目の4領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する)
達成目標	近代から現代までの世界史の流れを説明することができる 近代から現代までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 現代までの世界史の未来につながる歴史的影響力について考察することができる
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	予習・復習プリント (30%)、最終評価試験 (70%) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史／桃木 至朗他／大阪大学出版会／ISBN487259469X：ニューステージ世界史詳覧／／浜島書店／ISBN4834320251
関連科目	「外国史A」を履修していることが望ましい。
参考書	
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
授業の運営方針	授業プリントを毎回事前に配布する。 授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学B (FV22C150)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 地域社会、国際社会について概説する。
2 回	地方分権－地方自治－について講義する。
3 回	主要国の政治体制－議院内閣制と大統領制－について講義する。
4 回	国境を超える政治－国際政治のアクター－について講義する。
5 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ（１）について講義する。第二次世界大戦後の冷戦期について学習する。
6 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ（２）について講義する。冷戦終結後の現代世界について学習する。
7 回	自由民主主義体制の諸原理－日本国憲法における平等－について講義する。
8 回	これまで扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に地域社会、国際社会に関する時事問題について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べる（９０分）
2 回	第５章「地方分権」を読み、地方自治について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における地方自治の特徴を整理すること（９０分）。
3 回	第８章の138～146頁を読み、議院内閣制と大統領制を調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに主要国の政治体制の特徴について整理すること（９０分）。
4 回	第１２章「国境を超える政治」を読み、国際社会における政治、中心的な機関である国際連合について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに国際政治の特徴、国際連合と連携機関について整理すること（９０分）。
5 回	第１０章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、第二次世界大戦後の冷戦対立について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに冷戦時の国際政治の特徴を整理すること（９０分）。
6 回	第１０章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、冷戦後の世界情勢について調べておくこと

	(90分)。受講後に、講義レジュメをもとにテロや核兵器への取り組みなど現代の国際政治が抱える問題を整理すること(90分)。
7回	日本国憲法における自由と平等について調べておくこと(90分)。受講後に、講義レジュメをもとに民主主義における基本的人権の意義、人権の具体的な内容について整理すること(90分)。
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと(90分)。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、「政治学A」に引き続き、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治の意味をさらに深めて考えたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Bでは、主として、＜政治の仕組み＞及び＜政治と世界＞について学ぶ。教養教育科目の4領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	・現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国際社会という視点から政治を理解し基本的な用語を説明できること ・新聞やニュースの記事を正しく理解できること 以上が本講義の目標である。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、地方分権、政治体制、議院内閣制、大統領制、国際政治、自由民主主義、冷戦、テロ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学／川出良枝・谷口将紀編／東京大学出版会／978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジュメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学B」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学B (FV22C160)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山中高光＊ (やまなかたかみつ＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	[オリエンテーション] [マクロ経済をとらえる枠組み]GDP統計、三面等価、物価、経済成長、寄与度、成長方程式、総需要、総供給などマクロ経済の動きをとらえる枠組みを説明する。
2回	[有効需要と乗数メカニズム]財市場の均衡、短期のGDPの決定メカニズム、有効需要の原理、乗数メカニズムについて説明する。
3回	[貨幣と金融]貨幣の機能、日本のマネーストック、金融システム、信用創造、貨幣市場の均衡、金融政策について説明する。
4回	[マクロ経済政策]財市場と貨幣市場(資産市場)の同時均衡、利子率とGDPの決定、財政政策・金融政策の効果、フィリップス曲線について説明する。
5回	[インフレ・デフレと失業]インフレーション、デフレーション、失業について説明する。
6回	[経済成長と経済発展]経済成長のメカニズム、ハロッド＝ドーマーの成長モデル。新古典派の成長理論、内省的経済成長モデルについて説明する。
7回	[国際経済学]比較優位、自由貿易、国際収支、為替レート、マンデル＝フレミングモデルについて説明する。
8回	[まとめ] 1回から7回までに学んだマクロ経済学の復習とより進んだ学習のために若干のガイダンスを行う。 後半45分で試験を行う。

回数	準備学習
1回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、GDPや利子率など関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、GDP速報に関する報道等を読み、GDPの決定に関するエコノミストの見方や関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、日本銀行に関する報道等を読み、金融政策に関するエコノミストの見方や関連する日銀統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、財政政策及び金融政策、雇用情勢に関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、物価や失業の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、潜在GDPの動向や政府の成長戦略などに関する報道等を読み、日本経済の将来を展望しつつ、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、国際収支や外国為替の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Bではその中でも特に市場について講義する。また、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論の概略についても講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。

	2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	マクロ経済学、GDP統計、乗数モデル、IS－LM分析、マクロ経済政策、財政政策、金融政策、インフレ・デフレ、失業、経済成長、国際経済学
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。
教科書	入門経済学第4版／伊東元重／日本評論社／ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Aを履修することが望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版／塩澤 修平／有斐閣／ISBN 978-4-641-22004-1：マンキュー入門経済学 第2版／マンキュー／東洋経済新報社／ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(仮題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などの許可します。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	講義では、微分を利用する。 試験形態は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	現代人の科学B (FV22D110)
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	財部健一 (たからべけんいち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と2回目以降の進め方のガイダンス。
2 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング1)
3 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング2)
4 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング3)
5 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング4)
6 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価 (アクティブラーニング5)
7 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ (アクティブラーニング6)
8 回	アクティブラーニング6のまとめの報告

回数	準備学習
1 回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。(標準学習時間30分)
2 回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	アクティブラーニング1により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	アクティブラーニング2により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	アクティブラーニング3により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	アクティブラーニング4により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	アクティブラーニング5により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	アクティブラーニング6のまとめの報告準備をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー (知識のみならず科学的なものの見方も含む) を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学B」では、実験あるいは実習あるいは討論を交えながら、主に物理・化学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング (自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く) を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付ける事を目標とする。習慣には、人の話を聞く (多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々)、自分の意見を相手に分かりやすく述べる (順序立てて考え述べる)、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	定期試験は行いません。第8回の報告が60%、各回のアクティブラーニングでの積極性40%とする。
教科書	なし
関連科目	①プレゼンテーション基礎編A、B)、 「学びの基礎論A、B」、 「教養演習A、B」 などが平行履修できれば望ましい。
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/2000:アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシャル物理学/草思社/2015
連絡先	岡山キャンパス D2号館3F 財部研究室 電子メール takarabe@das.ous.ac.jp
授業の運営方針	・試験形態はレポート提出とする。 ・提出課題については、講義中の板書で解説を行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、事前に申し出ること。更に取得したデジタルデータについては、個人で利用する場合に限る。他者への再配布 (ネットへのアップロードやSNS掲載を含む) は厳に禁止する。
アクティブ・ラーニング	・4人~6人のグループに分ける。

グ	・ほぼ毎回、テーマ（例えば、“ハインツの薬”問題）について、各自の感想表明、グループ内他者の感想との違いあるいは共通性の理解を行う。 ・感想表明あるいは意見表明は全員がグループリーダーの差配の基で行う。 ・講義最終段階で解決策についての提案書を作成し、発表する。
課題に対するフィードバック	・課題に対する解説は講義中に口頭説明により行う。 ・受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供します。配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。 ・配布資料の多い講義科目です。録画データなどの他者への再配布（SNSなどネットへのアップロードを含む）や転用は禁止します。 ・正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討します。事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、60名以上の場合は受講制限する可能性がある。

科目名	現代人の科学A (FV22D120)
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	柳井徳磨 (やないとくま)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？はじめに基本的な学びの必要性について，例を挙げて紹介する。
2 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？Ⅰ 基本的な学びの姿勢について，学びの仕方を学習する。学びは生き方をどう変えるか？などについて考える機会を提示する。
3 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？Ⅱ 基本的な学びの姿勢について，東西の「人類の教師」の学びの仕方を学習する。特に「真理」をどう追求するか？
4 回	哺乳類・人類の誕生 哺乳類の誕生から人類の登場まで，進化の過程および謎について学習する。
5 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土に関するテーマについて科学的側面を中心に解説する。 ① 風土とは何か？ ② 日本列島の成り立ち ③ 日本人はどこから来たか？ ④ 縄文人と弥生人・神話と日本人
6 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 ① 日本の歴史と地域性の成り立ち ② 日本の地域性とその特徴について ③ 日本人およびその文化の特色は何か
7 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本とアジアの風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 ① アジアの定義と構成要因は？ ② 東アジア・東南アジアの国々とその風土の特徴について ③ 日本と他のアジアの歴史・文化の比較
8 回	環境・食物に由来する病気 環境およびそこから得られた食物に起因した疾病について概要を学習する。 ① 糖尿病 ② 免疫の鍵をにぎる腸内細菌 ③ 発酵食品の効用，日本および世界の発酵食品の種類と特徴

回数	準備学習
1 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し，自分の日頃からの「学び」について考え，さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
2 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し，自分の日頃からの「学び」について考え，さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
3 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し，自分の日頃からの「学び」について考え，さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
4 回	哺乳類の誕生，家畜の源流，人類の誕生，絶滅動物の歴史，など生物の進化と絶滅の歴史について，インターネットを利用して自分なりに考えておく。
5 回	縄文時代が日本人の形成に及ぼした影響について，片山一道著「骨が語る日本人の歴史」などを参考に概略理解しておく。さらに神話の時代における東アジアの環境について概略理解しておく。
6 回	インターネットなどを利用して，日本と東アジアの歴史・文化の差異を自分なりに考えておく。
7 回	インターネットなどを利用して，アジア諸国の歴史・文化の成り立ちを自分なりに考えておく。
8 回	糖尿病，腸内細菌，免疫力などのキーワードを基に，インターネットで疾病概要について調べておく。藤田紘一郎著「人の命は腸が9割」，小泉武夫著「発酵食品礼賛」を参考に，発酵および発酵食品が動物の健康にいかに関与しているかを概略を理解しておく。

講義目的	現代を生きる市民は，専門分野によらず，幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は，様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし，科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また，分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では，いくつかのトピックス
------	--

	を扱いながら現代科学の到達した自然観の全体的な枠組みを伝える。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 本授業の中で、自分たちを取り巻く環境、風土はどのように形成されたのか、また、身近な環境に何が起きているのか、などを理解することで、専門教科への円滑な導入が可能になり、より深い専門知識の理解と習得が期待できる。また、食の健康に及ぼす影響の重要性を理解することで、長い学生生活における学生自身の健康管理の基本的な要点を学習する。最後に、自分の属する社会、日本の立ち位置を学習することで、日本社会の特色と国際社会における長所を認識し、国際社会で生き抜くための拠り所になる「誇り」を身に着けることができる。
達成目標	まず、学ぶという活動の意義を自覚し、あらためて自分たちの住む環境と風土を知ることで、日本人の特性とアジアにおける役割を認識するきっかけとする。 また、自分たちを育んでくれた環境の変化とそれに対する行動の必要性を理解する。さらに、自分の健康を支える食物と腸の役割を腸内環境の観点から認識する。また、伝統的な発酵食品の役割も併せて理解する。人と動物の健康を守るためには、いかに適切な食物を確保する必要があるかを理解しておく。 身近な科学する心の必要性について、自分で考える機会を確保すること。 外国人に日本の風土と歴史を正しく伝えることで、より親密なコミュニケーション力を身に着けさせる。
キーワード	学びの効用、動物および人の進化、日本の成り立ち、風土、食物、発酵食品
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施するミニテストあるいはレポートの結果40%、最終評価試験60%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	人はなぜ学ばなければならないか／斎藤孝／実業の日本社／ISBN978-4-408-456 18-8 C0237：地球・生命－138億年の進化／谷合稔／SBクリエイティブ／ISBN ：日本人が教えた新しい世界史／宮脇淳子／徳間書店／ISBN978-4-19-86417 3-3
関連科目	健康の科学
参考書	骨が語る日本人の歴史／片山一道／筑摩書房／ISBN978-4-480-06831-6 C0245：神社に秘められた日本史の謎／新谷尚紀／洋泉社／ISBN978-4-8003-0536-7 C0221：歴史が遺してくれた日本人の誇り／谷沢永一／青春出版社／ISBN978-4-413-04494-3 C0221：日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか／呉善花／ワック／ISBN978-4-89831-695-5 C0234：アジア45ヵ国の国民性／造事務所／PHP研究所／ISBN978-4-569-76340-8 C0139：人の命は腸が9割／藤田紘一郎／ワニ・プラス／ISBN978-4-8470-6067-0 C0247：発酵食品礼賛／小泉武夫／文芸春秋／ISBN978-4-16-660076-2 C0277：「森友・加計事件」朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪／小川榮太郎／飛鳥新聞社／ISBN978-4-86410-574-3
連絡先	t-yanai@vet.ous.ac.jp（研究室425 0898-52-9202）
授業の運営方針	授業内容は可能な限り、最新の情報を取り扱い、授業内容をもとにレポート作成を課し、授業内で行う小テストにて、授業内容の習得状況を確認する。小テストは、基本的な内容を確実に把握する必要がある。
アクティブ・ラーニング	活用に向けて検討する。
課題に対するフィードバック	提出課題、演習等について、採点後のレポートなどを返却、最終評価試験に関しては、採点後の答案を返却し、模範解答および解説を配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学B (FV22F110)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、心理学で取り扱う、感じる-考える-動くとはなにか？そして自分とはなにか？について概説し、今後の講義方針を説明する
2 回	感じる-注意/感覚/知覚について、概説する
3 回	感じる-感情・情動について、概説する
4 回	考える-認知/記憶について、概説する
5 回	考える-記憶/思考・推論について、概説する
6 回	動く-行動/学習について、概説する
7 回	動く-レスポンド条件づけについて、概説する
8 回	動く-オペラント条件づけについて、概説する

回数	準備学習
1 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、「自分が抱いた感情/とった行動/浮かんだ考え」について、数例まとめておくこと(180分)
2 回	日常生活において、何かを見た/聞いたときの状況について、5W1Hに基づき、数例詳しく記録しておくこと(180分)
3 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな感情をいだいたかについて、数例記録しておくこと(180分)
4 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えについて、数例記録しておくこと(180分)
5 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えに基づき自分がどのような判断あるいは考えに至ったかについて、数例記録しておくこと(180分)
6 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな行動をしたかについて、数例記録しておくこと(180分)
7 回	日常生活において、ある対象に好意を持つ、および、ある対象に嫌悪を抱くとき、出来るだけ具体的にその理由となるエピソードを記録しておくこと(180分)
8 回	日常生活において、自分あるいは他者の困っている/改善したい状況について、できるだけ具体的に記述および記録しておくこと(180分)

講義目的	心理学とはなにか？心を扱う学問とはなにか？について、感じる-考える-動くという切り口から、やや深く切り込んで概説する。心理学という学問の深淵に触れることで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	感じる-考える-動くという切り口から、心理学についてやや深い知識を理解することで、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	注意、意識、感覚、知覚、認知、行動、学習、記憶、推論、思考、条件づけ、感情、情動、生得的行動、レスポンド、オペラント、行動分析学、随伴性、アフォーダンス
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	法学B (FV22F120)
英文科目名	Law B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	民法および契約の基礎について学修する。民法の基本原則と契約の成立要件について学修する。
2 回	契約の主体について学修する。誰が契約を締結することができるのかについて学修する。
3 回	債務不履行について学修する。契約により生じた債務が履行されない場合のルールについて学修する。
4 回	獣医療における医療過誤訴訟について学修する。裁判例をもとに、獣医療における医療過誤訴訟の法律上の問題点について学修する。
5 回	獣医療におけるインフォームド・コンセントについて学修する。インフォームド・コンセントの意義や人に対する医療におけるインフォームド・コンセントとの違いなどについて学修する。
6 回	家族法について学修する。婚姻および離婚の成立要件や相続に関するルールについて学修する。
7 回	刑法の基礎について学修する。罪刑法定主義や違法性阻却事由などの刑法の基本的なルールについて学修する。
8 回	行政法の基礎について学修する。行政作用法および行政救済法の基本的なルールについて学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、民法および契約の基礎に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、契約の主体に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、債務不履行に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、獣医療における医療過誤訴訟に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、獣医療におけるインフォームド・コンセントに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、家族法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、刑法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、行政法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Bで主として取り扱う分野は「民法」と「刑法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 契約に関するルールを説明できるようになること。 ○ 家族法について説明できるようになること。 ○ 刑法の基本原則について説明できるようになること。
キーワード	民法, 刑法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	法学の基礎についての学習は法学Aで行うので、それを履修した後でこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	民法入門（第7版）／川井健／有斐閣／978-4641136250：刑法入門（岩波新書）／山口厚／岩波書店／978-4004311362
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間B (FV22F130)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 現代社会における「教養」の必要性と日本を取り巻く国際情勢を把握することの意義について説明する。
2 回	TPPが与える日本社会への影響について解説する。
3 回	安全保障法制（集団的自衛権）について解説する。
4 回	地球温暖化対策（パリ協定）が抱える諸問題について解説する。
5 回	日本の領土問題について解説する。
6 回	EUがかかえる諸問題、アジアの政治経済について解説する。
7 回	人権とは何か（人権が目指すもの）について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べる（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、「市民性＝社会参画の権利と義務」「社会的責任」をテーマにして議論する。題材は、国際的な視野から安全保障法制、地球環境、領土問題、人権問題等の現在進行形の社会時事問題である。受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、・それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。教養教育科目の4領域のうちの「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・報道内容をそのまま受け止めるのではなく、自分なりの考えを持って判断できる。 ・国際情勢を踏まえた上で、日本の抱える問題を捉えることができる。 ・問題に対する自分なりの判断を、言葉や文章で表現できること、を目標とする。
キーワード	教養、社会問題、時事、TPP、安全保障、集団的自衛権、地球温暖化、日本の領土、EU、アジア、人権
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80%）と毎授業課題（20%）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、国際的な視野から論じていること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間A、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編B (FV22P110)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題①「あなたが自慢できること」について書く。
2 回	課題②「友人から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3 回	課題③「今までで最も努力したこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4 回	課題④「社会人としての責任」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題⑥「男女共同参画社会について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと(30分)。 予習：課題①の概要を準備しておくこと(60分)。 復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
2 回	予習：課題②の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
3 回	予習：課題③の概要を準備しておくこと(90分)。

	復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
４回	予習：課題④の概要を準備しておくこと（９０分）。 復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
５回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（９０分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（９０分）。
６回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
７回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
８回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（９０分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編A、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。

	グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FV22P120)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) をする。 本授業での自分の目標を発表する。
2 回	ポスター発表に向けてテーマと構成を決める。
3 回	ポスター作成と発表の基本を理解する
4 回	設定したテーマに対するポスターを作成する
5 回	ポスター発表をする
6 回	グループでの口頭発表に向けて準備する
7 回	グループで口頭発表をする
8 回	発表と振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを確認し、本授業での自分の目標を明確にしておくこと (60分)。
2 回	予習として、岡山理科大学獣医学部の魅力を考え、高校生に説明できるようにしておくこと (180分)。
3 回	予習として、ポスターを作成するうえで必要な内容を調査し、まとめておくこと (180分)。
4 回	予習として、グループでポスターを作成しておくこと (60分)。
5 回	予習として、ポスターを完成させ、発表の準備をしておくこと (180分)。
6 回	予習として、設定したテーマに関して調べておくこと (90分)。 復習として、グループで発表に向けたスライド資料を作成しておくこと (240分)。
7 回	予習として、スライド資料を完成させ、発表に向けた準備をしておくこと (180分)。
8 回	復習として、自身のグループ発表と学習プロセスを振り返り、よかった点と改善点をまとめる (180分)。

講義目的	本講義の目標は、高度なプレゼンテーションの技法を学び、学会発表や研究発表等が効果的に行えるようにすることである。より実践的にプレゼンテーションのトレーニングを行う。テーマを決め、プレゼンテーションを作成させ、グループ内での発表とクラス全体での発表を組みあわせ、発表の機会を増やす。友人の発表を批判的に見ることで、そこでの気づきを自分のプレゼンテーションに反映させる。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	①特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる ②自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる ③聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	ポスター発表 (40%)、グループでの口頭発表 (40%)、最終レポート (20%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Aを履修しておくことが望ましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp

	TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマに関してグループで発表する ディスカッション 発表に向けてグループで議論する
課題に対するフィードバック	グループ発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 グループ発表に対して、学生同士でコメントを書き、ピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	キャリア形成講座B (FV22Q110)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ディスカッションの進め方について学修する。 (小林 忠資)
2回	第1回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (渡邊 剛央)
3回	第1回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (渡邊 剛央)
4回	第1回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (渡邊 剛央)
5回	第2回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
6回	第2回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
7回	第2回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
8回	これまでの授業の振り返りを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	予習として、ブレインストーミング、KJ法について調べること。(90分) 復習として、ディスカッションの進め方についてまとめること。(90分)
2回	予習として、ディスカッションの進め方を確認しておくこと。(60分) 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させること。(120分)。

3回	予習として、プレゼンテーションの方法について調べること。(60分) 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
4回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
5回	予習として、前回のディスカッションを踏まえた、ディスカッションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させること。(120分)。
6回	予習として、前回のプレゼンテーションを踏まえた、プレゼンテーションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
7回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
8回	予習として、これまでの授業における自分および他のメンバーの活動を振り返り、良かった点・改善すべき点をまとめてくること。(90分) 復習として、授業の振り返りを通じて、自分の改善点をまとめること。(90分)

講義目的	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の理解および習得とレベルアップを講座の目的とする。講義はアクティブラーニング手法による実践的演習を軸として展開し、個人→ペア→チームといった段階的レベルアップワークの徹底により、即戦力人材となるための能力習得を図る。講義は実社会の現場で日々起こるテーマを題材にし、能力の顕在化と実践的応用力の習得も目的とする。加えて、ビジネス心理学、人口問題等の社会動向、国際感覚、CSRマインドなどの現代テーマも盛り込み、課題解決力を身につけるための知識・技術の習得と自らのキャリアをデザインする力の醸成も行う。
達成目標	○ 社会問題に対する解決策を生み出せるようになること。 ○ 他人と協力して目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成、グループ・ディスカッション

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各回のグループによる発表の評価（比率50％）と個人が提出するレポートの評価（比率50％）を100点満点に換算し、60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座A
参考書	ロジカル・ディスカッションーチーム思考の整理術／堀公俊・加藤彰／日本経済新聞出版社／978-4532490805
連絡先	授業代表：渡邊剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	グループワーク中心なので、積極的にワークに参加することが求められる。また、欠席すると同グループの他のメンバーに迷惑をかけることになり、また、評価も下がることになるので、正当な理由なく欠席しないようにしてほしい。
アクティブ・ラーニング	○ PBL 社会問題を用いた、Pbblem Based Learningを実施する。
課題に対するフィードバック	レポートおよびプレゼンテーションに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法応用編B (FV22U210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートの文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題①「学生生活で得たこと」について文章を作成する。
2回	課題②「あなたが挑戦したいこと」について文章を作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3回	課題③「失敗から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4回	課題④「地球温暖化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7回	課題⑥「地域社会と外国人について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと(30分)。 予習：課題①の概要を準備しておくこと(60分)。 復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
2回	予習：課題②の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
3回	予習：課題③の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
4回	予習：課題④の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
5回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること(90分)。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること(90分)。
6回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
7回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
8回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと(90分)。

講義目的	本講義では文章表現の応用として、就職活動で必要となる文章スキルを確認するとともに、一般社会で求められる文章表現の常識を身につけることをめざす。具体的には、履歴書やエントリーシートについて基本的な注意点や表現のポイントを解説した上で、インクを使った手書きによる作成に取り組むほか、広告文の作成を通じて課題の理解と状況の分析を踏まえたコミュニケーション力を養う。また社会人として必要となるビジネスレターや挨拶状、契約書、企画書といった、さまざまな文章実務の実例も取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・履歴書やエントリーシートを作成する上で、それぞれの記入項目が何を求めているのか(意図)を正確に把握し、意図に沿った内容を表現できる。 ・小論文等の課題内容を正確に理解した上で、自分の考えをより魅力的に伝えることができる。 ・自身の考えの根拠を具体的に示した上で、より説得力のある文章を作成できる。 ・レポート、小論文、エントリーシート等の文章について

	、より豊かな表現力を用いて説得力のある文章を作成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（60%）と最終評価試験（40%）を合計100点とし、60点以上を合格とする。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション応用編B (FV22V210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、自己PRのためのプレゼンテーションの方法を説明する。
2回	自身の関心のある職域についての発表資料を作成する。
3回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
4回	探究型テーマの発表の方法を理解する。
5回	発表の内容を検討する。
6回	発表資料を作成する。
7回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
3回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
4回	自身の関心のテーマについて調べ、問いを10個以上作っておくこと (180分)。
5回	予習として、発表資料を作成するための情報を収集し、整理しておくこと (180分)。
6回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
7回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力を深めることをめざす。具体的には、受講生全体でのディスカッションとディベート、あるいはグループ単位でのディスカッションを通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識を確認する。またその応用事例として、クレームの発生と対応、企業研究、エントリーシートと面接、採用試験の実例等を取り上げながら、受講生が行う演習によって理解度と習熟度を評価し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (20%)、中間発表 (40%)、最終発表 (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編B、プレゼンテーション応用編Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為 (私語、立ち歩く等) はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにして下さい。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。

	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	企業と人間B (FV22W120)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	八木力俊* (やぎりきとし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション～日本的経営の「三種の神器」とそれと関連した雇用慣行（新規学卒採用と企業内教育）について概説する
2回	キャリア形成1：日本の企業の従業員採用慣行（「就職」）について、「就社」という概念も活用し、説明する
3回	キャリア形成2：「年功制」、「終身雇用」、「内部労働市場」を説明し、賃金制度、昇進制度の視点から、働き方の変化を講述する
4回	キャリア形成3：「コンプライアンス」と「CSR(企業の社会的責任)」を説明し、企業がどのような努力をしているのか紹介する
5回	キャリア形成4：「ワークライフバランス」「タイムマネジメント」を説明し、企業内労働について論述する
6回	キャリア形成5：企業内キャリアを構築する上で間接的作用を果たしている配置転換、ジョブ・ローテーション/エンリッチメント、企業内等級制度などの人材管理・開発施策について説明する
7回	キャリア形成6：従業員教育（企業内教育）のシステムとOJT, OFF-JTをテーマに論述する。マネジメント育成の「カットモデル」についても解説する
8回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	「日本的経営」と用語について適切な媒体を通して調べておくこと。（平均学習時間約60分）
2回	就職活動のプロセスやエントリーシートについて事前に調べてくること（平均学習時間約60分）
3回	父母、きょうだいから「年功制」について、ヒアリングをしておくこと（平均学習時間約60分）
4回	過去の企業のコンプライアンス違反事例をネット等から調べてくること（平均学習時間約30分）
5回	自身の1日のタイムスケジュールについて表にしておくこと（平均学習時間約30分）
6回	近親者から、配置転換の経験を取材しておくこと（平均学習時間約60分）
7回	「OJT」、「OFF-JT」の違いについて事前に調べてくること（平均学習時間約60分）
8回	講義ノートの再整理、参考文献の主内容をノートに書き取っておき、試験に備えること。また、理解に至らなかった点について質問できるようメモをしておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力の習得を促す。また、「経営とは何か」「組織マネジメントの意味」を具体的に理解させることにより、日本のリーディング企業の経営戦略を理解させ「良い会社とは何か」を考えさせる。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業・職業生活の人間形成作用や、キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であることを理解できるようにすること
キーワード	キャリア形成、労働市場、企業内教育、人間関係
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する。 ・達成目標である、「職業生活の人間形成作用」や、「キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であること」への理解度を確認する。 ・100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	企業情報特論B（FV22X210）
英文科目名	Business Leader Lecture Series B
担当教員名	中村修（なかむらおさむ）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。
2回	講演テーマ 動物高度医療の現状 講師 四国動物医療センター（香川県）
3回	講演テーマ わが国の競馬事情 講師 日本中央競馬会（東京都）
4回	講演テーマ 地域における動物園の役割 講師 福山市立動物園（広島県）
5回	講演テーマ 動物用医薬品の流通と販売 講師 MPアグロ（株）AHSC
6回	講演テーマ 今後の肉用牛戦略 講師 （株）なかやま牧場（広島県）
7回	講演テーマ 驚異のプロポリス 講師 （株）山田養蜂場（岡山県）
8回	講演テーマ 「スマ」に代表される新魚種開発の現状と課題 講師 愛媛県水産研究センター

回数	準備学習
1回	獣医学部の人材養成の理念と目的を再確認すること。（標準学習時間60分）
2回	企業情報特論Aの講義内容全般を復習すること。（標準学習時間60分）
3回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
4回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
5回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
6回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
7回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
8回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）

講義目的	先端ライフサイエンス研究分野において、動物のデータから人のデータへという研究プロセスにおいて、複雑な生命現象を統合的に把握する力を身につけている人材へのニーズが高まっている。又、社会のグローバル化の進展により、家畜越境感染症や人獣共通感染症が世界的に拡大するリスクが高まっている。更に高齢化社会を迎え、これらに関係する予防医療や医薬品、医療技術の開発に伴い動物を用いた研究が期待されるなど、獣医学科、獣医保険看護学科を卒業した人材の活躍の場は、社会に大きく広がりを持っている。そのような中、獣医学が関係する様々な分野から講師をお招きして、就業可能性のある職種の概要や幅広い関連知識を学習することにより、将来の方向性や職業選択の広がりや理解すること、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。（全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、Cに強く関与する。）
達成目標	獣医学部の人材の活躍の場が社会に大きく広がりを持っていることを学び 1）社会との関わりと社会貢献を理解する。（A） 2）就業の可能性のある職種の概要を知る。（C）
キーワード	ライフサイエンス、公共獣医、食の安全、動物と人、創薬
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、都度毎の講義に関するレポート提出が課せられる。レポート（100%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	インターンシップ概論、キャリア形成講座A、キャリア形成講座B
参考書	
連絡先	教学・学生支援部 小野裕紀
授業の運営方針	企業情報特論Aを受講していることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	適宜、優秀レポートを発表することで、フィードバックを行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講師の変更により、講義テーマが変更される場合があります。

科目名	インターンシップ概論 (FV22Y210)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ), 小林忠資 (こばやしただし), 渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。 (戸田 修司)
2 回	自己PRの基礎 (1) について説明する。自己分析について学習する。 (小林 忠資)
3 回	自己PRの基礎 (2) について説明する。効果的な自己PRのまとめ方について学習する。 (渡邊 剛央)
4 回	エントリーシートの書き方のポイントを説明する。 (戸田 修司)
5 回	企業研究 (公務員を含む) について説明する。 (全教員)
6 回	面接におけるポイントを説明する。 (渡邊 剛央)
7 回	社会人としての必要なマナーについて説明する。 (小林 忠資)
8 回	インターンシップに参加するための準備についてポイントを総括する。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスで講義の進め方を把握しておくこと (60分)。 インターンシップの意義について調べ理解しておくこと (120分)。
2 回	これまでの自分を振り返り、自己のプロフィールを考えておくこと (180分)。
3 回	前回の内容を踏まえて、内容を整理しておくこと (90分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて自己PRを推敲しておくこと (90分)。
4 回	エントリーシートの項目を確認し取り上げる内容を選定しておくこと (90分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて項目内容を推敲しておくこと (90分)。
5 回	インターンシップとして希望する先を選定しておくこと (90分)。 受講後に、希望先の必要事項を整理しておくこと (90分)
6 回	面接において大切なことは何かを調べておくこと (120分)。 受講後に、再度ポイントを確認し実際に練習すること (60分)。
7 回	社会人として求められるマナー (常識) について調べておくこと (120分)。 受講後に、ポイントを整理しておくこと (60分)。
8 回	これまでの講義内容を整理し、最終課題レポートを推敲し提出の準備をすること (90分)。

講義目的	インターンシップは、企業や団体等において、学生が就業体験をすることによって社会や企業の実情を知り、自らの職業適性や将来設計を考えるとともに、大学における学習教育目標の達成を向上・促進することを目的とする。本講義では、インターンシップにかかる年間スケジュールや実習時間に応じた単位認定基準を提示し、業界・職種・企業研究や仕事・働くことの意味などについて講義する。また、実際にインターンシップを経験した学生の体験談を聞かせ、インターンシップ実習を行う前にインターンシップについての具体的なイメージを持たせる。教養教育科目の4領域のうち、「関心・意欲・態度」に深く関連する。
達成目標	・インターンシップに参加する意義を理解することができる。 ・参加の流れと参加するために必要な知識や技能を身につけることができる。 ・インターンシップに参加する上で必要な社会人としての心構えやマナーを身につけることができる。 インターンシップに参加することで、社会に貢献できる人材になることを目指すことを目標とする

	。
キーワード	インターンシップ、企業、公務員、自己PR、エントリーシート、プレゼンテーション、面接
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題（20%）と最終課題レポート（80%）を総合し100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	なし マイナビ・HPトップ（→インターンシップ）サイト https://job.mynavi.jp/20/pc/ リクナビ・インターンシップサイト https://job.rikunabi.com/2020/
関連科目	インターンシップA・B・C、キャリア形成講座AB、企業情報特論AB、文章表現法基礎編・応用編AB、プレゼンテーション基礎編・応用編AB、教養演習AB、企業と人間AB
参考書	インターンシップ・キャンパスウェブサイト http://www.campusweb.or.jp/internship/web/ キャリア支援センターホームページ http://www.job.office.ous.ac.jp/
連絡先	管理棟1階教学・学生支援課キャリア支援係・インターンシップ担当まで、mail:syusyoku@office.ous.ac.jp 講義については、担当代表戸田まで（獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp）
授業の運営方針	最後に課題レポート（所定の様式あり）を作成し提出することを課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 5名程度を1グループとして、講義における課題について話し合い、共同作業・発表などを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の提出課題について、次の講義の最初に全体として講評を行う。最終講義の際に、講義全般の総括を行うことで課題に対する講評とする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務（戸田修司）：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として必要な知識やマナーを身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには、この「インターンシップ概論」を必ず履修し修得しておく必要がある。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	国際関係論A (FV23B110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	国際社会の特徴と国際法の法源について学修する。国内社会と比較することにより国際社会の特徴について学修する。そのうえで、国際法がいかなる形式で存在し、どのようにして成立するのかという国際法の法源論について学修する。
2 回	国際組織の萌芽について学修する。国際組織が成立する以前の国際社会において、組織化がどのように進展したのかについて学修する。
3 回	国際連盟について学修する。国際連盟の成立の経緯、組織、活動について学修する。
4 回	国際連合について学修する。国際連合の成立の経緯、組織について学修する。
5 回	国際連合に関する諸問題について学修する。国際連合の権限、表決制度、決議の法的拘束力について学修する。
6 回	国際的な経済体制について学修する。貿易や金融などに関する国際的な制度の内容について学修する。
7 回	国際的な人権保障について学修する。人権問題について国際社会がどのように取り組んでいるのかについて学修する。
8 回	欧州連合について学修する。欧州連合の成立の経緯、組織、活動について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際社会の特徴および国際法の法源に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際組織の萌芽に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連盟に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合の諸問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際的な経済体制に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

	復習として、国際的な人権保障に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
8回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、欧州連合に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際関係の歴史を概観した後に、国際機構、特に国際連合成立の経緯、組織構造をみていくことで、現在の国際社会の基本的な仕組みを解説する。そして、そこに込められた人々の平和への願いを読み解き、国際化の真の意味を理解することを目的とする。 教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際社会の特徴について説明できるようになること。 ○ 国際社会の成り立ちについて説明できるようになること。 ○ 国際連合の組織および機能について説明できるようになること。 ○ 国際経済体制について説明できるようになること。 ○ 国際的な人権保障制度について説明できるようになること。
キーワード	国際連盟、国際連合、世界貿易機関、国際通貨基金、人権、欧州連合
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際関係論B
参考書	国際連合－軌跡と展望／明石康／岩波書店／978-4004310525：国際組織法／佐藤哲夫／有斐閣／978-4641046344
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教養演習 A (FV23B120)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生に、自己PRを含む5分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(1)
3 回	受講生に、自己PRを含む5分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(2)
4 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(1)
5 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(2)
6 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(3)
7 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(4)
8 回	これまで演習で実施したディスカッションの講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、演習の進め方を把握しておくこと(30分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること(60分)。受講後に、図書館やwebの利用方法を確認し利用できるようにしておくこと(90分)。
2 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(90分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(90分)。
3 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(90分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(90分)。
4 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(90分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(90分)。
5 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(90分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(90分)。

6回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
7回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
8回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	①主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。②分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。上記のことにより思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Aでは、主に新聞記事などを題材に自由な議論を行なう。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	①教員側が選定した時事問題について自分で調べ正確な内容を把握できる。 ②受講者が自己PRやディスカッションにおいて、自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）／日本ニュース時事能力検定協会監修／毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業の中で取り上げる各テーマにつき主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

グ	主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論A (FV23B130)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義の概要、進め方、評価方法等の説明）と「大学の学び」への招待 学士力、社会人基礎力、グローバル化等をキーワードに、大学での学びについて考察し、自分が今後獲得すべき能力について目標を設定する。
2 回	コミュニケーショントレーニングと人間理解 コミュニケーションの意味と価値を理解し、良好な人間関係を保つためのコミュニケーションについて説明する。
3 回	聴く方法、情報のまとめ方 ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考えることで、情報を能動的に受け取る姿勢を理解する。
4 回	コミュニケーショントレーニング① コミュニケーションを理解したうえで、立場の違いによるコミュニケーションを説明する。
5 回	コミュニケーショントレーニング② 事例を用い、コミュニケーション力を測定する。
6 回	アカデミックライティング レポートと感想の違いについて検討し、アカデミックライティングの構造や特質について説明する。
7 回	社会に求められる人材、グローバル人材になるためには交渉力、異文化理解、異文化コミュニケーションについて説明する。
8 回	講義の総括をする。

回数	準備学習
1 回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認し、大学で学ぶ意義について考えておくこと（90分） 復習として、自身の大学で学ぶ意義をまとめておくこと（90分）
2 回	予習としてテキストの第1章（1 - 36頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
3 回	予習としてテキストの第3・4章（66-117頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
4 回	予習としてテキストの第5・6章（120-168頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
5 回	予習としてテキストの終章（202-225頁）を熟読し、内容をまとめておくこと（180分）
6 回	復習として、大学生に求められる学習スキルに関する課題レポートを完成すること（180分）
7 回	復習として、グローバル化に求められる人材について考えておくこと（180分）
8 回	これまでの講義の振り返り、学んだことをまとめ、疑問点があれば明確にしておくこと（180分）

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。内容として、生涯にわたる「学び」を深めるために①人生の一回性の認識や学びの意味、生涯にわたる学び、自己実現、至高経験について考察する②コミュニケーション力を高めるために、状況判断力、情報伝達力、情報獲得力、傾聴力、人間関係構築力、問題解決力について考察する。（教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する）
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 ②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 ③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 ④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中に作成したワークシートの提出（30%）、課題小レポート（40%）、最終レポート（30%）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。

教科書	学びとは何かー＜探究人＞になるために／今井むつみ／岩波書店／ISBN 978-4-00-431596-4
関連科目	本科目に引き続き「学びの基礎論B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・ 他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・ 授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・ バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・ 許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・ 欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・ 学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ライティング、ディスカッション、プレゼンテーション 学習内容に関する意見をワークシートに書き、グループでディスカッションを行う。その後、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	ワークシートについては、代表的なコメントを次回の授業開始時に提示し、フィードバックを行う。 課題レポートについては、ルーブリック等を用いてフィードバックを行う。 最終レポートについては、Momo-campusに解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学A (FV23C110)
英文科目名	Literature A
担当教員名	大西好幸＊（おおにしよしゆき＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本古典文学の展開を概説する。
2回	上代の文学として『古事記』『万葉集』を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト① 中古の文学（和歌・物語）として『古今和歌集』『源氏物語』を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト② 中古の文学（日記・随筆・説話）として『土佐日記』『枕草子』『今昔物語集』を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト③ 中世の文学（物語・和歌）として『平家物語』『新古今和歌集』を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト④ 中世の文学（随筆・能・狂言）として『徒然草』『風姿花伝』を取り上げ、解説する。連歌にも触れる。
7回	復習小テスト⑤ 近世の文学（俳諧）として『奥の細道』を取り上げ、解説する。
8回	近世の文学（小説・浄瑠璃）として井原西鶴、近松門左衛門を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。日本古典の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2回	教科書「上代の文学」の章を読んで予習をしておくこと。『万葉集』の中から好きな一首を選び、感想をまとめておくこと。【標準学習時間180分】
3回	教科書「中古の文学」（和歌・物語）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト①の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
4回	教科書「中古の文学」（日記・随筆・説話）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト②の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
5回	教科書「中世の文学」（物語・説話・和歌）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト③の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
6回	教科書「中世の文学」（随筆・能・狂言・連歌）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト④の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
7回	教科書「近世の文学」（俳諧）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト⑤の準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
8回	教科書「近世の文学」（小説・浄瑠璃）の箇所を読んで予習をしておくこと。これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。「文学A」は近代以前の文学作品を対象とし、それぞれの地域によって異なる風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた人々の思い、心の動き方、社会の中で展開される人間模様などを見てゆく。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	(1) 日本古典文学の基礎的な知識を身につける。（知識・理解） (2) 古典文学を生み出した歴史的背景や上代から近世までどうつながり、どのように展開しているかそのダイナミズムを理解する。（思考・判断・表現） (3) 古典作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。（関心・意欲・態度）
キーワード	上代、中古、中世、近世、日本文学史、詩、詞
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版／兵庫県高等学校教育研究会国語部会編／京都書房／ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	本科目に引き続き「文学B」を履修することが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史A (FV23C120)
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	白石成二＊ (しらいしせいじ＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	初めに自己紹介を行う。獣医学部の立地する愛媛県や今治市に対する理解を深めるために、伊予国の大まかな歴史や国指定史跡をはじめとする貴重な文化財の紹介を行う。次に日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで授業の進め方について説明する。その後、旧石器時代の具体的内容や、その特色について確認するとともに、考古学の捏造事件を取り上げ、一方的な情報を盲信することの危険性についても触れる。
2回	近年の発掘成果によって「貧しい縄文文化」「遅れた縄文文化」のイメージが大きく変化していることを説明する。また縄文時代には一万年にわたって戦争がなかった要因を検討したうえで、縄文時代から現代へのメッセージについて考える。また弥生時代の具体的内容に触れるとともに、その結果、縄文時代にはなかった大規模な戦争が起こるようになったことを確認し、今日各地で起こっている戦争の問題に引きつけて説明する。
3回	古墳時代の前期・中期・後期の内容と特色について触れ、巨大な前方後円墳や八角形墳などがなぜ築かれたのかを説明する。そしてそのあり方は現代日本人の死生観に通じるものがあることを確認する。また古代日本と大陸との交渉のなかで渡来人が多くやってきて文化形成に大きな役割を果たした。現在、国境を越えた人の交流が進んでいる。古代の渡来人の歴史を踏まえ、「日本人とは何か」について検討する。
4回	聖徳太子研究の深化によって推古・厩戸時代のイメージが大きく変容している。その時代の具体的内容の理解とともに、歴史の虚像と実像について触れ、また大化の改新についても木簡の出土によって新しい事実が明らかになり、従来のイメージの転換がおこっている。さらに木簡等によって『日本書紀』の内容について、再検討が進められていることにも触れる。今日、多くの虚実の情報が行き交う中で、その受け取り方について考える。
5回	古代最大の対外戦争がなぜ起こったのか、その敗北によってどれほどの大きな影響があったのかを具体的に説明する。また古代最大の内戦である壬申の乱の背景や経過や結果について触れる。そしてその両方の戦争を経ることによって、古代文明のグローバルスタンダードである律令制に基づく天皇中心の国家体制が成立する。それは文明国の仲間入りであるとともに、かつての「倭国」から新たな国号「日本」の誕生であったことを確認する。
6回	古代の七・八世紀は実に多くの女帝が誕生した。その理由を考えるとともに、論争となっている女帝の「中継ぎ論」と「中継ぎ見直し論」について触れる。その歴史理解うえで現在の皇室をめぐる議論についても考える。次に世紀の発見と言われた長屋王家木簡の出土によって、長屋王という上流貴族の実態が具体的に明らかになってきたことに触れる。新しい史料の発見によって従来の歴史理解が見直されるものであることを確認する。
7回	古代の日本の外交について遣唐使を通して検討する。とりわけ阿倍仲麻呂や井真成の個人的な活動や実質的に最後の遣唐使となる「承和の遣唐使」についてふれ、遣唐使の役割についてみていく。その遣唐使にみられる古代外交の特色が、現代の外交とも重なっていることを確認する。次に奈良時代の精華とされる天平文化の具体的内容に触れるとともに、その文化が仏教のような宗教文化だけでなく、衣食住の全般にわたって大陸の強い影響を受けていることを説明する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	我が国で初めて旧石器時代の存在を確認した相沢忠洋の『岩宿の発見』に目を通すこと。また全体を通しての参考文献である網野善彦『日本社会の歴史（上）』（岩波新書）の旧石器時代の部分を読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
2回	縄文時代については、田中琢・佐原真『考古学の散歩道』（岩波新書）、上田篤『縄文人に学ぶ』（新潮新書）、小林達雄『縄文の思考』（ちくま新書）、瀬川拓郎『アイヌと縄文』（ちくま書房）など、弥生時代については、石川日出志『農耕社会の成立』（岩波新書）、東潮『邪馬台国の考古学』などがあり、どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
3回	古墳時代については松木武彦『古墳とは何か』（角川選書）、外池昇『天皇陵の誕生』（祥伝社新書）、ヤマト王権と渡来人については吉村武彦『ヤマト王権』（岩波新書）、加藤謙吉『渡来氏族の謎』（祥伝社新書）、同『大和の豪族と渡来人』（吉川弘文館）などがあり、図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
4回	推古・厩戸の時代については、聖徳太子虚像説の立場を代表するのが、大山誠一『「聖徳太子」の誕生』（吉川弘文館）、谷沢永一『聖徳太子はいなかった』（新潮新書）で、実在説の立場から吉

	村武彦『聖徳太子』（岩波新書）、東野治之『聖徳太子』（岩波ジュニア新書）であり、必読の書である。大化の改新については遠山美都男『天智と持統』（講談社現代新書）、倉本一宏『蘇我氏』（中公新書）、武光誠『蘇我氏の古代史』（平凡社新書）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
5回	白村江の戦いについては、鬼頭清明『白村江』、壬申の乱については遠山美都男『壬申の乱』（中公新書）、早川万年『壬申の乱を読み解く』（吉川弘文館）、律令制の成立については大山誠一『天孫降臨の夢』がある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
6回	古代の女帝については、吉村武彦『女帝の古代日本』（岩波新書）、仁藤敦史『女帝の世紀』（角川選書）、瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、長屋王の変については寺崎保広『長屋王』（吉川弘文館）、遠山美都男『検証平城京の政変と内乱』（学研新書）、倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
7回	遣唐使をめぐる東アジア外交については、東野治之『遣唐使』（岩波新書）、『遣唐使阿倍仲麻呂の夢』（角川選書）、古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、森公章『遣唐使の光芒』（角川選書）など、天平文化については、直木孝次郎『万葉集と古代史』（吉川弘文館）、東野治之『正倉院』（岩波新書）、同『鑑真』などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	日本列島内における古代史から、中世に至る時代を扱う。日本列島では弥生時代を経て、各地の首長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳時代を迎えた。その後、極東アジア地域からさまざまな文化を導入し、国のかたちを整えていった。中でも律令制は、国家形成等にかかわる重要な制度であり、日本史の方向性を決定したといっても過言ではないだろう。この講義では、日本列島の地勢的状况、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の国家形成等に関わる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握できる。因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「旧石器時代」、「縄文時代」、「古墳時代」、「飛鳥時代」、「大化の改新」、「白村江の戦い」、「壬申の乱」、「律令制」、「女帝」、「木簡」、「遣唐使」、「天平文化」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料やプリントを配布する。
関連科目	日本史Bを続けて履修することが望ましい。
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング 歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代的背景や歴史的意義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。そして今後学ぶべき参考文献などを提示し、授業後においても人の歴史だけではなく、獣医として必要な動物に関する歴史についても興味を持てるようにする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。
その他（注意・備考）	（１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席し

	た場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
--	---

科目名	外国史A (FV23C130)
英文科目名	World History A
担当教員名	松澤仁志＊（まつざわひとし＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2回	オリентと地中海世界について概観する。
3回	アジアの古典文明をインド、中国（秦漢帝国まで）の歴史を中心に説明する。
4回	イスラーム世界の形成と発展について説明する。
5回	ヨーロッパ世界の形成と発展について説明する。
6回	東アジア世界の形成と展開について説明する。
7回	中世から近世にかけてのヨーロッパ世界の形成と展開について説明する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと（90分）
2回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
3回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
4回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
5回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
6回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
7回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
8回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと（270分）

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代は民主主義、資本主義、科学主義などを基本的な要素とした近代社会であるが、これらが世界の各地域においてどのように形作られ、どのような展開を見せたかということを講義する。その後、それらを形成し、各国の世界観や文化に影響を与えたそれぞれの世界の歴史について、古代文明や中世社会の構造とその変質および科学革命などについて解説する。 （教養教育科目の4領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する）
達成目標	近世までの世界史の流れを説明することができる 近世までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 近世までの世界史の現代につながる歴史的影響力について考察することができる。
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	予習・復習プリント（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史／桃木 至朗他／大阪大学出版会／ISBN487259469X：ニューステージ世界史詳覧／／浜島書店／ISBN4834320251
関連科目	本科目に引き続き「外国史B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	・授業プリントを毎回事前に配布する。 ・授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学A (FV23D110)
英文科目名	Political Science A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 政治、民主政治、民主主義の発展について概説する。
2 回	権力分立（１）－三権分立と議院内閣制－について講義する。
3 回	国会について講義する。
4 回	内閣と内閣総理大臣について講義する。
5 回	権力分立（２）－権力相互の抑制と均衡－について講義する。
6 回	選挙政治－選挙制度－について講義する。
7 回	政党と圧力団体について講義する。
8 回	これまで講義で扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に政治、民主政治、民主主義の意味について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べる（９０分）。
2 回	第７章の121～125頁を読み、議院内閣制について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における議院内閣制の特徴を整理すること（９０分）。
3 回	第７章「国会」を読み、国会について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における国会の特徴を整理すること（９０分）。
4 回	第８章「内閣と総理大臣」を読み、内閣制度について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における内閣制度の特徴について整理すること（９０分）。
5 回	権力分立について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における権力分立の特徴を整理すること（９０分）。
6 回	第４章「選挙と政治」を読み、選挙制度について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における選挙制度の特徴について整理すること（９０分）。

7回	第4章「選挙と政治」を読み、政党と圧力団体を調べておくこと（90分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における政党と圧力団体の特徴を整理すること（90分）。
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、そこに凝縮されている政治、社会の本質について考えることで、現代政治の意味を理解する手掛かりとしたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Aでは、主として＜政治と経済＞及び＜政治と社会＞について学ぶ。教養教育科目の4領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	本講義の目標は、現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国内の政治について基本的な用語を説明できることである。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、民主政治、民主主義、権力分立、議院内閣制、国会、内閣、選挙政治、政党、圧力団体
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学／川出良枝・谷口将紀編／東京大学出版会／978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジュメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学A」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学A (FV23D120)
英文科目名	Economics A
担当教員名	山中高光＊ (やまなかたかみつ＊)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	〔オリエンテーション〕 〔経済学とは何か〕 経済をとらえる経済学の基本的枠組み・考え方(市場経済、家計、企業、政府、ミクロ経済学、マクロ経済学など)を概観する。 〔需要と供給〕 需要・供給分析の基礎を説明し、その応用として消費税の負担を考える。
2 回	〔需要曲線と消費者行動〕 需要曲線とは何か。家計の選択、消費者余剰を説明する。
3 回	〔供給曲線と企業行動〕 供給曲線とは何か。生産、費用、完全競争市場における企業の行動。消費者余剰を説明する。
4 回	〔市場取引と資源配分〕 市場と価格メカニズム、余剰分析、資源配分の歪み、市場と経済発展について説明する。
5 回	〔独占と競争の理論〕 完全競争、独占、独占的競争について説明する。
6 回	〔市場の失敗〕 市場の失敗、外部効果、公共財について説明する。
7 回	〔不確実性と不完全情報の経済理論〕 不確実性と経済現象、不確実性の経済理論、情報の不完全性について説明する。
8 回	前半で授業全体の復習を行う。後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。家計消費の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。企業活動の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場取引や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場形態による取引の利害や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場の失敗の具体例、特に外部効果と公共財、について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。不確実性に起因する経済事象の具体例について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8 回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Aではその中でも特に家計と企業の行動について講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。 2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	ミクロ経済学、資源配分、需要、供給、家計、企業、政府、消費者理論、生産者理論、市場経済、価格メカニズム、完全競争、独占、独占的競争、市場の失敗、不確実性
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。

教科書	入門経済学第4版／伊東元重／日本評論社／ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Bの履修が望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版／塩澤 修平／有斐閣／ISBN 978-4-641-22004-1：マンキュー入門経済学 第2版／マンキュー／東洋経済新報社／ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する。
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(仮題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などの許可します。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を利用する。 定期試験(最終評価試験)は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	法学A (FV23F110)
英文科目名	Law A
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについて学修する。社会には様々なルールがあるが、その中で法はどのような特徴を持ったルールなのかを学修する。そのうえで、法が社会においてどのような形式で存在しているのかを学修する。
2 回	法の解釈について学修する。なぜ法の解釈が必要なのか、解釈にはどのような方法があるのかについて学修する。
3 回	憲法とは何かについて学修する。憲法の目的とは何か、現在の憲法と大日本帝国憲法との違いは何かについて学修する。
4 回	国会について学修する。国会の地位、国会の活動、国会の権限、議院の権限、国会議員の地位について学修する。
5 回	内閣について学修する。内閣の地位、内閣総理大臣の地位、内閣の権限について学修する。
6 回	裁判所について学修する。司法権とは何か、司法権の限界、裁判所の組織について学修する。
7 回	財政について学修する。財政立憲主義、予算制度について学修する。
8 回	地方自治について学修する。地方自治の存在意義、地方自治制度の内容、住民の権利について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、法の解釈に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、憲法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国会に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、内閣に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、裁判所に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

7回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、財政に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、地方自治に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Aで取り扱う分野は主として「法の解釈」と「日本国憲法」である。公法と私法、民法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。 教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 法とは何かについて説明できるようになること。 ○ 法の解釈方法について説明できるようになること。 ○ 憲法に定められている統治機構について説明できるようになること。
キーワード	法学、法の解釈、日本国憲法、大日本帝国憲法、国会、内閣、裁判所、財政、地方自治
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	この講義では憲法の統治機構を中心に扱うので、人権に興味がある学生は日本国憲法を履修すること。法学B
参考書	現代法学入門（第4版）／伊藤正巳・加藤一郎／有斐閣／978-4641112568：憲法（第6版）／芦部信喜／岩波書店／978-4000227995
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読ん

	で予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間A (FV23F120)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 「教養（リベラル・アーツ）」を学ぶ意義、「社会」に興味関心を持ち積極的に関わる必要性について説明する。
2 回	憲法改正に関する諸問題について解説する。
3 回	アベノミクスの現状と課題について解説する。
4 回	地方が抱える諸問題（地方創生）について解説する
5 回	日本とアメリカが抱える諸問題について解説する。
6 回	働き方改革・社会保障について解説する。
7 回	東日本大震災復興の現状と課題について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べる（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、改正公職選挙法の成立により、18歳での選挙権が認められた現実を鑑み、若者の「市民性＝社会参画の権利と義務」の重要性を論じる。皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議する。これらの教材を通して、受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、・それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・新聞や報道などで取り上げられる用語・内容を理解し、自分で説明できる。 ・日本の抱える諸問題を捉えることができる。 ・問題の背景にある原因を正しく把握し、根拠に基づく自分なりの判断ができる。
キーワード	教養、社会問題、時事、憲法改正、アベノミクス、地方創生、日米問題、働き方改革、社会保障、震災
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80%）と毎授業課題（20%）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間B、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	スポーツとフィールド科学（テニス）（FV23P110）
英文科目名	Sports (Tennis)
担当教員名	明比孝善＊（あけびたかよし＊）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	講義実施場所、内容、目的、受講の心得 テニスの歴史、用具等について説明する。 テニス場の使用方法とマナーについて説明する。ラケットとボールに慣れる練習をする。
2 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
3 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークの復習を行う。 バックハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
4 回	ストレッチウォーミングアップを行う。 フォア・バックハンドストロークの復習を行う。 ストロークを使って、ラリーが出来るようになることを目的とした簡易ゲームをする。
5 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 フォア・バックハンドボレーについて説明を行った後、練習する。
6 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 スマッシュについて説明の後、練習する。
7 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 サービスについて説明を行った後、練習する。
8 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ダブルスのルールの審判法について説明を行った後、ゲーム形式を行う。
9 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 前衛・後衛のポジション・役割について説明の後、ゲーム形式をする。
1 0 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ボーチの役割について説明の後、練習する。
1 1 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーを復習する。 ロビングショットの役割を説明の後、練習する。
1 2 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 アプローチの説明の後、練習する。
1 3 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 平行陣の説明の後、ゲーム形式を行う。
1 4 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 戦術の説明の後、ゲーム形式を行う。
1 5 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 講義全体の振り返りとまとめをする。チーム分けの後、試合を行う。
1 6 回	最終評価のため、試合を行う。

回数	準備学習
1 回	授業内容・目的の確認テニスの歴史と用具について復習を行うこと。テニスのマナーについて予習を行うこと。
2 回	マナーについて復習を行うこと。フォアハンドストロークについて復習を行うこと。
3 回	バックハンドストロークについて復習を行うこと。
4 回	フォア・バックハンドストロークについて復習を行うこと。
5 回	ボレーについて復習を行うこと。

6回	スマッシュについて復習を行うこと。
7回	サービスについて復習を行うこと。
8回	ルール・審判法について復習を行うこと。
9回	ダブルスでのポジションについて復習を行うこと。
10回	ボーチについて復習を行うこと。
11回	ロビングとポジションチェンジについて復習を行うこと。
12回	アプローチについて復習を行うこと。
13回	平行陣について復習を行うこと。
14回	戦術について復習を行うこと。
15回	講義全体について復習を行うこと。テニスを通じて得たものを考えること。
16回	テニスを通じて得たものを考えること。

講義目的	テニスの技術を修得すると同時に、体力の向上や、公正・協力・責任などの社会的態度を身につけ、生涯を通じて継続的にスポーツ（運動）を実践していける習慣や態度を育てる。内容として①テニスの技術（グラウンドストローク、サーブ、レシーブ、ボレー、スマッシュ）を習得すること ②シングルス、ダブルスのゲームのルールと審判法を習得すること ③テニスを楽しむため、プレースタイルや戦術を考えられる能力を身に付けること ④ルールを遵守する態度やマナーを身に付けることを目指す。 （単位認定の方針Dに強く関与する）
達成目標	テニスのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防が出来ること。
キーワード	硬式テニス・軟式テニス・スポーツ傷害
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	積極性（30%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）
教科書	使用しない
関連科目	生涯スポーツ
参考書	指定しない
連絡先	授業終了時にテニスコートで質問を受け付ける。
授業の運営方針	授業計画に沿って講義を進めていくが、学生個々の技術の修得状況を考慮し、レベルに応じた班分けなど対応していく。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業時間内で実技試験、発表、演習等を課すので、評価を確認したい学生には次の講義で対応する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業は、テニスコートで行う。第1回目の授業には必ず出席すること。雨天により体育館に場所を変更になることがあります。

科目名	心理学A (FV23P120)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、心理学とは何か？について概説し、今後の講義方針について説明する
2 回	心理学における心と身体の扱いについて、概説する
3 回	科学としての心理学、および心を測ることについて、概説する
4 回	動物と心理学との関係について、概説する
5 回	人間の一生および発達と心理学について、概説する
6 回	人を取りまく環境と心理学について、概説する
7 回	対人援助技術と心理学について、概説する
8 回	性格と心理学について、概説する

回数	準備学習
1 回	心理学という学問について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
2 回	心とは何か？あるいは身体とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
3 回	科学とは何か？心を測ることはできるのか？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
4 回	動物とは何か？ 人間とそれ以外の動物との違いは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
5 回	発達とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
6 回	環境とは何か？集団とは何か？社会とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
7 回	人を助けるとは何か？について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
8 回	自分とは何か？性格とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)

講義目的	初めて心理学という学問に触れる学生を対象に、特定の学派や立場に偏らないように、多様な切り口から概説する。心理学という学問を体系的に学び、理解することで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	心理学についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	脳、アフォーダンス、操作的定義、アセスメント、動物行動学、発達、遺伝、環境、発達障害、社会、感覚、知覚、認知、行動、行動経済学、認知バイアス、対人援助職、エビデンス、ナラティブ、動機づけ、行動分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別

	に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	キャリア形成講座A (FV23P130)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	アイスブレイクを通して他人とコミュニケーションをとることへの抵抗感をなくす。 (渡邊 剛央)
2回	テストを通して自己分析をする。 (小林 忠資)
3回	自分史の作成を通して自己分析をする。 (小林 忠資)
4回	社会人として求められている能力(コンピテンシー)について知る。 (戸田 修司)
5回	自分の大学での目標を明確にする。 (戸田 修司)
6回	映像から将来に必要な能力を理解する。 (小林 忠資)
7回	自分の将来像を明確にする。 (渡邊 剛央)
8回	これまでの授業を振り返る。 (全教員)

回数	準備学習
1回	予習として, 自己PRを考えてくること。(90分) 復習として, 他人とのコミュニケーションをとるうえでの改善策とより自己PRを行うための改善策を考えること。(90分)
2回	自分の能力, 性格, 価値観, 興味についてそれぞれ整理し, 自己理解を深めてくること(180分)
3回	これまでの自分の歩みを振り返り, 自分の年表を作成すること(90分)。また, 自分にとっての10大ニュースを選び, その理由をまとめてくること(90分)
4回	予習として, コンピテンシーとは何か, 具体的な内容について調べておくこと。(60分) 復習として, 目標シートを完成させてくること。(120分)
5回	大学における自己の目標を整理しておくこと。(90分) 大学生活の目標に基づく今後の具体的なプランを考えること。(90分)
6回	社会人として働くうえで必要な能力について自分の意見をまとめてくること(180分)。
7回	予習として, 自分の将来像(20年度の自分)を考えてくること(90分)。復習として, 授業の振り返りを通じて, 自分の将来像を見直すこと。(90分)
8回	予習として, これまで授業を振り返り, 学んだことをまとめる。(90分) 復習として, 今後自分が成長するために必要なことをまとめる。(90分)

講義目的	社会で必要とされる力(コミュニケーション力・表現力・チームワーク力)を実践的な演習を通じて習得する。段階的なスキルアップワークと発表機会を通じて、主張力・傾聴力・展開力を強化し、就活対策のみならず、社会人となって以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ。達成目標は下記の通りである。①コミュニケーション力、表現力、チームワーク力、プレゼン力のレベルアップを、ペアワークおよびグループワークを通じて実現すること。②自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむこと。③発想～ミーティング～プレゼンの過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特性・強み・弱みを知ること。 教養教育科目4領域の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 他人と積極的にコミュニケーションをとることができるようになること。

	○ 自分の意見を分かりやすく他人に伝えることができるようになること。 ○ 他人と協力をして目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成, コミュニケーション力, 表現力, チームワーク力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回個人が提出するレポートにより, きちんと振り返りができたかどうかを評価し, 60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座B
参考書	実践キャリア考—体験からキャリアを考える／一般財団法人全国大学実務教育協会／実教出版／978-4407332261
連絡先	授業代表：渡邊 剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	ワーク中心の授業なので, 積極的にワークに参加することがもとめられる。
アクティブ・ラーニング	○ ディスカッション グループや教室全体で, 様々なテーマに関するディスカッションを行う。 ○ ライティング 毎回, 授業を振り返るためのレポートを作成する。
課題に対するフィードバック	レポートに対するフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので, 配慮が必要な場合は, 事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが, 他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学C (FV23P140)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	吉川泰弘 (よしかわやすひろ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	宇宙の誕生、膨張と銀河系、地球と太陽の誕生、そして生命の誕生。細菌の多様性は、大まかにいえば化学合成独立栄養細菌、嫌気性従属栄養細菌、嫌気性光合成独立栄養細菌、好気性従属栄養細菌というような順序で出来上がってきたと考えられる。その間に、真正細菌から古細菌が分岐し、由来は、現在でも明らかではないがウイルスが出現した。この経緯を紹介する。
2 回	モネラ界（原核細胞の世界、細菌）の生物から、核と核膜、ミトコンドリアあるいは葉緑体、その他細胞内小器官（リソソーム、ゴルジ体など）を持つ単細胞の真核細胞生物（原生動物、藻類）が出現した。真核細胞の出現機構はまだ不明であるが、原核生物（2種類の細菌、あるいは古細菌と真正細菌）が合体した可能性が考えられる。ミトコンドリアはαプロテオ菌由来、葉緑体はシアノバクテリア由来と考えられる。真核細胞の特性を紹介する。
3 回	10億年くらい前に、単細胞生物は多細胞生物となった。単細胞生物が群をなし、表層と内層に分かれて、体細胞と生殖細胞、組織・器官を形成するようになった。ミトコンドリアを保有する多細胞群は真菌、あるいは2胚葉性動物、3胚葉性の扁形動物、線形動物（条虫や吸虫、線虫）となった。藻類から多細胞化したものが植物となり、5界説がすべて揃う過程を学修する。
4 回	旧口動物の扁形動物は軟体動物に進化し、線形動物は甲殻類（エビ、カニ）からさらに節足動物（昆虫類）に進化して1つの頂点に立つ。新口動物は棘皮動物から、脊索動物を経て、脊椎動物への進化を進める。無顎類から、軟骨魚類、硬骨魚類に進化する。生体防御の最終段階の細胞性免疫、液性免疫を獲得するのが魚類である。魚類から四肢を発達させ、陸上に上がるのが両生類である。陸上で生活するためには鰓呼吸から肺呼吸へと大変化を遂げる。循環器系、内分泌系、神経系の原型はほぼ完成する過程を学修する。
5 回	爬虫類類は恐竜として全盛をむかえ、翼竜は空を飛び、爬虫類の頂点といえる鳥類が分岐する。進化はネオテニー（幼形成熟）と言われるように、幼形で成熟する特質を持つ。空を飛ぶための機能的進化は、昆虫に類似した側面を持つ。また、形態的には哺乳類で空を飛ぶ、翼手目にも類似している。爬虫類と分岐した哺乳類は、卵生から胎生へと変化し、哺乳により子を育てる。齧歯類に類似した祖先から、多くの哺乳類が分岐した経緯を学修する。
6 回	サル類：霊長類は約220種といわれている。7000万年前くらいに霊長類として分岐し、原猿類と真猿類が分かれ、オラウータン、ゴリラが分岐し、ヒトともっとも近いチンパンジーと別れたのが500～700万年前といわれている。現生人類の直接の祖先は6万年前にアフリカ大陸を出たと思われる。ここでは人はどこまでサルか？について比較生物学を展開する。
7 回	6回までで生物進化の概要を講義した。進化の過程をゲノム、増殖・生殖戦略の共通性と多様性、組織・臓器の機能・形態、神経系・生体防御系、内分泌系などの進化という見方で振り返ってみる。それはまた、受精卵からの個体発生とダブる側面を持っていることを学修する。
8 回	このように、生物進化は多様性を生み、現在もその末裔が生物界を作り上げている。同一空間に多くの生物種が存在するためには、共生、寄生、感染といった相互作用を持ち、食料・環境の循環を

	基盤に、一つの世界を作り上げている。8回では、これまでの講義を振り返り、生物学では生物進化における共通性と独自性、多様性を理解し生物間の相互作用を理解することであることを学修する。
--	--

回数	準備学習
1回	細菌は一般にバイキンと呼ばれて嫌われてるが、空気中の窒素や酸素の産生、吸収に重要である。またバイオマスで注目されるように資源循環にも役立っている。確かに感染症の病原体として問題もあるが、細菌感染症などを統御する抗生物質も細菌や真菌によってつくられるものがほとんどである。細菌が出現しなければ、その後の生命体は存在しなかったかもしれない。細菌の役割を調べてみる。
2回	真核生物のうち動物、植物、真菌を除いたものを原生生物という、ややネガティブな定義である。さらに原生生物のうち葉緑体をもって光合成をするものが藻類、ミトコンドリアを持つ従属栄養体が原生動物である。原生動物のうちで病原性を持つものを原虫と定義している。このステージでは無性生殖で増殖するもの、無性生殖と有性生殖をするものが出現する。原虫の生活環を類型化すること。
3回	扁形動物である条虫、吸虫は、複雑な生活環を持つものが多い。1つ、2つといった中間宿主を持つ。終宿主で交配、受精卵を排出し、中間宿主で無性生殖するという戦略を持つもの、また雌雄同体のものが多い。線虫では雌雄異体のものが増える。吸血昆虫などを利用して、感染域を広げる戦略をとるものもある。寄生虫と中間宿主の関係を整理すること。
4回	甲殻類、昆虫はウイルス、細菌、原虫などの立派な宿主である。一方で吸血昆虫はウイルスや細菌、原虫などを運ぶし、ダニなどはミツバチの幼虫に感染する寄生虫である。また、十分な免疫系が発達していないにも拘らず蜂や蟻などは巨大な社会を形成し問題なく暮らしている。彼らがどのような能力を持っているのかは興味ある課題である。また海から陸上に上がったのは両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類だけでなく昆虫類やカタツムリ、ナメクジのような陸生巻貝もある。環境変化にどのように適応したか調べる。
5回	鳥類は爬虫類から進化した一つの頂点といえる。しかし、哺乳類と比較すると、多くの点で共通する部分と異なる点がある。また鳥類でも空を飛ぶものと飛ばないものがあり、昼行性のものと夜行性のものがある。その点は哺乳類も同じである。生活空間の類似した哺乳類と鳥類で形態と機能を比較して調べる。
6回	最も身近なサル類は多くの点でヒトに類似している。大きな違いがあるとすればやはり、脳構造であろう。しかし、構造といっても量的な違いである。ヒトとサル類（原猿、新世界ザル、旧世界ザル、特に尾長ザル、チンパンジー）とヒトの脳についてどのような違いがあるか整理して調べる。また脳に関連する機能や社会性の違いも比較して調べる。
7回	神経系、生体防御系、内分泌系、呼吸器系、造血系、消化器系（肝臓、膵臓を含む）、泌尿器系（腎臓）、骨格・筋肉系を多細胞動物について、どれでもよいから、1～2つほど進化的にどのように変わったかを纏めて調べる。
8回	最近、国際的にOne World, One Healthという言葉が使われるようになってきている。ここで学んだ生物進化と多様性が、このコンセプトとどのように関連しているか考え、まとめて調べる。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・
------	--

	技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学C」では、観察も交えながら、主に生物・地学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 地球上に最初に現れた生物は細菌（約40億年前）で、地球の生命の歴史の約半分は細菌の世界である（ウイルスは30億年くらい前に出現したと考えられている）。約20億年前に真核生物（原生生物：原生動物と藻類）が登場し、10億年前に多細胞生物（真菌、寄生虫）が登場した。寄生虫は節足動物や軟体動物へと進化し、5～6億年前のカンブリア紀の後に高等多細胞生物が出現し、脊椎動物が魚類から哺乳類へと進化、霊長類の中から人類へと進化した。生命の連続性と多様性を基盤として、単純系から複雑系への生物変化を学修する。
達成目標	地球上に生存する様々な生物の多様性を理解すること。またその多様性がどのような経緯をたどってできてきたのか、それぞれの生物種は他の生物種とどのような関係を持っているのか？将来の進路を考えて、生物多様性の中でも、通常病原体と言われているような地球の初期から出現した生物群と宿主と言われる最後に出現した生物群（ヒトや家畜）に至るまでの連続性を理解し、説明できること。
キーワード	細菌、原虫、真菌、寄生虫、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施する質疑応答20%、解答の説明能力（メール回答）30%、定期試験（正誤課題、5択問題）50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。スライドと討議、質疑応答で授業を進める。
関連科目	獣医の専門科目、獣医保健看護の専門科目の基礎となる。感染症学、病原体科学、組織形態・機能学等に関連する。
参考書	生物進化の謎と感染症／吉川泰弘／NHK出版／978-4-14-910914-5 講義内容と質疑応答例は、ホームページ(https://www.ayyoshi.com 、現代生物進化)あるいはポータルサイトの「講義資料」にアップロードしている。
連絡先	獣医学部棟6階学部長室
授業の運営方針	パワーポイントで説明、試験は広範囲なので本質的なことを理解する。 講義内容を予習し、質問等を考えておくこと。
アクティブ・ラーニング	https://www.ayyoshi.com の「現代生物進化」をみて、自分の理解度をチェックする。
課題に対するフィードバック	模範回答はネットおよびポータルサイトに公開します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。←必ずご記入してください。
実務経験のある教員	ア) 国立予防衛生研究所 イ) 感染症法の作成に関与、狂犬病予防法の改正、食品安全委員会でのBSEトレサビ法等について国民に解説し、動物医薬事害議会で議長として生物製剤の害議を進めた。

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	文章表現法基礎編A (FV23Q120)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題①「あなたの趣味・特技」について文章を作成する。
2 回	課題②「他者と話すときに心がけていること」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3 回	課題③「今までで一番印象に残る出来事」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4 回	課題④「社会人になるにあたっての抱負」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」 (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイント指導する。
6 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題⑥「少子高齢化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (30分)。 予習：課題①の概要を準備しておくこと (60分)。 復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること (90分)。
2 回	予習：課題②の概要を準備しておくこと (90分)。 復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること (90分)。
3 回	予習：課題③の概要を準備しておくこと (90分)。 復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること (90分)。

4回	予習：課題④の概要を準備しておくこと（90分）。 復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
5回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（90分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（90分）。
6回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（90分） 復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
7回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（90分）。 復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
8回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（90分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編B、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分

	以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編A (FV23Q130)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	さまざまなプレゼンテーションの構成を理解する。
3 回	設定したテーマをもとにプレゼンの構成を検討する。
4 回	スライド資料を作成する
5 回	スライド資料を作成する
6 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
7 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
8 回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習としてシラバスを確認し、優れたプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2 回	予習として複数のプレゼンテーションの動画をWEBサイト等から視聴し、それぞれのプレゼンテーションの構成と工夫についてまとめておくこと (180分)。
3 回	予習として、授業で紹介したプレゼンテーションの動画を視聴し、優れている点と改善点を整理しておくこと (180分)。
4 回	予習として、授業で紹介した効果的なスライド資料の作成方法に関するWEBサイトを閲覧し、スライド資料を作成するうえでの基本を整理しておくこと (180分)。
5 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
6 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
7 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。

8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと（180分）。
----	---

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画・方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、よいプレゼンテーションの例として、TED等の動画の視聴を課題として出し、よいプレゼンテーションとは何かを自分で考えさす機会も設ける（教養教育科目の4領域のうちの技能に技能に最も強く関与する）。
達成目標	①パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 ②図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 ③自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 ④自分の考えや主張を相手に伝えることができる。
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	ワークシート10%、提出課題40%、プレゼンテーション50%により成績を評価し、総計で得率60%以上で合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Bを継続して履修することがのぞましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 与えられたテーマに対して、資料を作成して個人発表を行う。
課題に対するフィードバック	各個人発表の後に、口頭でフィードバックを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

--	--

科目名	プレゼンテーション応用編A (FV23U210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2回	聴衆に合わせたプレゼンテーションの方法を理解する。
3回	発表資料を作成する。
4回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
5回	企画案のプレゼンテーションについて説明する。
6回	発表資料を作成する。
7回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2回	MOMO CAMPUS上にあるプレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bの配付資料を読み、プレゼンテーションの基本を整理しておくこと (180分)
3回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
4回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
5回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。
6回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
7回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力の養成をめざす。具体的には、まずプレゼンテーション用ツールの長所と短所、コミュニケーションにおける自己分析の大切さを理解した上で、必要となる情報の収集と整理のポイント、スクリプト作成上の注意点、プレゼンテーションで用いる技法とその効果について解説する。そして受講生による演習を通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識のレベルを確認し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (20%)、中間発表 (40%)、最終発表 (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜紹介する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為 (私語、立ち歩く等) はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにして下さい。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。

	・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法応用編A (FV23V210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。課題①「学生生活で苦労したこと」について文章を作成する。
2回	課題②「あなたの長所と短所」について文章を作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3回	課題③「あなたを成長させたこと」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4回	課題④「災害に強いまちづくりについて」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」について（１）グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」（２）前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7回	課題⑥「地域産業の振興について」についてレポートを作成する。グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと（30分）。予習：課題①の概要を準備しておくこと（60分）。復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
2回	予習：課題②の概要を準備しておくこと（90分）。復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
3回	予習：課題③の概要を準備しておくこと（90分）。復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
4回	予習：課題④の概要を準備しておくこと（90分）。復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
5回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料を準備してくること（90分）。受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（90分）。
6回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（90分）。復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
7回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（90分）。復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
8回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（90分）。

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、さまざまな種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な対応力を養う。エントリーシートや筆記課題の文章がしっかり書けることを目標とする。具体的には、文章スキルの大切さ、文章表現の注意点、リライトのポイント、表記・表現のポイント、小論文を書く（800字の組み立ての説明・文章化）、ストーリーを書く（400字・800字のストーリーを構想）、広告文を書く（指示されたテーマで広告コピーを構想と講評）、文章実務の実例（ビジネスレターや履歴書、エントリーシートのポイント、エントリーシート作成、契約書や企画書）等をテーマに取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・文章作成上の基本的なルールを身につけ表現できる。・個々のテーマに沿って、自身の考えを文章で表現できる。・自身の考えの根拠を具体的に示した上で文章を作成できる。・レポート、小論文、エントリーシート等の字数制限など作成条件のある文章を、条件を満たした上で適切に作

	成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出(60%)、最終評価試験(40%)により評価する。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編B、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学D (FV23W110)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	澤見英男 (さわみひでお)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	アラビア数字, 漢数字, ローマ数字などの数詞による数値表現と十進数の接頭辞について理解する
2 回	n 桁のr進数を用いた四則演算について理解をし, 減算を上位桁から行うといった日常でも使える補数のプチ応用についても学ぶ
3 回	コンピュータの歴史について学び, 計算機の実用例として, 多桁乗算により精度が百桁以上になる階乗の値を計算できることと高精度の除算と加算による指数関数の底 (ネイピア数) の求め方を学習し, 精度百万桁以上の円周率の求め方についても学ぶ
4 回	統計処理で用いる, 母集団, 平均, 標準偏差, 偏差値などについて学習をし, 簡単な例題を通して, 母集団からの乖離の程度を偏差値表により評価できることを理解する
5 回	座標系と座標変換について学び, 日常生活に密着した応用例として, 夏至と冬至の日の出と日没時間 (日照時間) の求め方と, 高緯度地域で白夜の現れることを理解する
6 回	照明光でもある太陽光の性質と, 黒体放射の理論式に基づく白色光の三原色を用いた表現方法について理解し, ケルビン単位とした照明光の色温度および三原色と人間の視覚特性との関係を学ぶ
7 回	英文書籍におけるアルファベット文字の出現頻度を基に, 0 と 1 の組み合わせにより英文を符号化・復号化できることを学び, 情報量 (エントロピ) をビットで評価することの意味を理解する
8 回	総合演習として模範解答の板書を通した相互学習により学習してきた内容の理解度を確認した後, 最終評価試験を受ける

回数	準備学習
1 回	インターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでに学習してきたことを確認しておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	現代を生きる市民は, 専門分野によらず, 幅広い分野の科学・技術リテラシー (知識のみならず科学的なものの見方も含む) を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は, 様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし, 科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また, 分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では, コンピューターに関係する分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお, この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	日常的に用いているアラビア数字, 漢数字, ローマ数字を用いた計算法について理解する。応用例のひとつとして, 高精度なネイピア数や円周率を求めるための多桁計算アルゴリズムについて理解する。偏差値表を用いた簡単な統計処理を行えるようになる。アルファベットの頻度分布を用いた符号化・復号化の演習を通して情報量の単位ビットという概念を理解する。人間の視覚特性と照明光の色温度の単位ケルビンについて理解する。コンピュータグラフィックスで多用される座標変換, 右手系と左手系について理解を深める。
キーワード	数詞と数値, アラビア数字, 漢数字, ローマ数字, 接頭辞, 進数, コンピュータの歴史, 多桁計算, 階乗, ネピア数, 円周率, ガウス分布, 偏差値表, 情報量, エントロピ, 座標変換, 黒体放射, 色温度, ケルビン, 人間の視覚特性
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	演習 (評価割合30%) とレポート (評価割合30%) および試験 (評価割合40%) の総計が60%以上を合格とする
教科書	講義開始時に必要なプリントを配布するが, 必要な資料は講義用サーバーからダウンロードして用いることができる (http://café.mis.ous.ac.jp/Veterinary/)
関連科目	現代人の科学A,B,C
参考書	なし
連絡先	電子メール: sawami@mis.ous.ac.jp (件名および発信者名または学番は必須)

授業の運営方針	板書を含む演習を通して習熟度の確認をしながら進めて行く。演習課題は期限内に提出すること。配布資料の該当部分をよく読んでおくことを必要とする。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習課題の板書を通じて理解度を確認できるようにする
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	レポート課題により受講生の理解の度合いを確認し、演習問題や板書による模範解答の提示により理解のレベルを揃えるようにする

科目名	企業と人間A (FV23W120)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	八木力俊* (やぎりきとし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション～企業組織とキャリア：授業の進め方を解説した後、企業（組織）の中でのキャリアデザインについて学習する
2回	企業寿命と人間の管理：企業が経営(存続)する意味と、そこで働く人間の管理について、現代の企業を例に概観する
3回	企業組織における職場の人間関係：階層化、専門分化された企業組織における人間の職務について解説する。また、相互理解の取り方や協力することについて学習する
4回	職場の人間関係・従業員の心理的側面：企業・職場における人と人との関りについて学ぶと同時に、従業員の社会心理的な側面（傾向）について概説する
5回	企業組織でのコミュニケーション：階層構造や年齢の違い、外部との交渉など、様々な立場での意思疎通について学び、対話の基本を学習する
6回	組織における合意形成と決定：組織内で階層の違いで変化する職務内容を学び、ミーティングなどで合意形成を行うためのスキルを学習する
7回	従業員の職業価値へのアプローチ：H.マズローやD.マクレガーなどの従業員の価値に注目した事例を紹介しつつ、自己分析を通じて仕事に対する価値観（職業観）を確認する
8回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	キャリアデザインとは何か事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約30分）
2回	企業の存在理由について事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約60分）
3回	企業組織の階層や専門分化などの組織図をWeb等で調べておくこと（平均学習時間約30分）
4回	「アサーティブ」の技術及び「メンタルヘルス」問題について、事前にWeb等で調べてくること（平均学習時間約60分）
5回	会話と対話の違いについて調べてくること（平均学習時間約30分）
6回	「管理職の職務」、「ファシリテーション」、について、事前にWeb等で調べてくること（平均学習時間約60分）
7回	日本人の仕事に対する考え方（職業観）の特徴について、働くときの意識と就業行動（総務省）などから観察しておくこと（平均学習時間約60分）
8回	講義ノートを整理しなおし、参考書等を図書館等で読み、重要な事柄をノートしなおしておくこと。また、質問事項について纏めておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力、コミュニケーションスキルの習得を促す。また状況に応じた最適な判断をするための方法として、資料を読み解く力、データを分析する力を養い、文章力や読解力の向上も目指したい（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業と人間をめぐる社会現象（〇〇〇問題）を学問的に解釈し、あわせて自己の卒業後の企業社会における職業人生の送り方をデザインする際の基礎を養うこと
キーワード	科学的管理、官僚制、リーダーシップ、キャリア形成、マネジメント、コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する 達成目標である、「企業と人間をめぐる社会現象」の理解と、「自己の職業人生の送り方をデザイン力」を確認する 100点満点中60点以上を合格とする
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい。 ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める。

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい。 ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する。
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	国際関係論B (FV24B110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本の領土問題について学修する。国際法上、領土の帰属はどのように決定されるかについて学修する。そのうえで、日本の領土問題について、各国の主張やその妥当性について学修する。
2 回	日韓請求権問題について学修する。日韓請求権協定の内容を学修したうえで、日韓請求権問題の争点、両国の主張とその妥当性について学修する。
3 回	非裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判によらない手続について学修する。
4 回	裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判による手続について学修する。
5 回	国家責任の発生要件について学修する。国家責任の意義とその発生要件について学修する。
6 回	国家責任の追及要件および解除について学修する。発生した国家責任を追及することができるのはどの国か、その国家責任はどうすれば解除されるのかについて学修する。
7 回	国際連合による安全保障について学修する。国際連盟による安全保障の内容とその問題点について学修したうえで、国際連合による安全保障の内容とその問題点について学修する。
8 回	自衛権について学修する。個別的自衛権と集団的自衛権との違い、それぞれの自衛権の行使要件について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日本の領土問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日韓請求権問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、非裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の発生要件に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の追及要件および解除に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合による安全保障に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

復習として、自衛権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）	
講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際紛争の平和的解決や国際安全保障において国際機構が果たしている役割を概観することにより、現在の国際社会の基本的な仕組みや活動内容を解説する。また今後日本が国際社会において貢献できる役割についても考えてみたい。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際連合の安全保障制度について説明できるようになること。 ○ 平和維持活動について説明できるようになること。 ○ 自衛権について説明できるようになること ○ 国家責任について説明できるようになること。 ○ 国際司法裁判所の役割について説明できるようになること。
キーワード	国際連合、安全保障、平和維持活動、自衛権、国家責任、国際司法裁判所
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際社会の特徴や国際連合の概要などの国際関係論の基礎事項は国際関係論Aで講義するので、それを受講してからこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	国際連合－軌跡と展望／明石康／岩波書店／978-4004310525：国際関係論［第3版］／佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編／弘文堂／978-4335002335
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

合理的配慮が必要な学 生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供 しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であ るが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教養演習 B (FV24B120)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
3 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(2)
4 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(3)
5 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(4)
6 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(5)
7 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(6)
8 回	これまで演習で実施した発表・討論の講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、発表・討論の進め方を把握しておくこと(30分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること(60分)。時事問題に関する新聞・雑誌やwebの利用方法を確認し利用できるようにしておくこと(90分)。
2 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
3 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
4 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
5 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。
6 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(90分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(90分)。

7回	テーマを選定した者（主報告者）はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること（90分）。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと（90分）。
8回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	①主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。②分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。「教養演習A」に続き、さらなる思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Bでは、受講生自らが作成した資料に基づく発表および討論を中心とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	①時事問題について、受講者自らがグループワークを通してディスカッションを実施することができる。 ②受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）について、簡単な個人発表を通して自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）／日本ニュース時事能力検定協会監修／毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の中で主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論B (FV24B130)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス リフレクションを通じた学びを理解する
2 回	チームワークを高めるコミュニケーションを理解する
3 回	チームワークを高めるリーダーシップを理解する
4 回	批判的に読解する
5 回	文献を分析する
6 回	映像を分析する
7 回	グループで知識を共有する
8 回	まとめと振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを熟読後、リフレクションとは何かについて自分の言葉で整理しておくこと (90分)。
2 回	予習として、グループワークにおいてチームワークを高めるためにはどのような行動が求められるかをまとめておくこと (180分)。
3 回	予習として、リーダーシップについて調べ、さまざまなリーダーシップ論を整理しておくこと (180分)。
4 回	復習として、チームワークを高めるための行動を1600字以上でまとめ、提出すること (240分)。
5 回	予習として、資料を分析するためのスキルについて調べ、自分の言葉でまとめておくこと (120分)。
6 回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
7 回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
8 回	講義内容を自分の言葉でまとめておくこと (60分)。

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得し、活用することである。内容として、「学びの基礎論A」をふまえて①チームビルディングの構築②基本的なアカデミック・スキル（文章表現法、プレゼンテーション）を修得する③テーマに対して、グループで協同して課題発表を行う④一人ひとりが、グループの発表に対してルーブリックにより評価を行う。アクティブ・ラーニングを行う。（教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する）
達成目標	①グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 ②第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 ③自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中に作成したワークシートの提出（30%）、中間レポート（30%）、最終レポート（40%）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	学びの基礎論Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189

授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション 授業内容に関連するディスカッションをグループで行う ライティング 内容の要約と自分の意見を書く
課題に対するフィードバック	課題に対して、全体的な特徴と改善点を授業中に口頭で説明する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FV24C110)
英文科目名	Literature B
担当教員名	大西好幸＊（おおにしよしゆき＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本近代文学の展開を概説する。
2回	近代文学前期（幕開け）として啓蒙主義、写実主義、擬古典主義を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト① 近代文学前期（試み）として浪漫主義、自然主義を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト② 近代文学前期（確立）として反自然主義、新現実主義を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト③ 近代文学後期（脈流）としてプロレタリア文学、新感覚派、「文学界」を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト④ 近代文学後期（再生）として無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代を取り上げ、解説する。
7回	復習小テスト⑤ 近代の韻文として近代詩、近代俳句・短歌を取り上げ、解説する。
8回	愛媛に関する文学作品を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。 近代文学作品の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2回	前回の復習をしておくこと。教科書「啓蒙主義、写実主義、擬古典主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
3回	前回の復習をしておくこと。教科書「浪漫主義、自然主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
4回	前回の復習をしておくこと。教科書「反自然主義、新現実主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
5回	前回の復習をしておくこと。教科書「プロレタリア文学、新感覚派、『文学界』」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
6回	前回の復習をしておくこと。教科書「無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
7回	前回の復習をしておくこと。教科書「近代詩、近代俳句・短歌」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
8回	愛媛に関する文学作品を調べておくこと。 これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。文学Bは近代以降の文学作品を対象とし、「文学A」に引き続き、風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた近代人の思い、心の動き方、近現代社会での人間模様などを見てゆく。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	(1) 日本近代文学の基礎的な知識を身につける。 (2) 古典文学との関係や西欧文学からの影響について考察し、近代文学の特質を理解する。 (3) 時代背景を手掛かりとして、作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。
キーワード	写実主義、擬古典主義、浪漫主義、自然主義、反自然主義、プロレタリア文学、新感覚派、無頼派、戦後派、近代詩、近代短歌・俳句、日本文学史
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版／兵庫県高等学校教育研究会国語部会編／京都書房／ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	「文学A」を受講していることが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終試験評価のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史B (FV24C120)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	白石成二＊ (しらいしせいじ＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自己紹介を行う。日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで、授業の進め方について説明する。その後、奈良時代末の称徳・道鏡政権の時代の政変について確認する。その時代、政治は混迷を極めるが、その原因・背景を確認するとともに、この称徳天皇をもって古代の女帝の歴史に幕を下ろすことになったのはなぜかについて検討する。
2回	桓武天皇の登場のきっかけは父光仁天皇が即位したことであった。政権を掌握するうえで障壁となる勢力を排除していく過程について説明する。桓武天皇の大きな功績は、長岡京・平安京遷都（造都）と東北地方の蝦夷の征圧（征夷）であったが、その二大政策をなぜ実行する必要があったのかについて考える。天皇の天武系の皇統からの転換という意識、渡来系氏族との強い結びつき、怨霊思想などが背景にあったことを説明する。さらにこの桓武天皇の子孫たちが後に「桓武平氏」となっていたのかについても検討する。
3回	嵯峨天皇の時代は「弘仁の治」と呼ばれ、我が国で唐風化が最も盛んだった時代とされる。その推進役が文人官僚であったことを確認する。そして彼らの知識は遣唐使によって多くもたらされたものであったが、その遣唐使の軌跡を辿ることによって当時の日本外交のあり方を検討する。さらに遣唐使の留学生であった最澄と空海を取り上げ、その仏教の国際性ととともに、その後の日本宗教界に与えた影響について説明する。さらに空海信仰のあらわれとして四国に根付いている四国遍路の現代的意味についても考える。
4回	文人官僚の頂点を極めた菅原道真と藤原氏との対立・抗争の原因や背景について触れ、道真が猛威をふるう怨霊となり、怨霊思想のピークを迎える。それが今日では「学問の神様」となって厚い信仰を受けるようになったのはなぜかを考える。次に平将門と藤原純友の乱を取り上げ、「承平・天慶の乱」から「天慶の乱」への名称変更について説明する。またこの戦乱が、その後の時代にどのような影響をもたらしたか、さらに勇猛さの象徴とされる武士の実像についても検討する。
5回	平安王朝、摂関政治の全盛期を演出した藤原道長の政権獲得の過程にふれるとともに、源氏の棟梁源頼光や紫式部の父藤原為時らを取り上げ、道長政権を支えたのは受領階級の人々であったことを確認する。道長の「御堂関白記」や藤原実資の「小右記」の記事を取り上げ、当時の貴族たちの実態について説明する。そして当時の末法思想や浄土教の流布の様相を具体的に上げるとともに、安倍晴明に代表される陰陽師たちの実像に迫る。その陰陽道は平安時代だけでなく、今日の社会にも根強く残存していることを確認する。
6回	摂関政治の文化は国風文化といわれる。その国風文化の具体的に見ていくとともに「国風」の内容についても考える。紫式部の「源氏物語」を例に取り上げ、その中に中国文化が色濃く残されており、東アジアの交流の中で形成された国際性豊かな作品であることを確認する。その一方で、上級貴族たちが誰一人として外国に赴くことがなかったように、我が国の鎖国的体質についても説明する。また当時の女流文学の作品を残した女性のほとんどは受領層の出身者であったが、それはなぜなのかを検討する。
7回	貴族の時代から武士の時代への大きな転換の時代にいち早く登場した源氏の台頭の経過について触れ、一方、平氏は源氏に遅れをとったものの、やがて源氏を凌駕し、院政を支える重要な軍事力となっていた。その両者が入り乱れて戦った保元の乱や、その後の平治の乱について具体的に説明する。そしてこの戦乱を経過することによって傭兵的存在であった武士が政権の帰趨を決定することが明らかになり、その結果として平清盛による平氏政権が成立する。この保元・平治の乱をもって中世とするのか、また平氏政権は武家政権であったのかという問題についても検討する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	孝謙・称徳天皇と道鏡政権については瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、橋本治『日本の女帝の物語』（集英社新書）、北山茂夫『女帝と道鏡』（中公新書）、その時代の政変については倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）、遠山美都男『古代の皇位継承』（吉川弘文館）などがある。どれか一冊を図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
2回	桓武天皇については、井上満郎『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）、高橋昌明『京都「千年の都」の歴史』（岩波新書）、吉田敏『古代の都はどうつくられたか』（吉川弘文館）、山田雄司『跋扈する怨霊』（吉川弘文館）、蝦夷との戦いについては、熊谷公男『古代の蝦夷と城柵』（吉川弘文館）、高橋崇『坂上田村麻呂』（吉川弘文館）、樋口知志『阿弓流為』（ミネルヴァ書房）、高橋富

	雄『辺境』（教育社）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
3回	嵯峨朝の政治については佐々木恵介『平安京の時代』（吉川弘文館）、吉川真司『平安京』（吉川弘文館）、遣唐使については古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、最澄と空海については、篠原資明『空海と日本の思想』（岩波新書）、木内堯大・多田孝正『最澄』（創元社）、後藤昭雄『天台仏教と平安朝文人』（吉川弘文館）、速水侑『呪術宗教の世界』（塙新書）、星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
4回	菅原道真については坂本太郎『菅原道真』（吉川弘文館）、将門・純友については村上春樹『将門記』（山川出版社）、樋口州男『将門伝説の歴史』（吉川弘文館）、松原弘宣『藤原純友』（吉川弘文館）、下向井龍彦『純友追討記』（山川出版社）、森公章『古代豪族と武士の誕生』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
5回	藤原道長と受領については、北山茂夫『藤原道長』（岩波新書）、山中裕『藤原道長』（吉川弘文館）、瀧谷寿『藤原道長』（ミネルヴァ書房）、倉本一宏『藤原道長の日常生活』（講談社現代新書）、同『藤原道長の権力と欲望』（文春新書）、古瀬奈津子『摂関政治』（岩波新書）、森田悌『受領』（教育社）、繁田信一『安陪清明』（吉川弘文館）、元木泰雄『源満仲・頼光』（ミネルヴァ書房）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
6回	平安期の女流文学については、清水好子『紫式部』（岩波新書）、秋山虔『源氏物語』（岩波新書）、瀧谷寿『源氏物語の風景』（吉川弘文館）、瀧浪貞子『源氏物語を読む』（吉川弘文館）、岸上慎二『清少納言』（吉川弘文館）、山中裕『和泉式部』（吉川弘文館）、王朝文化については、保立道久『平安王朝』（岩波新書）、木村朗子『女たちの平安宮廷』（講談社選書）、服藤早苗『平安朝女性のライフサイクル』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
7回	武士の成立・台頭については、五味文彦『中世社会のはじまり』（岩波新書）、同『殺生と信仰－武士を探る』、元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）、野口実『列島を翔る平安武士』（吉川弘文館）、保元・平治の乱から平氏政権の成立については、曾我良成『物語がつくった驕れる平家』（臨川書店）、元木泰雄『源頼義』（吉川弘文館）、五味文彦『平清盛』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	「日本史A」に続き、日本列島内における近世以降の歴史を扱い、武士の台頭、明治維新など近現代へとつながる時系列の中で日本がどのような社会を形成してきたか、また文化や信仰・宗教がどのように変遷したかに関して講義を展開する。そのプロセスで歴史的な事象から得られる情報について、批判、そして客観的に再構築できる力を得ることが講義の目的である。諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の古代から武家政権の成立、中世の幕開けまでを取り上げ、時系列の中で客観的に把握できる。 因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。 歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「奈良時代」「平安時代」「最澄・空海」「平将門・藤原純友」「摂関政治」「武士」「平安文学」「国風文化」「清和源氏」「桓武平氏」「保元・平治の乱」「平氏政権」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で資料・プリント等を配布する。
関連科目	日本史A
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング 歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代的背景や歴史的意

	義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。そして今後学ぶべき参考文献などを提示し、授業後においても人の歴史だけではなく、獣医として必要な動物に関する歴史についても興味を持てるようにする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分注意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告書等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。

科目名	外国史B (FV24C130)
英文科目名	World History B
担当教員名	松澤仁志＊ (まつざわひとし＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2回	近代ヨーロッパ世界の成立について概観する。
3回	近代国民国家の発展について説明する。
4回	アメリカ合衆国の建国と発展について説明する。
5回	帝国主義とアジアの民族運動について説明する。
6回	二つの世界大戦の背景と展開について説明する。
7回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと (90分)
2回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
3回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
4回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
5回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
6回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
7回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180分)
8回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと (270分)

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを「外国史A」に続いて考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代社会は19世紀のヨーロッパによる世界侵略がベースとなって形作られていることは確かであるが、その動きに対して世界の各地域の人々がどのように対応してきたのかが世界の現代史を決定づけたともいえる。本講義では、近代以降の歴史の流れの中で、世界がお互いにどういう形で影響しあってきたのかを中心に解説する。 (教養教育科目の4領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する)
達成目標	近代から現代までの世界史の流れを説明することができる 近代から現代までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 現代までの世界史の未来につながる歴史的影響力について考察することができる
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	予習・復習プリント (30%)、最終評価試験 (70%) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史／桃木 至朗他／大阪大学出版会／ISBN487259469X：ニューステージ世界史詳覧／／浜島書店／ISBN4834320251
関連科目	「外国史A」を履修していることが望ましい。
参考書	
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
授業の運営方針	授業プリントを毎回事前に配布する。 授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学A (FV24D110)
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	柳井徳磨 (やないとくま)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？はじめに基本的な学びの必要性について，例を挙げて紹介する。
2 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？Ⅰ 基本的な学びの姿勢について，学びの仕方を学習する。学びは生き方をどう変えるか？などについて考える機会を提示する。
3 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？Ⅱ 基本的な学びの姿勢について，東西の「人類の教師」の学びの仕方を学習する。特に「真理」をどう追求するか？
4 回	哺乳類・人類の誕生 哺乳類の誕生から人類の登場まで，進化の過程および謎について学習する。
5 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土に関するテーマについて科学的側面を中心に解説する。 ① 風土とは何か？ ② 日本列島の成り立ち ③ 日本人はどこから来たか？ ④ 縄文人と弥生人・神話と日本人
6 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 ① 日本の歴史と地域性の成り立ち ② 日本の地域性とその特徴について ③ 日本人およびその文化の特色は何か
7 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本とアジアの風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 ① アジアの定義と構成要因は？ ② 東アジア・東南アジアの国々とその風土の特徴について ③ 日本と他のアジアの歴史・文化の比較
8 回	環境・食物に由来する病気 環境およびそこから得られた食物に起因した疾病について概要を学習する。 ① 糖尿病 ② 免疫の鍵をにぎる腸内細菌 ③ 発酵食品の効用，日本および世界の発酵食品の種類と特徴

回数	準備学習
1 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し，自分の日頃からの「学び」について考え，さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
2 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し，自分の日頃からの「学び」について考え，さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
3 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し，自分の日頃からの「学び」について考え，さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
4 回	哺乳類の誕生，家畜の源流，人類の誕生，絶滅動物の歴史，など生物の進化と絶滅の歴史について，インターネットを利用して自分なりに考えておく。
5 回	縄文時代が日本人の形成に及ぼした影響について，片山一道著「骨が語る日本人の歴史」などを参考に概略理解しておく。さらに神話の時代における東アジアの環境について概略理解しておく。
6 回	インターネットなどを利用して，日本と東アジアの歴史・文化の差異を自分なりに考えておく。
7 回	インターネットなどを利用して，アジア諸国の歴史・文化の成り立ちを自分なりに考えておく。
8 回	糖尿病，腸内細菌，免疫力などのキーワードを基に，インターネットで疾病概要について調べておく。藤田紘一郎著「人の命は腸が9割」，小泉武夫著「発酵食品礼賛」を参考に，発酵および発酵食品が動物の健康にいかに関与しているかを概略を理解しておく。

講義目的	現代を生きる市民は，専門分野によらず，幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は，様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし，科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また，分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では，いくつかのトピックス
------	--

	を扱いながら現代科学の到達した自然観の全体的な枠組みを伝える。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 本授業の中で、自分たちを取り巻く環境、風土はどのように形成されたのか、また、身近な環境に何が起きているのか、などを理解することで、専門教科への円滑な導入が可能になり、より深い専門知識の理解と習得が期待できる。また、食の健康に及ぼす影響の重要性を理解することで、長い学生生活における学生自身の健康管理の基本的な要点を学習する。最後に、自分の属する社会、日本の立ち位置を学習することで、日本社会の特色と国際社会における長所を認識し、国際社会で生き抜くための拠り所になる「誇り」を身に着けることができる。
達成目標	まず、学ぶという活動の意義を自覚し、あらためて自分たちの住む環境と風土を知ることで、日本人の特性とアジアにおける役割を認識するきっかけとする。 また、自分たちを育んでくれた環境の変化とそれに対する行動の必要性を理解する。さらに、自分の健康を支える食物と腸の役割を腸内環境の観点から認識する。また、伝統的な発酵食品の役割も併せて理解する。人と動物の健康を守るためには、いかに適切な食物を確保する必要があるかを理解しておく。 身近な科学する心の必要性について、自分で考える機会を確保すること。 外国人に日本の風土と歴史を正しく伝えることで、より親密なコミュニケーション力を身に着けさせる。
キーワード	学びの効用、動物および人の進化、日本の成り立ち、風土、食物、発酵食品
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施するミニテストあるいはレポートの結果40%、最終評価試験60%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	人はなぜ学ばなければならないか／斎藤孝／実業の日本社／ISBN978-4-408-456 18-8 C0237：地球・生命－138億年の進化／谷合稔／SBクリエイティブ／ISBN ：日本人が教えた新しい世界史／宮脇淳子／徳間書店／ISBN978-4-19-86417 3-3
関連科目	健康の科学
参考書	骨が語る日本人の歴史／片山一道／筑摩書房／ISBN978-4-480-06831-6 C0245：神社に秘められた日本史の謎／新谷尚紀／洋泉社／ISBN978-4-8003-0536-7 C0221：歴史が遺してくれた日本人の誇り／谷沢永一／青春出版社／ISBN978-4-413-04494-3 C0221：日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか／呉善花／ワック／ISBN978-4-89831-695-5 C0234：アジア45ヵ国の国民性／造事務所／PHP研究所／ISBN978-4-569-76340-8 C0139：人の命は腸が9割／藤田紘一郎／ワニ・プラス／ISBN978-4-8470-6067-0 C0247：発酵食品礼賛／小泉武夫／文芸春秋／ISBN978-4-16-660076-2 C0277：「森友・加計事件」朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪／小川榮太郎／飛鳥新聞社／ISBN978-4-86410-574-3
連絡先	t-yanai@vet.ous.ac.jp（研究室425 0898-52-9202）
授業の運営方針	授業内容は可能な限り、最新の情報を取り扱い、授業内容をもとにレポート作成を課し、授業内で行う小テストにて、授業内容の習得状況を確認する。小テストは、基本的な内容を確実に把握する必要がある。
アクティブ・ラーニング	活用に向けて検討する。
課題に対するフィードバック	提出課題、演習等について、採点後のレポートなどを返却、最終評価試験に関しては、採点後の答案を返却し、模範解答および解説を配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学B (FV24D120)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 地域社会、国際社会について概説する。
2 回	地方分権－地方自治－について講義する。
3 回	主要国の政治体制－議院内閣制と大統領制－について講義する。
4 回	国境を超える政治－国際政治のアクター－について講義する。
5 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ（１）について講義する。第二次世界大戦後の冷戦期について学習する。
6 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ（２）について講義する。冷戦終結後の現代世界について学習する。
7 回	自由民主主義体制の諸原理－日本国憲法における平等－について講義する。
8 回	これまで扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に地域社会、国際社会に関する時事問題について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べる（９０分）
2 回	第５章「地方分権」を読み、地方自治について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における地方自治の特徴を整理すること（９０分）。
3 回	第８章の138～146頁を読み、議院内閣制と大統領制を調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに主要国の政治体制の特徴について整理すること（９０分）。
4 回	第１２章「国境を超える政治」を読み、国際社会における政治、中心的な機関である国際連合について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに国際政治の特徴、国際連合と連携機関について整理すること（９０分）。
5 回	第１０章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、第二次世界大戦後の冷戦対立について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに冷戦時の国際政治の特徴を整理すること（９０分）。
6 回	第１０章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、冷戦後の世界情勢について調べておくこと

	(90分)。受講後に、講義レジュメをもとにテロや核兵器への取り組みなど現代の国際政治が抱える問題を整理すること(90分)。
7回	日本国憲法における自由と平等について調べておくこと(90分)。受講後に、講義レジュメをもとに民主主義における基本的人権の意義、人権の具体的な内容について整理すること(90分)。
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと(90分)。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、「政治学A」に引き続き、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治の意味をさらに深めて考えたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Bでは、主として、＜政治の仕組み＞及び＜政治と世界＞について学ぶ。教養教育科目の4領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	・現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国際社会という視点から政治を理解し基本的な用語を説明できること ・新聞やニュースの記事を正しく理解できること 以上が本講義の目標である。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、地方分権、政治体制、議院内閣制、大統領制、国際政治、自由民主主義、冷戦、テロ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学／川出良枝・谷口将紀編／東京大学出版会／978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジュメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学B」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学B (FV24D130)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山中高光＊ (やまなかたかみつ＊)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	[オリエンテーション] [マクロ経済をとらえる枠組み]GDP統計、三面等価、物価、経済成長、寄与度、成長方程式、総需要、総供給などマクロ経済の動きをとらえる枠組みを説明する。
2回	[有効需要と乗数メカニズム]財市場の均衡、短期のGDPの決定メカニズム、有効需要の原理、乗数メカニズムについて説明する。
3回	[貨幣と金融]貨幣の機能、日本のマネーストック、金融システム、信用創造、貨幣市場の均衡、金融政策について説明する。
4回	[マクロ経済政策]財市場と貨幣市場(資産市場)の同時均衡、利子率とGDPの決定、財政政策・金融政策の効果、フィリップス曲線について説明する。
5回	[インフレ・デフレと失業]インフレーション、デフレーション、失業について説明する。
6回	[経済成長と経済発展]経済成長のメカニズム、ハロッド＝ドーマーの成長モデル。新古典派の成長理論、内省的経済成長モデルについて説明する。
7回	[国際経済学]比較優位、自由貿易、国際収支、為替レート、マンデル＝フレミングモデルについて説明する。
8回	[まとめ] 1回から7回までに学んだマクロ経済学の復習とより進んだ学習のために若干のガイダンスを行う。 後半45分で試験を行う。

回数	準備学習
1回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、GDPや利子率など関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、GDP速報に関する報道等を読み、GDPの決定に関するエコノミストの見方や関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、日本銀行に関する報道等を読み、金融政策に関するエコノミストの見方や関連する日銀統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、財政政策及び金融政策、雇用情勢に関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、物価や失業の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、潜在GDPの動向や政府の成長戦略などに関する報道等を読み、日本経済の将来を展望しつつ、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、国際収支や外国為替の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静な視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Bではその中でも特に市場について講義する。また、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論の概略についても講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。

	2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	マクロ経済学、GDP統計、乗数モデル、IS－LM分析、マクロ経済政策、財政政策、金融政策、インフレ・デフレ、失業、経済成長、国際経済学
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。
教科書	入門経済学第4版／伊東元重／日本評論社／ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Aを履修することが望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版／塩澤 修平／有斐閣／ISBN 978-4-641-22004-1：マンキュー入門経済学 第2版／マンキュー／東洋経済新報社／ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(仮題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などの許可します。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	講義では、微分を利用する。 試験形態は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	法学B (FV24F110)
英文科目名	Law B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	民法および契約の基礎について学修する。民法の基本原則と契約の成立要件について学修する。
2 回	契約の主体について学修する。誰が契約を締結することができるのかについて学修する。
3 回	債務不履行について学修する。契約により生じた債務が履行されない場合のルールについて学修する。
4 回	獣医療における医療過誤訴訟について学修する。裁判例をもとに、獣医療における医療過誤訴訟の法律上の問題点について学修する。
5 回	獣医療におけるインフォームド・コンセントについて学修する。インフォームド・コンセントの意義や人に対する医療におけるインフォームド・コンセントとの違いなどについて学修する。
6 回	家族法について学修する。婚姻および離婚の成立要件や相続に関するルールについて学修する。
7 回	刑法の基礎について学修する。罪刑法定主義や違法性阻却事由などの刑法の基本的なルールについて学修する。
8 回	行政法の基礎について学修する。行政作用法および行政救済法の基本的なルールについて学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、民法および契約の基礎に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、契約の主体に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、債務不履行に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、獣医療における医療過誤訴訟に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、獣医療におけるインフォームド・コンセントに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、家族法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、刑法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、行政法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Bで主として取り扱う分野は「民法」と「刑法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 契約に関するルールを説明できるようになること。 ○ 家族法について説明できるようになること。 ○ 刑法の基本原則について説明できるようになること。
キーワード	民法, 刑法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	法学の基礎についての学習は法学Aで行うので、それを履修した後でこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	民法入門（第7版）／川井健／有斐閣／978-4641136250：刑法入門（岩波新書）／山口厚／岩波書店／978-4004311362
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間B (FV24F120)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 現代社会における「教養」の必要性と日本を取り巻く国際情勢を把握することの意義について説明する。
2 回	TPPが与える日本社会への影響について解説する。
3 回	安全保障法制（集団的自衛権）について解説する。
4 回	地球温暖化対策（パリ協定）が抱える諸問題について解説する。
5 回	日本の領土問題について解説する。
6 回	EUがかかえる諸問題、アジアの政治経済について解説する。
7 回	人権とは何か（人権が目指すもの）について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べる（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、「市民性＝社会参画の権利と義務」「社会的責任」をテーマにして議論する。題材は、国際的な視野から安全保障法制、地球環境、領土問題、人権問題等の現在進行形の社会時事問題である。受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、・それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。 教養教育科目の4領域のうちの「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・報道内容をそのまま受け止めるのではなく、自分なりの考えを持って判断できる。 ・国際情勢を踏まえた上で、日本の抱える問題を捉えることができる。 ・問題に対する自分なりの判断を、言葉や文章で表現できること、を目標とする。
キーワード	教養、社会問題、時事、TPP、安全保障、集団的自衛権、地球温暖化、日本の領土、EU、アジア、人権
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80%）と毎授業課題（20%）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。 評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、国際的な視野から論じていること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間A、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語&問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟 4 階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	心理学B (FV24P110)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、および、心理学で取り扱う、感じる-考える-動くとはなにか？そして自分とはなにか？について概説し、今後の講義方針を説明する
2回	感じる-注意/感覚/知覚について、概説する
3回	感じる-感情・情動について、概説する
4回	考える-認知/記憶について、概説する
5回	考える-記憶/思考・推論について、概説する
6回	動く-行動/学習について、概説する
7回	動く-レスポンド条件づけについて、概説する
8回	動く-オペラント条件づけについて、概説する

回数	準備学習
1回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、「自分が抱いた感情/とった行動/浮かんだ考え」について、数例まとめておくこと(180分)
2回	日常生活において、何かを見た/聞いたときの状況について、5W1Hに基づき、数例詳しく記録しておくこと(180分)
3回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな感情をいだいたかについて、数例記録しておくこと(180分)
4回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えについて、数例記録しておくこと(180分)
5回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えに基づき自分がどのような判断あるいは考えに至ったかについて、数例記録しておくこと(180分)
6回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな行動をしたかについて、数例記録しておくこと(180分)
7回	日常生活において、ある対象に好意を持つ、および、ある対象に嫌悪を抱くとき、出来るだけ具体的にその理由となるエピソードを記録しておくこと(180分)
8回	日常生活において、自分あるいは他者の困っている/改善したい状況について、できるだけ具体的に記述および記録しておくこと(180分)

講義目的	心理学とはなにか？心を扱う学問とはなにか？について、感じる-考える-動くという切り口から、やや深く切り込んで概説する。心理学という学問の深淵に触れることで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	感じる-考える-動くという切り口から、心理学についてやや深い知識を理解することで、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	注意、意識、感覚、知覚、認知、行動、学習、記憶、推論、思考、条件づけ、感情、情動、生得的行動、レスポンド、オペラント、行動分析学、随伴性、アフォーダンス
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	キャリア形成講座B (FV24P120)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ディスカッションの進め方について学修する。 (小林 忠資)
2回	第1回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (渡邊 剛央)
3回	第1回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (渡邊 剛央)
4回	第1回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (渡邊 剛央)
5回	第2回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
6回	第2回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
7回	第2回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
8回	これまでの授業の振り返りを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	予習として、ブレインストーミング、KJ法について調べる。(90分) 復習として、ディスカッションの進め方についてまとめる。(90分)
2回	予習として、ディスカッションの進め方を確認しておく。(60分) 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させる。(120分)。

3回	予習として、プレゼンテーションの方法について調べること。(60分) 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
4回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
5回	予習として、前回のディスカッションを踏まえた、ディスカッションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させること。(120分)。
6回	予習として、前回のプレゼンテーションを踏まえた、プレゼンテーションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
7回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
8回	予習として、これまでの授業における自分および他のメンバーの活動を振り返り、良かった点・改善すべき点をまとめてくること。(90分) 復習として、授業の振り返りを通じて、自分の改善点をまとめること。(90分)

講義目的	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の理解および習得とレベルアップを講座の目的とする。講義はアクティブラーニング手法による実践的演習を軸として展開し、個人→ペア→チームといった段階的レベルアップワークの徹底により、即戦力人材となるための能力習得を図る。講義は実社会の現場で日々起こるテーマを題材にし、能力の顕在化と実践的応用力の習得も目的とする。加えて、ビジネス心理学、人口問題等の社会動向、国際感覚、CSRマインドなどの現代テーマも盛り込み、課題解決力を身につけるための知識・技術の習得と自らのキャリアをデザインする力の醸成も行う。
達成目標	○ 社会問題に対する解決策を生み出せるようになること。 ○ 他人と協力して目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成, グループ・ディスカッション

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各回のグループによる発表の評価（比率50％）と個人が提出するレポートの評価（比率50％）を100点満点に換算し、60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座A
参考書	ロジカル・ディスカッションーチーム思考の整理術／堀公俊・加藤彰／日本経済新聞出版社／978-4532490805
連絡先	授業代表：渡邊剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	グループワーク中心なので、積極的にワークに参加することが求められる。また、欠席すると同グループの他のメンバーに迷惑をかけることになり、また、評価も下がることになるので、正当な理由なく欠席しないようにしてほしい。
アクティブ・ラーニング	○ PBL 社会問題を用いた、Pbblem Based Learningを実施する。
課題に対するフィードバック	レポートおよびプレゼンテーションに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編B (FV24Q110)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題①「あなたが自慢できること」について書く。
2 回	課題②「友人から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3 回	課題③「今までで最も努力したこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4 回	課題④「社会人としての責任」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題⑥「男女共同参画社会について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと(30分)。 予習：課題①の概要を準備しておくこと(60分)。 復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
2 回	予習：課題②の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
3 回	予習：課題③の概要を準備しておくこと(90分)。

	復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
４回	予習：課題④の概要を準備しておくこと（９０分）。 復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
５回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（９０分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（９０分）。
６回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
７回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
８回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（９０分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編A、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。

	グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FV24Q120)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) をする。 本授業での自分の目標を発表する。
2 回	ポスター発表に向けてテーマと構成を決める。
3 回	ポスター作成と発表の基本を理解する
4 回	設定したテーマに対するポスターを作成する
5 回	ポスター発表をする
6 回	グループでの口頭発表に向けて準備する
7 回	グループで口頭発表をする
8 回	発表と振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを確認し、本授業での自分の目標を明確にしておくこと (60分)。
2 回	予習として、岡山理科大学獣医学部の魅力を考え、高校生に説明できるようにしておくこと (180分)。
3 回	予習として、ポスターを作成するうえで必要な内容を調査し、まとめておくこと (180分)。
4 回	予習として、グループでポスターを作成しておくこと (60分)。
5 回	予習として、ポスターを完成させ、発表の準備をしておくこと (180分)。
6 回	予習として、設定したテーマに関して調べておくこと (90分)。 復習として、グループで発表に向けたスライド資料を作成しておくこと (240分)。
7 回	予習として、スライド資料を完成させ、発表に向けた準備をしておくこと (180分)。
8 回	復習として、自身のグループ発表と学習プロセスを振り返り、よかった点と改善点をまとめる (180分)。

講義目的	本講義の目標は、高度なプレゼンテーションの技法を学び、学会発表や研究発表等が効果的に行えるようにすることである。より実践的にプレゼンテーションのトレーニングを行う。テーマを決め、プレゼンテーションを作成させ、グループ内での発表とクラス全体での発表を組みあわせ、発表の機会を増やす。友人の発表を批判的に見ることで、そこでの気づきを自分のプレゼンテーションに反映させる。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	①特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる ②自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる ③聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	ポスター発表 (40%)、グループでの口頭発表 (40%)、最終レポート (20%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Aを履修しておくことが望ましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp

	TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマに関してグループで発表する ディスカッション 発表に向けてグループで議論する
課題に対するフィードバック	グループ発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 グループ発表に対して、学生同士でコメントを書き、ピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション応用編B (FV24U210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、自己PRのためのプレゼンテーションの方法を説明する。
2回	自身の関心のある職域についての発表資料を作成する。
3回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
4回	探究型テーマの発表の方法を理解する。
5回	発表の内容を検討する。
6回	発表資料を作成する。
7回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
3回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
4回	自身の関心のテーマについて調べ、問いを10個以上作っておくこと (180分)。
5回	予習として、発表資料を作成するための情報を収集し、整理しておくこと (180分)。
6回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
7回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力を深めることをめざす。具体的には、受講生全体でのディスカッションとディベート、あるいはグループ単位でのディスカッションを通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識を確認する。またその応用事例として、クレームの発生と対応、企業研究、エントリーシートと面接、採用試験の実例等を取り上げながら、受講生が行う演習によって理解度と習熟度を評価し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (20%)、中間発表 (40%)、最終発表 (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編B、プレゼンテーション応用編Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為 (私語、立ち歩く等) はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにして下さい。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。

	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法応用編B (FV24V210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートの文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題①「学生生活で得たこと」について文章を作成する。
2回	課題②「あなたが挑戦したいこと」について文章を作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題②を修正するポイントを指導する。
3回	課題③「失敗から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題③を修正するポイントを指導する。
4回	課題④「地球温暖化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題④を修正するポイントを指導する。
5回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6回	課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」(2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7回	課題⑥「地域社会と外国人について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと(30分)。 予習：課題①の概要を準備しておくこと(60分)。 復習：課題①について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
2回	予習：課題②の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題②について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
3回	予習：課題③の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題③について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
4回	予習：課題④の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題④について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
5回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること(90分)。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること(90分)。
6回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題⑤について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
7回	予習：課題⑥について調べ、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題⑥について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
8回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと(90分)。

講義目的	本講義では文章表現の応用として、就職活動で必要となる文章スキルを確認するとともに、一般社会で求められる文章表現の常識を身につけることをめざす。具体的には、履歴書やエントリーシートについて基本的な注意点や表現のポイントを解説した上で、インクを使った手書きによる作成に取り組むほか、広告文の作成を通じて課題の理解と状況の分析を踏まえたコミュニケーション力を養う。また社会人として必要となるビジネスレターや挨拶状、契約書、企画書といった、さまざまな文章実務の実例も取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・履歴書やエントリーシートを作成する上で、それぞれの記入項目が何を求めているのか(意図)を正確に把握し、意図に沿った内容を表現できる。 ・小論文等の課題内容を正確に理解した上で、自分の考えをより魅力的に伝えることができる。 ・自身の考えの根拠を具体的に示した上で、より説得力のある文章を作成できる。 ・レポート、小論文、エントリーシート等の文章について

	、より豊かな表現力を用いて説得力のある文章を作成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題（60%）と最終評価試験（40%）を合計100点とし、60点以上を合格とする。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版／井下千以子／慶應義塾大学出版会／978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	企業と人間B (FV24W120)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	八木力俊* (やぎりきとし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション～日本的経営の「三種の神器」とそれと関連した雇用慣行（新規学卒採用と企業内教育）について概説する
2回	キャリア形成1：日本の企業の従業員採用慣行（「就職」）について、「就社」という概念も活用し、説明する
3回	キャリア形成2：「年功制」、「終身雇用」、「内部労働市場」を説明し、賃金制度、昇進制度の視点から、働き方の変化を講述する
4回	キャリア形成3：「コンプライアンス」と「CSR(企業の社会的責任)」を説明し、企業がどのような努力をしているのか紹介する
5回	キャリア形成4：「ワークライフバランス」「タイムマネジメント」を説明し、企業内労働について論述する
6回	キャリア形成5：企業内キャリアを構築する上で間接的作用を果たしている配置転換、ジョブ・ローテーション/エンリッチメント、企業内等級制度などの人材管理・開発施策について説明する
7回	キャリア形成6：従業員教育（企業内教育）のシステムとOJT, OFF-JTをテーマに論述する。マネジメント育成の「カットモデル」についても解説する
8回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	「日本的経営」と用語について適切な媒体を通して調べておくこと。（平均学習時間約60分）
2回	就職活動のプロセスやエントリーシートについて事前に調べてくること（平均学習時間約60分）
3回	父母、きょうだいから「年功制」について、ヒアリングをしておくこと（平均学習時間約60分）
4回	過去の企業のコンプライアンス違反事例をネット等から調べてくること（平均学習時間約30分）
5回	自身の1日のタイムスケジュールについて表にしておくこと（平均学習時間約30分）
6回	近親者から、配置転換の経験を取材しておくこと（平均学習時間約60分）
7回	「OJT」、「OFF-JT」の違いについて事前に調べてくること（平均学習時間約60分）
8回	講義ノートの再整理、参考文献の主内容をノートに書き取っておき、試験に備えること。また、理解に至らなかった点について質問できるようメモをしておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力の習得を促す。また、「経営とは何か」「組織マネジメントの意味」を具体的に理解させることにより、日本のリーディング企業の経営戦略を理解させ「良い会社とは何か」を考えさせる。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業・職業生活の人間形成作用や、キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であることを理解できるようにすること
キーワード	キャリア形成、労働市場、企業内教育、人間関係
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する。 ・達成目標である、「職業生活の人間形成作用」や、「キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であること」への理解度を確認する。 ・100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	日本国憲法 (FV25B110)
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	憲法の基本について学修する。まず、そもそも憲法とはいかなる法なのか、憲法は何のために存在するのかについて学修する。そのうえで、立憲主義を支える思想である法の支配について学修する。そして、現在の憲法がどのようにして成立したのかについて学修する。
2 回	国民主権原理と天皇制について学修する。日本国憲法の基本原理の1つである国民主権とは何かを学修する。そして、その国民主権のもとでの天皇制のあり方について学修する。
3 回	人権の意味と限界について学修する。まず、人権とは何か、人権はどのように分類されるのかについて学修する。そして、人権の限界について学修する。
4 回	法の下での平等について学修する。まず、法の下での平等の意味について学修する。そのうえで、判例を題材として、合理的別扱いと不合理な差別との違いについて学修する。
5 回	精神的自由権のうち、内心における精神活動の自由について学修する。思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由の具体的な内容とその限界について学修する。
6 回	精神的自由権のうち、外部的な精神活動である表現の自由の意味および内容について学修する。表現の自由を保障する価値や、表現の自由の具体的内容について学修する。
7 回	精神的自由権のうち、外部的な精神活動である表現の自由の限界および集会・結社の自由、通信の秘密について学修する。表現の自由を制限する法律の違憲審査基準について学修する。そして、集会・結社の自由および通信の秘密の内容および限界について学修する。
8 回	経済的自由権について学修する。職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の具体的内容および限界について学修する。
9 回	人身の自由について学修する。基本となる適正手続の保障、被疑者の権利および被告人の権利の具体的内容について学修する。
1 0 回	国務請求権および参政権について学修する。国務請求権に含まれる具体的な権利の内容、選挙権の法的性格、選挙の原則について学修する。
1 1 回	社会権について学修する。基本となる生存権の法的性格、教育を受ける権利および労働基本権の内容について学修する。
1 2 回	新しい人権について学修する。プライバシー権のように憲法に明記されていながら権利が保障されるのかについて学修する。
1 3 回	人権享有主体性について学修する。法人や外国人にも人権が保障されるのかについて学修する。
1 4 回	特別な法律関係について学修する。刑事施設収容者や公務員など、一般の国民とは異なる人権制約を受ける者について、そうした特別の制約を受ける根拠や制約の具体的内容について学修する。
1 5 回	人権規定の私人間効力について学修する。人権規定が、会社と従業員というような私人間においても効力を有するかどうかについて学修する。

回数	準備学習
----	------

1 回	予習として、芦部『憲法』の第1章および第2章（3-34頁）を読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、憲法の基本に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
2 回	予習として、芦部『憲法』の第3章および第4章（35-53頁）を読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 普及として、国民主権原理および天皇制に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
3 回	予習として、芦部『憲法』の第5章一～三（75-87頁）を読み、キーワードとその意味をまとめてくること。また、芦部『憲法』第6章一（98-106頁）を読み、公共の福祉の意味に関する学説の内容をまとめてくること。（90分） 復習として、人権の意味と限界に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
4 回	予習として、芦部『憲法』第7章二（127-148頁）を読み、法の下の平等の意味についてまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例において、何が問題となったのかをまとめてくること。（90分） 復習として、法の下の平等に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
5 回	予習として、芦部『憲法』第8章（149-174頁）を読み、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由の具体的内容についてまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。（90分） 復習として、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
6 回	予習として、芦部『憲法』第9章一および二（175-193頁）を読み、キーワードとその意味をまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。（90分） 復習として、表現の自由の意味および内容に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
7 回	予習として、芦部『憲法』第9章三（193-213頁）を読み、各違憲審査基準の内容をまとめてくること。また、そこに掲載されている判例において、何が問題となったのかをまとめてくること。さらに、芦部『憲法』第9章四（213-223頁）を読み、キーワードとその意味をまとめてくること。（90分） 復習として、表現の自由の限界および集会・結社の自由に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
8 回	予習として、芦部『憲法』第10章（224-241頁）を読み、職業選択の自由の規制の合憲性の判定基準、居住・移転の自由の具体的内容、財産権保障の意味、財産権保障の意味、財産権の制限と補償の要否についてまとめること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。（90分） 復習として、経済的自由権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
9 回	予習として、芦部『憲法』第11章（242-255頁）を読み、適正手続の保障の内容、被疑者および被告人の具体的な権利の意味についてまとめること。（90分） 復習として、人身の自由に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
10 回	予習として、芦部『憲法』第12章（256-266頁）を読み、国務請求権に含まれる具体的な権利の意味についてまとめること。また、選挙の各原則の意味についてまとめること。（90分） 復習として、国務請求権および参政権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
11 回	予習として、芦部『憲法』第13章（267-283頁）を読み、生存権の法的性格、学習権の意味、教育権の所在に関する学説、労働基本権の具体的内容および法的性格についてまとめること。また、朝日訴訟、旭川学テ事件において、何が問題となったのかをまとめてくること。（90分） 復習として、社会権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
12 回	予習として、芦部『憲法』第7章一（119-127頁）を読み、キーワードとその意味をまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。（90分） 復習として、新しい人権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
13 回	予習として、芦部『憲法』第5章四（87-97頁）を読み、法人および外国人に対して、保障される人権、逆に、保障されない人権をまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、

	何が問題となったのかをまとめてくること。(90分) 復習として、人権享有主体性に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
14回	予習として、芦部『憲法』第6章二(106-110頁)および第13章三3-4(278-283頁)を読み、公務員および刑事施設収容者がどのような人権について特別な制約を受けるのかをまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。 復習として、特別な法律関係における人権に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
15回	予習として、芦部『憲法』第6章三(110-118頁)を読み、人権規定の私人間効力に関する学説をまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。(90分) 復習として、人権規定の私人間効力に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	憲法は、その国のあり方を示し、また国家と国民の関係を規律する国家の基本法であり、最高法規である。それでは日本国憲法は、いかなる理念と根本原理に基づいて成立しているのだろうか。またいかなる基本的人権が保障されており、それらの制限・侵害が問題とされた場合、どのように救済されるのだろうか。このような日本国憲法に関する基本的事項を習得しておくことはある意味、この国で生活する者にとっての責務であるともいえるのである。この講義では具体的事件に関わる判例を適宜取り上げ、主に基本的人権と違憲審査制に焦点を当てて、日本国憲法の法理を考察する教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 憲法の目的について説明できるようになること。 ○ 人権とは何かについて説明できるようになること。 ○ 人権の限界について説明できるようになること。 ○ 具体的人権の保障内容について説明できるようになること。 ○ 違憲審査制について説明できるようになること。 ○ 人権制約の可否について判例を踏まえて説明できるようになること。
キーワード	憲法、国民主権、人権
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業時間中に実施する試験(20点満点)と授業時間外に作成して提出するレポート(80点満点)により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	憲法(第6版)/芦部信喜/岩波書店/978-4000227995
関連科目	法学に関する基礎知識については法学Aで学修するので、法学を初めて学ぶ学生は法学Aを同時に履修することが望ましい。また、この授業では憲法の人権問題を扱うので、憲法の統治に関する問題について学修したい学生は、法学Aを履修すること。
参考書	憲法判例百選Ⅰ(第6版)/長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿(編)/有斐閣/978-4641115170: 憲法判例百選Ⅱ(第6版)/長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿(編)/有斐閣/978-4641115187: 憲法Ⅰ(第5版)/野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利/有斐閣/978-4641131187
連絡先	研究室: 獣医学教育病院4階423研究室 オフィスアワー: 火曜2限 メールアドレス: t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号: 0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習

グ	毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	生涯スポーツ (FV25P110)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	高橋正行＊ (たかはしまさゆき＊)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目・目的・受講の心得、施設・設備の利用方法と留意事項について説明する。)
2 回	バドミントンの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
3 回	バドミントンのシングルのルール説明を行った後、班に分かれてゲームをする。
4 回	バドミントンのダブルスのルール説明を行った後、班に分かれてゲームをする。
5 回	バレーボールの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
6 回	バレーボールのルール説明を行った後、基本練習をする。
7 回	バレーボールの基本練習を行った後、班に分かれてゲームをする。
8 回	アーチェリーの用具の準備と片付けの仕方、安全面の説明を行った後、基本技術の練習をする。
9 回	アーチェリーのルール説明を行った後、基本技術の練習をする。
1 0 回	アーチェリーの基本練習の後記録をとる。
1 1 回	アーチェリーの基本練習の後記録をとる。
1 2 回	ゴルフの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
1 3 回	ゴルフのルール、エチケット、マナーの説明を行った後、基本技術の練習をする。
1 4 回	ゴルフコースの説明とラウンドのルール、マナーについて確認の後、技術練習をする。
1 5 回	ゴルフコースを回ってスコアをつける。 講義全体の振り返りとまとめ

回数	準備学習
1 回	規則正しい生活 (十分な睡眠と食事の摂取) を心がけ、体調を整えて授業に参加すること。
2 回	サービス、クリア、ドロップ、スマッシュなどの基本的なことについて理解しておくこと。
3 回	個人技術を高めるとともにシングルの試合方法を理解しておくこと。
4 回	個人技術を高めるとともにダブルスの試合方法を理解しておくこと。
5 回	パス、サーブの基本的な種類を理解しておくこと。
6 回	6 人制のルールを理解しておくこと。
7 回	基本技術とコミュニケーションを生かした展開を心がけること。
8 回	アーチェリーについて道具や競技を理解してくること。
9 回	個人技術を高めるために、基本を復習してくること。
1 0 回	基射形を相互にアドバイスできるようポイントを復習してくること。
1 1 回	高得点が出るよう学んだことを復習しておくこと。
1 2 回	ゴルフ用具 (クラブ) やゴルフ用語を理解しておくこと。
1 3 回	特にエチケット、マナーについては十分理解しておくこと。
1 4 回	安全面、ルール、マナーについて復習しておくこと。
1 5 回	グループで注意すべき事やルールを理解しておくこと。

講義目的	人生の各ライフステージにおいて、それぞれの立場や技術に応じたスポーツ活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努めることのできる態度や能力を養う。内容として、①スポーツ文化を通じて異文化理解を深める②各種目のルールを理解し、ゲームの進行や運営に協同して主体的に関わる③スポーツ傷害の予防と基礎的なメディカルチェックの実践④スポーツの楽しみ方 (スポーツ実践、スポーツ支援、観戦、スポーツ情報の獲得) を行う。 (単位認定の方針Dに強く関与する)
達成目標	健康的な生活を送るために、スポーツを実践することによって健康・体力の保持増進を図るための方法を学習する。 1. スポーツ活動に積極的に参加し、生涯にわたってスポーツを楽しむ基礎知識を習得する。 2. スポーツを実践することによって、ルール・エチケット・マナー等を習得する。 3. 各スポーツに必要な運動技能の習得に努めることができる。 4. 仲間とコミュニケーションを図り、班内における役割を果たすことができる。
キーワード	球技、対人競技、個人競技、体力、健康、コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	実習に取り組む姿勢や実技能力など50%、実習期間中に記入する授業記録50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。プリント等を配布する。
関連科目	健康の科学
参考書	適宜紹介する。

連絡先	授業終了後に実施場所で質問を受け付ける。
授業の運営方針	健康な学生生活と生涯スポーツにつながる授業を展開する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	活動状況や技術習得と各種目の修了ごとにレポートを提出し評価とする。。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	諸般の事情（天候や施設など）により各回の授業内容が変更になる場合がある。

科目名	健康の科学 (FV26P110)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	高橋正行＊ (たかはしまさゆき＊)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康と科学 講義の概要説明、健康の考え方を説明する。
2 回	健康な大学生活を送るための食生活を説明する。
3 回	健康なからだづくりの基本について説明する。
4 回	バランスのとれた食事と太りにくい食べ方のこつについて説明する。
5 回	生活習慣病について説明する。
6 回	健康的に体重を減らす、増やすについて説明する。
7 回	運動の重要性について説明する。
8 回	水分補給の大切さ・熱中症の原因と対策について説明する。
9 回	健康と睡眠について説明する。
1 0 回	充実した学生生活を送るためのメンタルヘルスについて説明する。
1 1 回	東京オリンピックの様々な効果について説明する。
1 2 回	生涯スポーツの意義について説明する。
1 3 回	サイクリングと健康について説明する。
1 4 回	健康的な学生生活について説明する。
1 5 回	講義の振り返りとまとめをする。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義内容を把握し、健康について考えておくこと。
2 回	今後の食生活について考えておくこと。
3 回	からだづくりについて自分の健康観を考えておくこと。
4 回	食生活の見直しをしてみること。
5 回	ライフスタイルがキーポイントになることを理解しておくこと。
6 回	体重と健康の関係について調べておくこと。
7 回	体重の変化を調べてみること。
8 回	日常生活の中での水分補給の重要性を調べてみること。
9 回	眠りの質について調べてみること。
1 0 回	ストレスとストレスマネジメントについて調べてみること。
1 1 回	東京オリンピックについていろんな角度からメリットやデメリットを調べてみること。
1 2 回	生涯スポーツと健康の関連について調べてみること。
1 3 回	今治がなぜサイクリングの聖地と言われるのか調べてみること。
1 4 回	春からの学生生活を振り返ってみること。
1 5 回	ノートを整理しておくこと。
1 6 回	1～1 5 までの内容をよく理解して整理しておくこと

講義目的	健康の要素として、「心（精神）」「身体」「社会との関わり」があげられ、それぞれ密接な関係をもっている。これらの基礎的な知識や実践力を身につけて、生涯を通じて健康の保持・増進に関わる態度や能力を養う。授業内容は、健康の考え方、現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康、スポーツの歴史と文化、スポーツと現代社会、運動と体力、スポーツと生活について考察し、生涯にわたるヘルスプロモーション能力を養う。 (単位認定の方針Dに強く関与する)
達成目標	身体的にも精神的にも社会的にも良好で生き生きとした状態を積極的に得るために、ライフステージからみた健康と運動についての基礎的な知識を習得する。 1 健康を支える基礎的な知識を習得する。 2 身体運動についての理解を深め、健康における運動の重要性を理解する。 3 学生としての健康と自分の住む街について理解を深める。
キーワード	健康、運動
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	課題レポート、活動状況 (レポート発表) で評価する。採点の基準は6 0 点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。プリント等を使用。
関連科目	生涯スポーツ

参考書	適宜紹介する
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	健康な学生生活を送るための健康生活について毎日の生活を振り返りながら見直していく。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題についてレポーを提出する。次回の授業で評価したレポートを紹介し発表する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	化学 (FVP1A110)
英文科目名	Basic Chemistry
担当教員名	俵修一 (たわらしゅういち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクションとして、化学とはどのような学問か、どのような項目を扱い何を目的としているのか、授業の概要と計画について説明する。続いて、化学を学ぶ上ですべての基礎となる原子の構造、電子の軌道と量子数、軌道への電子配置と元素の性質の周期性、電子対の共有と化学結合、酸と塩基について学習し、有機化学の基礎となる概念を理解する。
2 回	有機化合物の性質や反応を理解する上で重要な官能基について学ぶ。次に、鎖状の飽和炭化水素であるアルカンの構造、性質、命名法などについて学び、有機化合物とは何か、その基本を理解する。また、不飽和炭化水素の一種であるアルケンの構造および付加反応、脱離反応、置換反応などの代表的な化学反応を学び、有機反応の性質を理解する。
3 回	芳香を持つ化合物に共通の構造である不飽和の環状構造を有する化合物は芳香族化合物と呼ばれ、生体を構成する分子、薬品化学においても重要な化合物である。芳香族化合物について学び、その構造と性質、代表的反応を理解する。 有機化合物を構成する炭素原子は4つの共有結合を形成し得るため、炭素原子に結合している側鎖が全く同じであっても、ちょうど互いの鏡像のように3次元構造が異なる化合物が存在する。立体異性体とその命名法を学び、立体的な構造の違いが化合物の活性や物性に大きな影響を及ぼすことを理解する。
4 回	ヒドロキシ基 (OH)、カルボニル基 (C=O) を含む有機化合物はそれぞれアルコール/フェノール、アルデヒド/ケトンと呼ばれる。それらの反応は、生体内の代謝、薬物代謝、薬品化学において極めて重要である。これらの化合物について学び、その構造と性質、代表的な反応を理解する。
5 回	カルボキシル基 (COOH) を有するカルボン酸とその誘導体は、非常に多くの生体内経路に含まれると共に、薬品化学においても重要な化合物群である。したがって、それらの基本的性質や化学的挙動を理解することは生命科学の基礎を理解する上でも重要である。カルボン酸とその誘導体について学び、それらの構造、性質、代表的な反応を理解する。
6 回	カルボニル化合物の反応のうち、炭素-炭素結合の形成を可能にする反応など生体内経路及び薬品化学においても重要な、4, 5回目の授業で取り上げなかった基本的な反応について学び、それらの反応機構を理解する。 アンモニア (NH ₃) の水素原子を炭化水素基または芳香環で置換した化合物はアミンと総称される。アミンは塩基としての性質を持ち、そのさまざまな反応は生体内の代謝、薬物代謝、薬品化学において重要である。アミンについて学び、その構造、性質、代表的な反応を理解する。
7 回	有機化合物の構造を決定することは、化学反応の生成物や生体から単離した物質が何であるかを明らかにする上で必須である。有機化合物の構造決定のための代表的な方法として、分光法、質量分析、核磁気共鳴法について学び、その原理と構造決定における応用法を理解する。
8 回	獣医学、獣医看護学において重要な生体構成分子、生体内代謝などにおいて重要な有機物質を取り上げて説明する。生体を構成する代表的な分子である炭水化物、アミノ酸、脂質、核酸について学び、その構造と性質、主な生体内での反応を理解する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、化学とはどのような学問か、何を扱うのか、また、授業の目的・目標・運営方針・成績評価などについて概要を掴んでおくこと。 復習：第1回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第1章を読み返して、電子の軌道と配置、化学結合、酸と塩基などについて復習し整理しておくこと。 予習：第2回授業までに教科書第2章、第3章に目を通し、アルカン、アルケンの性質、反応、命名法などについて予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
2 回	復習：第2回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第2章、第3章を読み返して、授業で取り上げたアルカン、アルケンの構造、性質、反応、有機化合物の命名法などについて復習し整理しておくこと。 第3回授業までに教科書第5章、第6章を読んで、芳香族化合物の構造、性質、反応、有機化合物の立体構造と異性体などについて予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	復習：第3回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第5章、第6章を読み返して、授業で取り上げた芳香族化合物の構造、性質、代表的な反応、立体化学などについて復習し整理しておくこと。

	第4回授業までに教科書第8章、第9章を読んで、アルコール/フェノール、アルデヒド/ケトンの性質、化学的挙動などについて予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
4回	復習：第4回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第8章、第9章を読み返して、授業で取り上げたアルコール/フェノール、アルデヒド/ケトンの構造、性質、反応などについて復習し整理しておくこと。 第5回授業までに教科書第10章を読んで、カルボン酸とその誘導体の構造、性質、反応について予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
5回	復習：第5回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第10章を読み返して、授業で取り上げたカルボン酸とその誘導体の構造、性質、代表的な反応などについて復習し整理しておくこと。 教科書第11章、第12章を読んでカルボニル化合物の反応、アミンの性質、化学的挙動について予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	復習：第6回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第11章、第12章を読み返して、授業で取り上げたカルボニル化合物の反応、アミンの構造、性質、代表的な反応について復習し整理しておくこと。 第7回授業までに教科書第13章を読んで、有機化合物の構造を決定するための方法と原理について予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	復習：第7回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第13章を読み返して、有機化合物の構造を決定するための方法と原理について復習し整理しておくこと。 第8回授業までに教科書第14章、第15章、第16章を読んで、生体を構成する分子の構造、性質、反応について予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	復習：第8回授業内容に関する課題に取り組み、課題ノートに解答・考察をまとめておくこと。分かりづらかった内容があれば、教科書第14章、第15章、第16章を読み返して、生体を構成する分子の構造、性質、反応について復習し整理しておくこと。 また、第1回から第7回までの課題を振り返り、分かりづらかった内容を中心に再度復習しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	化学とは、さまざまな物質の構造・性質および変化、物質相互の反応に関する学問である。言い換えると、物質が何から出来てどんな構造をしているか、どんな特徴や性質を持っているか、相互作用や反応によってどのように変化するかを扱う学問である。基礎獣医学および獣医療を学ぶ上で生体分子や医薬品などに関する知識が必須となるが、それらを理解し身に付けるためにはそれらの元となる物質の構造や性質、反応を理解していることが必要である。その意味で、化学は基礎獣医学および獣医療において必要不可欠の基礎学問である。 本授業では、まず物質の基本要素である元素と周期律、分子を形成する化学結合について学ぶことで化学の基礎的な知識を修得する。次に炭化水素化合物を中心に有機化合物の性質、構造および立体化学、有機反応について学び、さらに、生物学あるいは薬品化学において重要な有機化合物群の性質や構造、反応について学んだ後、有機化合物の構造決定のための技術と原理、生体に関連する有機物質について学ぶことで、獣医学領域において必要となる有機化学の基礎的な知識を修得する。 (獣医学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する)
達成目標	① 原子の構造、量子数と軌道、そこから導かれる電子の軌道配置によって、各元素の性質が決まり周期性が生まれることを説明できる。(A) ② 炭素を中心に構成される有機化合物について、炭化水素の構造、性質、命名法、基本的反応、幾何異性体などについて説明できる。(A) ③ 有機化合物には3次元構造の異なる立体異性体が存在すること、立体構造の違いにより化合物の性質が大きく異なることを具体的に説明できる。(A) ④ 生物学および薬品化学において重要な有機化合物にはどのようなものがあるか、またその構造、性質、反応はどのようなものかについて説明できる。(A) ⑤ 有機化合物の構造を解析するための方法と原理、それらを用いてどのような解析ができるかについて説明できる。(A) ⑥ 生体を構成する代表的な分子である炭水化物、アミノ酸、脂質、核酸の構造と性質、主な生体内での反応を説明できる。(A) ⑦ 問題演習に取り組み、自ら考え自らの言葉で解答をまとめることができる。(A)

キーワード	元素と周期律、電子の軌道配置、化学結合、有機化合物、立体化学、化学反応、アルコール/アルデヒド/カルボン酸、構造決定、生体高分子
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は、 ・課題ノート（中間（第4回授業終了後）と最後（第8回授業終了後）に提出、評価割合50%）（到達目標①から⑦を確認） ・最終評価試験（評価割合50%）（到達目標①から⑥を確認） により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	マクマリー 有機化学概説 第7版／John McMurry／東京化学同人/ISBN 978-4-8079-0927-8 マクマリー 有機化学概説 問題の解き方 第7版 英語版／Susan McMurry／東京化学同人/ISBN 978-4-8079-0928-5
関連科目	高等学校で、「化学」を履修していることが望ましい。 生命科学、生物物理学、獣医生化学、獣医分子生物学を合わせて受講することが望ましい。
参考書	マクマリー 有機化学（上） 第9版／John McMurry／東京化学同人/ISBN 978-4-8079-0912-4 マクマリー 有機化学（中） 第9版／John McMurry／東京化学同人/ISBN 978-4-8079-0913-1 マクマリー 有機化学（下） 第9版／John McMurry／東京化学同人/ISBN 978-4-8079-0914-8
連絡先	研究室：獣医学部棟（A2）6階 633室 直通電話：0898-52-9135 E-mail：s-tawara@vet.ous.ac.jp オフィスアワー：月曜日2時限
授業の運営方針	・予習、復習を前提として授業を行う。教科書、講義資料をよく読んで学習すること。 ・暗記ではなく自ら考えることを重視する。したがって、毎回の授業後に教科書中の問題あるいは各章末の練習問題の中から重要と思われる問題を課題として課す。 ・「課題ノート」を作り、毎回の課題を自分の頭で考え、自分の言葉でしっかりと解答をまとめること。「課題ノート」にコピー、丸写しなどがある場合は、成績評価対象外とする場合もあるので、絶対に行わないこと。 ・講義資料はMomo-campus（ポータルサイト）を通じて配布する。 ・最終評価試験は毎回の課題を中心に出题する。不正行為に対して厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	演習、質問 ・授業中あるいは授業終了時に振り返りの時間を設け、質疑応答を行う。 ・復習として、問題演習により能動的な学修を行う。
課題に対するフィードバック	・毎回の授業終了後に課す課題については、模範解答（解答とその回答に至る考え方）をMomo-campus（ポータルサイト）を通じて配布する。 ・最終評価試験については、採点結果、解答と解説を記入した問題用紙を返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画は個人の学習に利用する場合に限り許可する。他者への配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元アステラス製薬（株）研究本部勤務： 製薬企業での創薬研究、新薬開発の経験を活かして、医薬品の創生や生命科学分野における有機化学の重要性について講義の中で説明する。
その他（注意・備考）	

科目名	動物薬理学総論（FVP1A210）
英文科目名	General Veterinary Nurse Pharmacology
担当教員名	尾崎博（おざきひろし）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	薬理学とはどのような学問か、何を扱い、何を目的としているか、そして薬理作用とは何かを説明する（イントロダクション）。また、薬理作用を理解する上で必要な細胞内情報伝達系についても説明する。
2回	薬理作用が現れるしくみについてさらに説明するとともに、その強さを規定する因子、持続時間に影響する要因などについて説明する。
3回	薬の体内動態の概要を説明した上で、薬の有害作用について具体例を挙げながら説明する。（薬物体内動態の主要部分は毒性学で学ぶ）
4回	医薬品を適正に使用するために必要な医薬品情報、医薬品の残留に関する基礎知識を説明する。また、医薬品開発の手法を説明するとともに、開発過程で必要とされる動物実験の基本姿勢や倫理についての説明も行う。（詳細はアドバンスト科目「創薬科学」で学習する）
5回	自律神経系（末梢神経系）について、臓器ごとに神経伝達物質、受容体、神経興奮にともなう作用の現れ方を説明する。これを理解した上で、自律神経系に作用する薬について、臨床応用を考慮しながら説明する。
6回	全身麻酔薬、鎮静薬、精神安定薬、鎮痛薬などの中枢神経系に作用する薬について説明する。動物行動に影響を与える薬についてもここで触れる。
7回	中距離型の情報伝達物質といわれるオータコイドについて説明する。病態との関連、刺激薬・拮抗薬の医薬品としての応用について説明する。
8回	中距離型の情報伝達物質といわれるオータコイドについて、上記（第7回）の内容を引き続き説明する。

回数	準備学習
1回	薬理学の全体構成がどのような様になっているかを、教科書の全ページを俯瞰しながら復習すること。また、細胞内情報伝達系に関して、生理学・生化学の教科書も参考にしつつ復習すること。 第2回授業までに、薬理作用を規定する因子について予習を行うこと。 （準備学習所要時間120分）
2回	臨床薬理学テキストを参照し、異なる投与経路で用いられる薬物をピックアップし、その意味を考察すること。 第3回授業までに、薬物体内動態の概要について予習を行うこと。 （準備学習所要時間120分）
3回	薬の有害作用がなぜ発現するかを、ホメオスタシスの乱れという観点から整理し、復習すること。 第4回授業までに、医薬品の情報収集に関して、動物医薬品検査所の「動物用医薬品等データベース・副作用情報データベース http://www.maff.go.jp/nval/ 」にアクセスし、内容を体験しておくこと。 （準備学習所要時間120分）
4回	医薬品開発のプロセスを整理し、獣医学が果たせる役割を整理しておくこと。 第5回授業までに、神経伝達のメカニズムと自律神経系の概要について、生理学の教科書で予習すること。 （準備学習所要時間120分）
5回	自律神経系作動薬ならびに拮抗薬について、記憶すべきものを表として整理しておくこと。 第6回授業までに、神経興奮と抑制のメカニズムについて予習しておくこと。 （準備学習所要時間120分）
6回	麻酔学のテキストを参照し、麻酔薬と鎮痛薬の臨床における使用例を参照しておくこと。 第7回授業までに、オータコイドと病態の関係について予習しておくこと。 （準備学習所要時間120分）
7回	炎症病態の生理を復習し、そこにどのようなオータコイドがどのように関与しているかを整理しておくこと。さらに、どのような薬が治療のために用いられているかを列記してみることに。 （準備学習所要時間120分）
8回	炎症病態の生理を復習し、そこにどのようなオータコイドがどのように関与しているかを整理しておくこと。さらに、どのような薬が治療のために用いられているかを列記してみることに。 （準備学習所要時間120分）

講義目的	薬理学とは、薬と生体との相互作用を研究する学問であり、薬を臨床現場で有効にかつ安全に使うために不可欠な学問である。動物看護師にとって、クライアントに薬の説明を行う機会は多く、そ
------	--

	の基本を学ぶことは重要である。 高等動物は機能の恒常性を維持するために様々な調節機能を有している。病気はその調節機能の障害あるいは破綻の結果もたらされた状態だが、薬はその機能を増強あるいは抑制することで、もとのバランスへと回復させ病気を治癒へと導く。本講義では、獣医看護学が対象とする薬の作用の過程を理解するために、対象疾患の成り立ち、その代表的な治療薬の作用の現れ方、作用機序および体内での運命に関する基礎知識を修得する。獣医保健看護学科学位授与の方針Aに最も強く関与する。
達成目標	①作用点に達した薬が作用を現す基本的なしくみおよび薬理作用の強さに関する基礎知識を修得する。 ②生体内における薬の動きとそれに関与する要因に関する基礎知識を修得する。 ③薬の有害作用に関する基礎知識を修得する。 ④医薬品を適正に使用するために必要な医薬品情報を理解し、正しく取扱うことができるようになるために、医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理および医薬品の残留に関する基礎知識を修得する。 ⑤末梢神経系を分類し、臓器ごとに神経伝達物質、受容体（レセプター）、神経興奮にともなう作用の現れ方を理解する。 ⑥全身麻酔薬、鎮静薬、精神安定薬、中枢神経興奮薬、抗痙攣薬、鎮痛薬について、それぞれの作用部位における神経伝達物質、受容体、神経興奮にともなう支配部位での作用の現れ方を理解する。 ⑦代表的なオータコイド（中距離型情報伝達物質）とその受容体を列挙し、受容体が興奮した時の作用の現れ方を理解する。
キーワード	薬、細胞内情報伝達系、体内動態、有害作用、神経と神経伝達物質、オータコイド
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業の冒頭に行う小テストの結果30%、最終評価試験70%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	獣医学教育モデルコア・カリキュラム準拠 獣医薬理学／日本比較薬理学・毒性学会編／近代出版／ISBN978-4-87402-190-3
関連科目	動物生理学、毒性学
参考書	小動物の薬物治療学／尾崎博、浅井史敏、辻本元編／オーム社／ISBN：978-4-274-50310-8
連絡先	A-2 6F 631研究室 直通電話：0898-52-9132 e-mail: h-ozaki@vet.ous.ac.jp オフィスアワー：月曜昼休み
授業の運営方針	毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 教科書と配付資料を中心に授業を実施する。
アクティブ・ラーニング	授業中に質疑応答を行う。
課題に対するフィードバック	試験の解答と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	バイオセーフティ学 (FVP1B210)
英文科目名	Biosafety
担当教員名	森川茂（もりかわしげる）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	バイオセーフティとバイオリスク管理の概要：病原体を扱う上で必要なバイオセーフティとバイオセキュリティからなるバイオリスク管理を説明する。
2回	バイオテロ：病原体の悪用によるバイオテロについて、病原体、その取り扱い、事件概要等の実際について説明する。
3回	病原体の誤利用による事故：病原体取り扱いの誤りによる事故について、病原体、その取扱い、事故概要等の実際について説明する。
4回	バイオセーフティ（1）：病原体封じ込めに必要なバイオセーフティの施設と設備のハード面について説明する。
5回	バイオセーフティ（2）：病原体封じ込めに必要なバイオセーフティの手技、管理、教育訓練等のソフト面について説明する。
6回	バイオセキュリティ：病原体の紛失、盗取に備えた対策について説明する。
7回	世界と日本のバイオリスク管理規制（1）：バイオリスク管理の基本となるWHOガイドライン、各国及び日本の規制状況について説明する。
8回	世界と日本のバイオリスク管理規制（2）：日本の感染症法等で課せられる具体的な義務、ガイドライン等で科学者に課せられる規範について説明する。 後半、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書（必携バイオセーフティ指針（医歯薬出版））並びに事前配布する参考資料で予習すること。 感染性マニュアル2018（東京都）の総論（ http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kansen/kansen-manual_2018.files/general_remarks.pdf ）を予習する。
2回	教科書並びに事前配布する参考資料で予習すること。 バイオテロ対応ホームページ（ https://h-crisis.niph.go.jp/bt/ ）を予習する
3回	教科書並びに事前配布する参考資料で予習すること。
4回	教科書並びにWHOホームページにあるWHO出版「実験室バイオセーフティ指針（日本語訳）」を予習すること。 http://www.who.int/csr/resources/publications/biosafety/Biosafety3_j.pdf
5回	教科書並びにWHOホームページにあるWHO出版「実験室バイオセーフティ指針（日本語訳）」を予習すること。 http://www.who.int/csr/resources/publications/biosafety/Biosafety3_j.pdf
6回	WHOホームページにあるWHO出版「バイオリスクマネジメント 実験施設バイオセキュリティガイドランス（国立感染症研究所翻訳監修）」を予習すること。 http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/69390/2/WHO_CDS_EPR_2006.6_jpn.pdf
7回	教科書並びに事前配布する参考資料で予習すること。
8回	厚労省ホームページにある「感染症法に基づく特定病原体等の管理規定について」及び農水省ホームページにある「家畜伝染病予防法に基づく病原体の所持等」を予習すること。

講義目的	今日、科学の進展に基づき、病原体の利用によりヒトと動物の健康増進と社会の発展等に多大なる寄与がある半面、その誤った利用による事故や意図的な悪用によるバイオテロが発生し、人類社会に大きな不利益が生じていることを説明する。その対策として、病原体を安全かつ有効に利用するために必要な封じ込めと取り扱いについて、バイオセーフティとバイオセキュリティの両面からなるバイオリスク管理手法が国際的に考案され実践されていることを、その成り立ちと実際のハードとソフトの運用面から説明する。その上で、実際に病原体を取り扱う場合には、科学者としての倫理規範に従った上で、国内法規に従って対応する重要性について説明する。（獣医保健看護学科の学位授与の方針のB、Cにもっとも強く関与する）
達成目標	1. 病原体を扱う上で必要なバイオセーフティとバイオセキュリティからなるバイオリスク管理を理解できる。 2. バイオテロについて、病原体、その取り扱い、事件概要等の実際について説明できる。 3. 病原体取り扱いの誤りによる事故について、病原体、その取扱い、事故概要等の実際について説明できる。 4. 病原体封じ込めに必要なバイオセーフティのハードとソフトについて説明できる。 5. 病原体の紛失、盗取に備えたバイオセキュリティ対策について説明できる。 6. バイオリスク管理の基本となるWHOガイドライン、各国及び日本の規制状況について理解し、日本の感染症法で課せられる具体的な義務、ガイドライン等で科学者に課せられる規範を実施できる

	。7.シンセティックバイオロジー、dual useに関して説明できる。
キーワード	バイオセーフティ、バイオセキュリティ、バイオセーフティ、病原体、バイオテロ、感染症法病原体管理規定
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%（学期末に試験（記述式）を実施）によって成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	教科書：必携バイオセーフティ指針（医歯薬出版） 参考資料：バイオセーフティの原理と実際／バイオメディカルサイエンス研究会／発行みみずく舎／発売 医学評論社／ISBN=978-4-87212-091-3
関連科目	動物感染症学（動物微生物学、人獣共通感染症学）、公衆衛生学
参考書	適宜紹介する
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	最終評価試験を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、採点后、結果の等級（S,A,B,C,D）を学生にフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物分子生物学 (FVP1C110)
英文科目名	Molecular Biology for Animal Health Sciences
担当教員名	江藤真澄 (えとうますみ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	生命体は水でできている：生命現象を化学反応として捉え分子レベルで説明する考え方を身につけるために、水と電解質、生体構成分子の役割を考察する。さらに細胞内液、細胞外液の化学組成、タンパク質 酵素を説明し、それらの生命活動における役割を考察する。
2 回	生体構成分子：主要な栄養素であり生体検査の対象となる糖質と脂質の生物学的役割を理解するために、単糖と多糖類、生体内脂質の構造と性質の特徴を解説し、それらの生物学的意義を考察する。
3 回	ヌクレオチド、核酸、DNAと染色体：動物種間や個体間の違いを定義する遺伝子を理解するために、遺伝情報を蓄える染色体の構造を解説する。
4 回	遺伝情報の発現、RNAポリメラーゼ、転写とその制御：地球上の生物全てに共通とされる遺伝情報から細胞機能を決定する仕組みを理解するために、遺伝情報に基づきタンパク質が合成される過程について考察する。細胞内に存在するRNA種の構造と特徴について考察する。
5 回	タンパク質の合成、翻訳、リボゾーム：リボゾーム上でメッセンジャーRNAからタンパク質へ翻訳される過程を解説する。
6 回	組換えDNA技術1：獣医学で用いられる遺伝子検査や品種改良などの原理を理解するために、組換えDNA技術の基本的な手法であるPCR法とDNA/RNAの検出方法、およびそれらを用いた最新の検査方法を紹介する。
7 回	遺伝子研究法：獣医学で用いられるになってきた新しい技術について解説するとともに模擬試験問題について考察する。
8 回	講義総括：生命活動における基本的な化学反応を整理し、理解を深めるために質疑応答形式で本講義の重要ポイントをまとめる。その後最終評価試験 (45分) を行う。

回数	準備学習
1 回	授業までに、生体高分子（多糖類、脂質、タンパク質、核酸）の構成分子（構造単位）について整理しておくこと。授業後、水と電解質の役割と細胞外液と細胞内液、アミノ酸・タンパク質の構造と機能、酵素について説明できるように整理すること。
2 回	授業までに、糖類、脂質の構成成分について調べておくこと。デンプンとセルロースの違いについて調べておくこと。授業後、生体高分子の種類とその構造単位および糖質と脂質の構造と特徴を説明できるように整理すること。
3 回	授業までに、ヌクレオチドについて調べておくこと。授業後、生体内の遺伝情報を蓄える染色体の構造の特徴とそれを複製する仕組みとDNAの二重らせん説について説明できるように整理すること。
4 回	授業までに、tRNAとmRNA、rRNAの違いを調べておくこと。授業後、生体内のRNAについて整理すること。遺伝情報からタンパク質が合成される過程を整理すること。現代生物学のセントラルドグマを説明できるように整理すること。
5 回	授業までに、遺伝子コードとは何か調べておくこと。授業後、タンパク質の合成とセントラルドグマについて説明できるように整理すること。
6 回	授業までに、第5回までの講義内容をまとめること。授業後、診断や病態の解析に用いられる分子生物学的手法に関する原理を説明できるように整理すること。
7 回	授業までに、突然変異がもたらす生物への影響を検索すること。授業後、DNA/RNAのの検査方法についてそれぞれの特徴を考えながら復習すること。
8 回	授業までに、7回の講義と課題を復習し、疑問点を整理しておくこと。水、電解質、タンパク質、酵素、糖質、脂質、ヌクレオチドおよび核酸が細胞の生命現象にいかに関わるかを整理しておくこと。

講義目的	動物や動物に関わる生命体は水や様々な種類の化学物質でできている。獣医保健看護学が対象とする生命現象を理解するためには生命体を構成する一つ一つの化学物質や栄養素の化学的な性質や特徴を理解する必要がある。本講義では獣医保健看護学を理解するために必要な生物学の知識を修得し、生物間に共通な生命現象を考察することを目的とする。特に、水や生体構成物質の性質、タンパク質の役割および遺伝について、獣医学や身近な話題と関連付けながら議論する。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する）
達成目標	1. 動物の生命活動を維持するH₂Oと電解質の意義を説明できること。 2. 細胞外液と細胞内液の組成の違いを説明できること。 3. 生体高分子の種類とその構造単位を説明できる。 4. 糖質と脂質の構造と特徴を説明できること。 5. アミノ酸・タンパク質の構造と機能を説明できること。 6. 酵素の構造と機能を説明できること。 7. ヌクレオチド、DNA、RNA、染色体の構造を説明できること。 8. 現代生物学のセントラルドグマを説明できること。 9. 診断や病態の解析に用いられる分子生物学的手法に関する原理を説明できること。 10. 生命現象を維持する主要な生体物質の役割を説明できること。（上記すべて獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する）
キーワード	細胞、水、電解質、タンパク質、酵素、糖質、脂質、細胞情報伝達、遺伝、セントラルドグマ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	達成目標に到達するために講義中に出される課題のレポート結果（40%）とすべての達成目標への到達度を試す最終評価試験（60%）により成績評価する。総計で60%以上の得点を合格とする。8回目講義中に実施される最終試験の後に成績向上や単位取得のための補講や再試験は行わない。
教科書	指定しない。講義資料を配布する。
関連科目	化学、生命科学、動物生化学、生命科学実習
参考書	（より深く勉強したい人へ）改訂獣医生化学／横田博、木村和弘、志水泰武編／朝倉書店／ISBN978-4-254-46035-3：よくわかるスタンダード生化学／有坂文雄著／裳華房／ISBN978-4-7853-5232-5：イラストレイテッドハーバー生化学原著30版／清水孝雄監修翻訳／丸善出版／ISBN978-4621300978、はじめの一步の生化学・分子生物学／前野正夫、磯川桂太郎著／羊土社／ISBN978-4-7581-2072-2
連絡先	獣医学部棟A0620号室、オフィスアワー月曜日12:30-13:00、Email: eto.ousvet@gmail.com、0898-52-9000
授業の運営方針	本講義に関する履修者との連絡にはE-mailを用いる。講義資料などの配布物はポータルサイトから入手できる。一回目の講義にて解説されるその他の履修上の注意を留意すること。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習を取り入れる。与えられた課題を考えることで講義の内容について自らまとめ、理解し、疑問点を整理する。
課題に対するフィードバック	提出された課題のレポートについて講義にて取り上げて全員で考察する。
合理的配慮が必要な学生への対応	学内ガイドラインに基づく本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	生命倫理学 (FVP1E110)
英文科目名	Bioethics
担当教員名	大和田一雄 (おおわだかずお)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	生命倫理学入門； 生命倫理学の概念が様々な立場、国、時代によって異なることを理解し、動物に関わる生命倫理学について考察する。生命倫理学の黎明期から現代に至る過程および獣医師及び獣医療従事者に求められる生命倫理について解説する。また、動物の福祉に関する基本原則を理解し、動物の権利と動物福祉の違いについて講義する。様々な動物と人間の関係を理解したうえで、それぞれの動物種ごとに、配慮すべき倫理的問題が異なることを講義する。
2 回	西欧の動物保護法規と日本の動物保護法規； 西欧及び日本の動物保護法の歴史と現状について講義する。 日本の獣医関連法規と獣医倫理の基本原則； 日本の動物保護の歴史、動物保護法の法的位置と基本原則について講義する。
3 回	獣医師に関わる倫理学； 日本の現行法規に示す獣医倫理の基本原則と獣医師の倫理的目標について講義する。 医薬品使用と獣医倫理； 人用医薬品の動物使用における獣医倫理的対応について講義する。また、人体に影響を与える可能性のある薬剤の体内残留や食用動物に対する法的規制について講義する。
4 回	動物実験に関わる獣医倫理および科学実験の遂行と成果の発表に関する倫理； 動物実験の種類とその必要性、実験動物の福祉に配慮した飼育及び代替法などの概略について講義する。
5 回	伴侶動物の獣医療と獣医倫理； 伴侶動物の獣医療における獣医倫理の基本原則および飼い主への対応について講義する。 産業動物の獣医療と獣医倫理； 産業動物の福祉について、我が国の現状と目標及び世界の潮流について講義する。
6 回	補助犬と獣医倫理および災害時における人間と動物に関わる獣医倫理； 補助犬の実際や獣医師の適切な倫理的対応について講義する。また、災害時における被災動物や救助犬に対する倫理的対応について講義する。 動物介在療法と獣医倫理； 動物介在療法における適切な獣医倫理的対応について講義する。
7 回	野生動物および展示動物と獣医倫理； 野生動物の異常な増加や種の消滅などに関する諸問題、並びに倫理的諸問題について講義する。 また、博物館、動物園、水族館などの展示動物が果たす社会的使命とこれらの動物たちの尊厳について講義する。
8 回	グループ討議及び筆記試験； 講義時間の前半部分で、獣医療従事者として、どの様に獣医倫理並びに生命倫理に関する考え方を実践していくか、グループで討議する。 講義時間後半で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
----	------

1回	教科書第1章を読み、キーワードを整理しておくこと。 全体を通読した後、第1章の最終ページの「コラム」を参考に、この時点における自身の生命倫理学に対する感想を400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
2回	教科書第2章及び第3章を読み、キーワードを整理しておくこと。 我が国の動物愛護管理法の概要を400字以内にまとめ、講義の時に提出すること。
3回	教科書第4章並びに第11章を読み、キーワードを整理しておくこと。 「獣医療法」における獣医倫理について400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
4回	教科書第5章を読み、キーワードを整理しておくこと。 動物実験の種類と必要性について400字以内にまとめ講義の時に提出すること。
5回	教科書第6章及び第7章を読み、キーワードを整理しておくこと。 伴侶動物並びに産業動物の獣医倫理の基本原則について400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
6回	教科書第8章および第9章を読み、キーワードを整理しておくこと。 補助犬、救助犬についてその概要を400字以内にまとめ講義の時に提出すること。
7回	教科書第10章を読みキーワードを整理しておくこと。 展示動物の果たす社会的使命について400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
8回	これまでの講義全体を復習し、自身の生命倫理、獣医倫理に関する考え方をまとめておくこと。 全体を通したキーワードを再度整理しておくこと。

講義目的	現代では多くの国において、動物に無用な苦痛を与えたり命を奪ったりすることは、法的な整備も進み、許容されなくなっている。しかし、獣医療や生命科学研究の場では、法規制以外にも様々な知識と感性を駆使して、倫理的に適正な対応が求められる。本講義では、生命倫理学の概念や理論、外国と我が国の動物愛護の歴史と法規に関する比較、飼育動物から野生動物までの各範疇に属する動物倫理の詳細と、獣医師や獣医関連専門家（V P P）、生命科学研究に従事する研究者や技術者が心得ておくべき事柄を解説する。加えて、獣医師やV P Pの職業倫理と道徳に関わる法律についても解説する。この講義を通じ、獣医療や生命科学研究に携わる際の広い倫理観が醸成され、関連する法律や指針等の情報を正しく理解できるようになることを目的とする。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）
達成目標	生命倫理学の基本原則を理解し、その上で獣医学及び獣医療の基本理念としての獣医倫理・動物福祉の考え方を総合的に理解する。倫理性の豊かな獣医師として、獣医療、動物愛護と福祉、畜産の発展、教育、研究、環境保全、社会奉仕などに貢献するために獣医倫理を実践に応用できる資質を身に付けることを第一の目標とする。また、関連する法律や指針について理解し、獣医療や生命科学研究の場で適正に遵守できるようになることを目標とする。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）

キーワード	生命倫理、動物倫理、獣医倫理、動物の権利、動物福祉、5 フリーダム、3 R、科学倫理、環境倫理
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	予習レポート30%、最終評価試験70%で評価する。合計100点満点のとし、60点以上を合格とする。
教科書	獣医学モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医倫理・動物福祉学/池本卯典、吉川泰弘、伊藤伸彦、監修/緑出版/ISBN 978-4-89531-044-4
関連科目	動物福祉学、生命関連法規、獣医事法規
参考書	シリーズ生命倫理学・医学研究/シリーズ生命倫理学編集委員会 編/丸善出版/ISBN 978-4-621-08492-2 C3347：動物倫理入門/ローリー・グルーエン/河島基弘訳/大月書店/ISBN 978-4-272-43098-7 C0010：動物からの倫理学入門/伊勢田哲治/名古屋大学出版会/ISBN/978-4-8158-0599-9：日本の動物政策/打越綾子/ナカニシ出版/ISBN978-4-7795-1051-9 C3031
連絡先	研究室：今治キャンパスB1号館（教育病院棟）3階、315号室。 オフィスアワー：火曜日午後1:00～3:00。 電話：0898-52-9269（DI）。 Email:k-ooowada@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	毎回、授業の開始前に「予習レポート」の提出を求める。提出期限を厳守のこと。
アクティブ・ラーニング	予習レポートの課題について、まとめた内容を発表してもらうことがある。
課題に対するフィードバック	予習レポートの課題については、講義において解説しフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物看護技術学（FVP1F210）
英文科目名	Veterinary Nursing Technology
担当教員名	佐々木伸雄＊（ささきのぶお＊）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	動物看護の役割と良質な動物看護の提供のために必要な知識として臨床現場において必要とされる動物看護技術の全体像（内科的技術・外科的技術など）について理解する。
2回	適切な動物看護を提供するために必要な動物の健康管理および疾病予防の方法を理解し、様々な環境条件に応じた飼養飼育管理について理解する。
3回	動物看護過程および動物看護を展開するために必要な感染を予防するための技術および安全を守るための技術について理解する。
4回	適切な動物看護を提供するために必要となる対人関係に関わる知識を理解する。
5回	適切な動物看護を提供するために必要となる対動物関係に関わるアプローチ方法やハンドリング方法、保定法について理解する。
6回	看護の対象となる動物の観察・身体検査を行い、それに基づいてアセスメントを実施するために必要な知識・技術を理解する。
7回	適切な動物看護を提供するため、看護援助が必要な動物を飼養するのに適切な環境についての知識・技術を理解する。
8回	看護援助を必要とする動物に対して、摂食や排泄といった日常的な行動に関わる援助を提供するために必要な知識・技術を理解する。
9回	獣医療ならびに動物看護を適切に実施するために必要な各種記録について、その意義や作成方法および保管について必要な知識・技術を理解する。
10回	獣医療ならびに動物看護を適切に実施するために必要な各種記録について、その意義や作成方法および保管について必要な知識・技術を理解する。
11回	治療あるいは検査などを目的に行われる処置のうち、侵襲を伴う、あるいはその可能性がある処置を介助するために必要な知識・技術を理解する。
12回	動物への与薬を適切に実施するために必要な投薬法などについての知識・技術を理解する。
13回	動物に対して輸液を実施する際に必要な知識・技術を理解する。
14回	動物に対して輸血を実施する際に必要な知識・技術を理解する。
15回	動物に対して救命救急処置を実施する際に必要な知識・技術と動物が死亡した際の看取りに必要な知識・技術を理解する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書を一読し、臨床現場において必要とされる動物看護技術について予習及び復習を行うこと。（標準学習時間180分）
2回	教科書を一読し、適切な動物看護を提供するために必要な動物の健康管理および疾病予防の方法について予習及び復習を行うこと。（標準学習時間180分）
3回	教科書を一読し、動物看護を行う上で必要な感染を予防について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
4回	教科書を一読し、適切な動物看護を提供するために必要となる対人関係に関わる知識予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
5回	教科書を一読し、適切な動物看護を提供するために必要となる対動物関係について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
6回	教科書を一読し、看護の対象となる動物の観察・身体検査を行い、それに基づいてアセスメントを実施するために必要な知識・技術を理解する。について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
7回	教科書を一読し、適切な動物看護を提供するため、看護援助が必要な動物を飼養するのに適切な環境についての知識・技術を理解する。について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
8回	教科書を一読し、摂食や排泄といった日常的な行動に関わる援助を提供するために必要な知識について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
9回	教科書を一読し、獣医療ならびに動物看護を適切に実施するために必要な各種記録について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
10回	教科書を一読し、獣医療ならびに動物看護を適切に実施するために必要な各種記録について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
11回	教科書を一読し、侵襲を伴う処置を介助するために必要な知識について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）

1 2 回	教科書を一読し、動物への与薬を適切に実施するために必要な知識について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
1 3 回	教科書を一読し、動物に対して輸液を実施する際に必要な知識について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
1 4 回	教科書を一読し、動物に対して輸血を実施する際に必要な知識について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）
1 5 回	教科書を一読し、動物に対して救命救急処置を実施する際に必要な知識、看取りに必要な知識について予習および復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	動物看護の基本となる概念—動物・環境・健康・動物看護・人間—を基にして、獣医療・保健・福祉のなかで動物看護の果たす役割と動物看護を系統的・科学的に行うために必要な動物看護過程の原理と方法について理解する必要がある。さらには様々な動物看護活動の場についての理解や、他職種との関連において動物看護の果たす役割についての理解が必要である。本講義では、動物看護の役割と良質な動物看護の提供のために必要な知識を教授する。 獣医保健看護学科学位授与の方針（DP）のB、C、Dと深く関連している。
達成目標	獣医療・保健・福祉のなかで動物看護の果たす役割を説明できること 動物看護過程の目的や意義を理解し、動物看護を展開するための方法を説明できること 動物看護の役割を理解し、施設から家庭へと継続看護の必要性を説明できること
キーワード	保定、身体検査、バイタルチェック、採血法、採尿法、投薬法、輸液、輸血
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績の評価は、提出課題40%、最終評価試験60%により成績評価し、60%以上を合格とする
教科書	専門分野 基礎動物看護技術／神田鉄平監修／インターズー／ISBN：978-4-89995-817-8
関連科目	動物看護学概論、臨床動物看護学総論、臨床動物看護学演習、臨床動物看護学演習、臨床動物看護技術学実習
参考書	参考書は適宜紹介する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	最終評価試験を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、採点后、結果の等級（S,A,B,C,D）を学生にフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	野生動物学【火2金2】（FVP1G210）
英文科目名	Wildlife Medicine
担当教員名	柳井徳磨（やないとくま）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	序章として、「野生動物」の定義を明らかにして、それを研究する「野生動物学」の研究内容および意義について解説する。また、野生動物の「保護」および「保全」の定義とそれぞれの目標を明らかにする。特に保全生態学の一分野「保全医学」が目指すワンヘルスOne Healthの概念およびその目指す目標を理解すること。
2回	生物多様性：生物進化の所産である生物多様性とは何かを理解し、その保全に必要な概念を解説する。生態学の基本と生態学の基礎となる進化について説明する。生物多様性の概念と生物多様性の保全の意義、また、生物多様性条約とわが国の生物多様性戦略について解説する。
3回	野生動物の形態：各動物種にみられる形態学的特徴を生息環境への適応として学習する。脊椎動物における系統間の形態学的差異を把握し、各動物種が生息環境に適応して獲得した形態学的特徴をその機能と合わせて解説する。野生の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類および魚類による形態学的な差異を解説する。
4回	野生動物の生理：野生動物が有する繁殖、消化・栄養および冬眠などの生理機構について、そのメカニズムと動物種ごとの特徴、特に、野生動物の繁殖生理と消化・栄養生理のメカニズムと動物種ごとの特徴を解説する。
5回	野生動物の生態と生息環境：動物種による生態の違いとその生息環境との関係を解説する。特に、特徴的な動物種の生態とその生息する環境を学ぶ。また、環境収容力と動物種の生態や個体数との関係を解説する。
6回	野生動物の個体群動態：野生動物の個体群構造や個体数変動の要因やメカニズムを解説する。特に、動物個体群の構造およびその変動要因、個体群動態の調査法、性や年齢を調べる調査法、繁殖パラメータを調べる調査法、野生動物の栄養状態を調べる調査法の概要を解説する。
7回	野生動物の捕獲と不動物化：多種多様な捕獲・不動物化の方法と動物と作業者の安全確保ならびにアニマル・ウェルフェアや環境への配慮の仕方を解説する。具体的には、動物種ごとの捕獲手法の概要と捕獲機器の仕組みなど、野生動物の不動物化に使用される機材、不動物薬の種類、作用機序などについて学ぶ。
8回	野生動物の疾病：保全生物学的に重要な各種疾病について、そのリスク、疫学、発生機序、病態および病理、対策を解説する。具体的には、保全に問題となる種々の感染症および中毒症、野生動物を介した人獣共通感染症について学習する。
9回	野生動物の病理検査：野生動物の病理学的検査の目的およびその方法について解説する。特に、1．野生動物の保護管理のための疾病モニター、2．人獣共通感染症モニター、3．環境汚染による影響の把握、4．多様な研究への貢献などにつき理解を深める。また、犬ジステンパーの野生タヌキにおけるアウトブレイクなど具体的な事例について解説する。
10回	野生動物のリハビリテーション：野生動物の救護や野生復帰について、その活動の有用性を理解するとともに、生物多様性保全や感染症予防に関わるリスクやデメリットを解説する。具体的には、傷病野生動物の救護とリハビリテーションの意義および技術、救護における生物多様性保全および感染症リスク、関連法令に準拠した動物ごとの取り扱いおよびその実際例について学習する。
11回	動物園・水族館学：動物園・水族館の機能や社会的役割および臨床に必要な知識を解説する。特に、動物園・水族館の社会的役割、動物管理方法、飼育下動物における特有な疾病の概要などを学習する。
12回	絶滅危惧種の保全：絶滅危惧種およびその回復方法を解説する。具体的には、絶滅危惧種の定義、各動物分類群の主な絶滅原因、生息域内保全および生息域内保全の内容などを学習する。
13回	野生動物の管理：野生動物の管理は、科学的・計画的に行う必要があり、そのためにはモニタリング調査等に基づく順応的な管理が不可欠なプロセスであることを解説する。具体的には、野生動物に起因する被害発生のメカニズムや対策、特定鳥獣保護管理計画や捕獲に関する諸制度について学ぶ。また、科学的・計画的な野生動物管理ならびに順応的管理の考え方およびそのプロセスについて学習する。
14回	外来種：外来種の生態系および人間生活等への影響とその対策を解説する。具体的には、外来種の基本的概要、外来種がもたらす環境への影響およびその対策について学習する。
15回	野生動物の法制度と政策論：野生動物にかかわる法政策の概要を解説する。野生動物およびその生息地に関わる法律や政策について、歴史的に変化してきた社会的背景に関連づけて理解するとともに、獣医学および獣医師との関わりについて学習する。
16回	最終評価試験を実施します。

回数	準備学習
----	------

1回	「野生動物学」(村田浩一、坪田敏男編)の序章(1. 初めに、2. 野生動物と野生動物医学)を読み、余力があれば古典的な教科書「Conservation Medicine: Ecological Health in Practice」(Oxford)に目を通しておく。
2回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第一章「生物多様性」を読み、生態学の基本用語、生態学の基礎—進化、生物多様性の基礎的概念、「生物多様性条約」と「生物多様性国家戦略」の概要について予め理解しておく。
3回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第二章「野生動物の形態」を読み、種々の野生動物の比較形態 1) 1. 運動器系、2) 外皮、3) 消化器系、4) 循環器系、5) 呼吸器系、6) 泌尿生殖器、7) 感覚器系について理解しておく。また、2. 野生動物の機能形態について読み、歩行、走行、飛翔、滑空および穴掘りなどの行動学的特徴と形態学的特徴の符号を理解しておく。
4回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第三章「野生動物の生理」を読み、1. 野生動物の繁殖生理、2. 各種動物の繁殖生理(カモシカ、ニホンジカ、ニホンザルなど)、3. 野生動物の消化・栄養生理、4. 野生動物の冬眠生理についての概要について予め理解する。
5回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第四章「野生動物の生態と生息環境」を読み、1. 野生動物の生態(サル、シカ、イノシシ、クマ、カモシカなど)、2. 生息環境の概要を理解する。また、「食性」や「環境収容力」などの概念も理解しておく。
6回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第五章「野生動物の個体群動態」を読み、1. 個体群動態観察の意義(個体群、個体群動態、変動要因、内的自然増加率、収容能力などの定義も含む)、2. 個体群の調査、3. 年齢査定と性判別、4. 繁殖パラメーター、5. 栄養状態の測定などについて理解しておく。
7回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第六章「野生動物の捕獲と不動化」を読み、1. 捕獲方法(目的、各種の捕獲方法など)、2. 不動化(代表的不動化薬の種類とその特性、不動化に伴う負傷やショック等に対応する適切な処置法など)、3. 安楽殺処分の方法と指針についても理解しておく。
8回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第七章「野生動物の疾病」を読み、野生動物の重要な疾病(OIEリスト野生動物疾病、動物からヒトへの感染が問題となる感染症、発生の背景および対策など)の総論的な内容について理解しておく。
9回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第七章「野生動物の疾病」野生動物の病理検査の項を読み、野生動物の斃死体を科学的検査する意義について理解し、日本産野生哺乳類および日本産野生鳥類で遭遇する可能性のある各種の感染症および中毒について代表的なものについて概要を理解しておく。
10回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第八章「野生動物の疾病」野生動物の病理検査の項を読み、1. 総論(傷病野生動物の発生の背景、野生動物救護の意義、救護のリスクとデメリット、リハビリテーションのための環境整備、動物福祉と安楽殺)、2. リハビリテーションの実際、3. 哺乳類のリハビリテーション、4. 鳥類のリハビリテーションなどにつき概要を理解しておく。
11回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第九章「動物園・水族館学」を読み、1. 動物園・水族館の機能と社会的役割、2. 動物園・水族館での動物の管理方法、3. 飼育下動物の疾病などについて概要を理解しておく。
12回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第十章「絶滅危惧種の保全」を読み、1. 絶滅危惧種とは何か(レッドリスト、日本の絶滅危惧種、絶滅危惧種となる原因)、2. 絶滅危惧種の保全方法(生息域の保全、飼育下繁殖、新たな野生個体群の確立、遺伝資源バンク)などについて概要を理解しておく。
13回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第十一章「野生動物の管理」を読んで、1. 野生動物の管理とは、2. 野生動物管理の三本柱(個体数管理、生息環境管理、被害管理)、3. 野生動物管理における科学性および計画性などについて理解しておく。
14回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第十二章「外来種」を読み、1. 外来種の基本事項およびその及ぼす影響(外来種問題の背景、外来種の定義、日本における外来種の現状、外来生物法)、2. 主な外来種の対策と課題について概要を理解しておく。
15回	コアカリ野生動物学(日本野生動物医学会編)の第十三章「野生動物の法制度と政策論」を読み、1. 規制的手法による保護政策(鳥獣保護法、水資源保護法、文化財保護法、自然公園法)、2. 賢明な利用と保全(ワシントン条約、ラムサール条約、世界遺産条約)、3. 生物多様性の時代(生物多様性条約、種の保存法、生物多様性基本法)、4. 順応的管理と生態系の復元(鳥獣保護管理法、自然再生推進法)、5. 外来動物問題と動物福祉(外来生物法、動物愛護管理法)、6. 新興感染症の拡大とワンヘルス(感染症予防法、家畜伝染予防法)などについて予備的に理解しておく。

講義目的	野生動物保全を目的とした野生個体群動態のモニタリング技術の確立、野生個体減少を引き起こす種々の疾病の診断と防止、傷病動物の治療と野生復帰の技術、さらに希少動物の飼育下繁殖の概要を学ぶ。一方、ワンヘルスの概念に基いた野生動物由来人獣共通感染症の伝播様式の解明およびそのコントロール、野生獣の農業被害の実態およびその管理、野生生物を指標とした環境汚染のモニターや、野生動物との共生を目指した環境づくりの研究および活動なども学ぶ。
達成目標	野生動物の生態機構のしくみを深く理解しながら、生態系の微妙なバランスを崩さぬように環境を

	健全な形で保全していく知恵や知識を修得する。遺伝子レベルから生態系レベルまで多種多様な観点から野生動物について理解する。ワンヘルスの概念に基いた環境の保全と人獣共通感染症の制御のための野生動物の管理についても理解する。また、我々国の野生動物の保全活動に加えて東南アジアの野生動物多様性とその保全の状況についても概要を理解する。
キーワード	野生動物、保護、保全、生物多様性
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義中に実施するミニテストの結果40%，最終評価試験60%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	コアカリ野生動物学／日本野生動物医学会／文永堂出版／ISBN978-4-8300-3258-5 C3061
関連科目	国際野生動物管理学、国際獣医法医学
参考書	野生動物学／村田浩一、坪田敏男編／文永堂出版／ISBN978-4-8300-3244-8 C3061：野生動物の医学Zoo and Wild Animal Medicine 5th Edition(Fowler Miller著)／成島悦雄、宮下実、村田浩一編／文永堂出版／ISBN978-4-8300-3213-4 C3061：Conservation Medicine: Ecological Health in Practice／A. Alonso Aguirre, Richard S. Ostfed, Gary M. Tabor, Carol House, Mary C. Pearl／Oxford University Press／ISBN 0-19-515093-7
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	授業内容は可能な限り、最新の情報を取り扱い、授業内容をもとにレポート作成を課し、授業内で行う小テストにて、授業内容の習得状況を確認する。小テストは、基本的な内容を確実に把握する必要がある。
アクティブ・ラーニング	活用に向けて検討する。
課題に対するフィードバック	提出課題、演習等について、採点後のレポートなどを返却、最終評価試験に関しては、採点後の答案を返却し、模範解答および解説を配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	生命科学実習【火～金】（FVP1H110）
英文科目名	Life Science Laboratory
担当教員名	江藤真澄（えとうますみ）、五十嵐瞳（いがらしひとみ）、汾陽光盛（かわみなみみつもり）、九郎丸正道（くろうまるまさみち）、竹谷浩介（たけやこうすけ）、千葉秀一（ちばしゅういち）、中村翔（なかむらしょう）、林慶（はやしけい）、松井利康（まついとしやす）、水野理介（みずのりすけ）、向田昌司（むこうだまさし）、村田拓也（むらたたくや）、深瀬徹（ふかせとおる）、太田奈保美（おおたなおみ）、田中良法（たなかよしのり）、逸見千寿香（へんみちずか）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	生命科学実習オリエンテーション（全員） （全教員）
2回	ラットを用いて膣スメアを採取し、顕微鏡で観察して性周期を判定するとともに、生殖生理に対する理解を深める。（共同） （全教員）
5回	ラットの解剖：哺乳類の体の基本的な構造を学習するために、ラットを解剖し、その骨・筋肉・内臓・血管・神経を観察する。（共同） （全教員）
8回	ウサギの解剖：哺乳類の体の基本的な構造と、種ごとの体構造の違いを学習するため、ウサギを解剖し、その骨・筋肉・内臓・血管・神経を観察する。（共同） （全教員）
11回	実験内容発表会と質疑応答（共同） （全教員）
13回	薬物が臓器・組織に与える影響を薬理学的に理解するための、「摘出腸管平滑筋に対する薬物の作用検討」1 動物から摘出した消化管に対して薬物名を隠した物質を投与し、消化管平滑筋の機械的収縮を記録する。そして、その反応性の結果から薬理学的に薬物名を推定する。オリエンテーション、準備（実験装置設定、溶液作成）、予備検討（共同） （全教員）
16回	薬物が臓器・組織に与える影響を薬理学的に理解するための、「摘出腸管平滑筋に対する薬物の作用検討」2 動物から摘出した消化管に対して薬物名を隠した物質を投与し、消化管平滑筋の機械的収縮を記録する。そして、その反応性の結果から薬理学的に薬物名を推定する。本試験。（共同） （全教員）
19回	動物の遺伝型の決定1：PCR法を用いて動物個体の遺伝子配列の変異を検出する（共同） （全教員）
22回	動物の遺伝型の決定2：前日より引き続きPCR法による遺伝子解析を進める。実験結果の考察を討論し、レポート作成の準備を行う。（共同） （全教員）

準備学習	各回の標準的な準備時間：15-120分（入学時の学習状況による。）
講義目的	生命科学研究や獣医臨床に必要な技能を習得するためには、動物やそれに関わる生物の生命現象の仕組みを理解することが重要である。本実習では、獣医学及び獣医保健看護学領域における専門的な知識・技術の習得に向けて、解剖学、生理学、薬理学、生化学の基礎的な実習課題に取り組み、生命科学の理解を深めることを目的とする。また、獣医学と獣医保健看護学の学生が合同で行う本実習を通して、専門の異なる仲間と協調的に難問に取り組みそれらを解決することを修得する。（獣医学科の学位授与方針項目AとDにもっとも強く関与する）
達成目標	1. 動物の生殖生理の基本的なメカニズムを説明でき、ラットの性周期を判定できる。(A) 2. 哺乳類動物の解剖手技と解剖学的特徴を説明できる。(A) 3. 薬理学の基本的実験手技を行える。(A) 4. 平滑筋組織の反応性について説明できる。(A)

	5. PCR法の原理とその操作方法を説明できる。(A) 6. 生命科学実験で用いられる実験機材の使い方を説明できる。(A) 7. 班員との協調的・建設的な議論通して結論を導くことができる。(D)
キーワード	細胞、水、生体物質、脂質、タンパク質、遺伝子、タンパク質合成、組換えDNA技術
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	1. 担当教官による個人評定（25%）（評価項目：協調的に実習を行っているか）、2. 提出レポートによる評価（75%）（評価項目：実験目的を理解しているか、実験の原理を理解しているか、実験結果を正確に記録したか、実験結果を整理し見やすく表示しているか、実験結果を考察しているか、レポートは読みやすく仕上がっているか、レポートは期限内に提出したか）。総合得点60%以上を合格とする。
教科書	実習教本を配布する。
関連科目	化学、生命科学、獣医分子生物学、獣医生化学、獣医生化学実習、獣医生理学、獣医形態機能学Ⅰ、獣医薬理学総論
参考書	獣医薬理学／池田正浩、伊藤茂男、尾崎博、下田実、竹内正吉編集／近代出版／ISBN978-4-87402-190-3、その他は実習の進行に合わせて紹介する。
連絡先	江藤真澄：獣医学部棟A0620号室、オフィスアワー月曜日12:30-13:00、Email: eto.ousvet@gmail.com、0898-52-9000
授業の運営方針	実習はすべて出席すること。やむを得ず欠席や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。本実習は、本学が設置する実験動物管理委員会の承認を受けた実習計画に従い、実習を行う。尚、本実習は、第一日目に行われる実験動物取り扱い教育訓練の講習を受けた者のみ受講可能である。
アクティブ・ラーニング	実習はグループワークにより行われ、互いに協調的な姿勢が必要である。同時に、各自の主体的な参加も必須となる。実習・実験中は自ら解決すべき問題を発見し、問題解決に向けた努力をすることが求められる。
課題に対するフィードバック	実習結果発表会と提出レポートに対して担当教員よりフィードバックがある。
合理的配慮が必要な学生への対応	学内ガイドラインに基づく本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物薬理学実習【月～木】（FVP1H210）
英文科目名	Veterinary Nurse Pharmacology Laboratory
担当教員名	水野理介（みずのりすけ）、向田昌司（むこうだまさし）、梶川修平（かじかわしゅうへい）、早川晃司（はやかわこうじ）、藤原信行（ふじわらのぶゆき）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 2～7回目の実習内容を資料とマニュアルを使って詳細に解説する。 8回目の実習発表について説明する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）
2回	総論1. マウスの一般症状-Irwinの多元観察法 マウスの一般症状をIrwinの多元観察法を用いて観察し、マウスに中枢神経興奮薬/抑制薬を投与してこれら薬物の一般症状に与える影響を観察し考察する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）
3回	総論2. 暗算作業効率に及ぼすカフェインの効果-二重盲検法と薬効判定 暗算の作業量（クレペリンテスト）を指標として、コーヒーに含まれるカフェインの精神運動亢進作用を客観的・定量的に捉え、二重盲検法により評価し、大脳皮質興奮薬の作用を理解・考察する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）
4回	各論1. 消化器に作用する薬物 摘出腸管をマグヌス管内に懸垂し、縦走平滑筋の機械的反応を指標として、平滑筋に作用する薬物および遮断薬の効果を理解・考察する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）
5回	各論2. 循環器に作用する薬物1 摘出大動脈をマグヌス管内に懸垂し、大動脈平滑筋の機械的反応を指標として、血管に対するカテコールアミン類と生体アミンの作用を調べて、 α アドレナリン作動性遮断薬の効果を理解・考察する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）
6回	各論3. 循環器に作用する薬物2 血管内皮細胞由来弛緩因子の存在を理解する。血管内皮細胞は、アセチルコリンの刺激によって血管平滑筋を弛緩する内因性物質を遊離することを理解・考察する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）
7回	各論4. 交感神経系に作用する薬物の作用検討 交感神経系に作用する薬物をウサギ静脈内に投与し、その時の血圧・心拍数の変化を観察し、交感神経系の心血管系への調節性を理解・考察する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）
8回	実習成果発表 実習の結果をグループごとに発表し、全体討論を行う。学術発表の基礎技術を習得する。（共同） （水野 理介, 早川 晃司, 向田 昌司, 藤原 信行, 梶川 修平）

回数	準備学習
1回	事前に配布する資料、マニュアルと参考書を予習すること。 オリエンテーションの内容を復習すること。
2回	資料、マニュアルと参考書を予習すること。 中枢神経系に作用する薬物について参考書を利用して整理して復習すること。
3回	資料、マニュアルと参考書を予習すること。 カフェインの生体に与える影響について参考書を利用して整理して復習すること。
4回	資料、マニュアルと参考書を予習すること。 消化器系の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。

	消化管平滑筋に作用する薬物について参考書を利用して整理して復習すること。
5回	資料、マニュアルと参考書を予習すること。 血管の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。 カテコールアミン類と α アドレナリン作動性遮断薬について参考書を利用して整理して復習すること。
6回	資料、マニュアルと参考書を予習すること。 血管内皮細胞の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。 血管内皮細胞由来因子について参考書を利用して整理して復習すること。
7回	資料、マニュアルと参考書を予習すること。 血液循環調節機構について生理学の教科書を参考に予習すること。 交感神経系に作用する薬物について参考書を利用して整理して復習すること。
8回	成果発表前に、グループ内ならびにグループ間において情報を共有しておくこと。質疑応答ができるよう準備すること。 発表内容・質疑応答を整理して復習すること。

講義目的	動物薬理学総論、動物薬理学各論ならびに生命科学実習で学んだことをさらに深く理解するために、実際に動物個体(in vivo)や摘出組織(ex vivo)に薬物を投与することによって、生体や摘出組織に生じる様々な反応を観察する。そして、これら生命科学現象を観察することによって薬物の作用および作用機序など薬理学の基礎的理念を理解することを目的とする。さらに実習では、研究の目的、方法、観察、結果ならびに考察という、実験動物を用いた一連の研究成果のまとめ方や発表方法(口頭・論文)の基本的過程を学修することを目的とする。
達成目標	1.Irwinの多元観察法を用いてマウスの一般症状を説明できる。(A) 2.二重盲検法を説明できる。(A) 3.中枢神経系・末梢神経系に作用する薬物の基本事項を説明できる。(A) 4.消化器系に作用する薬物の基本事項を説明できる。(A) 5.循環器系に作用する薬物の基本事項を説明できる。(A) 6.動物を用いたin vivo実習とex vivo実習の目的・方法を説明でき、結果を定量化して科学的に考察することができる。(A) 7.実験を通して得られた研究成果を口頭発表・論文発表する過程を理解できる。(A)
キーワード	in vivo、ex vivo、中枢神経系、末梢神経系、自律神経、ホルモン、オータコイド
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	実習成果発表に対する相互評価50%、提出レポートによる評価50%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	獣医学教育モデルコア・カリキュラム準拠 獣医薬理学／日本比較薬理学・毒性学会編／近代出版／ISBN978-4- 87402-190- 3
関連科目	動物薬理学総論、動物薬理学各論、生命科学実習
参考書	小動物の薬物治療学／尾崎博、浅井史敏、辻本元編／オーム社／ISBN：978-4- 274-50310-8
連絡先	研究室 A2棟6階 632研究室 直通電話 0898-52-9134 E-mail: r-mizuno@vet.ous.ac.jp オフィスアワー 月・金曜日 昼休み
授業の運営方針	毎回出席して、真摯に実習に取り組むこと。遅刻してグループに迷惑をかけることが重なり欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 教科書と配布資料を中心に実習を実施する。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング(質疑応答)実習中に質疑応答を行う。
課題に対するフィードバック	実習の結果・考察について解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	動物微生物学 (FVP1K210)
英文科目名	Animal Microbiology
担当教員名	渡辺俊平 (わたなべしゅんぺい) , 森川茂 (もりかわしげる)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	動物微生物学の歴史的背景と疾病との歴史的背景、動物の病原性微生物の基本的構造と形態、一般性状を解説する。 (全教員)
2 回	微生物の総論的分類と構造の違いを解説する。 (全教員)
3 回	微生物の増殖様式と代謝・遺伝学的な違いを解説する。 (全教員)
4 回	病原微生物の総論的な遺伝学と系統を解説する。 (全教員)
5 回	病原微生物の総論的な感染様式と免疫応答を解説する。 (全教員)
6 回	病原微生物の抗菌薬および抗ウイルス薬と耐性を解説する。 (全教員)
7 回	微生物の消毒と滅菌、検査法を解説する。 (全教員)
8 回	細菌 (リケッチア・クラミジアを含む) の各論的分類と一般性状を解説する。 (全教員)
9 回	ウイルス (プリオンを含む) の各論的分類と構造および機能の違いを解説する。 (全教員)
1 0 回	細菌による動物の感染症と検査方法を解説する。 (全教員)
1 1 回	ウイルスによる動物の感染症と検査方法を解説する。 (全教員)
1 2 回	細菌による動物の疾病と化学療法及び薬剤耐性を解説する。 (全教員)
1 3 回	動物の感染症予防とワクチン (予防理論と留意点等) を解説する。 (全教員)
1 4 回	動物の感染症 (病原性微生物による発症と流行機序・疫学を解説する。 (全教員)
1 5 回	細菌とウイルス以外の病原性微生物 (リケッチア、クラミジア、プリオン等) を解説する。 (全教員)
1 6 回	細菌とウイルス以外の病原性微生物 (真菌等) を解説する。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	各講義を受講する前に、教科書 (P1-P10) と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること (必要とされる標準的な学習時間: 2時間)

2回	各講義を受講する前に、教科書（P11-P22）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
3回	各講義を受講する前に、教科書（P23-P60）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
4回	各講義を受講する前に、教科書（P23-P60）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
5回	各講義を受講する前に、教科書（P61-P74）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
6回	各講義を受講する前に、教科書（P87-P100）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
7回	各講義を受講する前に、教科書（P75-P86）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
8回	各講義を受講する前に、教科書（P101-P224）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
9回	各講義を受講する前に、教科書（P299-P444）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
10回	各講義を受講する前に、教科書（P101-P224）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
11回	各講義を受講する前に、教科書（P299-P444）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
12回	各講義を受講する前に、教科書（P91-P100）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
13回	各講義を受講する前に、教科書（P87-P90）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
14回	各講義を受講する前に、教科書（P101-P224およびP299-P444）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
15回	各講義を受講する前に、教科書（P147-P150、P211-P224、P445-P480）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）
16回	各講義を受講する前に、教科書（P445-P480）と参考資料等による該当箇所の予習・復習をすること（必要とされる標準的な学習時間：2時間）

講義目的	動物看護学で必要となる微生物に係る基本的な事項を学ぶことを目的とする。看護の対象となる様々な動物をとりまく自然および社会的な環境における微生物との関係性や相互の因果関係等について理解するとともに、各種微生物の分類方法、生物学的な特徴、物理化学的な特徴、病原微生物と疾病との関係性、微生物の取り扱い手技と制御法および微生物の検査方法等について基本的な知識を理解して修得することによって衛生管理の方法や微生物によるリスクの低減措置を可能にするために必要な知識の基盤を築く。動物看護学科の学位授与方針項目Aに最も強く関与する。
達成目標	動物看護学で必要な微生物の基本的事項を学ぶ。歴史的成り立ち、各種微生物の識別と基本的特徴、制御の意義と方策、滅菌法や消毒法を適切に行うための知識、ワクチンや抗菌薬の適正使用、各種病原微生物が引き起こす疾病の名称・主な宿主・特徴、微生物検査に関する基礎知識と利用法、検査の信頼性・微生物の取扱いに関するバイオセーフティを理解する。全て動物看護学科の学位授与方針項目Aに最も強く関与する。
キーワード	細菌とウイルス等（病原微生物）の基本的構造とそれらの機能、基本的増殖・複製機構、分類（科名、属名、種名）、感染症、疾病、感染様式、遺伝学、免疫、疫学。
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験と小試験など平常点による総合評価。病原性微生物の基本的な構造とそれらの機能、基本的増殖・複製機構、分類、疾病及び感染様式についての知見（達成目標について）を最終評価試験50%、小テスト20%、レポート30%の配分比で評価を行う。60点を合格点とする。
教科書	獣医微生物学第4版／ 関崎勉 [ほか] 編／文永堂 / I S B N 9784830032707
関連科目	獣医生化学、獣医生理学、獣医解剖学、獣医薬理学、毒性学、実験動物学、獣医病理学、獣医免疫学、獣医臨床薬理学、臨床検査学、野生動物学、人獣共通感染症学、獣医公衆衛生学、獣医疫学、動物感染症学、食品衛生学、環境衛生学
参考書	獣医微生物学：コアカリ / 日本獣医学会微生物学分科会編 / 文永堂 / I S B N 9784830032578
連絡先	獣医学部棟5階520研究室, s-watanabe@vet.ous.ac.jp または s-morikawa@vet.ous.ac.jp, 電話 0898-52-9078, オフィスアワー毎週水曜日昼休み
授業の運営方針	レポートは、合格の基準に達してない場合には、書き直しを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	小テストの解答の解説は授業時間内に実施する。最終評価試験の解答と解説は、希望者には個別に対応する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

	【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	必要に応じて参考となる資料を配付する

科目名	動物関連キャリア概論 (FVP1L110)
英文科目名	Overview of Veterinary Career
担当教員名	吉川泰弘（よしかわやすひろ）、伊豆弥生（いずやよい）、尾崎博（おざきひろし）、北川均（きたがわひとし）、飯田貴次（いいだたかじ）、宇根有美（うねゆみ）、黒木俊郎（くろきとしろう）、柴原壽行（しばはらとしゆき）、俵修一（たわらしゅういち）、手島玲子（てしまれいこ）、畑明寿（はたあきひさ）、水野理介（みずのりすけ）、山田裕（やまだゆたか）、小野文子（おのふみこ）、平山紀夫＊（ひらやまのりお＊）、齊藤真也（さいとうしんや）、逸見千寿香（へんみちずか）、横山博（よこやまひろし）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	獣医及び獣医関連専門家（V P P）の職域の多様性と現状、展望について概要を紹介する。新しい獣医師として国際獣疫事務局（O I E）の事務局長は、「新しい獣医学教育で育った人材が、公共獣医事（Public Veterinary Service）を担い、情報ネットワーク構築、政策監視、疫学調査、官民のつなぎ役等を果たすこと」をもとめた。また、O I EはV P Pについても、専門家としての責務と資格の標準化を進め始めた。国のミッションを受けてスタートした本獣医学部の立場から次世代の獣医師等が果たす社会の役割について、国内外の動きを合わせて紹介する。（吉川） （吉川 泰弘）
2 回	獣医関連専門家（V P P）の職域について紹介する。これまで動物看護というと小動物（ペット）の看護師としてイメージされていた。本学で育てるV P Pは、小動物の動物看護師だけではなく、獣医看護技能を基盤に置き、産業動物看護師、実験動物看護・管理者、動物実験支援者、獣医公衆衛生関連の公務員、動物人工授精師、ライフサイエンス研究者・支援者など、獣医と連携して広い職域で活躍できる人材を養成する。V P Pとして活躍している、種々の実例を紹介する。（小野） （小野 文子）
3 回	公衆衛生分野における獣医師と獣医関連専門家（V P P）の役割について紹介する。獣医師及び獣医関連専門家の職域としては、獣医行政官としての国家公務員（行政官、検疫所、国立試験研究機関など）、地方公務員（都道府県等の組織、保健所、動物愛護・指導センター、と畜場、食鳥処理場など）がある。これらの組織とそこで活躍している専門家の役割を紹介する。また、国際機関で働いている専門家についても事例をあげて紹介する。（手島、黒木、平山） （手島 玲子,黒木 俊郎）
4 回	畜水産における獣医師と獣医関連専門家（V P P）の役割について紹介する。獣医療の対象は、伴侶動物の個別診療があるが、その他に、獣医師として動物性蛋白源としての畜産（産業動物、家禽）と水産養殖等における疾病予防、感染症統御、畜水産品の衛生管理や安全性、品質保証のための責務を負っている。食の安定供給（食の安全保障）は21世紀の主要課題のひとつであり、国際的な安全基準への加工品の適応が進む中で、新しい獣医師、獣医関連専門家としての役割を紹介する。（飯田、山田） （飯田 貴次,山田 裕）
5 回	創薬、ライフサイエンス分野における獣医師と獣医関連専門家（V P P）の役割について紹介する。iPS細胞を用いた再生医療、ゲノム編集技術の治療への応用、新しい医薬品開発など、ライフサイエンス研究の進展は続いている。そのなかで、開発、有効性評価、安全性評価等に、種々の動物および疾患モデルをもちいて、動物で行う研究に獣医系研究者のニーズが強い。獣医としてどのような資質、技能が必要かを紹介する。（俵、齊藤） （齊藤 真也,俵 修一）
6 回	獣医療とヒトの医療は一つ（One medicine）という考え方が、カリフォルニア大学の獣医疫学者であるカルビン・シュワーベにより提案された。彼は、ワン・メディシンに対する獣医学の価値、両者（医学と獣医学）の科学的手技の類似性、健康の定義の類似性、倫理的な治療と医学の目標における類似点を明らかにした。超高齢社会を迎え、ヒトも伴侶動物も罹患する疾病はほとんど同じになり、診断・治療方針も方法も非常に類似している。伴侶動物の老化疾患をヒトのモデルと考え、両者に有効な予防・治療法開発を目指すのが、トランスレーショナル・メディシンである。この新しい小動物臨床について紹介する。（北川） （北川 均）
7 回	グループに分かれて、愛媛県内外の家畜保健衛生所、動物愛護センター、畜産農家、動物園、養蜂場、水産研究機関、製薬研究所等機関を見学し、獣医師及びV P Pが実際に活動している内容把

	握する（吉川、伊豆、尾崎、北川、飯田、宇根、黒木、柴原、俵、手島、畑、水野、山田、小野、齊藤、逸見、横山等がグループに付き添い、訪問先で現場の専門家とともに現場体験学習をする）。 （全教員）
8回	各グループがそれぞれ体験した内容を分析し、発表を通じて他のグループに情報伝達する。発表内容を全体で検討し、情報の共有を行う。また、本体験が獣医学、獣医看護学等の専門課程及びアドバンスト教育にどのように関連していくかについても議論する。（吉川、伊豆、尾崎、北川、飯田、宇根、黒木、柴原、俵、手島、畑、水野、山田、小野、齊藤、逸見、横山） （全教員）

回数	準備学習
1回	一般的に獣医というと、町の小動物（ペット）の獣医（動物のお医者さん）というイメージが強い。しかし、活動獣医師の半分以上は、小動物臨床とは別の分野で活躍している。例えば、鳥インフルエンザや口蹄疫といった国際的な家畜感染症の防御（農場）、ヒトと動物の共通感染症の統御（動物愛護センターなど）、畜水産物の安全管理、品質管理（と畜場、検査所など）や食中毒の防止、医薬品開発や研究、国際機関での生物生産資源の国家間の利害調整や標準化など、見えにくい分野で社会の安全・安心の基盤を支えていることを調べ、そうした事例を纏めること。（標準学習時間120分）
2回	獣医関連専門家（V P P）として期待される職域、小動物看護師、産業動物看護師、実験動物看護師、実験動物管理者、動物実験支援者、獣医公衆衛生関連の公務員、動物人工授精師、ライフサイエンス研究者・支援者などについて、その技能としてどのようなものが要求されているか、まとめてみる。また、このような職場はどのような組織となっているか整理してみる。こと。（標準学習時間120分）
3回	獣医系の国家公務員である行政官、検疫所、国立試験研究機関などで、どれほどの数の獣医系職員が活躍しているか？また、地方公務員として働く、都道府県等の保健所、動物愛護・指導センター、と畜場、食鳥処理場などが全国にどのくらいあり、どのくらいの規模の獣医系職員が働いているか、調べてみる。また、国際機関で働くための方法について、その手続き等を整理してみる。こと。（標準学習時間120分）
4回	国際的な水産、畜産の規模、日本における規模、変遷についてまとめてみる。こと。国際的なレベルで食料の需要・供給（食の安全保障）がどのようになっているか、食の安全性に関するルールはどのようになっているか、我が国の食料自給の課題についてまとめてみる。こと。（標準学習時間120分）
5回	ライフサイエンス・イノベーションとして、創薬研究等は国際的にも注目され、研究競争も激しい。分子設計や試験管、細胞での実験から生まれる医薬品もあるが、最終的には、実際に動物を用いた研究で開発される医薬品の方が多い。動物を扱いなれ、異常性の確認や開発中の医薬品の影響を評価できる獣医師へのニーズが高い。どのような資質が必要とされるか、まとめてみる。こと。（標準学習時間120分）
6回	人工的に作成した動物モデルでなく、自然発症した動物を用いた臨床研究について、国内外でどのような事例があるかを、インターネット等を用いて調べてみる。こと。また、One Health, One World, One Medicineといったキーワードがどのような経緯で作られたか、どのような関連があるかを調べる。こと。（標準学習時間120分）
7回	自分たちが体験する組織、施設について、これまでの授業で習った中から抽出して、その組織の役割や課題などについてまとめておく。こと。質問事項があれば作成しておく。こと、できれば想定される答えを考えた上で、さらに突っ込んだ質問などを考えておく。また講義を聞いて疑問におもったことを纏めておく。こと。（標準学習時間360分）
8回	発表を担当する見学先機関における獣医グループ内で、検討し、講義と体験学習で学んだことを、他のグループに解りやすく提示し、議論できる準備をしておく。こと。パワーポイントなどでプレゼンする方法、発表にあたってのグループ内の役割を決めておく。こと。（標準学習時間360分）

講義目的	獣医領域のニーズに応えるには、獣医師と獣医関連専門家（V P P）の連携した活動が必要である。獣医科学へのニーズは戦後の食料確保のための畜産支援、家畜衛生と診療技術の高度化から始まり、生命科学の著しい進展を受け動物を対象とする獣医科学の発展が続いた。高度経済成長後、核家族化が進行し伴侶動物へのニーズが増大、小動物高度獣医療・獣医看護技術が発展した。飽食時代を迎え消費者は食の安全性志向を強め、獣医に食の安全管理を求めた。国際貿易の拡大等により、越境感染症や新興感染症のアウトブレイクが頻発し、感染症統御の役割が獣医の責務となった。また、持続的な成長産業の一つとして期待されるライフサイエンス分野に獣医研究者・獣医関連専門家の活躍が求められている。本講義では、こうした獣医領域の職域の広さを学び、現場を体験学習する。（獣医保健看護学科の学位授D PのDにもっとも強く関与する）
達成目標	近年の著しい獣医関連職域の拡大により、多くの新しい分野に獣医師及び獣医関連専門家（ベテリナリー・パラプロフェッショナル：V P P）の活躍が求められていることを理解すること。具体的

	には、わが国の獣医師及びV P Pが活躍すべき職域として、小動物臨床分野、産業動物臨床分野、畜水産振興分野、公衆衛生分野及び家畜衛生分野（地方公務員）、行政獣医及び獣医関連行政分野（国家公務員）、ライフサイエンス研究者、研究支援者等があることを理解し、説明できる。さらに、現場体験学習を含め、そうした分野の専門家を目指して学修するために必要な知識、技能の内容について学び、理解する。
キーワード	獣医、V P P、公共獣医事、ライフサイエンス研究、公衆衛生、畜産、養蜂、水産
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	成績は提出物30%、発表(体験学習の分析)70%とする。60点以上を合格とする。発表の評価はルーブリック評価を取り入れる。
教科書	教科書は使用しない。スライドと討議で授業を進める。
関連科目	動物公衆衛生学、家畜疾病学、実験動物学他
参考書	指定しない。前年度学生の発表資料をアップロードする。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	講義はオムニバス形式で、各専門分野の教員により行われますので、各教員に対応した課題の提出を行うこと。 グループ構成は獣医学科と獣医保健看護学科混合です。獣医師とV P Pの協働についてしっかりディスカッションを行ってください。 各グループそれぞれお2か所の施設見学を行います。昨年の学生発表テキストを参考に、目的をもって見学を行ってください。 プレゼンテーションの準備、発表は全員で協力して行ってください。 多様な分野の機関を知ることがこの講義の目的です。相互発表しっかり理解してください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション 獣医学科および獣医保健看護学科学生混合グループ約8名で1グループを構成し、1グループ2か所の学外機関を見学する。各グループは見学先機関について事前に調査を行い、見学で得た知識にもとづき、獣医領域のニーズに応えるために必要な獣医師と獣医関連専門家（V P P）の連携した活動についてプレゼンテーションを行う。発表における質疑応答ををもとに、最終版プレゼンテーション資料を作成し提出する。
課題に対するフィードバック	各グループが作成したプレゼンテーション資料はテキストにまとめ、ポータルサイトにアップロードする。また、発表に対するフィードバックは、ルーブリックによる相互評価と教員評価で行い、各発表に対するコメントをアップロードする。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	[山田裕] ア) ファイザー製薬株式会社勤務 イ) ファイザー製薬株式会社での産業動物臨床経験を生かして、産業動物臨床現場における獣医師の使命、実際の活動状況について講義をする。
その他（注意・備考）	「生命科学実習」とのスケジュール調整により学外見学を行いますので、日程、集合時間を正確に把握してください。実習先ごとに見学時の注意事項が異なります。特に感染症対策には十分な対策が必要ですので、注意事項を厳守してください。

科目名	生命科学 (FVP1U110)
英文科目名	Life Science
担当教員名	村田拓也 (むらたたくや)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	獣医学分野における生命科学について概説し、動物細胞の構造および各細胞小器官の基本的な機能について理解する。
2 回	膜タンパク質の機能、特に物質と情報の受容に果たす膜輸送体および受容体の役割について理解する。
3 回	膜タンパク質の機能、特に膜電位の発生に果たすイオンチャネルの役割と神経性細胞間情報伝達機構について理解する。
4 回	ホルモンの特徴、化学情報伝達物質による細胞間情報伝達機構（オートクリン、パラクリン、エンドクリン）、ホルモンの作用と分泌調節、フィードバックについて理解する。
5 回	動物の生存に必要な基本的な栄養素ならびにそれらの消化吸收機構について、基本的な仕組みを理解する。
6 回	エネルギー産生に必要な酸素を体内に取り込み循環させる機構について、基本的な仕組みを理解する。
7 回	栄養素の代謝により生じる水、二酸化炭素、窒素を排泄する機構について、基本的な仕組みを理解する。
8 回	配偶子の形成機構および哺乳類の基本的な生殖様式について理解する。／最終評価試験（後半45分）

回数	準備学習
1 回	教科書の細胞および恒常性維持を参照して、動物細胞について予習し、生命の定義について考えるとともに、動物細胞の構造および各細胞小器官の基本的な機能についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
2 回	教科書の細胞および恒常性維持を参照して、生体内のタンパク質の構造、特徴について予習するとともに、物質と情報の受容に果たす膜輸送体および受容体の役割についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
3 回	教科書の神経生理学を参照して、膜電位の発生に関連するタンパク質、静止電位、活動電位について予習するとともに、イオンチャネルの役割と神経性細胞間情報伝達機構についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
4 回	教科書の内分泌系を参照して、外分泌と内分泌、細胞間情報伝達機構（オートクリン、パラクリン、エンドクリン）について予習するとともに、各内分泌器官から分泌されるホルモンとその役割と分泌調節機構についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
5 回	教科書の消化生理学・代謝を参照して、生体を構成する物質、動物が必要な栄養素とその消化吸收機構の概要について予習するとともに、三大栄養素の消化吸收機構とそれに関わる臓器についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
6 回	教科書の呼吸機能および心血管系生理学を参照して、なぜ酸素が必要なのか、どのようにして酸素を生体内に取り込むのか、どのようにして酸素を生体内で運ぶのかについて予習するとともに、呼吸機能および循環機能がどのように調節され恒常性が維持されているかをまとめておくこと。（標準学習時間180分）
7 回	教科書の腎臓生理学を参照して、生体内で不要な物質はどのように処理され、どのように排泄されるのかについて予習するとともに、腎臓、肺、肝臓の役割とそれらの機能がどのように関連し合っているかについてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
8 回	教科書の繁殖・泌乳を参照して、生殖（無性生殖、有性生殖）、細胞分裂、減数分裂について予習するとともに、配偶子の形成、受精および胚の発生についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）授業の後半で最終評価試験を行うので、授業全体を復習しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	生命現象を理解するために必要な、生命科学の基礎的な知識を修得する。まず基本的な細胞生理学として、細胞小器官や膜タンパク質の機能について論じ、次いで多細胞生物である動物において内部環境の恒常性維持のために重要となる細胞間情報伝達システムについて理解する。さらに、外部環境との相互作用の中で、動物が自己の個体および種を維持する仕組みについて、細胞レベルから個体レベルに至るまで理解を深める。（獣医学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する）
達成目標	①動物細胞の構造と細胞小器官の機能を学び、基本的な細胞生理学を説明できる(A)。 ②膜タンパク質の種類と、それぞれが細胞機能の調節に果たす役割を説明できる(A)。 ③神経性および液性の細胞間情報伝達機構の特性と意義を説明できる(A)。

	④動物が生存のために必要とする栄養素および酸素の取込み機構を説明できる(A)。 ⑤中間代謝により生じた物質の体外への排泄機構を説明できる(A)。 ⑥動物の生殖を担う細胞、および種の維持機構を説明できる(A)。
キーワード	細胞生理学、膜タンパク質、細胞間情報伝達、中間代謝、生殖
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は、達成目標①～⑥に対応した最終評価試験（80%）および小テスト（10%）・レポート（10%）により評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	まるわかり！基礎生物学／小林直人／南山堂／ISBN978-4-525-05411-3
関連科目	獣医分子生物学、獣医生理学、比較動物機能科学
参考書	獣医生理学（第2版）／高橋迪雄監訳／文永堂出版／ISBN4-8300-3181-6／ギャノン生理学（原書24版）／岡田泰伸監訳／丸善出版／ISBN978-4-621-08717-6：動物生理学（環境への適応）／沼田英治・中嶋康裕監訳／東京大学出版会／ISBN978-4-13-060218-1
連絡先	研究室 A2棟5階 536 直通電話 0898-52-9095 E-mail: t-murata@vet.ous.ac.jp オフィスアワー月曜日3時限
授業の運営方針	小テストやレポート提出を複数回行うことにより、予習・復習の時間を増やすとともに、理解度を確認しながら授業を進める。講義資料は、最前列の机の上に置くので、各自取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験、小テストおよびレポートにおいて、間違いの多い課題あるいは箇所については、授業あるいは補講で説明する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	愛玩動物飼育管理論【月1水4】（FVP2A110）
英文科目名	Companion Animal Management
担当教員名	岩田恵理（いわたえり）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	第1回は、どのような動物種が愛玩動物として人に飼養されているのかについて学ぶ。本講義で取り扱う動物種の多様性について学ぶ。
2 回	第2回は、イヌについて学ぶ。イヌの家畜化の歴史や現在の飼育状況、代表的な品種の特徴について学ぶ。
3 回	第3回は、引き続きイヌについて学ぶ。イヌの飼養管理法やしつけの方法について学ぶ。
4 回	第4回は、ネコについて学ぶ。ネコの家畜化の歴史や現在の飼育状況、代表的な品種の特徴について学ぶ。
5 回	第5回は、引き続きネコについて学ぶ。ネコの飼養管理法やライフサイクルについて学ぶ。
6 回	第6回は、ウサギについて学ぶ。ウサギの特徴、および飼養管理法について学ぶ。
7 回	第7回は、げっ歯類について学ぶ。げっ歯類の分類、生態、飼養管理法について学ぶ。
8 回	第8回は、フェレットについて学ぶ。フェレットの分類、生態、飼養管理法について説明を行う。愛玩動物として飼養されるその他の哺乳類についても学ぶ。
9 回	第9回は、愛玩動物として飼養されるウマについての分類、生態、飼養管理法について学ぶ。
1 0 回	自分の飼いたい哺乳動物を選び、何故その動物を飼いたいと思ったのか、さらにその動物の飼養管理法について簡単にまとめ、口頭発表を行う。
1 1 回	第11回は、鳥類について学ぶ。愛玩動物として飼養される鳥類の分類、生態、飼養管理法について学ぶ。
1 2 回	第12回は、爬虫類について学ぶ。愛玩動物として飼養される爬虫類の分類、生態、飼養管理法について学ぶ。
1 3 回	第13回は、両生類について学ぶ。愛玩動物として飼養される両生類の分類、生態、飼養管理法について学ぶ。
1 4 回	第14回は、魚類について学ぶ。愛玩動物として飼養される魚類の分類、生態、飼養管理法について学ぶ。

1 5 回	自分の飼いたいエキゾチックペットを選び、何故その動物を飼いたかったのか、さらにその動物の飼養管理法について簡単にまとめ、口頭発表を行う。
1 6 回	前半で最終評価試験を受験し、後半で試験内容の解説を聞く。

回数	準備学習
1 回	どのような動物種が愛玩動物として飼養されるのか、思いっただけ列挙しておく（標準学習時間120分）。
2 回	教科書第1章の該当箇所を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準学習時間120分）。
3 回	教科書第1章の該当箇所を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準学習時間120分）。
4 回	教科書第1章の該当箇所を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準学習時間120分）。
5 回	教科書第1章の該当部分を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準学習時間120分）。
6 回	教科書第1章の該当部分を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準学習時間120分）。
7 回	教科書第1章の該当部分を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準学習時間120分）。
8 回	教科書第1章の該当部分を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準学習時間120分）。
9 回	愛玩動物として飼養されるその他の哺乳類にはどのような種がいるか、事前に調べておくこと（標準学習時間120分）。
1 0 回	これまでの講義全体を復習し、特に興味を持ったこと、疑問に思った点などを整理しておくこと（標準学習時間120分）。
1 1 回	愛玩動物として飼養される鳥類にはどのような種がいるか、事前に調べておくこと（標準学習時間120分）。
1 2 回	愛玩動物として飼養される爬虫類にはどのような種がいるか、事前に調べておくこと（標準学習時間120分）。
1 3 回	愛玩動物として飼養される両生類にはどのような種がいるか、事前に調べておくこと（標準学習時間120分）。
1 4 回	愛玩動物として飼養される魚類にはどのような種がいるか、事前に調べておくこと（標準学習時間120分）。

15回	これまでの講義全体を復習し、特に興味を持ったこと、疑問に思った点などを整理しておくこと（標準学習時間120分）。
16回	これまでの講義全体を復習し、内容をよく整理しておくこと（標準学習時間120分）。

講義目的	犬、猫をはじめとする、多様化する愛玩動物について、動物種ごとの生理、生態に基づく飼育管理の方法、健康を維持するための給餌、給水、清掃方法についての知識を修得する。さらに飼育管理における問題と対策、正しい飼育方法、しつけの方法などについての知識も修得する。さらに、人獣共通感染症や疾病、事故等のリスクとその予防なども理解し、クライアントに説明できるようになる。また、愛玩動物に関する法律や条例についての最新の知識も修得する。獣医保険看護学科ディプロマポリシーのAとDと深く関連している。
達成目標	本講義で取り扱う動物種の多様性について理解し、説明できる (A,D)。 イヌの特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 ネコの特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 ウサギの特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 げっ歯類の特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 フェレットの特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 愛玩動物として飼養されるその他の動物の特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 鳥類の特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 爬虫類の特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 両生類の特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。 魚類の特徴と飼養管理法について理解し、説明できる (A,D)。
キーワード	愛玩動物、飼養管理、疾病予防、エキゾチックペット、動物福祉
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出20%（達成目標1～3を確認）、筆記試験80%（達成目標1～3を確認）で評価する。合計100点満点とし、60点以上を合格とする。
教科書	専門基礎分野 動物看護学教育標準カリキュラム準拠 動物飼養管理学 / 左向敏紀 / インタービュー / ISBN-13: 978-4899958154
関連科目	生命倫理学、動物行動学、獣医事法規、動物福祉論
参考書	講義の際に適宜紹介する。
連絡先	研究室 獣医学教育病院 3階321号室 オフィスアワー 火曜2限
授業の運営方針	・課題の提出は、MOMO CAMPUSを利用して行います。紙媒体の提出は受け付けられないので注意してください。 ・MOMO CAMPUSには利用不可の時間帯があるので、課題は早めに提出してください。締め切り後の提出は原則として受け付けません。 ・課題について、他の文章の丸写しであった場合は成績評価の対象としないことがあります。自分の言葉で文章を仕上げてください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出された課題については、MOMO CAMPUSを利用してフィードバックを行います。 ・最終試験については、試験終了後にフィードバックを実施します。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元水族館勤務（閉館してしまったので具体名は出しません）イ) 来館者への環境教育プログラムを実施した経験を生かし、動物を取り巻く種々の問題について学生が自分で考え、自ら規範を持つことができる講義を行う。
その他（注意・備考）	

科目名	獣医疫学 (FVP2A210)
英文科目名	Veterinary Epidemiology
担当教員名	黒木俊郎 (くろきとしろう)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	疫学概論 : シラバスをもとに科目の概要を理解する。獣医疫学の目的、対象、範囲について説明する。また、獣医疫学関連組織と獣医疫学が扱う範囲についても解説する。
2 回	疫学指標 : 集団の中で発生する疾病の頻度を測定するための指標 (発生率や有病率など) を理解できるよう講義する。おのおのの指標のもつ意味を解釈し、使えるようになるための演習問題を実施する。
3 回	原因論 (因果関係) : 暴露と疾病発生の因果関係の意味を理解し、因果関係を判断するための基準について解説する。また、疫学研究におけるバイアス及びその制御法について説明する。
4 回	記述疫学 : 疫学研究における記述疫学の位置づけ、役割についてその重要性を解説する。そして、記述疫学研究から得られた結果から疾病発生要因の仮説を設定することを学ぶ。
5 回	ケース・コントロール研究、生態学的研究、横断研究 : 分析疫学である生態学的研究、横断研究とケース・コントロール研究について、そのデザイン、長所、短所などの特徴、その解析結果の意味を考察する。講義開始前に、15分ほど時間を使い、1～4回までの講義の復習を兼ねた小テスト (10%) を実施する。
6 回	コホート研究と介入研究 : 分析疫学であるコホート研究と分析疫学の結果を野外実験で確認するための介入研究の種類、デザイン、長所、短所などの特徴を解説する。
7 回	スクリーニングテスト : スクリーニングの目的を理解し、スクリーニング検査の妥当性の評価方法を解説する。具体的には、敏感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度、真の有病率などの指標について解説する。
8 回	疫学で使う統計学的知識 : 統計学で学んだ基礎的手法は疫学研究にも応用可能である。疫学研究でよく使われる統計手法について紹介する。
9 回	サーベイランス : サーベイランスの目的、仕組みと評価方法の理解のため、国内外の事例を紹介する。講義開始前に、15分ほど時間を使い、5～8回までの講義の復習を兼ねた小テスト (10%) を実施する。
10 回	サンプリング方法 : 集団、標本などサンプリングを知るために必要な指標を理解し、疫学調査に必要な標本の抽出方法や標本サイズの推定方法を解説する。
11 回	感染症の疫学 : 感染症の疫学を解説する。また、臨床疫学と分子疫学を紹介する。
12 回	非感染症の疫学 : 人の健康の疫学、薬剤疫学、環境疫学を解説する。
13 回	リスク分析とリスク評価 : 微生物学的リスク評価を解説する。 講義開始前に15分ほど時間を使い、9～12回までの講義の復習を兼ねた小テスト (10%) を実施する。
14 回	経済的評価 : 健康事象に関する経済的評価を解説する。
15 回	疫学資料と総括 : 疫学資料の解説と講義の総括を行う。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習 : 教科書の 1 章を読むこと。 復習 : 配布資料なども使い、疫学の目的および対象と範囲を理解すること。
2 回	予習 : 教科書の 3 章を読んでおくこと。 復習 : 発生率や有病率などの疫学指標を、例題を解きながら理解すること。
3 回	予習 : 教科書の 2 章、10 章・11 章を読むこと。 復習 : 健康疾病事象の発生要因と因果関係の検証およびその判定を理解すること。
4 回	予習 : 教科書の 4 章を読むこと。 復習 : 記述疫学の特徴を理解すること。
5 回	予習 : 小テストのための準備を行うこと。教科書の 5 章・6 章・7 章を読むこと。 復習 : ケースとコントロールの違いやオッズ比の 95% 信頼区間の計算方法を理解すること。
6 回	予習 : 教科書の 8・9 章を読むこと。 復習 : コホート研究と介入研究の違いを理解し、相対リスクを理解すること。
7 回	予習 : 教科書の 14 章を読むこと。 復習 : 敏感度、特異度、的中度などの指標を理解すること。
8 回	予習 : 教科書の 15 章を読むこと。 復習 : 統計学の基礎的手法を理解すること。
9 回	予習 : 小テストのための準備を行うこと。教科書の 13 章を読むこと。

	復習：サーベイランスの目的、その計画・実施方法を理解すること。
10回	予習：教科書の12章を読むこと。 復習：サンプル数の推定計算方法や抽出デザインを理解すること。
11回	予習：教科書の16章、17章の2、3、6を読むこと。 復習：感染症の疫学の特徴、臨床疫学、分子疫学を理解すること。
12回	予習：教科書の17章の1、4、5を読むこと。 復習：非感染症の疫学、薬剤疫学、環境疫学を理解すること。
13回	予習：小テストのための準備を行うこと。教科書の18章を読むこと。 復習：リスクアセスメントを理解すること。
14回	予習：教科書の19章を読むこと。 復習：経済的評価方法の意義を理解すること。期末試験のための総復習をすること。
15回	予習：教科書の20章を読むこと。 復習：疫学資料の意義を理解すること。

講義目的	獣医疫学は、経済・愛玩・野生動物など多様な動物の集団を対象とした健康と疾病に関する科学である。フィールドにおける疾病のコントロールや効果的な予防対策を提案するためには、リスク要因や交絡因子を推定する必要がある。原因論、疫学指標、疫学研究方法など疫学の基礎を前半に、後半では応用編として、経済評価、サーベイランス、リスクアセスメント、疾病コントロール方法などについて説明する。生産病や感染症、また、食中毒など疫学調査・研究事例についても紹介する。
達成目標	①疫学の指標や調査・研究手法について関心を持つ（関心・意欲） ②リスク要因と疾病発生における因果関係について考察し、説明できる（思考・判断・表現） ③発生現場において原因を見つけるための疫学調査方法が提案できる（技能） ④家畜疾病の問題を見出し、解決する方法を主体的に考え、説明できる（知識・理解）
キーワード	疫学指標、疫学研究手法、因果関係
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に行う小テストの結果30%（達成目標①～④を暫定的に評価）、期末定期試験の結果70%（達成目標①～④を本格的に評価）で合わせて100%とし評価する。総計100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	獣医疫学 ー基礎から応用までー第2版／獣医疫学会編／近代出版／ISBN978-4-87402-179-8
関連科目	動物微生物学、生物統計
参考書	適宜プリントを配付する。
連絡先	研究室：獣医学部棟5階 524号室 直通電話：0898-52-9086 E-mail：t-kuroki@vet.ous.ac.jp オフィスアワー：金曜日4時限
授業の運営方針	授業中の私語、スマホの使用等は厳禁とします。注意してもそれが繰り返される場合は途中退席を求めることがあります。また、30分を越す常習的な遅刻も認めません。嚴重注意し、場合によっては評価試験を受けることができなくなります。授業で重視することは、準備学習をしてきた内容を講義で理解・確認し、その知識を確固たるものにしてもらうことと心得てください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業中に行う数回の小テストについては、次回の講義中に解答を示して解説を行い、フィードバックとする。最終評価試験のフィードバックとしては、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	神奈川県衛生研究所での業務：神奈川県衛生行政の科学的・技術的中核である衛生研究所において、原虫感染症検査・調査研究や検査法の検討等を行ってきた。こうした経験も講義の内容に盛り込む。
その他（注意・備考）	

科目名	動物生化学【月3水2】（FVP2C110）
英文科目名	Biochemistry for Animal Health Sciences
担当教員名	江藤真澄（えとうますみ）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	細胞情報伝達:代謝やそれに関わる酵素の理解を助けるために、細胞情報伝達機構について考察する。タンパク質の生理的な機能の一部について考察する。
2 回	タンパク質研究法と酵素:タンパク質研究法概念の考察。酵素の構造と機能、アロステリック酵素、ミカエリスメンテン式に基づいた酵素反応速度論を考察する。
3 回	学生課題発表1(1):細胞情報伝達に関する課題の学生発表。各班が課題の考察を発表する。担当班は発表内容に関する設問を設定する。各班の発表内容についての評価表を作成する。
4 回	学生課題発表1(2):タンパク質研究法と酵素に関する課題の学生発表。【演習】
5 回	生体エネルギーと糖代謝:生体エネルギーとは何か、それを取り出す代謝とは何かを考察する。様々な多糖の消化と吸収について議論する。
6 回	糖の分解:栄養素としての糖の代謝反応と生体エネルギーであるATPの合成反応を考察する。
7 回	脂質、アミノ酸と窒素化合物の代謝:栄養素としての脂質、タンパク質、核酸の消化・吸収・体内輸送を解説する。生体からの窒素の排泄機構と動物種による違いと糖質代謝とのクロストークを考察する。
8 回	学生課題発表2(1):生体エネルギーと代謝に関する課題の学生発表。【演習】
9 回	学生課題発表2(2):生体エネルギーと代謝に関する課題の学生発表。【演習】
1 0 回	ビタミンと微量元素:生体機能の維持に必要なビタミンおよび微量元素を理解するために、脂溶性・水溶性ビタミンと微量元素の機能について考察する。
1 1 回	獣医臨床生化学:生化学検査に用いられる数値を理解するために、血液成分と尿成分、血液細胞の機能について考察する。
1 2 回	学生課題発表3(1):ビタミンと微量元素に関する課題の学生発表。【演習】
1 3 回	学生課題発表3(2):臨床生化学に関する課題の学生発表。【演習】
1 4 回	生化学研究法:生体構成成分を運ぶ血管の機能を調べた生化学的研究を考察するとともにこれまでの講義内容を振り返る。
1 5 回	動物生化学総括:担当教官との質疑応答形式で本講義と各班の発表・設問の重要学習ポイントを復習し、動物生化学の知識を深める。

回数	準備学習
1 回	授業までにシラバスを読み、授業の全体を把握しておくこと。アクティブラーニング法について調べておくこと。授業後、細胞情報伝達機構について説明できるように整理すること。
2 回	授業までにタンパク質を研究する意義について考えておくこと。授業後、各タンパク質研究法の原理を説明できるように整理すること。
3 回	授業までに班員と協力して与えられた課題について考察し、その発表（10分程度）を準備する。発表内容に基づき小試験形式（各班5分）の設問を用意する。授業後、各班の発表内容と設問を整理する。
4 回	授業までに班員と協力して与えられた課題について考察し、その発表（10分程度）を準備する。

	発表内容に基づき小試験形式（各班 5 分）の設問を用意する。授業後、各班の発表内容と設問を整理する。
5 回	授業までに単糖・多糖の構造について調べておくこと。授業後、生体エネルギーの概念と糖代謝を説明できるように整理すること。
6 回	授業までにミトコンドリアについて調べておくこと。授業後に糖の代謝経路について説明できるように整理すること。
7 回	授業までに脂質・アミノ酸・核酸の構造を調べておくこと。授業後に各生体物質の代謝経路とケトースについて説明できるように整理すること。
8 回	授業までに班員と協力して与えられた課題について考察し、その発表（10 分程度）を準備する。発表内容に基づき小試験形式（各班 5 分）の設問を用意する。授業後、各班の発表内容と設問を整理する。
9 回	授業までに班員と協力して与えられた課題について考察し、その発表（10 分程度）を準備する。発表内容に基づき小試験形式（各班 5 分）の設問を用意する。授業後、各班の発表内容と設問を整理する。
10 回	授業までに、サプリメントの広告などで見かけるビタミンについて調べておくこと。授業後、ビタミン、ミネラルについて種類と機能を説明できるように整理すること。
11 回	授業までに、動物の健康診断に使われる生化学検査について調べておくこと。授業後、血液成分と尿性分、血液細胞について種類と機能を説明できるように整理すること。
12 回	授業までに班員と協力して課題について考察し、その発表（10 分）を準備する。発表内容に基づき小試験形式（各班 5 分）の設問を用意する。授業後、各班の発表内容と設問を整理する。
13 回	授業までに班員と協力して課題について考察し、その発表（10 分）を準備する。発表内容に基づき小試験形式（各班 5 分）の設問を用意する。授業後、各班の発表内容と設問を整理する。
14 回	授業までに獣医分子生物学と獣医生化学講義の内容を復習しておくこと。授業後、血管機能調節機構について説明できるように整理すること。
15 回	授業までに講義と各班の発表で解説された内容を復習しておくこと。また小試験や課題を全て見直し、疑問点を整理しておくこと。

講義目的	生化学では、生命活動を維持する仕組みを理解するために動物の営みを化学反応としてとらえる。様々な化学反応が的確に調節されることが正常な生命機能を維持するために必須であり、その仕組みの破綻は病気の原因となっている。一方、生体内の化学物質の変動は様々な病気の指標となる。動物の健康管理と密接に関係する生命現象を分子レベルにて理解するために、本講義では動物細胞の活動を支えるタンパク質や生体化学物質を議論する。特に、生体エネルギーについて理解するとともに、糖質や脂質などの代謝に関与する分子群と化学反応、および獣医学に密接する生体物質と病気の関連やその検査概念を中心に考察する。また本講義では教官による各項目の概説の後、与えられた課題を班員と協力しながら考察し、それらを持ち寄って発表するアクティブラーニング形式を一部取り入れる。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する）
達成目標	1. 生体エネルギーの生産・利用について説明できる。 2. 炭水化物、タンパク質、脂肪などの代表的な栄養素や生体構成分子の代謝を説明できる。 3. 代謝パターンと代謝の臓器相関について説明できる。 4. 動物種ごとに必要な栄養素を説明できる。 5. 動物種に特有な栄養代謝を説明できる。 6. ビタミン、ミネラルについて種類と機能を説明できる。 7. 血球成分と血漿成分について説明できる。

	8. 血小板機能と血液凝固機序および線維素溶解を説明できる。 9. 尿の成分について説明できる。 10. 生体検査に用いられる化学反応について説明できる。 11. 生体内情報伝達の仕組みについて説明できる。 12. タンパク質研究法の原理と酵素の機能について説明できる。 13. 研究発表能力を向上させる。 (上記すべて獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する)
キーワード	生命活動、栄養、生体エネルギー、代謝、ビタミン、微量元素、血液・尿成分、臨床検査
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	各班3回の課題発表の評価結果(学生による評価(20点満点)+教員による評価(30点満点))、および教員が作成する最終評価試験結果(50点満点)から総合的に成績評価する。60点以上の得点を合格とする。最終試験の後に成績向上や単位取得のための補講や再試験は行わない。
教科書	教科書は使用しない。講義資料を配布する。
関連科目	動物分子生物学、生命科学実習
参考書	改訂獣医生化学／横田博、木村和弘、志水泰武編／朝倉書店／ISBN978-4-254-46035-3：よくわかるスタンダード生化学／有坂文雄著／裳華房／ISBN978-4-7853-5232-5：イラストレイテッドハーパー生化学原著30版／清水孝雄監修翻訳／丸善出版／ISBN978-4621300978、はじめの一歩の生化学・分子生物学／前野正夫、磯川桂太郎著／羊土社／ISBN978-4-7581-2072-2
連絡先	獣医学部棟A0620号室、オフィスアワー月曜日12:30-13:00、Email: eto.ousvet@gmail.com、0898-52-9000
授業の運営方針	本講義に関する履修者との連絡にはE-mailを用いる。講義資料などの配布物はポータルサイトから入手できる。一回目の講義にて解説されるその他の履修上の注意を留意すること。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習・グループ学習を取り入れる。与えられた課題を考えることで講義の内容について自らまとめ、理解し、疑問点を整理する。
課題に対するフィードバック	課題発表をクラス全員で考察する。
合理的配慮が必要な学生への対応	学内ガイドラインに基づく本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	人獣共通感染症学（FVP2C210）
英文科目名	Zoonosis
担当教員名	吉川泰弘（よしかわやすひろ）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	人獣共通感染症原論：Zoonosisという言葉の由来と定義、その変遷を理解する。新興・再興感染症の定義と人獣共通感染症の関係を理解する。代表的な人獣共通感染症の実例（ペスト、狂犬病の特徴など）について、その特徴と問題点を理解する。人獣共通感染症のリスク増加の原因を開発途上国、先進国に分けて考察する。人獣共通感染症への対応（国際対応、国内対応）について、概要を学ぶ。
2回	人獣共通感染症の手技：人獣共通感染症を理解するための要素を学修する。疫学について学ぶ。サーベイランス（疾病監視）の種類、目的、意義、利用のしかたを学ぶ。実例として、人獣共通感染症の一つであるBSEの検査について検討する。BSE検査はサーベイランスかスクリーニングか？検査の意味と有用性、限界を理解する。人獣共通感染症について情報収集の仕方を学ぶ。
3回	伴侶動物由来感染症：厚労省ハンドブック「動物由来感染症を知っていますか？伴侶動物の感染症と伴侶動物に由来する感染症について学ぶ。とくに、伴侶動物の実態、伴侶動物由来感染症の特徴と多様性を理解する。ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫病にわけて学修する。
4回	産業動物由来感染症：産業動物の感染症を概観したのち、産業動物由来感染症とその特徴を理解する。実例として、ニパウイルス感染症（豚）、高病原性鳥インフルエンザ（家禽）、牛海綿状脳症（BSE、牛）、クリミア・コンゴ出血熱（反芻動物等）など、世界を震撼させた感染症、および日本脳炎、Q熱、ブルセラ症についても学修する。
5回	齧歯類由来感染症：齧歯類の特性及び齧歯類由来感染症の多様性について理解する。陸生哺乳類で最大の種数（2000種）を占める齧歯類に由来する感染症には、ラッサ熱、腎症候性出血熱、ハンタウイルス肺症候群や、南米出血熱、サル痘、細菌感染症であるペスト、レプトスピラ症、仮性結核、バルトネラ症及び節足動物が媒介する日本紅斑熱、ツツガムシ病などがある。これらを学修する。
6回	翼手目：蝙蝠は齧歯類について多様性を持つ（1100種）。近年では多くの病原体を有していることが明らかにされ始めた。古くから知られていた狂犬病ウイルス以外にもコウモリリッサウイルス、ヘンドラウイルス、ニパウイルス、SARSコロナウイルス、及びエボラウイルスとマールブルクウイルスなどのフィロウイルスの自然宿主と考えられている。感染症とともに蝙蝠の生態、特性についても学ぶ。
7回	サル類：霊長類は約220種といわれているが、ヒトに最も近縁であるため、人獣共通感染症が多い。展示動物とともに多くは実験動物として利用される。サル類の安全な取り扱い、リスクシナリオ、ヒトからサル類への感染症（Anthropozoonosis）、サル類からヒトへの感染症（Zoonosis）に分けて理解する。また、国内及び国際対応及び（陸生動物衛生規範）び輸入検疫・獣医師届出疾病についても学修する。
8回	鳥類：鳥類はウイルスや細菌を運ぶベクターや病原体の増幅動物としての役割を果たしている。野鳥を介した感染症や食品を介した鳥類由来の感染症（食中毒）は、決して少なくない、これらの事例と問題点について学ぶ。
9回	ウイルスによるZoonosis：感染症法に挙げられている人獣共通感染症（1類から5類まで）のうちウイルスによる人獣共通感染症は非常に多く、かつ重要である。適応・拡散した多くのウイルス種のうち、人獣共通感染症を起こすウイルスには、どのような特性があるのか？感染症からではなく、病原体の側から考える思考法を学修する。
10回	細菌・リケッチア・クラミジア、マイコプラズマによるZoonosis：真正細菌の中で、人獣共通感染症の病原体となるものについて学修する。現在知られている29門の細菌のうち、どのような種類の細菌が鳥類や哺乳類を宿主として選んだのか？その理由はどこにあるのか？などについて学ぶ。また、治療法の基礎となる抗生物質と耐性菌についても学修する。
11回	真菌、原虫・寄生虫によるZoonosis：国際的にみれば寄生虫感染症は非常に重要な人獣共通感染症であるが、日本では大きな問題となる感染症は少ない。公衆衛生上から見た寄生虫感染症の特徴を学修する。感染症法にあるものとして、アメーバ赤痢、エキノコックス症、ジアルジア

	症、マラリア。感染症法にないもので症例数の比較的多いもの、トキソプラズマ症、アニサキス症などを理解する。国内事例はないがアライグマ回虫症、キンカジュール虫症のリスク評価についても学修する。
1 2 回	感染経路からの理解：咬傷、引っ掻き・創傷、接触感染、空気・飛沫感染、経皮、節足動物媒介ではデング熱、マラリア、オンコセルカ症などがある。経口感染、土壌、水系感染について理解し説明する。感染性食中毒としてはEHEC（牛）、ノロウイルス感染症（牡蠣）、サルモネラ症（豚・鶏）、カンピロバクター症（鶏）などがあるので、その特性を学修する。
1 3 回	人獣共通感染症のうちベクターを介する感染症の代表的な事例としてデング熱を対象に、病原体としてのデングウイルスの特性、ベクターである蚊の生態、媒介昆虫体内での病原体の増殖、西ナイル熱ウイルスとの違い、流行疫学、節足動物媒介ウイルス病のR0の考え方、予防・治療法の試みなどを学修する。
1 4 回	人獣共通感染症のうち途上国と先進国の流行パターンの違いを理解する。エボラウイルス感染のR0の求め方を理解し説明できる。途上国における感染症の統御が自然科学分野だけでは困難で学術的分野を融合した取り組みが必要であることを知るために、エボラ出血熱を例にとって学修する。
1 5 回	人獣共通感染症関連法規：狂犬病予防法、感染症法他を解説する。狂犬病と防疫体制、ガイドライン。感染症法の経緯。法定検疫、輸入届出制など、これまでの授業で個別に説明されたが、ここでは、獣医師の届出、医師の届出基準。国際法規、条約等：WHO、FAO、OIEの役割。One World, One Healthの考えかたなどについて総括的に再度学修する
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	以下HPにデータがある（ http://www.ayyoshi.com ）。東京大学の市民公開講座にもビデオが公開されている（HP動物由来感染症とは？）。授業を受ける前に、これらの情報を見ておくと、授業が分かりやすい。
2 回	BSE問題に関してはHP「雑感、BSE」にデータがある。（ http://www.ayyoshi.com ）。サーベイランスに関しては、大学のポータルサイトにデータが入っている。講義の動物感染症学も役に立つ（ただし3年次科目）。自分でいろいろなサーベイランスの方法についてまとめてみる。
3 回	講義スライド、関連スライドはポータルサイトにある。興味があれば、NHKラジオ講座「生物進化の謎と感染症」（第11回、ペット動物からも病気は広がる）、CDもある。厚生労働省のHPからハンドブック「動物由来感染症を知っていますか？」、HPで動物取扱責任者研修のデータなどを調べてみる。
4 回	家畜に由来する人獣共通感染症について学ぶ。重要なウイルス感染症としては1類感染症のクリミア・コンゴ出血熱、2類感染症のMER Sの他、日本脳炎、E型肝炎がある。細菌感染症ではQ熱、炭疽、ブルセラ症がある。各自調べて、その特徴、感染経路、症状、診断、予防・治療法についてまとめる。HP（ http://www.ayyoshi.com ）、東京大学の市民公開講座のビデオ、vCAM Pが公開されている。NHKラジオ講座「生物進化の謎と感染症」、第7回、11回の放送がNHK出版にある。
5 回	齧歯類由来の感染症は、野生動物に由来する人獣共通感染症のなかで最も種類が多いと思われる。哺乳類の中でも最も古く、病原体宿主として長い歴史を持っている。また、齧歯類は極地を除くほとんどすべての地域に生息していること、種が多く、病原体も齧歯類の多様性とともに関連し、多様化している。人家に住んだり、人との接触も多く、比較的容易に病原体を人間社会に持ち込む。人と齧歯類の関係を感染症の観点からまとめる。
6 回	世界中を驚かせた新興感染症で自然宿主が明らかになった例をみると、多くがコウモリである。コウモリが原因なのにウマから感染するヘンドラウイルス感染症、ブタから感染したニパウイルス感染症、ヨーロッパとオーストラリアなどのコウモリリッサウイルス感染症、マールブルグ病やエボラ出血熱。さらに中国のSARSなどがある。何故コウモリがこのような役割を果たすのか？そもそもコウモリとはどのような特徴を持った動物か？調べる。
7 回	人獣共通感染症には動物から人に来るもの、人から動物に感染し、また人が罹るものもある。人から動物に行く人獣共通感染症の多くは、サル類である。ヒト由来感染症（Anthropozoonosis, 再帰感染症 recurrent infectionともいう）で、サル類の赤痢、結核、ウイルス性肝炎などがある。サル類からはBウイルス病、サルマラリア、アメーバ赤痢、ジアルジア症などがある。サルから人、人からサルに分け、感染症を分類すること。
8 回	鳥類由来の人獣共通感染症は、哺乳類由来に比べ少数である。近年問題となっているものには、ウイルス病では高病原性鳥インフルエンザ、西ナイル熱がある。シンドビスウイルス感染症もウイルスである。鳥型結核、カンピロバクター症などは細菌感染症である。クリプトコックス症は真菌症で鳥類由来である。野鳥に由来するものと家禽に由来するもの、その他の鳥（動物園など）に分け

	て感染症の事例を整理すること。
9回	2本鎖DNAウイルス、1本鎖DNAウイルス、逆転写DNAウイルス、2本鎖RNAウイルス、プラス鎖1本鎖RNAウイルス、マイナス鎖1本鎖RNAウイルス、逆転写RNAウイルスについて、これまで習ったウイルス性人獣共通感染症（各種動物に由来するウイルス感染症）の病原体がどの分類に入るか？自分で表にまとめること。
10回	細菌の分類（モネラ界、29門）を理解しよう。グラム染色、好気性、嫌気性、形体（球菌、桿菌、螺旋菌、その他）、細胞偏性寄生のリケッチア、クラミジア、細胞壁をもたないマイコプラズマなどの特性が、どのように種を超えて人に感染する可能性をもつのか？考え、調べてみる。決してすべて門の細菌が人獣共通感染症の病原体になるわけではない。
11回	人獣共通感染症の病原体となる真菌類は多くない。どのような特性を持った真菌がそのような能力を持つのか？考えてみる。真核生物のうち、動物、植物、真菌を除いたものが原生生物で、ミトコンドリアを持つものが原生動物である。そのうちで病原性を持つものが原虫である。原虫は、血液の中に住む原虫（マラリア）、筋肉に住む原虫（住肉胞子虫）、肝臓（赤痢アメーバ）・腎臓（ヒストモナス）で増える原虫、腸管の好きな原虫（コクシジウム）、脳に行く原虫（トキソプラズマ）肺を好む原虫（ニューモシスチス？原虫でなく真菌に分類された）と様々である。自分で調べて、臓器、原虫、宿主の一覧表にまとめること。
12回	人獣共通感染症の病原体の侵入経路には多様性がある。宿主への病原体の侵入経路は、病原体の特性や生態と深く関連している。人へ病原体を伝播する動物の生態とも関連している。さらに、同一の病原体であっても複数の侵入経路を持つものがあり、侵入経路により、臨床症状のパターンも違う。人獣共通感染症の病原体が侵入する経路の違いが持つ意味を調べてみる。
13回	2014年、戦後初めての日本国内でのデング熱流行が起こり、パニックになった。この機会に、ベクター媒介人獣共通感染症の事例としてデング熱について、その特徴を理解しておくこと。2015年には、ハワイでデング熱の流行が起こり、180件の発生が報告されている。今回はデング熱について学修するが、近縁なウイルス感染症である日本脳炎、黄熱、西ナイル熱等について、デング熱に習って自分で調べる。
14回	同じエボラウイルスの感染でも、西アフリカでは爆発的な広がりを見せ、世界を震撼させた。エボラ患者は先進国でも発生し、2次感染を起こした例もあったが、アフリカのようなアウトブレイクにはならなかった。両地域の違いはどこにあるのか？キーとなる点は何かを考えてみる。
15回	感染症をコントロールするために整備された法律（家畜伝染病予防法、伝染病予防法、感染症法など）について、成立の経緯とその趣旨、変遷を調べて、年表にまとめる。

講義目的	人獣共通感染症（Zoonosis）は、「ヒトと脊椎動物との間で自然に伝播する疾病あるいは感染症」と定義されています。これらの病気をコントロールするためには、原因となる病原微生物（病原体：pathogen）を保有する動物群の種類やその生態、病原体の特性、ヒトと動物の間の病原体の感染経路（伝播様式）の理解、予防・治療などの危機管理対応を理解する必要があります。本講義では人獣共通感染症の概論、各種動物に由来する感染症、病原体の特性からみた人獣共通感染症、実際の事例の解析、国内外の感染症コントロールの戦略などを理解できるように教えます。
達成目標	人獣共通感染症には、病原体の種類（プリオン、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫）から見た特性、あるいは伝播経路：直接伝播－咬傷、引っ掻き、接触、空気、飛沫感染などと間接伝播－土壌、水系、節足動物媒介や食品由来などからみた分類、そして各種動物（伴侶動物、産業動物、野生動物、実験動物、展示動物など）に由来する感染症のカテゴリーなど、いろいろな分類法があります。これらの相互の関係を整理し、統合的に理解でき、説明できるようになる。また、多様な感染症の優先順位や国内外の人獣共通感染症の統御戦略などについての考え方を理解する。
キーワード	ズーノーシス造語・定義、新興・再興感染症、狂犬病、ペスト、人類と感染症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施する質疑応答20%、解答に関連する説明能力（レポート）30%、定期試験（英文和訳後回答、正誤課題、5択問題）50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医公衆衛生学Ⅱ 文永堂出版、獣医公衆衛生学教育研修協議会（編） ISBN:978-4-8300-3251-6
関連科目	獣医微生物学、獣医寄生虫学、獣医病理学、獣医薬理学、獣医疫学
参考書	生物進化の謎と感染症／吉川泰弘／NHK出版／978-4-14-910914-5
連絡先	学部棟6階学部長室
授業の運営方針	パワーポイントで説明、試験は広範囲なので本質的なことを理解する。講義内容を予習し、質問等を考えておくこと。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	模範回答はネットおよびポータルサイトに公開します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 国立予防衛生研究所 イ) 感染症法の作成に関与、狂犬病予防法の改正、食品安全委員会でのBSEトレサビ法等について国民に解説し、動物医薬事害議会で議長として生物製剤の害議を進めた。
その他（注意・備考）	再試は行わない。

科目名	人間・動物関係学【月4火3】（FVP2D110）
英文科目名	Anthrozoology
担当教員名	岩田恵理（いわたえり）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	第1回は、人と動物の関わりの歴史について学ぶ。具体的には、動物の収集・飼育・利用の歴史、文学・芸術における動物の表現について学ぶ。
2 回	第2回は、引き続き人と動物の関わりの歴史について学ぶ。具体的には、西欧と日本での動物との関わりの歴史について学ぶ。
3 回	第3回は、現代の人と動物の関わりについて学ぶ。具体的には、動物の飼育と利用の現状、人と動物の協働の種類について学ぶ。
4 回	第4回は、引き続き現代の人と動物の関わりについて学ぶ。具体的には、動物の介在が与える人への生理学的影響、身体的影響、および心理的影響について学ぶ。
5 回	第5回は、動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育について学ぶ。具体的には、動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育の定義、歴史と現状について学ぶ。
6 回	第6回は、使役動物について学ぶ。具体的には、家畜化の過程とその歴史、現状について学ぶ。
7 回	第7回は、使役動物について学ぶ。具体的には、盲導犬、介助犬、聴導犬などの補助犬の定義、歴史と現状、育成過程や特徴、補助犬の適性および施設や社会の受け入れ体制の概要について説明学ぶ。また、その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、探知犬など）の種類と特徴、および現状についても学ぶ。
8 回	第8回は、ペットの飼育について学ぶ。具体的には、人間が動物をペットとして飼育するさまざまな理由、ペット飼育の現状、ペットの適正飼育を推進するために必要な対策、ペットへの依存の心理、ペットロスの定義と対策について学ぶ。
9 回	第9回は、動物虐待について学ぶ。具体的には、人間が動物を虐待するさまざまな理由、動物虐待の定義、動物虐待の現状、動物虐待の問題点および対策について学ぶ。
1 0 回	第10回は、野生動物保全について学ぶ。具体的には、日本の野生動物の現状について学ぶ。
1 1 回	第11回は、野生動物保全について学ぶ。具体的には、野生動物が関わる問題と保全の概要について学ぶ。
1 2 回	第12回は、引き続き野生動物保全について学ぶ。具体的には、野生動物保全における獣医療の役割について学ぶ。
1 3 回	第13回は、引き続き野生動物保全について学ぶ。具体的には、飼育下繁殖と動物園の役割、野生動物救護獣医療の概要について学ぶ。
1 4 回	第14回は、ペット産業の現状について学ぶ。具体的には、ペット飼育の経済的背景、ペット産業の種類と内容について学ぶ。
1 5 回	人と動物の関係を考えるきっかけとなる事例をもとに、自分の考える人と動物の関係について説明できるようになる。
1 6 回	前半で最終評価試験を受験し、後半で試験問題の解説を聞く。

回数	準備学習
1 回	教科書第1章-1および-2を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
2 回	教科書第1章-3を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
3 回	教科書第2章-1を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
4 回	教科書第2章-2を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
5 回	教科書第3章を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
6 回	教科書第4章-1を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
7 回	教科書第4章-2および-3を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
8 回	教科書第5章を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
9 回	教科書第6章を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
1 0 回	教科書第7章-5および6を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
1 1 回	教科書第7章-1および2を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
1 2 回	教科書第7章-3および-4を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
1 3 回	教科書第8章-7を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
1 4 回	教科書第8章を通読し、キーワードを整理しておくこと。また疑問に思った点があれば書きとめておくこと（標準準備時間120分）。
1 5 回	これまでの講義全体を復習し、特に興味を持ったこと、疑問に思った点などを整理しておくこと（標準準備時間120分）。
1 6 回	これまでの講義全体を復習し、内容を整理しておくこと（標準準備時間120分）。

講義目的	本講義では、将来獣医療に従事する者として、どのように動物と関わるべきであるかを各自で考えるための素材を提供することを目的として、人と動物のかかわりについて様々な角度から学ぶ。具体的には、人と動物との関係の歴史、動物を知り動物から学ぶこと、現代における動物との間に生じる現実的課題、動物との触れ合いを通して人間社会を豊かにする方法（動物介在療法）などがテーマとなる。自然科学系の一分野である獣医学、社会科学、人文科学などの幅広い領域をカバーする。獣医学部ディプロマポリシーのDと深く関連している。
達成目標	1) 人と動物の多面的な関わりについて、古代から現在に至るまでの代表的なできごとや考えを理解し、説明できる (D)。 2) 人と動物の多面的な関わり の現状と理論的基盤について理解し、説明できる (D)。 3) 動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育の概要を理解し、説明できる (D)。 4) 動物の力や嗅覚など感覚を利用して人間のために使役される動物について理解し、説明できる (D)。 5) ペット飼育の現状と問題点を知り、ペット飼育者の心理に関する問題を理解し、説明できる (D)。 6) 動物虐待の定義と現状を知り、問題点を理解し、説明できる (D)。 7) 野生動物保全の現状と、その背景となる社会情勢について理解し、説明できる (D)。 8) ペット産業の現状と、その背景となる社会情勢や課題について理解し、説明できる (D)。
キーワード	社会学、歴史学、動物介在活動、使役動物、愛玩動物、野生動物、展示動物
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出20%（達成目標1～8を確認）、筆記試験80%（達成目標1～8を確認）で評価する。合計100点満点とし、60点以上を合格とする。
教科書	専門基礎分野 動物看護学教育標準カリキュラム準拠 人と動物の関係学 / 加隈良枝 / インターズー / ISBN-13: 978-4899958130
関連科目	生命倫理学、動物行動学、動物行動治療学、獣医事法規
参考書	講義の際に適宜紹介する。
連絡先	研究室 獣医学教育病院 3階321号室 オフィスアワー 火曜2限
授業の運営方針	・課題の提出は、MOMO CAMPUSを利用して行います。紙媒体の提出は受け付けられないので注意してください。 ・MOMO CAMPUSには利用不可の時間帯があるので、課題は早めに提出してください。締め切り後の提出は原則として受け付けません。 ・課題について、他の文章の丸写しであった場合は成績評価の対象としないことがあります。自分の言葉で文章を仕上げてください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出された課題については、MOMO CAMPUSを利用してフィードバックを行います。 ・最終試験については、試験終了後にフィードバックを実施します。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元水族館勤務（閉館してしまったので具体名は出しません） イ) 来館者への環境教育プログラムを実施した経験を生かし、動物を取り巻く種々の問題について学生が自分で考え、自ら規範を持つことができる講義を行う。
その他（注意・備考）	

科目名	動物薬理学各論（FVP2F210）
英文科目名	Veterinary Nurse Pharmacology
担当教員名	水野理介（みずのりすけ）
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	呼吸器系に作用する薬物（水野） 呼吸調節機構を概説し、呼吸器系に作用する薬（呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬）の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
2 回	循環器に作用する薬物1（水野） 血管系による循環調節機構を概説し、血管拡張薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
3 回	循環器に作用する薬物2（水野） 心不全の病態生理を概説し、その治療薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。また、不整脈の発生機序を解説し、抗不整脈薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
4 回	泌尿器に作用する薬物（水野） 腎臓の体液調節機構を概説し、利尿薬・抗利尿薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
5 回	消化器に作用する薬物1（水野） 消化・吸収の調節機構を概説し、制吐薬・抗潰瘍薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
6 回	消化器に作用する薬物2（水野） 消化管運動や吸収の調節機構を概説し、消化管運動促進薬・止瀉薬・瀉下薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
7 回	消化器に作用する薬物3（水野） 肝臓の機能を概説し、肝疾患治療に用いられる薬物の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
8 回	代謝・内分泌系の薬物1（水野） 血糖調節機構を概説し、糖尿病治療に用いられる薬物の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を解説する。
9 回	代謝・内分泌系の薬物2（水野） 甲状腺ホルモン・ステロイドホルモンの分泌様式を概説し、甲状腺障害治療薬とステロイド薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
1 0 回	代謝・内分泌系の薬物3（水野） 脂質代謝・骨代謝を概説し、脂質代謝異常・骨代謝異常の治療薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。薬剤投与量の計算方法について説明する。
1 1 回	血液・免疫系に作用する薬物1（水野） 貧血の種類・原因を概説し、抗貧血薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。炎症について概説し、抗炎症薬（ステロイド・非ステロイド薬）の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
1 2 回	血液・免疫系に作用する薬物2（俵） 血液凝固系-線溶系を概説し、血液凝固促進薬、血液凝固抑制薬ならびに血栓溶解薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
1 3 回	血液・免疫系に作用する薬物3（俵） 免疫を概説し、免疫抑制薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
1 4 回	化学療法薬1（俵） 感染症（寄生虫、細菌およびウイルス）について概説し、抗菌薬と駆虫薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。
1 5 回	化学療法薬2（水野） 悪性腫瘍について概説し、抗悪性腫瘍薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。また、感染症予防を概説し、消毒薬と殺虫薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明する。各講義で説明した薬剤の半減期、薬物間相互作用、耐性、中毒および、薬品管理方法について総括を行う。特に抗悪性腫瘍薬は厳重な投薬管理が求められる。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	呼吸器系の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。呼吸器系に関する薬物について教科書を参考に予習すること。 呼吸器系に関する薬物について教科書を参考に整理して復習すること。

	(標準学習時間120分)
2 回	血管の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。血管系に関する薬物について教科書を参考に予習すること。 血管系に関する薬物について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
3 回	心臓の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。心不全・不整脈に関する薬物について教科書を参考に予習すること。 心不全・不整脈に関する薬物について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
4 回	腎臓の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。利尿薬・抗利尿薬について教科書を参考に予習すること。 利尿薬・抗利尿薬について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
5 回	消化管の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。制吐薬・抗潰瘍薬について教科書を参考に予習すること。 制吐薬・抗潰瘍薬について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
6 回	消化管の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。消化管運動促進薬・止瀉薬・瀉下薬について教科書を参考に予習すること。 消化管運動促進薬・止瀉薬・瀉下薬について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
7 回	肝臓の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。肝疾患治療に用いられる薬物について教科書を参考に予習すること。 肝疾患治療に用いられる薬物について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
8 回	膵臓の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。糖尿病治療に用いられる薬物について教科書を参考に予習すること。 糖尿病治療に用いられる薬物について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
9 回	内分泌器官の構造・機能について解剖学と生理学の教科書を参考に予習すること。甲状腺障害治療薬とステロイド薬について教科書を参考に予習すること。 甲状腺障害治療薬とステロイド薬に用いられる薬物について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
10 回	脂質代謝・骨代謝について生化学の教科書を参考に予習すること。脂質代謝異常・骨代謝異常の治療薬について教科書を参考に予習すること。 脂質代謝異常・骨代謝異常の治療薬について教科書を参考に整理して復習すること。 治療薬投与量の計算ができるように復習すること。 (標準学習時間120分)
11 回	血液・赤血球について生理学の教科書を参考に予習すること。貧血に関する薬物について教科書を参考に予習すること。 貧血に関する薬物について教科書を参考に整理して復習すること。 炎症について病理学(総論)の教科書を参考に予習すること。抗炎症薬について教科書を参考に予習すること。 抗炎症薬について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
12 回	血液と免疫について生理学と免疫学の教科書を参考に予習すること。血液凝固促進薬、血液凝固抑制薬・免疫抑制薬について教科書を参考に予習すること。 血液凝固促進薬、血液凝固抑制薬・免疫抑制薬について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
13 回	免疫について免疫学の教科書を参考に予習すること。免疫抑制薬について教科書を参考に予習すること。 免疫抑制薬について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
14 回	感染症(寄生虫、細菌およびウイルス)について微生物学の教科書を参考に予習すること。抗菌薬と駆虫薬について教科書を参考に予習すること。 抗菌薬と駆虫薬について教科書を参考に整理して復習すること。 (標準学習時間120分)
15 回	悪性腫瘍について病理学(総論)の教科書を参考に予習すること。抗悪性腫瘍薬について教科書を参考に予習すること。 抗悪性腫瘍薬について教科書を参考に整理して復習すること。 感染症予防について衛生学の教科書を参考に予習すること。消毒薬と殺虫薬について教科書を参考に予習すること。

	消毒薬と殺虫薬について教科書を参考に整理して復習すること。 各論の講義で学修した各薬剤の半減期、薬物間相互作用、耐性、中毒および、薬品管理方法および、薬剤投薬量計算について復習すること。 (標準学習時間120分)
講義目的	動物の疾病の治療や診断に用いる薬が作用する過程を理解するために、対象疾患の病態、代表的な治療薬の基本事項である薬理作用、機序、臨床応用および副作用を学ぶ。合わせて、薬物の体内動態、代謝、排泄に関する基礎知識を、動物種差を含めて修得する。薬理学各論は、薬物・化合物を使用した疾患の予防・診断・治療ならびに公衆衛生に対して密接に関連する獣医看護基礎科目のライフサイエンスであることを理解する。そして、薬理学各論では、1) 臓器別ならびに用途別に治療薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用、動物種差を理解し、その意味と重要性を修得し、2) 獣医看護の担い手として、一般人である飼い主に対して薬の基本事項や安全性を十分に理解できるよう丁寧に説明できることを目的とする。
達成目標	① 呼吸器系に作用する薬物の基本事項と動物種差に関する基本的知識を説明できる。(A) ② 循環器疾患の現れるしくみを理解し、それらを治療するために用いられる薬物を挙げ、基本事項に関する基本的知識を説明できる。(A) ③ 腎臓の重要性を理解し、腎臓機能に影響を与える薬物を挙げ、基本事項に関する基本的知識を説明できる。(A) ④ 下痢、嘔吐および消化性潰瘍が生じるしくみを理解し、それらに関連する薬を挙げ、基本事項と動物種差に関する基本的知識を説明できる。(A) ⑤ 肝臓疾患の治療に用いられる薬に関する基本的知識を説明できる。(A) ⑥ 内分泌疾患、脂質代謝異常、骨代謝異常が生じるしくみを理解し、それらに関連する薬を挙げ、基本事項と動物種差に関する基本的知識を説明できる。(A) ⑦ 貧血・血液凝固のしくみを理解し、それに基づいて関連する薬を挙げ、基本事項と動物種差に関する基本的知識を説明できる。(A) ⑧ 炎症・免疫系のしくみを理解し、それに基づいて抗炎症薬、免疫機能調節薬を挙げ、基本事項と動物種差に関する基本的知識を説明できる。(A) ⑨ 感染症の予防、治療に用いられる化学療法薬を挙げ、基本事項と動物種差に関する基本的知識を説明できる。(A) ⑩ 抗悪性腫瘍薬の薬理作用、機序、副作用、臨床応用を説明できる。(A) ⑪ 殺虫薬、消毒薬について薬理作用、機序、使用方法を説明できる。(A)
キーワード	作用、副作用、作用機序、治療、処方、種差
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中に行う確認試験（達成目標の①から⑪）の結果30%、最終評価試験（達成目標の①から⑪）の結果70%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	獣医学教育モデルコア・カリキュラム準拠 獣医薬理学／日本比較薬理学・毒性学会編／近代出版／ISBN978-4- 87402-190- 3
関連科目	動物薬理学総論、動物薬理学実習
参考書	小動物の薬物治療学／尾崎博、浅井史敏、辻本元編／オーム社／ISBN：978-4- 274-50310-8
連絡先	研究室 A2棟6階 632研究室 直通電話 0898-52-9134 E-mail: r-mizuno@vet.ous.ac.jp オフィスアワー 月・金曜日 昼休み
授業の運営方針	毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 教科書と配布資料を中心に授業を実施する。 授業時間内で確認試験を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する。なお、確認試験実施日は、事前に連絡する
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング（質疑応答）授業中に質疑応答を行う。
課題に対するフィードバック	確認試験・最終評価試験の解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物看護技術学実習 I (FVP2H210)
英文科目名	Practice for Veterinary Nursing Technology I
担当教員名	内田英二 (うちだえいじ) , 野原正勝 (のほらまさかつ) , 古本佳代 (ふるもとかよ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	動物看護関連の実習に臨む上での心構えをガイダンスする。動物を取り扱う上でのバイオセーフティ、特に人獣共通感染症、院内感染、施設内感染に対する防御・予防方法、消毒、滅菌などの理解をする。手指消毒法について説明し、手洗い実習を実施し、手洗い前後の手指ぬぐい液の細菌培養を実施する。(共同) (全教員)
2 回	手洗い実習における生菌数をカウントする。感染を予防するための技術および安全を守るための看護技術を修得する。バイオセーフティ管理、洗浄・消毒・滅菌を実施し、感染症予防について下記が実践できるよう実習する。 ① 検疫・隔離の方法② 感染コントロール③安全管理対策の遂行 ④動物飼養管理中の事故の防止と事故発生時の対応(共同) (全教員)
3 回	実験動物を用いた動物の取扱い方、保定方法、フィジカルアセスメント、日常管理、看護の対象となる動物を観察し、それに基づいてアセスメントを実施するために必要な技術を理解する。観察結果を適切に報告し、記録する技術について実習する。(共同) (全教員)
4 回	実験動物を用いた動物の取扱い方、保定方法、フィジカルアセスメント、日常管理、看護の対象となる動物を観察し、それに基づいてアセスメントを実施するために必要な技術を学び、適切に報告し、記録する技術について実習する。(共同) (全教員)
5 回	第3回、4回の実習で行ったフィジカルアセスメントについて発表し、各発表に対するディスカッションを実施する。(共同) (全教員)
6 回	動物のハンドリングについて学習し、適切な動物の取り扱いについて修得する。初対面の動物との近づき方や触れ合い方の基本的手法を学習する。(共同) (全教員)
7 回	動物のハンドリングについて学習し、適切な動物の取り扱いについて修得する。動物との共生をする上で必要なしつけ、動物の健康維持を行う上で必要な散歩による運動量確保、運動時の注意事項、観察ポイントについて実習する。(共同) (全教員)
8 回	動物の健康維持を行う上で必要な清潔行動を適切にアセスメントし、援助するための実習をする。身体各部の清潔維持に必要な技術(シャンプー、基本的グルーミング(耳掃除、爪きり、肛門嚢処置)、清拭、口腔内清潔)を学習する。 グループに分かれて実習に関する実地試問を受ける。(共同) (全教員)

回数	準備学習
1 回	獣医看護専門科目の実習の最初に位置することから、今後実習に臨む基本的な心得を理解すること。感染成立の3+1要因について把握しておくこと。
2 回	動物を取り扱う上での手洗い方法について習熟しておくこと。感染防御のPPE(Personal protect equipment)の機能とレベル、適切な装着方法を学習しておくこと。
3 回	動物看護学概論、動物看護技術学で学んだフィジカルアセスメントについて理解しておくこと。
4 回	モデル動物で学んだことを理解し実践できるよう準備を行うこと。
5 回	第3回、4回実習に用いた動物のフィジカルアセスメントの情報を整理し発表準備をすること。
6 回	動物看護学概論、動物看護技術学で学んだフィジカルアセスメントについて理解しておくこと。
7 回	動物看護学概論、動物看護技術学で学んだフィジカルアセスメントについて理解しておくこと。

8回	実習で学んだことを復習し、実地試問に備えること。
講義目的	動物のくらしや様々な環境条件を踏まえた上で、動物の適切な飼養方法を理解し、疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼養管理ができるよう具体的な看護技術、清潔行動の援助技術を修得する。動物の健康管理を行い異常・異変に気付き看護技術を身に付ける上で必要な基礎知識である動物種ごとの骨格・臓器の特徴について実習指導を行う。疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼養管理ができるよう基礎的な看護技術およびバイオセーフティについて実習指導を行う。感染成立の要因を理解し、感染防御方法、洗浄、滅菌、消毒、PPEの装着とその効果について理解し、実践できる能力を身に付ける。（獣医保健看護学科の学位授与の方針B、Cにもっとも強く関与する）
達成目標	動物種により異なる骨格や体型を理解し、動物看護を行う上での確な処置を行うことができるための基礎を構築し理解する。動物の健康管理および疾病予防の方法を理解し、環境条件に応じた飼養管理について学び、感染を予防するための技術および安全を守るための基本技術を習得する。動物を扱う際の心構えおよび保定方法を身につける。人とのコミュニケーションスキル、礼節を身に付け、人間力を向上させる。獣医療における、様々なシチュエーションに対応できる基礎知識を身に付ける。
キーワード	グルーミング、口腔内衛生管理、爪切り、肛門囊絞り、耳掃除、基本的トレーニング法、飼環境整備、保定
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	成績は実習への取り組み・参加態度（20%）、実習中に作成したレポート、スケッチ、標本（20%）、口頭試問（20%）、レポート（20%）により行う。総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	教材は、必要に応じて配布する。
関連科目	動物形態機能学、動物薬理学、外科動物看護技術学、高齢動物看護学、動物看護技術学、臨床動物看護学
参考書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 基礎動物看護技術／全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会 編／出版：インターズー／ISBN：978-4-89995-817-8
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	・授業で重視するのは覚えることより考えること。配布する予習・復習ノートに沿って講義プリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。友達を意見を出し合いながら学ぶので積極的に参加する態度が求められます。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切になります。 ・授業ノート、予習復習ノートを自分の言葉でしっかりと仕上げてください。 ・課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もありますので、絶対に行わないようにしてください。 ・グループワークで学んだり、発表をしたりするので、欠席はしないようにしてください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポート等については、全体的な特徴について後日口頭でフィードバックする。また、口頭試問についてはその場で口頭でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	①実習室内ではかかとの高いハイヒール、サンダルは履かない。 ②実習室内での飲食、スマホの使用禁止。廊下ロッカーに入れておく ③ 実習室、実験台は実験開始前、終了前に清掃 ④実験前後に手を洗う ⑤ 実験台上は常に整理し、清潔に保つこと。 ⑥ 使用する器具、機械類は正しく、ていねいに扱うこと。 ⑦注射針、メス等鋭利な刃物を扱う時は取扱いに注意すること ⑧ ゴミの分別に注意すること

科目名	動物福祉論（FVP2I110）
英文科目名	Animal Welfare
担当教員名	大和田一雄（おおわだかずお）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	様々な動物観と影響要因； 人と動物の多面的な関りについて、古代から現在に至るまでの代表的な出来事について講義する。 動物福祉の概念； 動物福祉の定義とその理論的基盤について理解し、動物の取り扱いに関する他の思想との相違点について講義する。
2 回	動物福祉の評価； 動物福祉の評価方法に関する基本知識について講義する。 動物福祉と社会； 動物福祉向上の実践と社会とのかかわりに関する基本知識について講義する。
3 回	野生動物の福祉； 野生動物の利用や管理における福祉的配慮に関する基本知識について講義する。
4 回	展示動物及び使役動物の福祉； 展示動物や身体障害者補助犬などの使役動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識について講義する。
5 回	実験動物の福祉； 実験動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識について講義する。
6 回	産業動物の福祉； 食品などの生産のために飼育される産業動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識について講義する。
7 回	伴侶動物の福祉； 主に家庭で飼育される伴侶動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識について講義する。
8 回	スモールグループディカッション； これまでの講義を受講し、それぞれのカテゴリーに属する動物に特徴的な動物福祉の基本的な考え方についてスモールグループにより討議する。 最終評価試験；論述式筆答試験を行う（後半45分）。

回数	準備学習
1 回	下記参考書を読み、各自の動物観を整理しておくこと。現時点における自身の動物観について400字以内にまとめ講義の時に提出すること。
2 回	教科書第3章、第4章並びに参考書を読み、キーワードを整理しておくこと。 我が国の動物福祉行政の仕組みについて400字以内にまとめ講義の時に提出すること。

3回	教科書第5章及び参考書を読み、キーワードを整理しておくこと。 ワシントン条約（CITES）について概要を整理し400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
4回	教科書第6章及び参考書を読み、キーワードを整理しておくこと。 補助犬、盲導犬、介助犬、聴導犬などのについて自身の考え方を400字以内にまとめ講義の時に提出すること。
5回	教科書第7章及び参考書を読み、キーワードを整理しておくこと。 動物実験における動物福祉のあり方について整理し、400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
6回	教科書第8章並びに参考書を読み、キーワードを整理しておくこと。 産業動物の国際的な福祉基準について整理し、400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
7回	教科書第9章並びに参考書を読み、キーワードを整理しておくこと。 動物保護活動に関する海外並びに国内の現状を整理し、400字以内にまとめて講義の時に提出すること。
8回	これまでの講義全体を復習し、自身の動物観、動物福祉に関する知識・実践法などに関する考え方をまとめておくこと。 全体を通したキーワードを再度整理しておくこと。

講義目的	獣医療、動物愛護、動物福祉、社会奉仕などの分野に獣医看護師として貢献するうえで必要な基本理念としての動物福祉の考え方を理解する。人間社会における動物の取り扱いに関する考え方と、それらに影響する要因、及び様々な実践活動について理解する。野生動物、展示動物、使役動物、実験動物、産業動物、伴侶動物、等、様々な範疇に属する動物についてそれぞれに特徴的な動物福祉の基本的な考え方と実践方法を理解し、獣医看護師として活動する際の理念、知識、技術基盤を習得する。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）
達成目標	本講義では様々な範疇に属する動物の「動物福祉」についての基本的な考え方を理解することを目標とし、以下の様な内容を中心におき考え方を整理すること。 動物観の歴史的変遷を説明できること、5フリーダムについて説明できること、動物福祉の生理学的・行動学的指標の種類と評価方法について理解すること、動物福祉に関する法と行政の仕組みを理解すること、野生動物管理における動物福祉上の問題を理解すること、展示動物や使役動物における動物福祉上の問題並びに環境エンリッチメントについて理解すること、動物実験における3Rの概念を理解すること、産業動物の国際的な福祉基準を理解すること、伴侶動物の適正な飼育管理方法、動物保護活動について理解すること。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）

キーワード	動物観、動物福祉、動物生命倫理、動物愛護、異常行動、動物愛護管理法、ワシントン条約、使役動物、人道的エンドポイント、5つの自由、終生飼養
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	予習レポート30%、最終評価試験70%で評価する。合計100点満点のとし、60点以上を合格とする。
教科書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠 動物福祉学/全国動物保健看護学系大学協会カリキュラム検討委員会編/インターズー/ISBN978-4-89995-814-7
関連科目	生命倫理学、生命関連法規、獣医事法規
参考書	動物福祉の現在-動物とのより良い関係を築くために-/上野吉一、武田庄平著/農林統計出版/ISBN978-4-89732-3 C0045：アニマルウェルフェア-動物の幸せについての科学と倫理-/佐藤衆介著/東京大学出版会/ISBN4-13-073050-9
連絡先	研究室：今治キャンパスB1号館（教育病院棟）3階、315号室。 オフィスアワー：火曜日午後1:00～3:00。 電話：0898-52-9269（DI）。 Email:k-ooowada@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	毎回、授業の開始前に「予習レポート」の提出を求める。提出期限を厳守のこと。
アクティブ・ラーニング	予習レポートの課題について、まとめた内容を発表してもらうことがある。
課題に対するフィードバック	予習レポートの課題については、講義において解説しフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物免疫学 (FVP2K210)
英文科目名	Aminal Immunology
担当教員名	邊見弘明 (へんみひろあき)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	免疫学の歴史と概念：免疫学における重要な発見について、その内容と発見者を学ぶ。免疫機構の基本的な概念を学修する。
2 回	免疫担当細胞と免疫器官：免疫担当細胞は、実に多種多様である。本講義では、免疫担当細胞の種類と機能、多様性獲得機構、リンパ器官の分布や構造や機能を理解する。
3 回	免疫担当細胞と免疫応答：生体を病原体から守るために、様々な免疫担当細胞が様々な応答を行う。免疫応答における各免疫担当細胞の機能について、また、自然免疫や獲得免疫の基礎的な概念を学修する。
4 回	炎症応答、補体系の機能：生体防御反応の一つである炎症応答や自然免疫で作用している補体について、基礎的な概念としくみを理解する。
5 回	抗原、抗体とB細胞：抗原とはどのようなものか、その種類など、抗原の基礎知識を理解し、それを認識する抗体の種類と生体防御における機能を学習する。
6 回	主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) と抗原提示細胞：MHCは、移植片に対する拒絶反応において重要な機能を果たしている。ここでは、MHCの多様性と構造を理解し、また、抗原提示細胞の種類や特徴を学ぶ。抗原提示細胞とT細胞との相互作用を理解する。
7 回	T細胞と免疫応答：T細胞は、免疫応答において、B細胞同様に重要な細胞である。T細胞の分化や特性や機能を学ぶと共に、T細胞によって制御される免疫応答について理解する。
8 回	感染に対する免疫応答I：免疫にかかわる細胞や分子がどのように病原体を排除し生体防御を成立させるか理解する。ウイルスや細菌に対する免疫応答を理解する。
9 回	感染に対する免疫応答II：免疫にかかわる細胞や分子がどのように病原体を排除し生体防御を成立させるか理解する。原虫・蠕虫・ダニなどに対する免疫応答を理解する。
1 0 回	免疫機構の破綻（免疫不全とアレルギー）：遺伝子異常などによる先天性免疫不全症や感染症等によって引き起こされる後天的免疫不全症について学ぶ。また、アレルギーの分類とその機構を理解する。
1 1 回	免疫機構の破綻（自己免疫疾患）：通常、自己に対する免疫応答は起こらず、免疫寛容の状態にある。しかし、この免疫寛容の破綻により、免疫細胞が自己を攻撃する状態が自己免疫疾患である。ここでは、関節炎を中心に、自己免疫疾患について学ぶ。
1 2 回	ワクチン：ワクチンとは、人工的に抗原を接種することで、獲得免疫の持つ免疫記憶を植え付け、病原体感染における免疫応用を速やかに誘導するものである。ここでは、ワクチンの歴史や概要を学修する。
1 3 回	輸血、移植免疫および生殖免疫：血液型の特徴と輸血および新生子溶血症を学ぶ。また、受精時および妊娠時の免疫抑制機構を理解する。さらに、移植片拒絶反応機構を説明する。
1 4 回	免疫学的検査の原理I：抗原抗体反応の性質を理解すると共に、沈降反応、凝集反応、溶解反応を利用した検査法について、その原理や方法を学修する。
1 5 回	免疫学的検査の原理II：ウエスタンブロッティング、標識抗体法、フローサイトメトリーなどによる免疫学的検査法の原理や方法、その応用を学修する。

回数	準備学習
1 回	ノーベル医学・生理学賞の中には、免疫学分野を対象にしたものがいくつもあるので調べておくこと。参考になる。また、参考書や各種HPを参考にして各種免疫担当細胞を予習しておくこと。全ての講義に言えるが、「新しい免疫学」を読んでおくことと理解の助けになる。
2 回	免疫担当細胞やリンパ器官にどのようなものがあるか、各自調べ分類すること。
3 回	免疫担当細胞の種類について復習しておくこと。また、その機能についても、復習しておくこと。
4 回	好中球やマクロファージなどの免疫担当細胞の機能について復習しておくこと。炎症や補体活性化経路について、整理すること。
5 回	抗体の種類と機能について分類し、生体防御における機能について復習すること。
6 回	自然免疫機構について復習すること。また、様々な動物MHCのデータベースである Immuno Polymorphism database (IPD: http://www.ebi.ac.uk/ipd/) にアクセスし、動物MHCの多型性について理解を深めておくことが望ましい。
7 回	MHCや抗原提示細胞について復習しておくこと。また、T細胞によって担われる免疫応答について、復習すること。

8回	自然免疫による感染防御機構、獲得免疫機構（液性免疫、細胞性免疫）のしくみについて復習しておくこと。また、病原微生物についても復習しておくこと。
9回	自然免疫による感染防御機構、獲得免疫機構（液性免疫、細胞性免疫）のしくみについて復習しておくこと。また、病原微生物についても復習しておくこと。
10回	自然免疫機構、獲得免疫機構、抗原受容体の遺伝子再構成について復習しておくこと。また、原発性免疫不全症について、各自調べておくこと。抗体のサブクラスを復習すること。
11回	自己免疫寛容を誘導する機構（ポジティブセレクション、ネガティブセレクション、アナジー）を復習しておくこと。関節の構造について復習しておくこと。
12回	自然免疫機構から獲得免疫機構の活性化、免疫記憶について復習しておくこと。また、日本で行われている予防接種について調べておくこと。
13回	MHC分子と抗原提示、T細胞活性化・制御機構を復習しておくこと。
14回	抗原と抗体の概念や特徴、補体の活性について復習しておくこと。
15回	抗原と抗体の概念や特徴について復習しておくこと。目的に応じた免疫学的検査法を選択できるように復習すること。

講義目的	免疫機構は、外界から進入してくる微生物から生体を守るためのシステムである。これには、自分（自己）とそれ以外（非自己）を区別することが重要である。免疫応答は、実に様々な細胞や分子が巧妙かつ密接に連携することで成り立っている。さらに、免疫反応は、いわゆる感染に対する防御機構としてだけでなく、生体のホメオスタシスの維持から重度の疾患に至るまで幅広く生命現象に関わっている。本講義では、免疫系の基本的なしくみと働きを理解するとともに、免疫学的検査方法の原理や方法を理解する。
達成目標	・免疫機構の成り立ちやしくみや概念、各種免疫細胞やリンパ器官の機能を理解する。 ・免疫システムの異常による疾患を理解する。 ・輸血の基礎、移植時の拒絶反応のしくみを理解する。 ・抗体を用いた免疫学的検査法の原理や方法を修得する。
キーワード	動物微生物学、動物病理学、人獣共通感染症学、医動物学、動物実験学
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義期間中に行うミニテストの結果30%、講義内容に関連するレポート20%、定期試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。スライドを用いて講義を進める。
関連科目	動物病理学
参考書	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医免疫学／池田 輝雄ほか／緑書房／ISBN978-4-89531-161-8；標準免疫学／谷口克ほか／医学書院／ISBN978-4-260-00932-4；新しい免疫入門 自然免疫から自然炎症まで／審良静男、黒崎知博／ブルーバックス／ISBN978-4-06-257896-7
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	授業は、教科書は用いず、スライドを用いて進める。 2限続きの授業のため、2限ごとに授業の最初に小テストを実施する。
アクティブ・ラーニング	質問、ディスカッション
課題に対するフィードバック	小テストに関しては、授業内で解説する。 最終評価試験は獲得点数をもってフィードバックとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	再試は行わない

科目名	医動物学 (FVP2P210)
英文科目名	Veterinary Parasitology
担当教員名	黒木俊郎 (くろきとしろう)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	寄生虫学・寄生虫病学総論：寄生とは何か、寄生虫にはどのようなものがあるか、そしてそれらの同定と学名、また、生活環（生活史）とその発育段階による宿主のカテゴリー分け、伝搬方法、発育並びに生殖（増殖）様式などについて解説する。また併せて、寄生虫の病原性と寄生虫病との関連、感染宿主の生体防御の特徴、特にそれによって惹き起こされる即時型および遅延型アレルギー反応の特徴、および治療、予防対策等についても説明する。
2 回	原虫総論・原虫各論 I（肉質鞭毛虫類）：総論部分では、原虫とはいかなるものか、そして、寄生虫としての原虫にはどのようなものがあるか、またその形態と発育史について代表的なものについて解説するとともに、原虫に対する宿主特異性および伝搬経路、さらに抗原虫薬について解説する。各論部分では、特に肉質鞭毛虫類に属するアメーバに加えて、ジアルジアやトリパノソーマなどの鞭毛虫類について解説する
3 回	原虫各論 II（アピコンプレックス類：アピコンプレクサ類）：アピコンプレックス類に属するもののうち、コクシジウムと称され、重要な病原寄生虫であるアイメリア、クリプトスポリジウム、トキソプラズマ、ネオスポラ、そして近年、食中毒の原因寄生虫として脚光を浴びたサルコシスティスなどについて、その生活環、疫学、病態・診断・治療・対策等について解説する。
4 回	原虫各論 II-2：アピコンプレックス類に属する原虫のうちの、タイレリア、バベシア並びにロイコチトゾーンについて、その生活環、疫学、病態・診断・治療・対策などについて解説する。なお、本講義の後半以降に第1～4回までに学習した事項について小テストを実施する。
5 回	吸虫総論・吸虫各論：総論として、吸虫類の分類、形態学的特徴、生殖・発育(形態変化)および抗吸虫薬について解説する。また、各論としては、肝蛭科、双口吸虫上科、二腔吸虫科、重口吸虫科、棘口吸虫科をそれぞれ代表する重要種である肝蛭、平腹双口吸虫、睥蛭、壺型吸虫、浅田棘口吸虫などについて解説する。
6 回	吸虫各論 II：前回に引き続き、各論として、異形吸虫科、肺吸虫科、後睾吸虫科および住血吸虫科をそれぞれ代表する重要種である、横川吸虫、ウエステルマン肺吸虫、肝吸虫および日本住血吸虫について解説する。
7 回	条虫総論・条虫各論 I：総論として、分類、形態、生活環、生殖・発育(形態変化)、抗条虫薬について解説する。また、各論としては裂頭条虫科、裸頭条虫科、二孔条虫科をそれぞれ代表する重要種である日本海裂頭条虫やマンソン裂頭条虫、葉状条虫や大条虫、また瓜実条虫（犬条虫）などについて解説する。
8 回	条虫各論 I-2：前回に引き続き各論として、円葉目テニア科に属する重要種である有鉤条虫、無鉤条虫、胞状条虫、多頭条虫、およびエキノコッカスとしてよく知られている多胞条虫並びに単胞条虫について解説する。なお、本講義の後半以降に第5～8回までに学習した事項について小テストを実施する。
9 回	線虫総論・線虫各論 I：線虫類総論として、線虫類の分類、形態、生活環、生殖・発育（形態変化）および抗線虫薬などに加え、各論として、有ファスミッド亜綱に属するもののうち、普通円虫、無歯円柱、馬円虫、および捻転胃虫、オステルターグ胃虫、あるいは腸結節虫などの重要種について解説する。
10 回	線虫各論 I-2：有ファスミッド亜綱に属するもののうち、鉤虫科の犬鉤虫および牛鉤虫、肺虫科の牛肺虫および豚肺虫、そして、住血線虫科の広東住血線虫、糞線虫科の糞線虫並びに乳頭糞線虫などの重要種について解説する。
11 回	線虫各論 I -3：前回に引き続き各論として、有ファスミッド亜綱に属するもののうち、回虫科の豚回虫、犬回虫、猫回虫、犬小回虫、アニサキス科のアニサキス類、蟯虫科の馬蟯虫、ネズミ盲腸蟯虫、ネズミ大腸蟯虫など教科書記載の重要種について解説する。
12 回	線虫各論 I -4： 前回に引き続き各論として、有ファスミッド亜綱に属するもののうち、眼虫科のロデシア眼虫と東洋眼虫、顎口虫科の有棘顎口虫、ドロレス顎口虫、日本顎口虫、ハプロネマ科の大口馬胃虫、ハエ馬胃虫、フィザロブテラ科の猫胃虫、およびスピロセルカ科の類円豚胃虫など教科書記載の重要種について解説する。
13 回	線虫各論 I -5、線虫各論 II（無ファスミッド亜綱）： 前回に引き続き、有ファスミッド亜綱に分類されるもののうち、オンコセルカ科に属する犬糸状虫および指状糸状虫、また糸状虫科に属する沖縄糸状虫について、加えて無ファスミッド亜綱に分類されるもののうち、重要種である鞭虫科に属する犬鞭虫と豚鞭虫、および旋毛虫科に属する旋毛虫について解説する。なお、本講義の後半以降に第9～13回までに学習した事項について小テストを実施する。
14 回	節足動物総論・節足動物各論 I（ダニ）：総論として、節足動物、特にダニ類と昆虫類の分類、形態学的特徴、発育(形態変化)および生殖の特徴、節足動物と獣医衛生との関連性あるいはヒトのアレルゲンとしての衛生学的重要性などについて解説する。また各論としては、マダニ類、ヒゼンダ

	ニ類、ヤドリダニ類、ツメダニ類、ツツガムシ類およびニキビダニ類に属する重要種について解説する。
15回	節足動物各論 II (昆虫)：前回に引き続き、各論として、ノミ・シラミ・ハジラミ類、双翅目、特にカ・ブユ・ヌカカ・アブ・サシバエ・シラミバエ・ツェツェバエ類など、またウマバエ・ウシバエ・ヒツジバエ類について、またそれらのハエ類によって引き起こされる皮膚ウジバエ症などについても解説する。

回数	準備学習
1回	寄生虫学領域を俯瞰して、「寄生虫学」・「寄生虫病学」・「原虫学」・「衛生動物学」そして「医動物学」となぜこのように類似した教科名がまかり通っているのか、寄生虫学を含む構成がどのようになっているのか、また、寄生虫とは、寄生現象とはどのようなことをいうのか、そして、寄生虫の生活環、伝搬方法、発育並びに生殖様式、病原性、特にヒトに対するアレルゲンとしての病害認識や予防対策など、講義の中で学んだ内容をしっかり復習し、理解を深めておくこと。また、次の講義に備えて原虫とは何か、その分類、形態、発育などについてしっかり予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	講義の中の総論部分で解説した原虫の種類とその分類、形態的特徴、発育史などについてよく復習しておくこと。また各論としては、肉質鞭毛虫類に分類されるアメーバ、ジアルジア、トリパノソーマなどについてもよく復習し、次回の原虫各論 II で取り上げるアピコンプレックス類のうち、アイメリアやトキソプラズマなどコクシジウム類について、その生活環、疫学、病態・診断・治療・対策などについてよく予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	講義の中で解説したコクシジウム類としてのアイメリア、クリプトスポリジウム、トキソプラズマ、ネオスポラ、サルコシスティスなどについて、その生活環、疫学、病態・診断・治療・対策などについてよく復習しておくこと。また、次の講義に備え、原虫各論 II に挙げられている原虫のうちのタイレリア、バベシア並びにロイコチトゾーンの生活環、疫学、病態・診断・治療・対策などについて予習しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	講義の中で解説したタイレリア、バベシア並びにロイコチトゾーンについて、その生活環、疫学、病態・診断・治療・対策などについてよく復習しておくこと。また、次の講義に備えて、教科書記載の吸虫総論における分類、形態、生活環、生殖・発育(形態変化)、抗吸虫薬、および吸虫各論における肝蛭から棘口吸虫までの範囲をよく予習しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	講義の中で解説した様々な吸虫類の分類、形態、生殖・発育(形態変化)などに加え、特に肝蛭科、双口吸虫上科などに属する重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備えて、教科書記載の、残る吸虫類のうちの異形吸虫科、肺吸虫科、後睾吸虫科および住血吸虫科などをそれぞれ代表する重要種である、横川吸虫、ウエステルマン肺吸虫、肝吸虫および日本住血吸虫についてよく予習しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	講義の中で解説した異形吸虫科、肺吸虫科、後睾吸虫科および住血吸虫科をそれぞれ代表する重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備えて、教科書記載の条虫総論における分類、形態、生活環、生殖・発育(形態変化)、抗条虫薬、および条虫各論における裂頭条虫から瓜実条虫(犬条虫)までの範囲をよく予習しておくこと。(標準学習時間90分)
7回	講義の中で解説した条虫類の分類、形態、生活環、生殖・発育(形態変化)、抗条虫薬などに加え、特に各論で述べた裂頭条虫科、裸頭条虫科、二孔条虫科をそれぞれ代表する重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備え、円葉目テニア科に属する重要種である有鉤条虫、無鉤条虫、胞状条虫、多頭条虫、およびエキノコックスとしてよく知られている多胞条虫並びに単胞条虫についてよく予習しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	講義の中で解説した円葉目テニア科に属する重要種である有鉤条虫、無鉤条虫、胞状条虫、多頭条虫、およびエキノコックスとしてよく知られている多胞条虫並びに単胞条虫についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備えて、線虫類総論として、線虫類の分類、形態、生活環、生殖・発育(形態変化)、抗線虫薬などに加え、各論として、有ファスミッド亜綱に属するもののうち、普通円虫、無歯円柱、馬円虫、および捻転胃虫、オステルターグ胃虫、あるいは腸結節虫などの教科書記載の重要種についてよく予習しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	講義の中で解説した線虫類の分類、形態、生活環、生殖・発育(形態変化)および抗線虫薬などに加え、各論で解説した普通円虫、無歯円柱、馬円虫、捻転胃虫、オステルターグ胃虫および腸結節虫などの重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備え、鉤虫科、肺虫科、住血線虫科および糞線虫科に属する教科書記載するの重要種についてよく予習しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	講義の中で解説した有ファスミッド亜綱に属するもののうち、鉤虫科、肺虫科、住血線虫科および糞線虫科に属する重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備え、同じく有ファスミッド亜綱に属するもののうち、教科書記載の回虫科、アニサキス科、蟯虫科に属する重要種について予習しておくこと。(標準学習時間90分)
11回	講義の中で解説した有ファスミッド亜綱に属するもののうち、回虫科、アニサキス科、蟯虫科など教科書記載の重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備え、有ファスミッド亜綱に属するもののうち、眼虫科、顎口虫科、ハブロンネマ科、フィザロプテラ科、スピロセルカ科に属する重要種について予習しておくこと。(標準学習時間90分)

1 2 回	講義の中で解説した有ファスミッド亜綱に属するもののうち、眼虫科、顎口虫科、ハプロネマ科、フィザロプテラ科、スピロセルカ科に属する重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備えて、同じく有ファスミッド亜綱のオンコセルカ科および糸状虫科に属する重要種、並びに教科書記載の無ファスミッド亜綱の鞭虫科および旋毛虫科に属する重要種について予習しておくこと。（標準学習時間90分）
1 3 回	講義の中で解説した、有ファスミッド亜綱に分類されるもののうち、オンコセルカ科および糸状虫科に属する重要種、並びに無ファスミッド亜綱に分類されるもののうち、鞭虫科および旋毛虫科に属する重要種についてよく復習しておくこと。また、次の講義に備えて、教科書記載の節足動物、特にダニ類と昆虫類の分類、形態学的特徴、発育および生殖、ならびに節足動物と獣医衛生との関連性等についてよく予習しておくこと。また同じく、マダニ類、ヒゼンダニ類、ヤドリダニ類、ツメダニ類、ツツガムシ類およびニキビダニ類の重要種についてもよく予習しておくこと。（標準学習時間60分）
1 4 回	講義の中で解説した節足動物、特にダニ類と昆虫類の分類、形態学的特徴、発育(形態変化)および生殖の特徴と、節足動物と獣医衛生との関連性、ならびにマダニ類、ヒゼンダニ類、ヤドリダニ類、ツメダニ類、ツツガムシ類およびニキビダニ類の重要種についてよく復習しておくこと。次の講義に備えて、ノミ・シラミ・ハジラミ類、双翅目、特にカ・ブユ・ヌカカ・アブ・サシバエ類など、またハエウジ症を惹き起こすウマバエ・ウシバエ類など、あるいはハエ類による皮膚ウジバエ症などについても予習しておくこと。（標準学習時間90分）
1 5 回	講義の中で解説した、昆虫に分類されるノミ・シラミ・ハジラミ類、双翅目、特にカ・ブユ・ヌカカ・アブ・サシバエ類、またウマバエ・ウシバエ類などの重要種、またそれらハエ類によって引き起こされる皮膚ウジバエ症などについてもよく復習しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	獣医臨床および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、流行の現状・疫学、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解し、寄生虫による病害発生の機序やその対策についての考え方を身に付ける。また、衛生動物と総称される様々な生物種が、中間宿主や運搬宿主あるいは媒介者として、寄生虫病あるいは動物性アレルギーの発症、蔓延に密接に関わっている。これらについては、当然寄生虫の生活環の解説の中でも触れるものではあるが、寄生虫のみならず寄生体としてのウイルスやリケッチアなどの媒介者としてもまたその公衆衛生的な重要度は高い。本教科を単に獣医寄生虫学ではなく医動物学としているのはこのこと故であり、本講義で、特にこの点をよく理解してダニやノミ・シラミあるいは蚊などについての知識を身に付ける。獣医学学位授与の方針（DP）のAと深く関連している。
達成目標	① 寄生虫の生物学や寄生現象および宿主-寄生体関係に関連する用語の意味を理解し、寄生虫病の発生や重症化の機序、診断、治療および予防について説明することができる。（A,） ② 獣医臨床および公衆衛生上重要な原虫類の生物学的特徴、感染症および駆虫薬についての基礎知識を身につけ、その生物学、疫学・病因・病理および疾病制御等について応用することができる。（A,） ③ 獣医臨床および公衆衛生上重要な吸虫類の生物学的特徴、感染症および駆虫薬についての基礎知識を身につけ、その生物学、疫学、病因・病理および疾病制御等について応用することができる。（A,） ④ 獣医臨床および公衆衛生上重要な条虫類の生物学的特徴、感染症および駆虫薬についての基礎知識を身につけ、その生物学、疫学、病因・病理および疾病制御等について応用することができる。（A） ⑤ 獣医臨床および公衆衛生上重要な線虫類の生物学的特徴、感染症および駆虫薬についての基礎知識を身につけ、その生物学、疫学、病因・病理および疾病制御等について応用することができる。（A） ⑥ 獣医臨床および公衆衛生上重要な節足動物、特にダニおよび昆虫の分類、形態、発育・生殖、獣医衛生との関連および対策についての基礎知識を身につけ、その生物学、疫学等について説明することができる（A）
キーワード	原虫、線虫、吸虫、条虫、衛生動物、幼虫移行症、人獣共通感染症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に行う小テストの結果30%（達成目標①～⑥を暫定的に評価）、期末定期試験の結果70%（達成目標①～⑥を本格的に評価）で合わせて100%とし評価する。総計100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	獣医学教育モデルコア・カリキュラム準拠 寄生虫病学改訂版／日本獣医寄生虫学会監修／緑書房／ISBN978-4-89531-291-2
関連科目	医動物学実習、人獣共通感染症学、獣医公衆衛生学総論
参考書	最新・家畜寄生虫病学／今井壮一、板垣匡、藤崎幸蔵／朝倉出版/ISBN978-4-254-46027-8、図説・獣医衛生動物学／今井壮一、藤崎幸蔵、板垣匡、森田達志／講談社/ISBN978-4-254-46027-8、改訂獣医寄生虫学・寄生虫病学1/石井俊雄、今井壮一／講談社サイエンティフィック/ISBN978-4-06-15327-9、改訂獣医寄生虫学・寄生虫病学2/石井俊雄、今井壮一／講談社サイエンティフィック/ISBN978-4-06-153728-6、図説・獣医寄生虫学／内田明彦、黄鴻堅／メディカグローブ/ISBN978-4-938498-84-9
連絡先	研究室：獣医学部棟5階 524号室 直通電話：0898-52-9086 E-mail：t-kuroki@vet.ous.ac.jp

	.jp オフィスアワー：金曜日 4 時限
授業の運営方針	授業中の私語、スマホの使用等は厳禁とします。注意してもそれが繰り返される場合は途中退席を求めることがあります。また、30分を越す常習的な遅刻も認めません。厳重注意し、場合によっては評価試験を受けることができなくなります。授業で重視することは、準備学習をしてきた内容を講義で理解・確認し、その知識を確固たるものにしてもらうことと心得てください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業中に行う数回の小テストについては、次回の講義中に解答を示して解説を行い、フィードバックとする。最終評価試験のフィードバックとしては、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。障害に応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。配布資料や録画データなどは、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止します。
実務経験のある教員	神奈川県衛生研究所での業務：神奈川県衛生行政の科学的・技術的中核である衛生研究所において、原虫感染症検査・調査研究や検査法の検討等を行ってきた。こうした経験も講義の内容に盛り込む。
その他（注意・備考）	

科目名	獣医事法規（FVP2R110）
英文科目名	Veterinarian Laws and Regulations
担当教員名	吉川泰弘（よしかわやすひろ）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	獣医事法規の習得に必要な法規の理念と領域構造、法規の解釈論並びに法源論の概要について、解説する。法律用語の独立性とその意味・利用法について解説する。
2 回	獣医師及び獣医関連専門家(VPP)の役割を理解し、獣医事関係法規についてその多様性、法規の目的を理解し、獣医師制度および獣医療などとの関連性につき、その概要について説明する。特に、各法規が対象とする動物種を解説する。
3 回	獣医師及びVPPにとって法の基本となる獣医師法及び獣医療法について説明し、獣医師法の構成、法の理念、目的とともに、獣医師の業務、権利、義務および社会的責務などについて解説する。
4 回	農水省行政に関する家畜衛生行政法規として、家畜伝染病予防法、愛玩動物飼料安全法及び飼料安全法、水産資源保護法、トレサビ法について解説する。
5 回	厚労省行政に関する感染症法、狂犬病予防法、身体障害者補助犬法と畜場法、食鳥検査法について解説する。
6 回	薬事行政法規として医薬品医療機器等法、麻薬及び向精神薬取締法について解説する。畜産物や水産物における薬剤の残留を防ぐための規制について解説する。
7 回	VPPの職域として重要な環境省行政に関する法律「動物愛護管理法」「外来動物法」及び「鳥獣保護法」などについて解説する。
8 回	第1回から第7回で学修した内容についての振り返りと期末試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	動物看護学教育標準カリキュラム準拠「動物医療関連法規」の第1章について事前に学習しておくこと。ホームページ及びポータルサイトの講義録、質疑応答をみて自分の疑問を考えておくこと。
2 回	前回の講義内容について、整理、理解し、復習しておくこと。「動物医療関連法規」の第2章について事前に学習しておくこと。ホームページ及びポータルサイトの講義録、質疑応答をみて自分の疑問を考えておくこと。
3 回	前回の講義内容について、整理、理解し、復習しておくこと。「動物医療関連法規」獣医事行政法第1章について事前に学習しておくこと。ホームページ及びポータルサイトの講義録、質疑応答をみて自分の疑問を考えておくこと。
4 回	前回の講義内容について、整理、理解し、復習しておくこと。「動物医療関連法規」第2章家畜衛生行政法規について事前に学習しておくこと。ホームページ及びポータルサイトの講義録、質疑応答をみて自分の疑問を考えておくこと。
5 回	前回の講義内容について、整理、理解し、復習しておくこと。「動物医療関連法規」第3章 公衆衛生行政法規について事前に学習しておくこと。ホームページ及びポータルサイトの講義録、質疑応答をみて自分の疑問を考えておくこと。
6 回	前回の講義内容について、整理、理解し、復習しておくこと。「動物医療関連法規」第4章 薬事行政法規について事前に学習しておくこと。ホームページ及びポータルサイトの講義録、質疑応答をみて自分の疑問を考えておくこと。
7 回	前回の講義内容について、整理、理解し、復習しておくこと。

	「動物医療関連法規」第5章 環境行政関連法規について事前に学習しておくこと。 ホームページ及びポータルサイトの講義録、質疑応答をみて自分の疑問を考えておくこと。
8回	前回の講義内容について、整理、理解し、復習しておくこと。 第1回から第7回の復習をしておくこと。

講義目的	21世紀に入り、日本の獣医学教育、獣医療を取り巻く環境は著しく変化してきた。動物のステータスの向上、動物由来食品の安定供給、身体障害者補助犬、社会活動動物、実験動物、学校飼育動物などをはじめ、さらに、医療や情操教育の場における動物の参加も期待されている。また、獣医療には動物の長寿化による疾病構造の変化、被災動物の救護、人獣共通感染症の対策などの問題もあり、法的戦略の検討を迫られ規制が強化されつつある。本講義では、獣医師及び獣医関連専門家(VPP)が必要とする獣医事関連の諸法規の基礎および概要について理解することを目的とする。
達成目標	1) 産業動物を始めとする動物疾病の現状と関連する法規について説明出来る。 2) 畜産品などに対する国内規制と国際貿易に関する法規などについて説明出来る。 3) HACCAPなど衛生管理について説明出来る。 4) 牛、豚、伴侶動物の衛生管理と関連する法律について説明出来る。 5) 産業廃棄物、医薬品と畜産環境管理などに関連する法規について説明出来る。
キーワード	獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、感染症法、狂犬病予防法、薬事法
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施する質疑応答20%、解答の説明能力(メール回答)30%、定期試験50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち、60点以上を合格とする
教科書	動物医療関連法規―専門基礎分野 動物看護学教育標準カリキュラム準拠 インターズ出版、全国動物保健看護系大学協会（著）、牧野ゆき（著） ISBN: 978-4899958598
関連科目	人獣共通感染症学、動物感染症学 他
参考書	講義内容と質疑応答例は、ホームページ(https://www.ayyoshi.com 、獣医法規)あるいはポータルサイトの「講義資料」にアップロードしている。
連絡先	獣医学部棟6階学部長室
授業の運営方針	パワーポイントで説明、試験は非常に広範囲にわたることから、各法規の本質的な構成を理解できるように解説する。 出来るだけ具体例を挙げて説明する。
アクティブ・ラーニング	講義内容を予習し、質問等を考えておくこと。
課題に対するフィードバック	試験回答はネットおよびポータルサイトに公開します。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 国立予防衛生研究所 イ) 感染症法の作成に関与、狂犬病予防法の改正、食品安全委員会でのBSEトレサビ法等について国民に解説し、動物医薬事害議会で議長として生物製剤の害議を進めた。
その他（注意・備考）	

科目名	動物病理学 (FVP2R210)
英文科目名	Animal Pathology
担当教員名	逸見千寿香 (へんみちずか)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	疾病、病理学の概念、病因(外因、内因)、個体レベル、細胞・組織レベルの傷害機序および疾病の分類、組織標本の作製方法について解説する。動物の病因を探るための手法の原理および解析の目的を理解する。動物看護学科における動物病理学の意義を学ぶ。
2 回	細胞および組織の傷害と死：細胞傷害因子と細胞傷害のメカニズムについて解説する。細胞・組織傷害の形態学的変化である変性、アミノ酸・蛋白質代謝異常、糖代謝異常、脂質代謝異常、について学ぶ。
3 回	細胞および組織の傷害と死：細胞・組織傷害の形態学的変化（尿酸代謝異常、色素沈着症、無機質代謝異常）、細胞死(壊死、アポトーシス)、萎縮、老化について解説する。
4 回	細胞の増殖、適応と分化およびその異常：細胞や組織の増殖の機序と再生と化生、損傷の病態と治癒の過程を解説する。 1) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生を学ぶ。2) 細胞障害に対する細胞の応答として、萎縮と低形成、または肥大と過形成について、その原因を説明でき、それぞれの違いについて学ぶ。 3) 創傷治癒機転の過程について学ぶ。
5 回	循環障害について説明する。血液循環とリンパ液の循環との関係を理解する。充血、うっ血をはじめとする血液循環障害ならびに水腫や浮腫およびショックについて、それらの定義および経過を学ぶ。
6 回	炎症：概念、組織変化、炎症細胞、急性と慢性炎症、炎症のメディエーター、炎症の命名法と形態学的分類および全身への影響について解説する。 1) 炎症の定義と主徴を学ぶ。 2) 炎症の原因と、反応の経過を学ぶ。 3) 炎症に関与する細胞と化学伝達物質（ケミカルメディエーター）を学ぶ。 4) 炎症の分類と形態的特徴を学ぶ。
7 回	免疫病理学：免疫系と免疫応答(免疫担当細胞と役割)、感染防御、免疫不全、自己免疫病、移植免疫、腫瘍免疫について概要を解説する。 アレルギーをⅠ型、Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型に分けて、それぞれの成因および病態の概要を学ぶ。
8 回	腫瘍：定義、分類と命名、用語、腫瘍の肉眼的性状、良性和悪性、転移、宿主への影響、腫瘍免疫、原因と発生機序を解説する。
9 回	各臓器・組織における腫瘍の病理学的特徴とその病態を解説する。
10 回	染色体、遺伝子および発生の異常：原因、奇形の発生様式、奇形の分類について解説する。
11 回	感染病理：感染症の分類、宿主寄生体関係、病原体の傷害惹起機序と宿主の防御機構、宿主反応、診断法について解説する。
12 回	犬のライフステージにおける疾病について解説する。
13 回	猫のライフステージにおける疾病について解説する。
14 回	牛・豚における疾病について解説する。
15 回	実験動物における疾病について解説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	疾病の成り立ち(病理発生)、個体レベル、細胞・組織レベルの傷害機序および疾病の分類、各種動物の代表的な疾病の病態を理解することを目的として、病理学総論および器官系統的に疾病の病理所見、原因と病理発生に関する基本的知識を講義資料やパワーポイントなどを用いて解説する。教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
2 回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。傷害を受けた細胞・組織の変化を理解するために細胞の基本構造と機能を予習しておくこと。
3 回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
4 回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
5 回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。解剖学、生理学で学んだ心臓、動静脈、毛細血管の構造と生理作用を復習しておくこと。
6 回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。炎症の区分、種類を知った上で、起炎物質との関連、炎症細胞の種類とその機能を予めよく理解しておくこと。
7 回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
8 回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。腫瘍の定義と腫瘍発生の機序と原因を理解する。腫瘍の分類と特性、腫瘍の生体への影響も理解すること。

9回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
10回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。先天性異常を学ぶ。この講義では形態的な異常（奇形）を主として講義する。奇形発生の原因、機序と分類を理解することが必要。奇形は発生学と深く関わっていることから発生学の復習すること。
11回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。微生物学および寄生虫学の基礎的知識が必要で予習することを勧める。本講義では宿主と病原体との関係を良く理解して上で、感染症の定義とその種類、発生機序について理解を深めること。
12回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
13回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
14回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。
15回	教科書と予め掲示される講義資料を参考に予習しておくこと。

講義目的	疾病とは何か、健康と疾病(正常と異常)を比較することで理解し、疾病の成り立ち、個体レベル、細胞・組織レベルの傷害の機序、疾病の病理所見、原因と病理発生に関する基本的知識を得る。総論的には、病的刺激に対する細胞傷害と物質代謝異常、細胞の死、細胞の適応、組織の再生と修復、循環障害、炎症、生体防衛反応、免疫異常、腫瘍、先天異常、感染病理について理解する。各論的には、各種動物の好発ないしは重要疾患を理解する。 (獣医保健看護学科の学位授与の方針のA、Bにもっとも強く関与する)
達成目標	(1)「疾病とは何か」、疾病の分類、病因を理解し、説明できる。(2) 動物の病因を探るための手法の原理および解析の目的を理解する。(3) 細胞傷害と物質代謝異常、細胞の死、細胞の適応、組織の再生と修復、循環障害、炎症、生体防衛反応、腫瘍、先天異常、感染病理について理解して、説明できる。(4) 疾病が個体全体に及ぼす影響について理解し、説明できる。(5) 各種動物の好発ないしは重要疾患を理解して説明できる。
キーワード	組織標本の作製方法、炎症、変性、壊死、浮腫、充血、うっ血、過形成、低形成、肥大、萎縮、奇形、腫瘍
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	評価は最終評価試験の成績（70%）と授業中に定期的に行う小テスト（30%）の総合計で行い、60%以上を合格とする。
教科書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野 動物病理学／全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会／インターズー／ISBN 978-4-89995-811-6
関連科目	動物免疫学、動物微生物学、医動物学、臨床動物看護学総論、臨床動物看護学各論I、臨床動物看護学各論II、臨床動物看護学各論III
参考書	動物病理学総論／日本獣医病理学会編／文永堂出版／ISBN 978-4-8300-3245-5
連絡先	獣医病理学研究室 獣医学部棟5階532
授業の運営方針	最終評価試験を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、採点后、結果の等級（S,A,B,C,D）を学生にフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	生産農学概論 (FVP2X110)
英文科目名	Introduction to Production Agriculture
担当教員名	永幡肇 (ながはたはじめ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	生産農学での学びと位置づけ、対象とする生産動物、動物性蛋白質の生産と利用について学ぶ。動物の飼育と生産衛生、我が国における動物性蛋白質の生産および自給率から生産農学の課題を学ぶ。生産農学の講義内容は後に開講される生産動物(産業動物)の予防衛生学・生産動物看護学、また獣医学における生産動物関連科目を理解するうえで重要な内容を解説する。
2 回	生産物(乳肉卵:動物性蛋白質)の国内需要と供給(自給率)、諸外国から輸入物品(乳製品を例に)の国際的な流れ(物流)とそれらの主要輸出国と輸入国について学ぶ。生産農場に求められる課題(生産物の量、質、安全性)について解説する。
3 回	生産動物・乳牛(1) 乳牛の発育と成長、代表的な栄養代謝、反芻動物の消化に関わる解剖学的構造と生理機能の概要を解説する。栄養管理と飼料の特性を学ぶ。
4 回	生産動物・乳牛(2) 乳牛の泌乳および繁殖に関わる構造と生理機能の概要を解説する。栄養・飼料の特性、乳牛の主要な疾病とその発生要因の概要を解説する。 乳の生産と乳房炎について、発生状況、乳質、原因(病原微生物)、感染源、感染経路、予防、乳質管理について総合的に学ぶ。
5 回	生産動物・肉牛 肉用牛の品種、飼育状況と飼育方式、生産段階の課題、生産管理について概要を把握し学ぶ。生産物としての枝肉、歩留まり等級、肉質等級、肉質評価と飼養状況との関連性および疾病発生とその対策を学ぶとともに肥育牛の飼養過程における特質を学ぶ。
6 回	生産動物(中小家畜)・豚 飼養状況(戸数、頭数)、品種と特徴、疾病発生状況、飼育方式、繁殖豚の飼養管理、農場の防疫、ワクチンプログラム、疾病制御について解説する。
7 回	生産動物(鶏)および特用家畜 産卵に関わる生殖器の構造と生理機能の概要、産卵と神経調節系、肉用鶏(ブロイラー)、栄養飼料の特性、栄養生理、主要な感染症と管理、ワクチンの概要を解説する。特用家畜としてのヤギ、ミツバチなどの飼育と衛生管理について学ぶ。
8 回	動物の福祉について「5つの自由」を基本に学ぶとともに、動物における快適性、適正飼養管理に配慮した健康で安全な生産物の生産、動物の輸送、殺処分について学ぶ。畜産物の安全性と生産衛生について、飼養衛生管理基準、および生産段階における危害分析・重要管理点(HACCP)方式の概要を学ぶ。その他、飼育動物で社会的に問題となっている事象を取り上げて考える講義を展開する。後半に最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習では、生産動物の種類、生産動物の飼養概要(農家数、頭羽数)について調べ我が国における生産動物の課題を学習する。講義の内容とともに課題を俯瞰的(ふかん:大きく)にとらえる方を学ぶ。動物性蛋白質の生産における持続可能性について、その要因を調べてほしい。 (標準学習時間180分)
2 回	予習では動物性蛋白質(乳肉卵)の国内生産と国内需要について調べその概要を理解し我が国の状況を学ぶ。乳肉の主要生産国と輸入国および国際物流について調べてみる。 (標準学習時間180分)
3 回	予習では、牛の消化器官の解剖とその生理学の概要を把握する。復習では授業の内容を整理し理解すること。 (標準学習時間180分)
4 回	予習では、牛の乳房および生殖器の解剖と生理学を学習する。牛の乳房炎について発生状況、症状、原因、診断、対策、予防について概要を把握する。復習では授業の内容を整理し理解すること。 (標準学習時間180分)
5 回	予習では、肉用牛の品種、飼育状況、飼育形態について学習し、復習では講義内容にもふれて肉牛の飼養・肥育の在り方など課題にふれる。

	(標準学習時間180分)
6回	予習では、豚肉の需要と供給、飼養状況、豚の品種と特質、伝染性疾病と防疫について調べる。復習では授業の内容を整理し豚の生産概要とその課題を把握する。 (標準学習時間180分)
7回	予習では、産卵鶏および産肉鶏の飼育状況、鶏の消化管および生殖器官の解剖学的構造と機能を学習し、復習では授業の内容を整理しその特徴を理解すること。 (標準学習時間180分)
8回	予習では、動物の福祉について「5つの自由」の内容について、また危害分析・重要管理点(HACCP)方式の概要を学習し、復習では講義の内容を整理し理解する。 (標準学習時間180分)

講義目的	生産農学概論では、生産動物(乳牛・肉牛・豚・鶏)の主要な解剖学的構造と生理機能を基礎として、我が国における動物性蛋白質(乳肉卵)の生産概要を大きく俯瞰的にとらえながら生産動物の飼養と生産衛生、動物生産物の安全性、動物倫理および動物に関連した社会的な事象についても学ぶ。生産農学の講義内容は本講義に続いて開講される生産動物(産業動物)の予防衛生学・大動物看護学、また獣医学における大動物関連科目を理解する上で重要な内容と関連性をもたせて解説する。講義ではつぎの内容を解説する。①生産動物(乳牛)の飼育概要ならびに動物性蛋白質の生産と利用、②生産動物の消化生理、泌乳と射乳および搾乳、繁殖生理、生産阻害としての疾病、③消化生理、飼料特性、生産動物から生産された畜産物(乳肉卵)の品質と評価、④生産動物の栄養管理と飼料および飼養衛生、⑤肉用牛の飼育概況と形態、生産段階の課題、生産管理方式、枝肉および肉質等級と飼養、疾病発生概要と対策、⑥豚・鶏の品種、飼養方式と特質、疾病発生状況、繁殖豚の飼養管理、防疫、バイオセキュリティ、ワクチンプログラム、⑥安全な畜産物の生産と生産管理方式、⑦世界における生産動物の飼養動向と動物性蛋白質生産の課題、持続的動物生産と動物生産管理学の概要について学ぶ。獣医保健看護学科学位授与の方針(DP)のBと深く関連している。
達成目標	①生産動物の意義や役割について説明できる。 ②動物性蛋白質(畜産物)としての乳、肉、卵および毛皮などの利用意義が説明できる。 ③我が国における生産動物の飼養動向(生産農場数、飼養頭羽数)の概要を説明できる。 ④生産動物における乳・肉・卵の生産過程の概要が説明できる。 ⑤生産動物の飼養管理の概要とともに飼料、栄養・栄養素の概要が説明できる。 各生産動物の飼養管理および疾病の予防管理が説明できる。 ⑥家畜および家禽(鶏)の代表的な品種の特性や利用目的について説明できる。 ⑦安全な畜産物の生産に求められる危害分析重要管理点(HACCP)方式について説明できる。⑧動物性食品の輸送流通過程における管理と安全性の概要について説明できる。 ⑧世界における動物生産の現状と動物生産物(乳肉卵)の国際的な動きおよび動物生産における持続可能性についての概要が把握されている。
キーワード	家畜、家禽、生産動物、生産管理、飼養概況、動物性蛋白質、持続可能性、生乳生産、産肉、枝肉と評価、畜産生産物、危害分析重要管理点(HACCP)、動物倫理、動物性食品の安全性、飼養管理基準、防疫、生産衛生
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	成績評価は課題提出(20%)を含む最終評価試験で評価し、60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は用いない
関連科目	本講義は、生産動物(乳牛、肉牛、豚、産卵鶏、産肉鶏)について、主要な解剖学的構造および生理学的な機能を説明しながら、各動物の特質(発育成長、分娩、泌乳、産卵、産肉)、生産動物の飼育管理方法、生産を阻害する代表的な疾病の理解とその予防、生産物の品質管理などを広く学び知識を習得することで生産動物の生産衛生管理の概要が把握できます。獣医学専攻の学習者には専門科目で学ぶ大動物関連科目の内容が広くバランスよく把握できるので学習効果が期待できます。
参考書	畜産学入門(唐沢豊 他、文永堂出版)、動物の衛生(鎌田、清水、永幡編、文永堂出版)
連絡先	(研究室等確定後に記載)
授業の運営方針	講義内容を記載したパワーポイント資料を配布するが、あくまでも講義の概要を記載したものなので講義ではノートや資料の余白なども活用して要点を聞きながら記載する方法を学んでほしい。講義では、質問しながら学習者の考えを聞きながら展開します。
アクティブ・ラーニング	適切な課題があれば実施したいと考えています。
課題に対するフィードバック	課題提出に対しては、内容や構成についてコメントを適宜加えます。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	生産農学概論は、畜産学・獣医学・動物管理学・大動物看護学を専攻する初年度学生が生産動物(大動物・産業動物・牛・豚・鶏・馬)を興味をもってバランスよく学んでいただけるよう解り易く説明を入れながら講義を展開したいと考えています。獣医学専攻の学生さんには大動物関連科目の

学びへの橋渡しと共に関連獣医学の学び方もお話ししたいと思います。

科目名	情報リテラシー【月1木3】（FVP3A110）
英文科目名	Information Literacy
担当教員名	高橋秀和（たかはしひでかず）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	情報リテラシー総論 情報伝達手段の発展の歴史、情報リテラシーを学ぶ必要性、演習室のWindows 10パソコンの基本操作などを学ぶ。
2 回	情報の利用-(1) 収集した情報は文書にまとめることが多い。文書の作成に有用なWordの機能を説明する。
3 回	情報の利用-(2) 収集した情報をスライドや資料にまとめる上で有用なPowerpointの機能を説明する。
4 回	情報の利用-(3) 関数処理などExcelを用いて収集したデータを解析する方法を学ぶ。
5 回	情報の利用-(4) グラフ作成などExcelを用いて収集したデータを解析する方法を引き続き学ぶ。
6 回	情報の利用-(5) Officeソフト間の連携やその他のツールについて紹介する。
7 回	情報の検索 PubMedやGoogle Scholarやなどの情報ソースを用いて適正な情報を検索・選択する方法を学ぶ。
8 回	演習-(1) 前回までに学んだことを用いて、各自で調査対象としたいことを、集中的に検索・調査してプレゼンテーション作成を行う。
9 回	演習-(2) 引き続きプレゼンテーション作成を行い教員に対して発表を行う。
1 0 回	情報の収集・提供-(1) 情報収集・提供のための基礎として、コンピューターやデジタル情報の基本的な仕組みについて学ぶ。
1 1 回	情報の収集・提供-(2) ホームページの仕組みやHTMLなどのホームページを記述するプログラミング言語の基礎について学ぶ。
1 2 回	情報の収集・提供-(3) 引き続きHTMLやCSSなどのホームページを記述するプログラミング言語について実例に基づいて学ぶ。
1 3 回	情報の収集・提供-(4) インターネット・メール・Web閲覧などネットワークの仕組みについて学ぶ。
1 4 回	情報の収集・提供-(5) 医療・研究従事者は個人情報保護などに注意を払わねばならない。そのためにネットワークセキュリティなどについて学ぶ。
1 5 回	情報の収集・提供-(6) 医療・研究従事者に必要な情報関連法規やネットワークモラルやマナーについて学ぶ。また、講義全体のまとめを行う。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	パソコンのキーボードでスムーズに日本語入力（ローマ字入力）できるようにしておくこと。また、Windowsパソコンの基本を知っておくこと。
2 回	Microsoft Wordの基本操作を知っておくこと。
3 回	Microsoft Powerpointの基本操作を知っておくこと。
4 回	Microsoft Excelの基本操作を知っておくこと。
5 回	Microsoft Excelの操作を復習しておくこと。
6 回	Word・Excel・Powerpointの操作を復習しておくこと。
7 回	PubMedやGoogle Scholarを試用しておくこと。
8 回	人口・食料・家畜・健康・感染症など演習で調査対象としたいことを考えておくこと。
9 回	調査内容が妥当かつ演習時間内に終了可能であることを確認しておくこと。
1 0 回	コンピューターやデジタルの仕組みについて簡単に調べておくこと。
1 1 回	ホームページの記述言語（HTML・CSS・Javascript）について簡単に調べておくこと。
1 2 回	ホームページの記述言語（HTML・CSS・Javascript）について簡単に調べておくこと。

1 3 回	インターネットの仕組みについて簡単に調べておくこと。
1 4 回	ネットの危険性について簡単に調べておくこと。
1 5 回	SNSなどのネット利用時のモラルについて簡単に調べておくこと。

講義目的	VPP (Veterinary Para-Professional: 獣医関連専門家) は獣医師と連携しながら動物看護の専門家としての役割を果たさなければならない。獣医医療の進歩は目覚ましく、それに伴う動物看護技術も日々進歩改良されている。VPPは絶えずこうした新しい動きを情報として収集し、日常の看護に取り入れていく姿勢が求められる。本講義ではV P Pとして必要な情報の収集、有用な情報の選別と活用という、動物看護への実践的応用のための情報処理技術を持ったV P Pとなるための基本的作業を理解し活用する能力を持つことを目的とする。
達成目標	1. 科学、医学、看護学、獣医学等に関連した情報ソースを知ること。 2. 必要な情報を収集・検索・選別できること。 3. 収集した情報を数理的に解析できること。 4. 収集した情報や解析結果をわかりやすく報告・プレゼンテーションできること。 5. 上記の目的のためにオフィスソフト等のツールが駆使できること。 6. コンピューター・デジタル情報・インターネット等の基本的な仕組みを理解すること。 7. 初等的なプログラミングの原理を理解できること。 8. インターネット等を利用する上でのセキュリティ対策やモラルやマナーを熟知すること。 9. 動物看護等に関連した課題を主体的に設定して調査・研究を行いはっきりとしたストーリーを提示できること。
キーワード	医療情報、リテラシー、情報伝達技術、IT、Windows、Microsoft Office、HTML、プログラミング、ネットワーク、セキュリティ、モラル、情報関連法規、PubMed、Google Scholar、検索
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小課題（5回× 5点で25点）および大課題（1回で30点）および最終評価試験（40点）および授業における積極性（5点）。小課題と大課題は主に達成目標1と4と5と9を確認する。最終評価試験は主に達成目標2と3と6～8を確認する。
教科書	指定しない。
関連科目	本授業で学ぶ内容はコンピューターを用いる全ての授業や卒業研究等に有用である。本授業と特に関連する授業として、「フレッシュマンセミナー」・「生物統計」・プレゼンテーション関連授業・法規関連授業・公衆衛生関連授業が挙げられる。
参考書	全般的な参考書として「医療系のための情報リテラシー: Windows 10・Office 2016対応/佐藤憲一・川上準子・星憲司・青木空真・大佐賀敦著/共立出版/ISBN:4320124359」が挙げられる。その他の参考書については適宜紹介する。資料は毎回提供する。
連絡先	高橋 秀和 獣医学教育病院棟4階421室 電話（内線）：8505 オフィスアワー：水曜4時限
授業の運営方針	暗記よりも原則を理解することを重視する。役に立つことや実用的なことを例に出して授業を行うよう努める。セキュリティやモラルや法規など倫理的な内容の学習にも十分な時間をかける。PC演習室にて、画面に映った教員のPC操作と紙媒体として配布した資料を参考に各自がPC操作を行う。課題の提出はMylogを通じて行う。一部の資料についてはMylogから電子配布する。PC演習室での実習に準じる講義であることから、正当な理由のない30分以上の遅刻・早退は欠席として扱う。30分未満の遅刻についても、3回で欠席1回として扱う。その他、明らかに授業に参加していない場合（絶え間なく雑談しているなど）も欠席として扱う場合があるので真摯に取り組むこと。課題レポートに他者やインターネットからの丸写しがある場合は、成績評価の対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 複数回の授業においては、各自でテーマを設定してプレゼンテーションスライドを作成する。作成したプレゼンテーションの内容を教員に説明する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションの授業においては、各自のプレゼンテーション内容に対して教員から各自にコメントする。それ以外の課題については提出提出の締切日の後の授業で全体に対して教員が総括・コメントする。最終評価試験の正答はMylogにアップロードする。
合理的配慮が必要な学生	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	パソコンのキーボードでの日本語入力（ローマ字入力）に慣れていない人は授業開始までにある程度スムーズに行えるようにしておくこと（インターネット上にもローマ字入力の練習用のサイトは多数あります。キーボード入力が遅すぎると授業の進行についていけない可能性があります）。

科目名	動物実験学【月2金2】（FVP3B210）
英文科目名	Experimental Animal Science
担当教員名	伊豆弥生（いずやよい）、梶川修平（かじかわしゅうへい）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	動物実験の主要な目的は、ヒトおよび他の動物での反応を予測し、その種差を考慮した上で、動物実験の成果をヒトに外挿することである。この外挿の概念を理解する必要がある。本講義では、動物実験の歴史を学び、その意義と倫理的課題ならびに関連する法令等について学習するとともに、3Rの概念を理解し、動物実験計画の立案の際に考慮すべき事項について学ぶ。 （伊豆 弥生）
2回	実験動物の取扱には、その解剖と生理、繁殖方法、遺伝育種について把握し、実験に適切な動物の選出と実験方法を用いる必要がある。本講義では、各種実験動物による比較を行いながら講義を行う。 （伊豆 弥生）
3回	実験動物の特性：マウス・ラットの系統、種類について学習し、各種動物の実験動物としての特性と利用法について学習する。さらに、マウス・ラットの感染症について学習する。 （伊豆 弥生）
4回	マウス・ラット以外の小型実験動物・中型動物、哺乳類以外の動物について、実験動物としての特性と利用法について学習する。また、マウス・ラット以外の小型実験動物・中型動物、哺乳類以外の動物に関する感染症についてその病因、病態、治療法・対処法等について学習する。 （伊豆 弥生）
5回	実験動物の系統においては、遺伝学的コントロールの方法の違いによって分類されている。この分類を理解することで、実験に適した動物系統を選択することができるようになる。各種動物系統の種類を理解し、その維持の仕方について学習する。 （伊豆 弥生）
6回	近年、めざましく発達する遺伝子改変動物の作出技術について、最新の知見を織り交ぜて学習する。 （伊豆 弥生）
7回	第7回から14回は、1グループ約8人のグループに分かれ、疾患モデル動物について学習し、それぞれの疾患について発表する。発表しない学生は、発表に対する質問を行う。 第7回はメタボリック・シンドロームのモデルとなる実験動物について、その特性と利用法について学習し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。（伊豆・梶川） （全教員）
8回	メタボリック・シンドロームのモデルとなる実験動物について、その特性と利用法について解説する。（伊豆・梶川） （全教員）
9回	ロコモティブ・シンドロームのモデルとなる実験動物について、その特性と利用法について学習し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。（伊豆・梶川） （全教員）
10回	ロコモティブ・シンドロームのモデルとなる実験動物について、その特性と利用法について解説する。（伊豆・梶川） （全教員）
11回	癌のモデルとなる実験動物について、その特性と利用法について学習し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。（伊豆・梶川） （全教員）
12回	癌のモデルとなる実験動物について、その特性と利用法について解説する。（伊豆・梶川） （全教員）

1 3 回	免疫不全モデル動物とその特性と利用法について学習し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。（伊豆・梶川） （全教員）
1 4 回	免疫不全モデル動物について解説する。また、実験動物施設の清浄レベルの違いなどについて、感染を防ぐための施設の構成と作業動線について解説する。（伊豆・梶川） （全教員）
1 5 回	動物実験を行う際に、必要な準備、処置法、安楽死法など実験による純粋な効果を得るために、実験に用いる動物の品質と実験環境を厳正に管理する方策について学習する。 （伊豆 弥生）
1 6 回	最終評価試験を実施する。 （伊豆 弥生）

回数	準備学習
1 回	生命倫理学を復習し、実験動物と動物実験の意義について学習し、準備しておくこと。授業内容を復習し、次回の小テストに備えること。（学習準備時間90分、復習時間90分）
2 回	獣医生理学、獣医形態機能学について、また、遺伝子とは何かを復習し、準備しておくこと。授業内容を復習し、次回の小テストに備えること。（学習準備時間90分、復習時間90分）
3 回	マウス・ラットがなぜ実験動物として確立され、広範囲にわたる実験に用いられるようになったのか、マウス・ラットの動物種としての違いと実験動物としての利点について学習し、準備しておくこと。授業内容を復習し、次回の小テストに備えること。（学習準備時間90分、復習時間90分）
4 回	マウス・ラット以外の動物がなぜ実験動物として必要なのか、マウス・ラットとの違いや動物種としての特性と実験動物としての利点について考えおくこと。授業内容を復習し、次回の小テストに備えること。（学習準備時間90分、復習時間90分）
5 回	遺伝子、染色体、遺伝の法則について復習し、遺伝学の基礎知識を習得しておくこと。授業内容を復習し、次回の小テストに備えること。（学習準備時間90分、復習時間90分）
6 回	生化学を復習し、遺伝子発現、タンパク質が産生されるまでのプロセスについて復習し、準備しておくこと。授業内容を復習し、次回の小テストに備えること。（学習準備時間90分、復習時間90分）
7 回	メタボリック・シンドロームとは何か、なぜ問題になっているかを考え、メタボリックシンドロームの疾患モデルとなっているモデル動物について学習し、発表および質問の準備をすること。（学習準備時間180分）
8 回	メタボリック・シンドロームの研究に適した動物について復習すること。（復習時間180分）
9 回	ロコモティブ・シンドロームとは何か、なぜ問題になっているかを考え、ロコモティブ・シンドロームの疾患モデルとなっているモデル動物について学習し、発表および質問の準備をすること。学習準備時間180分）
1 0 回	ロコモティブ・シンドロームの研究に適した動物について復習すること。（復習時間180分）
1 1 回	癌の問題点について考え、癌の疾患モデルとなっているモデル動物について学習し、発表および質問の準備をすること。（学習準備時間180分）
1 2 回	癌の研究に適した動物について復習すること。（復習時間180分）
1 3 回	免疫不全動物とは何か、なぜ必要何かを考え、免疫不全動物について学習し、発表および質問の準備をすること。（学習準備時間180分）
1 4 回	免疫不全動物の飼育方法、感染防止法などについて学習し、準備すること。免疫の研究に適した動物について復習すること。（復習時間180分）
1 5 回	これまでの講義内容を復習し、動物実験を行うために何が必要か、学習し、準備すること。（学習準備時間90分、復習時間90分）

講義目的	ライフサイエンス研究に必須な実験動物を用いた動物実験について学ぶ。汎用されているマウス・ラットなど小型げっ歯類やイヌ、サル、ブタなどの育種、繁殖、品質管理に関する事項や、感染症の管理を含めた飼育管理について学習する。さらに、動物実験に関する法令や基準等の社会規範に則し、かつ動物の福祉に配慮した適正な動物実験を実施するための方策を修得する。さらに、実験動物を用いた実験法と最先端の動物実験法について学ぶ。「学位授与の方針」Aと関連する。
達成目標	1. 遺伝、育種、繁殖などの実験動物の品質に関する事項および飼育環境や動物実験法などの動物実験に関する事項を比較生物学的視点から説明できる。「学位授与の方針」Aと関連する。 2. 実験動物に関する法令や基準等の社会規範に則し、かつ動物の福祉に配慮した適正な動物実験を実施するための方策を説明できる。「学位授与の方針」Dと関連する。 3. 各種疾患のモデルとなるモデル動物の特徴を説明できる。「学位授与の方針」Aと関連する。
キーワード	動物実験、実験動物、3R、カルタヘナ法、遺伝子改変動物、疾患モデル動物
試験実施	実施する

成績評価（合格基準点）	60 毎回の小テスト（30％）、課題発表（30％）、最終評価試験（40％）により達成目標1-3を総合的に評価し、総計で60％以上を合格とする。
教科書	教科書は使用せず、講義で資料を配布する
関連科目	獣医病態モデル学、発生工学、トランスレーショナルリサーチ、トランスレーショナルメディシン、修復・再生医療科学
参考書	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学/九和茂/朝倉書店/978-4-254-46031-5：無敵のバイオテクニカルシリーズ マウス・ラット実験ノート/中釜斉、北田一博、庫本高志/羊土社/978-4-89706-926-5：マウスラボマニュアル/丸善出版/978-4-621-06179-4：実験動物の技術と応用/丸善出版/978-4-900659-44-5
連絡先	獣医学部棟6階、618室、オフィスアワー（月曜日1，2限）、y-izu@vet.ous.ac.jp、0898-521-9119
授業の運営方針	2限続きの授業のため、2限ごとに授業の最初に小テストを実施する。課題発表では、積極性、協調性等も評価する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、質問
課題に対するフィードバック	小テストに関しては、授業内で解説し、前回授業の理解を促す。課題発表については、課題に対する理解度、プレゼンテーション方法、質問に対する応答、グループでの取り組みなどを複数教員で評価し、フィードバックする。最終評価試験は獲得点数を持ってフィードバックとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	実験動物学 (FVP3D210)
英文科目名	Laboratory Animal Science and Technology
担当教員名	大和田一雄 (おおわだかずお)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	動物実験と社会； 動物実験は医学・生命科学等の研究や医薬品等の安全性試験に不可欠である。動物実験による研究成果が絶賛される一方で、動物実験自体に対する社会の反応は複雑であり、批判的な意見も存在する。動物実験に関わる研究者や技術者は自らの業務の社会性を自覚し、社会認知の中で健全な動物実験の遂行に努力しなければならない。本講義では、動物実験の社会的な位置づけと社会への対応を中心に実験動物及び動物実験の基本概念について解説する。
2 回	解剖と生理； 動物実験には、哺乳類、トリ類、魚類、昆虫類、両生類など、多くの脊椎動物の他、無脊椎動物も用いられており、動物実験の成績は常に比較生物学の観点に立った整理が必要である。生体の形態・構造及び生理機能は動物の種類によって異なっており、さらに同一種属内でも系統や品種によって異なる。本講義では主として哺乳類を対象として比較生物学的な観点から講義する。
3 回	遺伝と育種、繁殖； 実験動物の遺伝と育種について講義する。近交系、クローズドコロニー、等は遺伝学及び育種学に基づいて確立され、維持される。突然変異の選抜、遺伝子導入によるモデル動物の開発、等も同様である。本講義では遺伝的統御の方法、ならびに遺伝的モニタリングの方法について解説する。また、これらの基礎となる動物の繁殖生理学を知り、繁殖に関わる生理活性物質の働きについて講義する。 遺伝子操作と凍結保存；実験動物に対する発生工学的手法や遺伝子操作技術の導入により、各種の遺伝子改変マウスの作製が可能となった。本講義では実験動物分野におけるこれらの技術について概要を解説する。 命名規約およびモニタリング； 遺伝子改変動物を含め実験動物の系統には国際的な命名規約があり、それに従わなければならない。本講義ではその概略を解説する。
4 回	栄養と飼料； 実験動物を飼育又は繁殖するためには、食物としての飼料の給与が必要である。飼料は使用目的に合ったもので、栄養的にも嗜好的にも満足のいくものでなければならない。本講義では実験動物の飼料について基礎から応用に至る概要について解説する。 飼育と衛生； 実験動物の飼育管理や衛生管理は、実験条件の一部を構成するきわめて重要な作業である。実験動物の飼育管理に当たっては、科学上の必要性や作業効率だけに注目するのではなく、動物の生理、生態、習性にも十分配慮して作業を計画、実行、確認しなければならない。また動物福祉への配慮も必須である。本講義ではこの点を中心に、実験動物の飼育と衛生について要点を解説する。 施設と環境； 実験動物の発育・成長と動物実験成績は、発育環境と近隣環境の影響を受ける。従って、動物が飼育される環境を一定にコントロールすることが、一定の品質の動物を生産供給することになる。また、その動物を一定の環境に置き、実験に供することは、実験処置に対する動物の反応のばらつきを少なくし、実験成績の信頼性を向上させる。本講義では、上記の観点から動物施設の適正な環境について概要を解説する。
5 回	病気と感染； 病気とは個体の秩序が何らかの原因により以上になった状態をいう。病気の原因には内的なものと外因的なものがあり、内因的な病因として、齢、性、動物種などの素因や体質の他、遺伝、内分泌、免疫、代謝、神経のほか体内各系機能の欠損や障害によるものがある。一方、外的な病因としては、栄養の欠乏、物理的・化学的作用及び微生物による感染などがある。本講義では、実験動物に関する病気をいくつかの病因別に分類し解説する。
6 回	マウス・ラット・モルモット・その他のげっ歯類（ハムスター類、スナネズミ）、ウサギ；上記の各実験動物種について、実験動物としての歴史、主な系統とその特性、解剖及び生理学的特徴、繁殖、病気、飼育管理上の注意点、輸送法、特殊実験処置動物の管理、実験手技、等について講義する。
7 回	イヌ、ネコ、ブタ、サル類、トリ類、魚類・両生類、その他；上記の各実験動物種について、実験動物としての歴史、主な系統とその特性、解剖及び生理学的特徴、繁殖、病気、飼育管理上の注意点、輸送法、特殊実験処置動物の管理、実験手技、等について講義する。
8 回	特殊実験法と検査法；

	動物実験に用いられる器具類とその使用法、動物実験における採血、血液検査、血液形態学的検査、血液生化学検査、採尿及び採糞、尿検査、糞便検査、投与量の計算、解剖手順、イメージング機器の概要、麻酔、手術法、安楽死法、等について概要を解説する。 試験：総論（講義1回～5回）と各論（講義6回～8回）に分け4者択一式の試験を課す（後半45分）。
--	--

回数	準備学習
1回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」の総論Ⅰ章「動物実験と社会」の項を読み、基礎知識を身に付けておくこと。
2回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」の総論Ⅱ章「解剖と生理」の項を読み、基礎知識を身に付けておくこと。
3回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」の総論Ⅲ章「遺伝と育種」、Ⅳ章「繁殖」の項を読み、基礎知識を身に付けておくこと。
4回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」の総論Ⅴ章「栄養と飼料」、Ⅵ章「飼育と衛生」、Ⅶ章「施設と環境」の項を読み、基礎知識を身に付けておくこと。
5回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」の総論Ⅷ章「病気と感染」の項を読み、基礎知識を身に付けておくこと。
6回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」の各論Ⅰ～Ⅴ章を読み、基礎知識を身に付けておくこと。
7回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」のⅥ～Ⅺ章を読み、基礎知識を身に付けておくこと。
8回	参考書「実験動物の技術と応用-入門編-」の総論Ⅸ章「動物実験の基本」の項を読み、基礎知識を身に付けておくこと。

講義目的	今日のライフサイエンス研究には動物実験が不可欠である。動物実験の実施に当たっては科学的にはもとより、社会的にも適正であることが求められる。本講義では、ライフサイエンス研究における動物実験の意義や社会的な枠組み、並びに実験に用いる実験動物の科学的な側面について解説する。実験動物は合目的に作り出された動物であり、遺伝学的、微生物学的、環境学的に統御されている。また、動物実験の結果を人に外挿することが動物実験の目的であることから、比較医学的な視点が実験動物学を学ぶ上で最も重要なことである。本講義では上記の視点に立ち、実験動物学を体系的に学ぶとともに、実験動物種ごとの各論にも触れ、幅広く実験動物を理解することを目的とする。また、本講義を受講することにより、実験動物1級技術者資格試験の受験に必要な基本的な知識、技術を習得させることを目指しているため、この資格を目指す諸君はぜひ受講すること。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Bに強く関与する）
達成目標	本講義の目標は以下のとおりである。 社会的、科学的に適正な動物実験について理解すること。各実験動物種について解剖・生理学的特徴を理解し、比較医学的、比較解剖学的な側面から理解すること。実験動物の遺伝育種学的、繁殖学的な知識、技術について理解すること。実験動物の飼養保管における環境条件、飼料、衛生管理、飼育施設・設備に求められる条件について理解すること。実験動物の感染症統御法と検査法について理解すること。また、最先端技術である遺伝子改変動物の作製法について理論と実践技術について理解すること。代表的な実験動物の特徴と使用分野等について理解すること。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Bに強く関与する）
キーワード	実験動物の環境統御、微生物統御、遺伝統御、SPF、バリアシステム、発生工学、遺伝子改変動物、GLP
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	4者択一式筆頭試験により評価する。総論（100点満点）及び各論（100点満点）について試験を課し、それぞれについて60点以上を合格とする。
教科書	実験動物の技術と応用-実践編- / 社団法人日本実験動物協会 / アドスリー / ISBN978-4-900659-45-2 C3047
関連科目	動物福祉学、生命関連法規、動物実験学
参考書	実験動物の技術と応用-入門編- / 社団法人日本実験動物協会 / アドスリー / ISBN978-4-900659-44-5 C3047：獣医学 教育モデル・コア・カリキュラム準拠実験動物学 / 朝倉書店 / ISBN978-4-254-46031-5 C3061
連絡先	研究室：今治キャンパスB1号館（教育病院棟）3階、315号室。 オフィスアワー：火曜日午後1:00～3:00。 電話：0898-52-9269（DI） Email:k-oowada@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	講義では教科書・実践編のレベルに合わせた内容で解説するので、事前に入門編のレベルの内容を自習し、クリアしていることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	事前学習の内容を発表してもらうことがある。
課題に対するフィード	事前学習の内容を基に、講義でより上位の内容を解説し、フィードバックする。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	実験動物技術者1級資格受験希望者は必ず受講すること。指定した教科書（実践編）は実験動物技術者1級資格試験のテキストであり、参考書として指定した（入門編）は2級技術者用のテキストである。講義では1級レベルに合わせた内容で解説するので、事前に2級レベルの内容を自習し、クリアしていることが望ましい。

科目名	動物形態機能学Ⅱ【月5水2】（FVP3E110）
英文科目名	Animal Functional Morphology II
担当教員名	松井利康（まついとしやす）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	組織学 1 細胞、上皮組織： 細胞の核、細胞小器官ならびに上皮組織について、その形態学的特徴および機能を学習する。
2 回	組織学 2 結合組織、支持組織、筋組織、神経組織： 結合組織、支持組織、筋組織、神経組織の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
3 回	組織学 3 血液、リンパ、骨髄、脈管系、リンパ器官： 血液、リンパ、骨髄、脈管系、リンパ器官の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
4 回	組織学 4 消化器系Ⅰ： 口腔、咽頭、歯、唾液腺、舌、食道、胃、小腸、大腸の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
5 回	組織学 5 消化器系Ⅱ、呼吸器系： 消化器系（鶏の消化器系含む）、呼吸器系（鶏の呼吸器系含む）の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
6 回	組織学 6 泌尿器系、生殖器系Ⅰ： 泌尿器系、雄性生殖器系の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
7 回	組織学 7 生殖器系Ⅱ： 雄性生殖器系（鶏の雄性生殖器系含む）、雌性生殖器系（鶏の雌性生殖器系含む）の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
8 回	組織学 8 内分泌系： 視床下部、下垂体、副腎、甲状腺、上皮小体、松果体、膵島、胃腸内分泌ホルモン、鶏の内分泌器官の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
9 回	組織学 9 感覚器： 眼、耳、味蕾、嗅粘膜、鋤鼻器、鶏の眼球などの形態学的特徴、位置および機能を学習する。
10 回	組織学 10 神経系、外皮： 神経系、外皮（鶏の皮膚と羽含む）の形態学的特徴、位置および機能を学習する。
11 回	発生学 1 総論、生殖細胞発生と初期胚発生：講義では、まず発生学を学ぶ意義や発生過程で起こる基本的事実を総論として解説する。続いて、精子および卵子の発生と形成、受精から胚葉形成までの初期発生について学習する。
12 回	発生学 2 胚の着床と胎盤形成、胚葉分化：胚盤胞の着床から、外胚葉・中胚葉・内胚葉の3つの胚葉形成までの発生を学習する。また、胎盤と胎膜の構造とその形成過程、動物ごとの胎盤構造の特徴と名称分類についても解説する。

1 3 回	発生学 3 中胚葉分化：中胚葉は沿軸中胚葉・中間中胚葉・外側中胚葉から構成される。講義では、沿軸中胚葉から骨格筋・骨などの結合組織が、中間中胚葉から泌尿器や生殖器が、外側中胚葉から循環器系や造血細胞などが、それぞれ分化することを学習する。
1 4 回	発生学 4 内胚葉分化：内胚葉は前腸・中腸・後腸からなる原始腸管を形成したのち、消化管や呼吸器の上皮、肝臓と膵臓の実質などに発生分化することを学習する。また内胚葉が、膀胱と尿道の上皮に分化して、泌尿器系の器官の形成にも一部参加することを解説する。
1 5 回	発生学 5 外胚葉分化：外胚葉から誘導された神経外胚葉が神経管と神経堤を形成し、中枢および末梢神経系の器官や特殊感覚器に発生分化することを学習する。また体表外胚葉に由来する器官の発生についても解説する。

回数	準備学習
1 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の上皮組織の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
2 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の結合組織、支持組織、筋組織、および神経組織の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
3 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の血液、リンパ、骨髄、脈管系、およびリンパ器官の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
4 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の消化管、歯、舌、および唾液腺の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
5 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の肝臓、膵臓、呼吸器系、ならびに鶏の消化器系および呼吸器系の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
6 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の泌尿器系および雄性生殖器系（精巣から精管）の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
7 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の雄性生殖器系（副生殖腺、陰茎）、雌性生殖器系、および鶏の雄性、雌性生殖器系の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
8 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の内分泌系および鶏の内分泌系の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
9 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の眼、耳、味蕾、嗅粘膜、鋤鼻器、および鶏の眼球などの項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
1 0 回	教科書「動物形態機能学」または「獣医組織学」の神経系および外皮の項によく目を通しておくこと。（学習時間：60分）
1 1 回	組織学で学習した、動物の体を構築する階層性（細胞、組織、器官、器官系）、細胞の基本構造、細胞間結合の種類、精巣と卵巣の組織構造について復習してくること。可能ならば、「動物発生学」を参考にすること。（学習時間：60分）
1 2 回	子宮および胎盤の組織構造、および性周期に伴う子宮内膜の形態変化について復習してくること。可能ならば、「動物発生学」または「ギルバート発生生物学」を参考にすること。（学習時間：60分）
1 3 回	心臓の構造および心臓に連絡する主要な動・静脈の走行を復習しておくこと。可能ならば、「動物発生学」または「ギルバート発生生物学」を参考にすること。（学習時間：60分）
1 4 回	消化器系を構成する器官について、食物の流れに沿って空間的位置関係、組織構造および機能を復習しておくこと。さらに原始腸管は前腸・中腸・後腸からなるが、それらが成体において、どの消化器官を形成しているのか調べておくこと。可能ならば、「動物発生学」ないし「ギルバート発生生物学」を参考にすること。（学習時間：60分）
1 5 回	神経系を構成する細胞系列（ニューロンとグリア細胞）、脳や脊髄の組織構造、眼球と耳の組織構造について復習してくること。また下垂体前葉・後葉の構造の違いを調べておくこと。可能ならば、「動物発生学」または「ギルバート発生生物学」を参考にすること。（学習時間：60分）

講義目的	本授業は組織学と発生学より構成される。 組織学：生物体を形づくる最小単位である細胞およびそれらが集合して構成された組織の構造的特徴について講義する。講義内容は総論と各論の2つに大別される。総論では、細胞小器官をはじめとした細胞の基本的構造を解説する。次に上皮組織、結合組織、支持組織、筋組織および神経組織についての基礎的概念の理解を求める。各論では、総論で学んだ細胞・組織の基本概念をベースとして、それらの集合体である個々の器官の構造について解説する。 発生学：本講義では、生殖細胞の発生、受精から胚葉形成までの初期発生、各胚葉の分化とそれら
------	--

	に由来する器官の発生過程などを学ぶことで、動物の体を構成する細胞、組織、器官の発生メカニズムの理解を目的とする。さらに、哺乳類の発生や胎盤の形成における比較動物学的な知識を身につける。 (獣医学部獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する)
達成目標	1. 細胞の核、各細胞小器官の構造、機能を説明できること。 2. 上皮組織、結合組織、支持組織、筋組織および神経組織の構造、機能について説明できること。 3. 血液、骨髄、リンパ器官、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、雄性、雌性生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、外皮について、それぞれの構成器官とそれらの組織構造、機能を説明できること。 4. 動物の個体発生について、生殖細胞の発生と形成、受精、初期胚発生、着床、胚葉形成などを説明できること。 5. 内胚葉、中胚葉、外胚葉の分化と、それぞれの胚葉に由来する器官を説明できること。 6. 胎盤と胎膜の構造と形成過程、動物ごとの胎盤構造の特徴について説明できること。 (上記の各項は獣医学部獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する)
キーワード	組織学、細胞、組織、器官、発生学、個体発生、器官発生、胎盤
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	達成目標の各項に関する知識を筆記試験で評価する。評価は小テスト20%、最終評価試験80%の配分で成績評価し、総計点が60%以上を合格とする。
教科書	動物形態機能学／全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会 編／インターズー／ISBN: 978-4-89995-809-3：獣医組織学 第七版／日本獣医解剖学会 編／学窓社／ISBN: 978-4-87362-754-0
関連科目	動物形態機能学 I
参考書	動物形態機能学／全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会 編／インターズー／ISBN: 978-4-89995-809-3：獣医組織学 第七版／日本獣医解剖学会 編／学窓社／ISBN: 978-4-87362-754-0
連絡先	獣医学部棟5階534研究室
授業の運営方針	各回の講義前に講義資料を配布し、それに沿ってパワーポイントスライドで解説を行う。
アクティブ・ラーニング	質問、その他（講義の一部にワークシートを取り入れ、内容を学生に質問したのち解説を行う。）
課題に対するフィードバック	授業中に実施する小テストは、復習に利用できるよう答案用紙を模範解答とともに返却する。また最終評価試験についても模範解答を返却し、学生の疑問点について解説を適宜行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	ア) 元浜松市役所および北海道庁勤務 イ) 地方公共団体における獣医技官の勤務経験を活かして、と畜検査など家畜の解体検査においてポイントとなる形態構造について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	人獣共通感染症学（FVP3F210）
英文科目名	Zoonosis
担当教員名	吉川泰弘（よしかわやすひろ）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	人獣共通感染症原論：Zoonosisという言葉の由来と定義、その変遷を理解する。新興・再興感染症の定義と人獣共通感染症の関係を理解する。代表的な人獣共通感染症の実例（ペスト、狂犬病の特徴など）について、その特徴と問題点を理解する。人獣共通感染症のリスク増加の原因を開発途上国、先進国に分けて考察する。人獣共通感染症への対応（国際対応、国内対応）について、概要を学ぶ。
2回	人獣共通感染症の手技：人獣共通感染症を理解するための要素を学修する。疫学について学ぶ。サーベイランス（疾病監視）の種類、目的、意義、利用のしかたを学ぶ。実例として、人獣共通感染症の一つであるBSEの検査について検討する。BSE検査はサーベイランスかスクリーニングか？検査の意味と有用性、限界を理解する。人獣共通感染症について情報収集の仕方を学ぶ。
3回	伴侶動物由来感染症：厚労省ハンドブック「動物由来感染症を知っていますか？伴侶動物の感染症と伴侶動物に由来する感染症について学ぶ。とくに、伴侶動物の実態、伴侶動物由来感染症の特徴と多様性を理解する。ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫病にわけて学修する。
4回	産業動物由来感染症：産業動物の感染症を概観したのち、産業動物由来感染症とその特徴を理解する。実例として、ニパウイルス感染症（豚）、高病原性鳥インフルエンザ（家禽）、牛海綿状脳症（BSE、牛）、クリミア・コンゴ出血熱（反芻動物等）など、世界を震撼させた感染症、および日本脳炎、Q熱、ブルセラ症についても学修する。
5回	齧歯類由来感染症：齧歯類の特性及び齧歯類由来感染症の多様性について理解する。陸生哺乳類で最大の種数（2000種）を占める齧歯類に由来する感染症には、ラッサ熱、腎症候性出血熱、ハンタウイルス肺症候群や、南米出血熱、サル痘、細菌感染症であるペスト、レプトスピラ症、仮性結核、バルトネラ症及び節足動物が媒介する日本紅斑熱、ツツガムシ病などがある。これらを学修する。
6回	翼手目：蝙蝠は齧歯類について多様性を持つ（1100種）。近年では多くの病原体を有していることが明らかにされ始めた。古くから知られていた狂犬病ウイルス以外にもコウモリリッサウイルス、ヘンドラウイルス、ニパウイルス、SARSコロナウイルス、及びエボラウイルスとマールブルクウイルスなどのフィロウイルスの自然宿主と考えられている。感染症とともに蝙蝠の生態、特性についても学ぶ。
7回	サル類：霊長類は約220種といわれているが、ヒトに最も近縁であるため、人獣共通感染症が多い。展示動物とともに多くは実験動物として利用される。サル類の安全な取り扱い、リスクシナリオ、ヒトからサル類への感染症（Anthropozoonosis）、サル類からヒトへの感染症（Zoonosis）に分けて理解する。また、国内及び国際対応及び（陸生動物衛生規範）び輸入検疫・獣医師届出疾病についても学修する。
8回	鳥類：鳥類はウイルスや細菌を運ぶベクターや病原体の増幅動物としての役割を果たしている。野鳥を介した感染症や食品を介した鳥類由来の感染症（食中毒）は、決して少なくない、これらの事例と問題点について学ぶ。
9回	ウイルスによるZoonosis：感染症法に挙げられている人獣共通感染症（1類から5類まで）のうちウイルスによる人獣共通感染症は非常に多く、かつ重要である。適応・拡散した多くのウイルス種のうち、人獣共通感染症を起こすウイルスには、どのような特性があるのか？感染症からではなく、病原体の側から考える思考法を学修する。
10回	細菌・リケッチア・クラミジア、マイコプラズマによるZoonosis：真正細菌の中で、人獣共通感染症の病原体となるものについて学修する。現在知られている29門の細菌のうち、どのような種類の細菌が鳥類や哺乳類を宿主として選んだのか？その理由はどこにあるのか？などについて学ぶ。また、治療法の基礎となる抗生物質と耐性菌についても学修する。
11回	真菌、原虫・寄生虫によるZoonosis：国際的にみれば寄生虫感染症は非常に重要な人獣共通感染症であるが、日本では大きな問題となる感染症は少ない。公衆衛生上から見た寄生虫感染症の特徴を学修する。感染症法にあるものとして、ア메ーバー赤痢、エキノコックス症、ジアルジア

	症、マラリア。感染症法にないもので症例数の比較的多いもの、トキソプラズマ症、アニサキス症などを理解する。国内事例はないがアライグマ回虫症、キンカジュール虫症のリスク評価についても学修する。
1 2 回	感染経路からの理解：咬傷、引っ掻き・創傷、接触感染、空気・飛沫感染、経皮、節足動物媒介ではデング熱、マラリア、オンコセルカ症などがある。経口感染、土壌、水系感染について理解し説明できる。感染性食中毒としてはEHEC（牛）、ノロウイルス感染症（牡蠣）、サルモネラ症（豚・鶏）、カンピロバクター症（鶏）などがあるので、その特性を学修する。
1 3 回	人獣共通感染症のうちベクターを介する感染症の代表的な事例としてデング熱を対象に、病原体としてのデングウイルスの特性、ベクターである蚊の生態、媒介昆虫体内での病原体の増殖、西ナイル熱ウイルスとの違い、流行疫学、節足動物媒介ウイルス病のR0の考え方、予防・治療法の試みなどを学修する。
1 4 回	人獣共通感染症のうち途上国と先進国の流行パターンの違いを理解する。エボラウイルス感染のR0の求め方を理解し説明できる。途上国における感染症の統御が自然科学分野だけでは困難で学術的分野を融合した取り組みが必要であることを知るために、エボラ出血熱を例にとって学修する。
1 5 回	人獣共通感染症関連法規：狂犬病予防法、感染症法他。狂犬病と防疫体制、ガイドライン。感染症法の経緯。法定検疫、輸入届出制など、これまでの授業で個別に説明された。ここでは、医師の届出、獣医師の届出。国際法規、条約等：WHO、FAO、OIEの役割。One World, One Healthの考えかたなどについて総括的に再度学修する
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	以下HPにデータがある（ http://www.ayyoshi.com ）。東京大学の市民公開講座にもビデオが公開されている（HP動物由来感染症とは？）。授業を受ける前に、これらの情報を見ておくと、授業が分かりやすい。
2 回	BSE問題に関してはHP「雑感、BSE」にデータがある。（ http://www.ayyoshi.com ）。サーベイランスに関しては、大学のポータルサイトにデータが入っている。講義の動物感染症学も役に立つ（ただし3年次科目）。自分でいろいろなサーベイランスの方法についてまとめてみる。
3 回	講義スライド、関連スライドはポータルサイトにある。興味があれば、NHKラジオ講座「生物進化の謎と感染症」（第11回、ペット動物からも病気は広がる）、CDもある。厚生労働省のHPからハンドブック「動物由来感染症を知っていますか？」、HPで動物取扱責任者研修のデータなどを調べてみる。
4 回	家畜に由来する人獣共通感染症について学ぶ。重要なウイルス感染症としては1類感染症のクリミア・コンゴ出血熱、2類感染症のMERSの他、日本脳炎、E型肝炎がある。細菌感染症ではQ熱、炭疽、ブルセラ症がある。各自調べて、その特徴、感染経路、症状、診断、予防・治療法についてまとめる。HP（ http://www.ayyoshi.com ）、東京大学の市民公開講座のビデオ、vCAM Pが公開されている。NHKラジオ講座「生物進化の謎と感染症」、第7回、11回の放送がNHK出版にある。
5 回	齧歯類由来の感染症は、野生動物に由来する人獣共通感染症のなかで最も種類が多いと思われる。哺乳類の中でも最も古く、病原体宿主として長い歴史を持っている。また、齧歯類は極地を除くほとんどすべての地域に生息していること、種が多く、病原体も齧歯類の多様性とともに関連し、多様化している。人家に住んだり、人との接触も多く、比較的容易に病原体を人間社会に持ち込む。人と齧歯類の関係を感染症の観点からまとめる。
6 回	世界中を驚かせた新興感染症で自然宿主が明らかになった例をみると、多くがコウモリである。コウモリが原因なのにウマから感染するヘンドラウイルス感染症、ブタから感染したニパウイルス感染症、ヨーロッパとオーストラリアなどのコウモリリッサウイルス感染症、マールブルグ病やエボラ出血熱。さらに中国のSARSなどがある。何故コウモリがこのような役割を果たすのか？そもそもコウモリとはどのような特徴を持った動物か？調べる。
7 回	人獣共通感染症には動物から人に来るもの、人から動物に感染し、また人が罹るものもある。人から動物に行く人獣共通感染症の多くは、サル類です。ヒト由来感染症（Anthropozoonosis, 再帰感染症 recurrent infectionともいう）で、サル類の赤痢、結核、ウイルス性肝炎などがある。サル類からはBウイルス病、サルマラリア、アメーバー赤痢、ジアルジア症などがある。サルから人、人からサルに分け、感染症を分類すること。
8 回	鳥類由来の人獣共通感染症は、哺乳類由来に比べ少数である。近年問題となっているものには、ウイルス病では高病原性鳥インフルエンザ、西ナイル熱がある。シンドビスウイルス感染症もウイルスである。鳥型結核、カンピロバクター症などは細菌感染症である。クリプトコックス症は真菌症で鳥類由来です。野鳥に由来するものと家禽に由来するもの、その他の鳥（動物園など）に分けて

	感染症の事例を整理すること。
9回	2本鎖DNAウイルス、1本鎖DNAウイルス、逆転写DNAウイルス、2本鎖RNAウイルス、プラス鎖1本鎖RNAウイルス、マイナス鎖1本鎖RNAウイルス、逆転写RNAウイルスについて、これまで習ったウイルス性人獣共通感染症（各種動物に由来するウイルス感染症）の病原体がどの分類に入るか？自分で表にまとめること。
10回	細菌の分類（モネラ界、28門）を理解しよう。グラム染色、好気性、嫌気性、形体（球菌、桿菌、螺旋菌、その他）、細胞偏性寄生のリケッチア、クラミジア、細胞壁をもたないマイコプラズマなどの特性が、どのように種を超えて人に感染する可能性をもつのか？考えて、調べてみる。決してすべて門の細菌が人獣共通感染症の病原体になるわけではない。
11回	人獣共通感染症の病原体となる真菌類は多くない。どのような特性を持った真菌がそのような能力を持つのか？考えてみる。真核生物のうち、動物、植物、真菌を除いたものが原生生物で、ミトコンドリアを持つものが原生動物である。そのうちで病原性を持つものが原虫である。原虫は、血液の中に住む原虫（マラリア）、筋肉に住む原虫（住肉胞子虫）、肝臓（赤痢アメーバ）・腎臓（ヒストモナス）で増える原虫、腸管の好きな原虫（コクシジウム）、脳に行く原虫（トキソプラズマ）肺を好む原虫（ニューモシスチス？原虫でなく真菌に分類されました）と様々である。自分で調べて、臓器、原虫、宿主の一覧表にまとめること。
12回	人獣共通感染症の病原体の侵入経路には多様性がある。宿主への病原体の侵入経路は、病原体の特性や生態と深く関連している。人へ病原体を伝播する動物の生態とも関連している。さらに、同一の病原体であっても複数の侵入経路を持つものがあり、侵入経路により、臨床症状のパターンも違う。人獣共通感染症の病原体が侵入する経路の違いが持つ意味を調べてみる。
13回	2014年、戦後初めての日本国内でのデング熱流行が起こり、パニックになった。この機会に、ベクター媒介人獣共通感染症の事例としてデング熱について、その特徴を理解しておくこと。2015年には、ハワイでデング熱の流行が起こり、180件の発生が報告されている。今回はデング熱について学修するが、近縁なウイルス感染症である日本脳炎、黄熱、西ナイル熱等について、デング熱に習って自分で調べる。
14回	同じエボラウイルスの感染でも、西アフリカでは爆発的な広がりを見せ、世界を震撼させた。エボラ患者は先進国でも発生し、2次感染を起こした例もあったが、アフリカのようなアウトブレイクにはならなかった。両者の違いはどこにあるのか？キーとなる点は何かを考えてみる。
15回	感染症をコントロールするために整備された法律（家畜伝染病予防法、伝染病予防法、狂犬病予防法、感染症法など）について、成立の経緯とその趣旨、変遷を調べて、年表にまとめる。

講義目的	人獣共通感染症（Zoonosis）は、「ヒトと脊椎動物との間で自然に伝播する疾病あるいは感染症」と定義されています。これらの病気をコントロールするためには、原因となる病原微生物（病原体：pathogen）を保有する動物群の種類やその生態、病原体の特性、ヒトと動物の間の病原体の感染経路（伝播様式）の理解、予防・治療などの危機管理対応を理解する必要があります。本講義では人獣共通感染症の概論、各種動物に由来する感染症、病原体の特性からみた人獣共通感染症、実際の事例の解析、国内外の感染症コントロールの戦略などを理解できるように教えます。
達成目標	人獣共通感染症には、病原体の種類（プリオン、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫）から見た特性、あるいは伝播経路：直接伝播－咬傷、引っ掻き、接触、空気、飛沫感染などと間接伝播－土壌、水系、節足動物媒介や食品由来などからみた分類、そして各種動物（伴侶動物、産業動物、野生動物、実験動物、展示動物など）に由来する感染症のカテゴリーなど、いろいろな分類法があります。これらの相互の関係を整理し、統合的に理解でき、説明できるようになる。また、多様な感染症の優先順位や国内外の人獣共通感染症の統御戦略などについての考え方を理解する。
キーワード	ズーノーシス造語・定義、新興・再興感染症、狂犬病、ペスト、人類と感染症
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施する質疑応答20%、解答に関連する説明能力（レポート）30%、定期試験（英文和訳後回答、正誤課題、5択問題）50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医公衆衛生学Ⅱ 文永堂出版、獣医公衆衛生学教育研修協議会（編） ISBN:978-4-8300-3251-6
関連科目	獣医微生物学、獣医寄生虫学、獣医病理学、獣医薬理学、獣医疫学
参考書	生物進化の謎と感染症／吉川泰弘／NHK出版／978-4-14-910914-5
連絡先	学部棟6階学部長室
授業の運営方針	パワーポイントで説明、試験は広範囲なので本質的なことを理解する。講義内容を予習し、質問等を考えておくこと。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	模範回答はネットおよびポータルサイトに公開します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 国立予防衛生研究所 イ) 感染症法の作成に関与、狂犬病予防法の改正、食品安全委員会でのBSEトレサビ法等について国民に解説し、動物医薬事害議会で議長として生物製剤の害議を進めた。
その他（注意・備考）	再試は行わない。

科目名	動物形態機能学実習 (FVP3H110)
英文科目名	Practice for Functional Morphology of Animals
担当教員名	九郎丸正道 (くろうまるまさみち), 五十嵐瞳 (いがらしひとみ), 松井利康 (まついとしやす)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	イヌの骨標本の観察：イヌの骨標本において、脊柱・前肢・後肢などを構成する骨の観察を行い、動物の各体部に存在する骨の構成と機能を学習する。 (全教員)
2 回	イヌの肉眼解剖：イヌの体壁、前・後肢の浅層にある筋を観察・同定することで、主な筋の位置と作用を学習する。続いて、胸腔・腹腔に位置する臓器を摘出し、主な器官とその構造を観察する。 (全教員)
3 回	ヤギの解剖：ヤギにおいて、消化器系、呼吸器系、泌尿・生殖器系、循環器系を構成する器官を観察・同定することで、反芻動物の肉眼的構造の位置関係および比較解剖学的な特徴を学習する。 (全教員)
4 回	ニワトリの解剖：鳥類は飛行するための運動器など、哺乳類と異なる特徴的な解剖学的構造をもっている。本実習では、ニワトリの各器官系を構成する構造を観察・同定することで、鳥類の肉眼解剖学的構造を学習する。 (全教員)
5 回	組織学 1 運動器・消化器：運動器および消化器の主要な器官（横紋筋、骨、食道、胃、小腸、肝臓）について、プレパラート標本を顕微鏡により観察・スケッチすることで、各器官を構成する細胞の形態、組織構造、ならびにその機能を学習する。 (全教員)
6 回	組織学 2 呼吸器・循環器・リンパ器官：呼吸器および循環器の主要な器官（気管、肺、心臓、動脈、静脈、リンパ節）について、プレパラート標本を顕微鏡により観察・スケッチすることで、各器官を構成する細胞の形態、組織構造、ならびにその機能を学習する。 (全教員)
7 回	組織学 3 泌尿器・生殖器：泌尿器および生殖器の主要な器官（腎臓、膀胱、精巣、卵巣、子宮、胎盤）について、プレパラート標本を顕微鏡により観察・スケッチすることで、各器官を構成する細胞の形態、組織構造、ならびにその機能を学習する。 (全教員)
8 回	組織学 4 神経系・感覚器：神経系および感覚器を構成する主要な器官のうち、大脳、小脳、脊髄、網膜のプレパラート標本を顕微鏡により観察・スケッチすることで、各器官を構成する細胞の形態、組織構造、ならびにその機能を学習する。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	実習前に配付する実習の手引き、教科書「カラーアトラス獣医解剖学」における体幹の骨・前肢の骨・後肢の骨の項を通読し、疑問点をまとめてくること。（学習時間：60分）
2 回	実習前に配付する実習の手引き、教科書「カラーアトラス獣医解剖学」において、イヌの筋の名称と作用、各器官系を構成する主な臓器の位置、構造ならびに機能について、よく復習してくること。（学習時間：60分）
3 回	実習前に配付する実習の手引き、教科書「カラーアトラス獣医解剖学」において、ヤギの消化器系を構成する主な臓器の位置、構造ならびに機能について、よく復習してくること。またイヌの解剖で学習した胸・腹部の内臓の相互関係を説明できるようにしておくこと。（学習時間：60分）
4 回	実習前に配付する実習の手引き、教科書「カラーアトラス獣医解剖学」において、鳥類の体を構成する主な臓器の位置、構造ならびに機能を復習するとともに、鳥類で見られる特徴的な解剖学的構造を考えてくること。（学習時間：60分）
5 回	実習前に配付する組織学の実習プリントおよび教科書「獣医組織学」の横紋筋、骨、食道、胃、小腸、肝臓の項を通読し、各組織の形態学的特徴を確認してくること。（学習時間：60分）
6 回	実習前に配付する組織学の実習プリントおよび教科書「獣医組織学」の気管、肺、心臓、動脈、静

	脈、リンパ節の項を通読し、各組織の形態学的特徴を確認してくる。こと。（学習時間：60分）
7回	実習前に配付する組織学の実習プリントおよび教科書「獣医組織学」の腎臓、膀胱、精巣、卵巣、子宮、胎盤の項を通読し、各組織の形態学的特徴を確認してくる。こと。（学習時間：60分）
8回	実習前に配付する組織学の実習プリントおよび教科書「獣医組織学」の神経組織と網膜の項を通読し、各組織を構成する細胞の種類と形態学的特徴を確認してくる。こと。（学習時間：60分）

講義目的	「動物形態機能学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ動物を構成する各器官と器官系について、動物の肉眼解剖および組織標本の観察を行うことで、動物体の構造と機能を階層性に基づいて理解することを目的とする。まず実習の前半部では、動物の肉眼的諸構造を実物に触れて観察・同定することで、主要な器官の空間配置ならびに相互の関係を理解し、説明できるよう学習する。次に実習の後半部では、顕微鏡を用いて主要器官の組織構造を観察し、各組織の構造を肉眼的構造ならびに機能と結びつけて理解することを目指す。
達成目標	1. 動物体の各器官系の構造と機能を階層性（細胞－組織－器官－器官系一個体）に基づいて説明できること。 2. 主要な器官とその構造を同定できるとともに、各器官の位置関係、ならびにその意義を説明できること。 3. 動物の各器官の組織構造と機能を、肉眼的構造と関連づけて説明できること。
キーワード	運動器学、肉眼解剖学、組織学、細胞、組織、器官
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回の実習で指定する課題（スケッチ等）の評価70%、達成目標の各項に関する知識を問う最終評価試験の評価30%の配分で成績評価し、総計点が60%以上を合格とする。
教科書	カラーアトラス獣医解剖学 上巻 増補改訂第2版／カラーアトラス獣医解剖学編集委員会 監訳／緑書房／978-4895312516：カラーアトラス獣医解剖学 下巻 増補改訂第2版／カラーアトラス獣医解剖学編集委員会 監訳／緑書房／78-4895312523：獣医組織学 第七版／日本獣医解剖学会 編／学窓社／ISBN：978-4-87362-754-0
関連科目	動物形態機能学Ⅰ、動物形態機能学Ⅱ
参考書	動物形態機能学／全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会 編／インターズー／ISBN：978-4-89995-809-3：カラーアトラス組織・細胞学／岩永敏彦 著／医歯薬出版／978-4263404874：ビジュアルで学ぶ伴侶動物 解剖生理学／浅利昌男、大石元治 監修／緑書房／978-4895312189
連絡先	獣医学部棟5階533研究室（九郎丸）、獣医学部棟5階534研究室（松井、五十嵐）
授業の運営方針	事前に配布する実習の手引きに沿って、動物体と組織標本の観察を行う。また各回の実習における重要点を実習前講義で解説するので、開始時間に遅れないよう集合すること。
アクティブ・ラーニング	実験・実習、質問、プレゼンテーション
課題に対するフィードバック	毎回の実習で取り組む課題（スケッチ）を教員がチェックし、誤りの訂正、内容の補足などを行ったうえ、学生に返却・復習を促す。また最終評価試験についても模範解答を返却し、学生の疑問点について解説を適宜行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	実験動物学実習 I (FVP3H210)
英文科目名	Laboratory Animal Science Practice I
担当教員名	古本佳代 (ふるもと かよ) , 大和田一雄 (おおわだ かずお) , 野原正勝 (の はら まさかつ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	実験動物管理施設・設備：学内の実験動物施設内の区域構成と動線、飼育室の構造や飼育器材について学修する。 (全教員)
2 回	環境モニタリング：動物の生体機能に影響を及ぼす環境因子（気候的要因、物理・化学的要因）のモニタリングを実施し、実験動物の飼育環境の維持について学修する。 (全教員)
3 回	ハンドリング：小型のげっ歯類（マウス、ラット、ハムスター、スナネズミ）を用いて、体重測定、個体識別、性別判定、順化および保定法について学修する。動物の外形を観察し、相似性や相違性について学修する (全教員)
4 回	投与：腹腔内投与、経口投与、皮下投与時に使用する器具類とその使用方法について学修する。マウス、ラットを用いてこれら投与方法について学修する。 (全教員)
5 回	採血、解剖：採血および解剖に使用する器具類とその使用方法について学修する。マウス、ラットの臓器の位置、形態的特徴について学修する。 (全教員)
6 回	微生物モニタリング：免疫学的手法を用いて実験動物飼育室の微生物モニタリングを実施し、動物実験の結果に影響を及ぼす微生物について学修する。 (全教員)
7 回	遺伝的モニタリング：標識遺伝子の検査を実施し、実験動物の維持管理における遺伝的変化の監視について学修する。 (全教員)
8 回	実技試験 (全教員)

回数	準備学習
1 回	実験動物管理者としての視点を理解するため、復習として学内の実験動物施設の利用に関する資料（利用の手引き）を読んで実験動物施設利用者としてのルールを身につけること。
2 回	実験動物施設の管理において統御しなければならない環境因子とその基準値について予習しておくこと。
3 回	日本実験動物協会監修の実験動物2級技術教育用DVD（第1巻）を見て予習しておくこと。復習として各動物種の性質の違い、外形の形態的特徴についてまとめておくこと。
4 回	日本実験動物協会監修の実験動物2級技術教育用DVD（第2巻）を見て予習しておくこと。復習として腹腔内投与、経口投与、皮下投与をマウス、ラットに実施する際の部位、器具および注意点についてまとめておくこと。
5 回	動物形態機能学で学んだ知識を予習しておくこと。復習として採血および解剖に使用する器具類の使用法の注意点についてまとめておくこと。
6 回	微生物モニタリング結果における偽陽性反応、偽陰性反応、擬陽性反応、擬陰性反応の定義について予習しておくこと。復習としてこれらの結果が出る要因について調べ、課題を提出すること。
7 回	アロザイム、セルロースアセテート膜電気泳動法について予習しておくこと。
8 回	1～7回目までの実習内容をよく復習し、実技試験に備えること。

講義目的	再現性、信頼性、普遍性の高い動物実験を行うためには様々な因子をコントロールする必要がある。動物実験の質を高めるには、目的にあった実験動物を適正な施設に収容し、専門的知識を持ったスタッフが適切な方法で管理する必要がある。本実習では実験動物施設の構造・飼育器材、施設の
------	--

	運営、実験動物の管理方法について学修する。さらに実験動物の質の保証、そしてその質の保証のために求められる飼育環境の維持においてコントロールすべき因子を監視する方法についても学修し、実験動物の施設管理において専門職に必要とされる基本的知識および技術を身に付ける。獣医保健看護学科学位授与の方針(DP)のBと深く関連している。
達成目標	1. 実験動物施設利用者と管理者の視点の違いについて説明できること(B)。 2. 実験動物施設の区域構成と動線、飼育室の構造や飼育器材について説明できること(B)。 3. 実験動物の基本的な飼育管理法について説明できること(A)。 4. 実験動物管理における環境モニタリング、微生物モニタリング、遺伝的モニタリングの意義が説明できること(B)。 5. 小型げっ歯類の基本的な取り扱いが出来ること(A)。
キーワード	実験結果の再現性と信頼性、実験動物施設管理、環境モニタリング、微生物モニタリング、遺伝的モニタリング、動物の順化（ヒト、環境）
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・学修意欲、受講態度:評価割合 30%（達成目標 1）～5）を確認） ・課題の提出:評価割合 20%（達成目標 1）～4）を確認） ・実技試験:評価割合 50%（達成目標 2）～5）を確認） で評価する。総計が60%以上を合格とする。
教科書	なし（資料を適宜配布する）
関連科目	実験動物学、動物福祉論、生命関連法規、動物形態機能学Ⅰ・Ⅱ
参考書	実験動物の技術と応用（入門編）/日本実験動物協会 編/アドスリー/978-4-900659-44-5：新版 実験動物の環境と管理/山内忠平 著/アドスリー/978-4-900659-88-9：実験動物の技術と応用（実践編）/社団法人日本実験動物協会/アドスリー/ISBN978-4-900659-45-2：アニマルマネジメント 動物管理・実験技術と最新ガイドラインの運用/大和田一雄 監修、笹井一弘 著/アドスリー/978-4-900659-81-0：アニマルマネジメントⅡ 管理者のための動物福祉実践マニュアル/大和田一雄 監修、笹井一弘 著/アドスリー/978-4-904419-03-8：現代実験動物学/笠井憲雪、吉川泰弘、安居院高志 編/朝倉書店/978-4-254-46029-2:獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠実験動物学/朝倉書店/ISBN978-4-254-46031-5
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	・実習では専門職に必要とされる基本的知識および技術の習得と共に資質を養うことも目的とする。予習復習のみならず他科目との関係についても考えながら学修する態度が望まれる。 ・資料配布は実習毎に1回しか行わない。 ・3回の遅刻又は早退をもって1回の欠席とする。 ・授業開始時刻から30分経過以降の入室、授業終了時刻から30分以上前の退席は「欠席」扱いとする。 ・体調不良等のやむを得ない理由を除き、実習中の無断出入りは許可しない。 ・無断でスライド等の撮影、授業を録音・録画することを禁止する。 ・実習には白衣を持参する。 ・髪型、手指衛生については動物看護技術学実習Ⅰに準ずる。 ・適した服装（スカート、短パン、素足、サンダル、ハイヒール、アクセサリーの着用は不適）で実習に臨むこと。 ・実習室内での飲食は禁止する。 ・実習室内へ携帯電話の持ち込みは禁止する。 ・提出期限を過ぎた提出物は受理しない。 ・提出物の不正行為（盗用、剽窃など）には厳しく対応する。 ・欠席した実習の課題や試験は評価の対象外とする。 ・実習中のルール違反、マナー違反には厳しく対応する。
アクティブ・ラーニング	実験・実習
課題に対するフィードバック	提出課題における見解や誤解については実習中にコメントし、解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	実験動物技術者1級資格受験希望者は必ず受講し、単位を取得すること。

科目名	動物公衆衛生学（FVP3K210）
英文科目名	(Animal) Public Health
担当教員名	高橋秀和（たかはしひでかず）
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	動物公衆衛生学総論 公衆衛生学や動物公衆衛生学の歴史・目的・概要・特徴・関連分野・学習法などについて概説する。
2 回	国民衛生 人口統計や生活・医療・環境などの各種調査の結果や変遷について概説し、現在に至る日本の医療や衛生について説明する。
3 回	公衆衛生行政 行政、公衆衛生行政、獣医療者や動物病院との関わり、関連法規などについて説明する。
4 回	ヒトと動物の共生 有史以来のヒトと動物の関係、動物愛護、動物福祉などについて学ぶ。
5 回	疫学概論 公衆衛生の手法として疫学が重要な役割を果たしてきた。医療の例をあげて分かり易く概説する。
6 回	感染症学概論 感染症の要因、種類、サーベイランス、予防、滅菌消毒などについて概説する。
7 回	食品衛生学概論 食品衛生法、食品の規格、添加物、食中毒、食品アレルギー、HACCPなどについて概説する。
8 回	環境衛生学総論 環境の概念・分類、環境衛生学の定義と歴史、獣医学との関連、環境汚染、環境関連法規、環境基準、環境アセスメントなどについて説明する。
9 回	水環境Ⅰ 水系感染症、化学物質、水道、水道法、水道水質基準、浄水処理などについて説明する。
10 回	水環境Ⅱ 下水、下水道、下水処理、し尿、水質検査、水質汚濁などについて説明する。
11 回	大気環境 大気の組成、大気汚染、大気汚染測定法などについて説明する。
12 回	生活環境 シックハウス症候群、アレルギー、室内環境、室外環境、廃棄物問題などについて説明する。
13 回	衛生動物 衛生動物の種類と害、防除手段などについて説明する。
14 回	地球規模の環境問題 地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、海洋汚染、砂漠化、生物多様性の減少などについて説明する。
15 回	その他の環境問題 公害問題や放射能汚染などについて説明する。また、授業全体の総括を行う。

回数	準備学習
1 回	公衆衛生学の講義の中で、頭にすんなり入らないと多くの初学者が感じる部分は法律であろう。e-Gov法令検索（
2 回	厚生労働省のホームページの厚生労働統計一覧等を見ておくこと。
3 回	医療法・獣医療法・狂犬病予防法などをe-Gov法令検索等で調べておくこと。
4 回	環境省の各種「…動物の飼養及び保管に関する基準」や動物愛護管理法の原文を見ておくこと。
5 回	疫学の予備知識を前提とせずに授業を行うが、疫学の手法についてなるべく勉強しておくこと。
6 回	滅菌・消毒法について調べておくこと。
7 回	食品衛生法をe-Gov法令検索等で調べておくこと。
8 回	環境基本法をe-Gov法令検索等で調べておくこと。
9 回	浄水処理について調べておくこと。
10 回	水質検査について調べておくこと。
11 回	愛媛県内の大気汚染状況を調べておくこと。
12 回	身近な廃棄物問題について調べておくこと。
13 回	衛生動物について調べておくこと。
14 回	地球温暖化について調べておくこと。
15 回	放射能について調べておくこと。

講義目的	ヒトを取り巻く、生物、無生物はいずれも相互に影響を及ぼしあっている。ヒトを取り巻くあらゆるものは環境因子と呼ばれる。ヒトを含む動物・植物・微生物、大気・水・大地・山・海-こうしたものが作り出す天候、地球が属する太陽系も環境因子の一つである。我々ヒトは健康に及ぼす環境因子の影響を調べ、健康を損ねる環境要因を制御する方法を体系的に積み上げて生活の質を高める方法を実践してきた。こうした環境因子の作用と制御を実践する学問分野を公衆衛生学という。ここでは、ヒトが生まれて死ぬまでの間に遭遇するライフイベントを、統計的に数の面からまとめた人口動態、ヒト及び動物への環境因子の影響を微生物との関わり合いから学ぶ人獣共通感染症、ヒトとイヌやネコ等の伴侶動物との相互関係、ヒトの生産活動がもたらした地球温暖化等によるヒトと動物、植物等の生態系に及ぼす影響等を対象とする総合的な公衆衛生学の要点を、ヒトと動物の両者の関わり合いについて学ぶことを目的とする。
達成目標	1. 公衆衛生学の目的や歴史を説明できること。 2. 人口や医療の統計データの変動について説明できること。 3. 公衆衛生行政および獣医療との関連を説明できること。 4. 公衆衛生関連法規の概要を説明できること。 5. ヒトと動物の関係の現在ならびに歴史を説明できること。 6. 疫学の概要、および医療・公衆衛生における必要性を説明できること。 7. ヒトや動物の主な感染症やその予防について説明できること。 8. 食品衛生の概要について説明できること。 9. 環境衛生学についてを説明できること。 10. 水環境について説明できること。 11. 大気環境について説明できること。 12. 生活環境について説明できること。 13. 廃棄物問題について説明できること。 14. 衛生動物について説明できること。 15. 公害問題について説明できること。 16. 地域における環境問題に関心を持つこと。 17. 地球規模の環境問題や生物多様性について説明できること。
キーワード	衛生、公衆衛生、保健、国民衛生、人口統計、疫学、EBM、EBVM、感染症、人獣共通感染症、流行、サーベイランス、感染症予防、滅菌、消毒、食品衛生、食中毒、アレルギー、HACCP、環境衛生、環境基準、環境アセスメント、水系感染症、化学物質、上水道、浄水処理、下水道、し尿、水質検査、水質汚濁、大気環境、大気汚染、生活環境、シックハウス症候群、室内環境、室外環境、廃棄物問題、衛生動物、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、海洋汚染、生物多様性、公害、放射能汚染、SDGs.
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト（4点×7回＝28点）、最終試験（62点）、レポート（5点×1回＝5点）、授業における積極性（5点）で評価する。
教科書	「獣医公衆衛生学I」／文永堂出版／978-4830032509／2014年出版 「獣医公衆衛生学II」／文永堂出版／978-4830032516／2014年出版
関連科目	「人獣共通感染症学」を受講することを強く推奨する。その他では、「獣医事法規」「獣医疫学」「食品衛生学」とも大いに関連している。「情報リテラシー」とも関係している。
参考書	「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物公衆衛生学」／インターズー／978-4-89995-860-4／2015年出版
連絡先	高橋 秀和 獣医学教育病院棟4階421室 電話（内線）：8505 オフィスアワー：水曜4時限
授業の運営方針	朝1限目の冒頭に前週の内容についての小テストを行う予定なので、遅刻すると小テストで0点となる可能性があるので注意すること。遅刻3回で欠席1回として扱う。明らかに授業に参加していない場合（絶え間なく雑談しているなど）も欠席として扱う場合があるので真摯に取り組むこと。レポートに他者やインターネットからの丸写しがある場合は、成績評価の対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業中は学生に適宜質問をして一緒に考えるように心がける。毎回授業の最後に演習問題を解かせることにより理解を深める。レポート提出により自主性と思考力を養う。可能な場合には一部授業において測定機器のデモンストレーションを行う。
課題に対するフィードバック	小テストの正答は小テスト直後に解説する。最終評価試験の正答はMylogにアップロードする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物看護技術学実習Ⅱ（FVP3M210）
英文科目名	Practice for Veterinary Nursing Technology II
担当教員名	佐伯香織（さえきかおり）,野原正勝（のはらまさかつ）,古本佳代（ふるもとかよ）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	動物病院の待合室におけるハンドリング、病院内での基本的な保定について実習する。（共同） （全教員）
2回	動物病院での血液検査時、処置時、レントゲン検査時、補液、眼科検診時の保定について実習する。 動物病院内の各シチュエーションにおける保定の実技試験を実施する。（共同） （全教員）
3回	人間関係、飼主とのコミュニケーション、病院内スタッフとのコミュニケーション技術を学習し、各自がコミュニケーションについて実演をする。（共同） （全教員）
4回	診療記録に必要な観察および記録方法（POMR、SOAP）および保管について必要な技術を習得する。（共同） （全教員）
5回	記録方法（POMR、SOAP）についてシミュレーション学習をする。 診察時に必要となる獣医師への補助（身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置）、あるいは対象動物および飼い主に向けての対応を適切に行うための知識を習得する。 第4、5回の記録方法について、実施内容をレポートとして提出する。（共同） （全教員）
6回	侵襲的処置の介助技術 および与薬の援助技術を習得する。 麻酔・鎮静処置に関わる技術についての知識を習得する（共同） （全教員）
7回	輸液・輸血に関わる技術についての知識を習得する。 救命救急処置に関わる技術についての知識を習得する。（共同） （全教員）
8回	死の看取りに関わる技術を習得する。 第6から8回の実習内容の実技試験を実施する（共同） （全教員）

回数	準備学習
1回	動物病院の待合室におけるハンドリング、病院内での基本的な保定について、事前学習しておくこと。
2回	保定の実技試験するので準備をしておくこと。
3回	飼主とのコミュニケーション、病院内スタッフとのコミュニケーションについて事前に学習すること。
4回	診療記録に必要な観察および記録方法（POMR、SOAP）について、事前学習をしておくこと。
5回	診療補助に関する動物看護技術学の関連項目に目を通しておくこと。
6回	侵襲的処置の介助技術 および与薬の援助技術、麻酔・鎮静処置に関わる技術について、事前学習しておくこと。
7回	輸液・輸血に関わる技術、救命救急処置に関わる技術について、事前学習しておくこと。
8回	死の看取りに関わる技術について、事前学習しておくこと。 第6から8回の実習内容を復習しておくこと。

講義目的	動物看護には、対人関係、対動物関係、観察および記録・報告に関わる技術、動物を飼養する環境を整える技術、動物の生活を援助するための技術等が必要である。また、獣医療における診察、検査、処置等を適切に実践するための補助・介助・援助等の技術も必要である。さらに、それぞれの技術を安全に実践することが大切である。本実習では、これらの動物看護技術とそれらを安全に実
------	--

	践するために必要な知識や論理的な考え方を教授する。（獣医保健看護学科の学位授与の方針B、Cにもっとも強く関与する）
達成目標	飼い主および顧客への伴侶動物に関する情報提供技術について説明できること 動物種・動物の状態・処置や検査に合わせた保定法を説明できること フィジカルアセスメント について説明できること 看護記録の作成・記載および保管について説明できること 麻酔看視項目（心拍数・呼吸数・体温・血圧・麻酔ガス濃度・酸素飽和度・二酸化炭素濃度等）の意義について説明できること 生命徴候のアセスメントと救命方法について説明できること
キーワード	動物看護、動物看護記録、動物観察技術、獣医療補助、動物看護技術、動物の介助、与薬、麻酔・鎮静、POMR、SOAP、身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置、輸液、輸血
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	成績は実習への取り組み・参加態度（20%）、実習中に作成したレポート、スケッチ、標本（20%）、口頭試問（20%）、レポート（20%）により行う。総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特に設定しない
関連科目	動物形態機能学、動物薬理学、外科動物看護技術学、高齢動物看護学、動物看護技術学、臨床動物看護学
参考書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 基礎動物看護技術／全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会 編／出版：インターズー／ISBN：978-4-89995-817-8
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	・授業で重視するのは覚えることより考えること。配布する予習・復習ノートに沿って講義プリントと教科書をよく読んで予習をしておくこと。友達を意見を出し合いながら学ぶので積極的に参加する態度が求められます。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切になります。 ・授業ノート、予習復習ノートを自分の言葉でしっかりと仕上げてください。 ・課題レポート等にコピペなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もありますので、絶対に行わないようにしてください。 ・グループワークで学んだり、発表をしたりするので、欠席はしないようにしてください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポート等については、全体的な特徴について後日口頭でフィードバックする。また、実技試験については試験後に実技の全体的な特徴を口頭でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	生命関連法規（FVP3N110）
英文科目名	Law and Regulations for Lifescience Practice
担当教員名	大和田一雄（おおわだかずお）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法の基礎知識； 制定法、判例法、慣習法、条理、公法、私法、成文法、不文法、実体法、手続法、強行法規、任意法規、民事責任、刑事責任、行政上の責任、刑の種類、等の解説を通じ、法律の基本知識について講義する。
2 回	各分野・領域に関する法規； 動物が関連する法規には様々なものがあるが、法規によって対象とする動物種が異なる。本講義では動物看護領域に関わる主な法規が対象とする動物種について概要を講義する。
3 回	獣医事行政法規； 獣医事行政法規のうち、獣医看護業務に関連する法規について、その種類と概要について講義する。この講義を通じ、獣医師法、獣医療法について概要を説明できるようになることを目標とする。
4 回	家畜衛生行政法規； 家畜衛生行政法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要について講義する。この講義を通じて、家畜伝染病予防法、及びペットフード安全法の概要について説明できるようになることを目標とする。
5 回	公衆衛生行政法規； 公衆衛生行政法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要について講義する。この講義を通じて、感染症法、狂犬病予防法、身体障害者補助犬法の概要を説明できるようになることを目標とする。
6 回	薬事行政法規； 薬事行政法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要について講義する。この講義を通じ、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法について、概要を説明できるようになることを目標とする。
7 回	環境行政関連法規； 環境行政関連法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要について講義する。この講義を通じ、動物愛護管理法、外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護法、ラムサール条約、廃棄物処理法について概要を説明できるようになることを目標とする。
8 回	国際的な動物関連法規； 国際的な動物関連法規である、OIEのTerrestrial Animal Health Code(2016)（陸生動物衛生規約）、米国のAnimal Welfare Act（動物福祉法）、英j国のThe Animals (Scientific Procedures) Act 1986 Amendment Regulations 2012（科学的処置に関する動物法）について、その概要を講義する。我が国の法律だけでなく、国際的な動物関連法規やガイドラインに j ついて概要を説明できるようになることを目標とする。 最終評価試験；4者択一式の試験を実施する。

--	--

回数	準備学習
1回	教科書総論第1章を読み、キーワードを整理しておくこと。 制定法、公法と私法の違い、民事と刑事の行政責任について、400字以内にまとめ講義の時に提出すること。
2回	教科書総論第2章を読み、キーワードを整理しておくこと。 伴侶動物に関わる法規、並びに農場から食卓まで、に関わる法律について、400字以内にまとめ、講義の時に提出すること。
3回	教科書各論第1章を読み、キーワードを整理しておくこと。 獣医師の任務について400字以内にまとめ、講義の時に提出すること。
4回	教科書各論第2章を読み、キーワードを整理しておくこと。 家畜伝染病予防法で定められている法定伝染病について、400字以内にまとめ講義の時に提出すること。
5回	教科書各論第3章を読み、キーワードを整理しておくこと。 狂犬病予防法に定められている飼主責任について400字程度にまとめ、講義の時に提出すること。
6回	教科書各論第4章を読み、キーワードを整理しておくこと。 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について400字以内にまとめ、講義の時に提出すること。
7回	教科書各論第5章を読み、キーワードを整理しておくこと。 動物愛護管理法に定める愛護動物、並びに所有者責任について400字以内にまとめ講義の時に提出すること。
8回	http://www.oie.int/international-standard-setting/terrestrial-code/access-online/ https://www.aphis.usda.gov/aphis/ourfocus/animalwelfare/SA_AWA http://www.legislation.gov.uk/ukdsi/2012/9780111530313 等の関連サイトを閲覧し、概要を把握しておくこと。 これまでの講義全体を復習し、関連する法律について対象動物や行政対応、所管省庁などについて知識を整理しておくこと。 全体を通したキーワードを再度整理しておくこと。

講義目的	法律の基礎知識を学び、獣医事に関わる各種行政法規について、それぞれの枠組みと概要を講義する。人と関わりをもつ動物を対象とする獣医療において、獣医看護師あるいは獣医療従事者が獣医師の行う診療行為を理解するとともに、動物の支援に関わる獣医看護師あるいは獣医療従事者として、動物関係法規を知り、その法規の獣医看護業務における位置づけを理解する。広く動物や環境に関する法律を学ぶことにより、これらに対する関心と理解を深め、さらに社会へと視野を広げていくことを目指す。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）
------	---

達成目標	法の基礎知識を知ること、獣医事に関連する各分野・領域に関する法規を理解すること、獣医事行政法規、公衆衛生行政法規、薬事行政法規、環境行政関連法規について理解し、獣医師法、獣医療法、感染症法、家畜伝染病予防法、ペットフード安全法、狂犬病予防法、身体障害者補助犬法、動物愛護管理法、外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護法、ラムサール条約、廃棄物処理法などの代表的な法律の概要を説明できること、を講義の目標とする。（獣医保健看護学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）
キーワード	獣医事行政、家畜衛生行政、公衆衛生行政、薬事行政、環境行政
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	予習レポート30%、最終評価試験70%で評価する。合計100点満点とし、60点以上を合格とする。
教科書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠 動物医療関連法規／全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会編／インターズー／ISBN978-4-89995-859-8 C3047
関連科目	獣医事法規、生命倫理学、動物福祉論
参考書	ペット六法 第2版／ペット六法編集委員会 編／誠文堂新光社／ISBN：978-4-416-70532-2
連絡先	研究室：今治キャンパスB1号館（教育病院棟）3階、315号室。 オフィスアワー：火曜日午後1:00～3:00。 電話：0898-52-9269（DI）。 Email:k-ooowada@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	毎回、授業の開始前に「予習レポート」の提出を求める。提出期限を厳守のこと。
アクティブ・ラーニング	予習レポートの課題について、まとめた内容を発表してもらうことがある。
課題に対するフィードバック	予習レポートの課題については、講義において解説しフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	遺伝育種学 (FVP3P210)
英文科目名	Animal Breeding and Genetics
担当教員名	国枝哲夫* (くにえだてつお*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＜遺伝様式の基礎Ⅰ＞メンデルの分離、優劣、独立の法則を含めた代表的な遺伝様式を示し、ゲノムの概念や構造、遺伝子間の連鎖や組換えを説明する。
2回	＜遺伝様式の基礎Ⅰ＞染色体の構造と機能、染色体異常、減数分裂や配偶子形成のしくみを説明する。
3回	＜遺伝様式の基礎Ⅱ＞DNAの複製機構（遺伝子の転写と翻訳、RNAプロセッシング・スプライシング）を説明する。
4回	＜遺伝様式の基礎Ⅱ＞突然変異（自発的と誘発的）の発生機構を示し、多様な突然変異を説明する。
5回	＜遺伝的改良の基礎＞集団遺伝学の理論（量的形質と統計遺伝学の基礎）を示し、遺伝的パラメータ（遺伝率、表現相関、遺伝相関等）を説明する。
6回	＜遺伝的改良の基礎＞人為選抜（畜産業界で用いられる「きょうだい検定」や「後代検定」）とその限界、ゲノム情報を用いた選抜を説明する。
7回	＜家畜の品種と遺伝的多様性＞家畜の種類と家畜化の歴史、家畜の品種の種類と特徴および保全遺伝学と生物多様性について説明する。
8回	＜質的形質の遺伝＞産業動物の生産形質の遺伝様式を示し、多因子に支配される動物の遺伝的疾患の特徴を説明する。 (磯部知弘)
9回	＜質的形質の遺伝＞主要組織適合性複合体（MHC）など疾患感受性に関わる遺伝子の機能を説明する。
10回	＜応用分子遺伝学とその実践＞家系解析および多型マーカー（マイクロサテライトDNAやSNP等）の連鎖解析（家系図やQTL解析等）を説明する。
11回	＜応用分子遺伝学とその実践＞遺伝子のクローニングと変異の同定法や個体識別、親子鑑定へのDNAマーカーの利用を示し、ヒト疾患モデル動物の開発、遺伝子改変動物の作出と利用法を説明する。
12回	＜動物の遺伝的疾患＞概論：産業動物や伴侶動物の集団の遺伝的特徴と集団の有効な大きさや近交化と遺伝性疾患発生のリスクを示し、変異遺伝子の集団内での頻度に影響を与える要因を説明する。
13回	＜動物の遺伝的疾患＞各論：人の代表的な遺伝性疾患の臨床症状、病態、原因を分かりやすく解説する。
14回	＜動物の遺伝的疾患＞各論：牛、豚、馬の遺伝性疾患の臨床症状、病態、原因を分かりやすく解説する。
15回	＜動物の遺伝的疾患＞各論：犬、猫の遺伝性疾患の臨床症状、病態、原因を分かりやすく解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書の全ページを俯瞰しながら、遺伝育種学の全体構成がどの様になっているかを復習すること。第2回授業までに、特に染色体とクロマチンの構造について予習を行うこと。（学習時間約180分）
2回	減数分裂、各種動物の性決定機構に関して、発生学の教科書も参考にしつつ復習すること。特に演習問題を理解すること。第3回授業までに、DNAとRNAの基本的概念について予習を行うこと。（学習時間約180分）
3回	転写、翻訳、コドン、リボソーム、タンパク質合成、翻訳後修飾に関して、その概要と機能を復習すること。第4回授業までに、突然変異の具体例について予習を行うこと。（学習時間約180分）
4回	応用編として抗体の多様性獲得機構に関して、免疫学の教科書も参考にしつつ復習すること。特に演習問題を理解すること。第5回授業までに、畜産業界で用いられる選抜育種の具体的例について予習を行うこと。（学習時間約180分）
5回	特に量的形質、育種価、選抜育種、近交系数、近交退化、雑種強勢に関して、その概要を復習すること。第6回授業までに、DNAマーカーアシスト選抜について予習を行うこと。（学習時間約180分）
6回	特にBLP法（直接能力検定、後代検定、きょうだい検定）とBLUP法について復習すること。また、演習問題も理解すること。第7回授業までに、家畜育種改良と野生動物における遺伝的多様性について予習を行うこと。（学習時間約180分）

7回	特に家畜化しやすい野生動物の条件、家畜化のための生殖管理に関して、その概要を復習すること。第8回授業までに、動物の毛色の遺伝（特にメラニン色素）について予習を行うこと。（学習時間約180分）
8回	原因遺伝子が同定されている動物の遺伝形質（教科書P32）の形質名に関して、その概要を復習すること。第9回授業までに、移植の拒絶反応について予習を行うこと。（学習時間約180分）
9回	応用編として血液型と免疫遺伝学に関して、免疫学の教科書も参考にしつつ復習すること。また、疾患・薬剤感受性に関する遺伝子を復習し、演習問題も理解すること。第10回授業までに、遺伝的変異と遺伝的多型の概念について予習を行うこと。（学習時間約180分）
10回	代表的な多型マーカーの検出法（PCR法、PCR-RFLP法、DNAマイクロアレイ、シーケンサー）を復習すること。第11回授業までに、家畜の個体識別（スーパーマーケットの牛肉パックに表示されている10桁番号）を用いて牛肉トレーサビリティ法（ http://www.id.nlb.go.jp/top.html ）について体験しておくこと。（学習時間約180分）
11回	個体識別などDNAマーカーの利用で偽装表示に実際用いられている鑑別法と体細胞クローン法、エピジェネティクスの概念について復習すること。また、演習問題も理解すること。第12回授業までに、遺伝性疾患が動物生産に与える影響について予習を行うこと。（学習時間約180分）
12回	特に遺伝性疾患の遺伝様式、その対処法および遺伝子診断法を復習すること。第13回授業までに、人を含む代表的遺伝性疾患（教科書P134-143）に記載していない疾患についても予習を行うこと。（学習時間約180分）
13回	特に遺伝性疾患の遺伝様式、その対処法および遺伝子診断法を復習すること。第14回授業までに、牛・豚の遺伝性疾患については家畜改良事業団（ http://liaj.or.jp/giken/index.htm ）のホームページにて体験しておくこと。（学習時間約180分）
14回	特に各品種の遺伝性疾患の名称、臨床症状および原因を復習すること。第15回授業までに、犬・猫の遺伝性疾患（教科書P148-152）に記載していない疾患についても予習を行うこと。（学習時間約180分）
15回	特に各品種の遺伝性疾患の名称、臨床症状および原因を復習すること。また、演習問題も理解すること。（学習時間約180分）

講義目的	生命現象の根幹となる遺伝現象に関する世代経過にともなう遺伝的変異やそれにとまなう形質形成の過程を理解した上で、動物の遺伝的改良理論や遺伝性疾患の発症メカニズムを学ぶ。 また、遺伝育種学とは、目的に沿うように育種・改良されてきた歴史があり、それは「子は親に似る」という概念のもとに、ときには交配相手さえも厳しくコントロールされて現在に至っている育種選抜法やそれぞれの目的に沿った形質を向上させただけでなく、非意図的に品種に特異的な遺伝的疾患を蓄積させてきたが、その病態や原因および予防法について理解する。（獣医学科の学位授与方針のA（獣医保健看護学科はB）に強く関与する）
達成目標	①遺伝現象を理解する上で必要とされるメンデルの遺伝の法則に代表される種々の形質の遺伝様式および連鎖、組換え、染色体、減数分裂における染色体の分配やゲノム構造に関する基礎的事項を説明できること。 ②遺伝様式の基礎を踏まえ、さらに遺伝現象の基礎となるDNA複製の仕組み、突然変異の種類や発生機構を説明できること。 ③生産形質や一部の遺伝性疾患あるいは特定の疾患に関する感受性等の多数の因子に支配されている遺伝形質を説明できること。 ④育種法による家畜改良とその機構を説明できること。 ⑤動物に生じた遺伝的変異の原因を解明し、予防法を確立するために必要とされる遺伝学的な解析方法を理解し、多型マーカーを用いた個体の識別法を説明できること。 ⑥動物の遺伝性疾患について、集団中での遺伝子頻度や近交化との関係、発生予防のための方法などを理解し、産業動物や伴侶動物に発生している個々の遺伝性疾患について、その臨床症状、病態、原因を説明できること。
キーワード	ゲノム、DNA、RNA、メンデル、染色体、突然変異、染色体地図、DNA組換え技術、クローニング、統計遺伝、遺伝的パラメータ、育種価、質的形質の選抜、交配、近交係数、QTL解析、マイクロアレイ解析
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	1～7コマまで中間テストとしての結果50%と8～15コマまで最終評価試験の結果50%で成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医遺伝育種学/国枝哲夫ほか編/朝倉書店/ISBN 978-4-254-46033-9
関連科目	獣医形態機能学Ⅱ（発生学）、獣医免疫学
参考書	応用動物遺伝学/東條英昭ほか編/朝倉書店/ISBN 978-4-254-45023-1
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	最終評価試験を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、採点后、結果の等級（S,A,B,C,D）を学生にフィードバックする。

合理的配慮が必要な学 生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供 していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物微生物学実習（FVP3R210）
英文科目名	Animal Microbiology Course
担当教員名	森川茂（もりかわしげる）, 林慶（はやしけい）, 藤井ひかる（ふじいひかる）, 渡辺俊平（わたなべしゅんぺい）
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	細菌学実習を始める前に必要な注意点（実習室の消毒・滅菌法ならびに白衣の使用法、手指の洗浄等の方法）について説明する。あわせて消毒と滅菌の概念の違いについて説明する。また対象細菌、対象物品および用途に応じた消毒法・滅菌法について説明して、消毒薬および滅菌条件を各自で設定し実施できる能力を養う。また消毒薬の有効性試験の原理や方法について説明を行い、試験の結果を適切に解釈する技術を取得する。加えて、細菌培養に必要な無菌操作を練習して、無菌操作中に微生物汚染を起こさないための手技を修得する。 （全教員）
2 回	固形培地の作製方法とその利用目的を説明する。また作製の方法を修得する。また培地作製を通して無菌操作の修得と理解を徹底する。 （全教員）
3 回	固形培地への細菌の接種（平板分離法）を体験して、細菌の接種法および培養技術を習得する。 （全教員）
4 回	平板培地上のコロニーの形態を観察する。また 1 細菌染色法（グラム染色、芽胞染色および抗酸菌染色）について説明して、染色に必要な固定法および染色法の原理や手法を理解する。また実際に染色を実施して体験する。 （全教員）
5 回	作製した細菌染色標本を光学顕微鏡にて観察する。またその形態的特徴について考察を行う。また細菌の定量法について学習する。総菌量（数）の定量法（秤量法、比濁法、細菌計算盤による手法）ならびに、生菌数の測定法（液体培地希釈法、混釈法、平板塗抹法による手法）について説明して、検査材料によって適切な定量法を選択できる能力を修得する。 （全教員）
6 回	グラム陽性菌の離培養法について説明して、分離培養に使用する培地とそれを利用する根拠を説明できる力を修得する。グラム陽性菌培養後の培地の変調をもとに細菌の生物学的・生化学的性状を考察する。好気性菌、偏性嫌気性菌および微好気性菌の培養方法についても理解・修得する。グラム陽性菌の生物学的性状、生化学的性状、免疫学的試験ならびに血清型別について説明し、実施できる能力を養成する。各試験の結果をもとに菌属・菌種を同定し、同定した細菌による感染症について考察を行う。 （全教員）
7 回	グラム陰性菌を鑑別するための培地（液体培地および固体培地）を作製して、その作製方法と利用目的を説明する。 （全教員）
8 回	作製した培地にグラム陰性菌の接種を行い、グラム陰性菌の分離培養法について修得する。 （全教員）
9 回	グラム陰性菌の同定および鑑別を行う。グラム陰性菌の培養後の培地の変調をもとに細菌の生物学的・生化学的性状を考察する。グラム陰性菌の生物学的性状、生化学的性状、免疫学的試験ならびに血清型別について説明し、実施できる能力を養成する。各試験の結果をもとに菌属・菌種を同定し、同定した細菌による感染症について考察を行う。 （全教員）
10 回	グラム陰性菌の同定および鑑別を上記のように続けて実施する。 （全教員）
11 回	薬剤感受性試験の概略を説明する。また薬理作用および抗菌スペクトルを理解し、説明できる能力を習得する。プラスミド伝達による薬剤耐性形質の獲得について実験を行う。

	(全教員)
1 2 回	薬剤感受性試験および、プラスミド伝達による薬剤耐性形質の獲得についての実験結果の解釈を行い、同試験および実験について理解を深める。また分子生物学的手法による細菌の同定法について説明を行い、原理や技術の修得を行う。
	(全教員)
1 3 回	細菌学実習全体を通して、実習の結果より解答が可能な問題を複数出題する。この問題の答えを得るために、得られた各実習班（グループ）のデータを基に、グループ内およびグループ間で討議を行わせ、得られた各データを解釈するための討議をワールド・カフェ形式を採用して行う。以上の討議をもとに細菌学実習における学習項目を総合的に、かつ学生主体的に実施する。
	(全教員)
1 4 回	細胞培養の方法について説明して、株化細胞および初代培養細胞の原理と手法について説明する。細胞培養に必要な試薬および器具の準備について修得する。またウイルス接種試験等の、ウイルスを扱う実験に必要な無菌操作の技術を説明して、無菌操作中に微生物汚染を起こさないための手技を修得する。クリーンベンチと安全キャビネットの違いについて説明を行い、病原体の物理学的封じ込め技術の基本について説明する。さらに対象ウイルス、対象物品および用途に応じた消毒法・滅菌法を選び、また消毒薬および滅菌条件を自分で設定し実施できる能力を養成する。（共同）
	(全教員)
1 5 回	培養細胞の形態観察および継代を練習して技術を修得する。体験を通して細胞培養の基本知識（①接着細胞と浮遊細胞の培養法、②細胞の凍結保存と融解の方法）を身につける。また発育鶏卵および動物の臓器からの初代培養細胞の樹立方法の原理や手法の説明をう。また培養細胞へウイルスの接種を実施して、ウイルスの接種法および分離法について学習する。加えてウイルス分離に必要な知識（①ウイルス分離のための採材・運搬方法、②ウイルス分離のための材料の調整方法、③ウイルス分離の手法）についても説明を行い理解を確かにする。
	(全教員)
1 6 回	ウイルスを接種した細胞について、細胞変性効果を光学顕微鏡下で観察して、ウイルスによる細胞の変化を学ぶ。また、発育鶏卵へのウイルスの接種を実施して、その技術を習得する。
	(全教員)
1 7 回	ウイルスを接種した、細胞変性効果を示した細胞から、ウイルス液の回収を行う。これにより、ウイルスの保存法ならびにウイルスの培養方法について修得する。加えて回収したウイルス液中のウイルス量を定量する。ウイルス定量はTCID50法およびプラーク法で行う。
	(全教員)
1 8 回	ウイルス遺伝子の検出およびウイルス抗原検出を行う。体験を通して、PCR法、リアルタイムPCR法、沈降反応、蛍光抗体法およびELISA法の原理について説明できる能力を修得する。
	(全教員)
1 9 回	ウイルス中和試験を実施して、方法の原理や手技を習得する。
	(全教員)
2 0 回	ウイルス定量実験（TCID50法およびプラーク法）の結果を判定する。定量から得られた結果をもとにウイルス量を計算できる能力を取得する。
	(全教員)
2 1 回	ウイルス中和実験の結果を判定する。得られた結果をもとに中和抗体価を読み取る能力を取得する。またウイルスを接種した発育鶏卵からのウイルスの回収を実施する。発育鶏卵を用いたウイルス培養について学ぶ。また補体結合反応についても説明を行い、血清学的試験法の原理や結果の適切な読み取り法について修得する。
	(全教員)
2 2 回	赤血球凝集試験（HA試験）について学び、同反応を用いて発育鶏卵で培養されたウイルスのHA価を決定する。また赤血球凝集抑制試験（HI試験）についても実施して、HAおよびHI試験の原理・手技について理解を深める。
	(全教員)
2 3 回	ウイルス学実習全体を通して、実習の結果より解答が可能な問題を複数出題する（問題を通して、各種ウイルスの同定方法を理解できるようにする）。この問題の答えを得るために、得られた各実習班（グループ）のデータを基に、グループ内およびグループ間で討議を行い、得られた各データを解釈するための討議をワールド・カフェ形式を採用して行う。以上の討議をもとにウイルス学実

	習における学習項目を総合的に、かつ学生主体的に実施する。 (全教員)
--	---------------------------------------

回数	準備学習
1 回	細菌の消毒法と滅菌法の種類を全てあげて、それぞれの方法が有効であるための条件について予習・復習すること。
2 回	細菌培養に用いられる固形培地の種類について調べる。また培地作製に際して、必要とされる無菌操作の方法について予習・復習すること。
3 回	細菌を純培養するためには、どのように菌液を培地にまけばよいか考えておくこと。また菌液の接種に用いる器具（白金耳やスプレッダー）について、その使用法について予習・復習すること。
4 回	グラム染色に用いられる試薬の種類、および方法の手順や原理について予習・復習すること。
5 回	細菌の測定法の種類について調べて、それぞれの方法の原理について予習・復習すること。
6 回	グラム陽性菌に分類される菌属の種類について調べておくこと。またそれらの菌属が引き起こす獣医学領域で知られる感染症について予習・復習すること。
7 回	グラム陰性菌を鑑別するための培地の種類とその培地の性質について予習・復習すること。
8 回	グラム陰性菌に分類される菌属の種類について調べておくこと。またそれらの菌属が引き起こす獣医学領域で知られる感染症について予習・復習すること。
9 回	グラム陰性菌の同定に用いられる試験法および培地の種類について予習・復習すること。
10 回	同上
11 回	ディスク拡散法およびMIC測定について原理と方法を予習・復習すること。
12 回	薬剤耐性プラスミドによる大腸菌の形質転換の原理・方法について予習・復習すること。
13 回	細菌学実習で行った全ての実験とそのデータを再度、復習しておくこと。
14 回	ウイルスの消毒・滅菌に用いられる方法と薬剤の種類について調べておくこと。
15 回	トリプシンの作用について調べておくこと。また同処理の前に細胞をPBS溶液で洗う理由について予習・復習すること。
16 回	ウイルスに感染した細胞の形態変化の種類について予習・復習すること。
17 回	ウイルス定量法についての種類と原理について予習・復習すること。
18 回	ウイルス抗原検出法の種類について調べておくこと。
19 回	中和試験の方法について調べておくこと。中和試験に用いられるウイルス量が多すぎたり少なすぎると起こる結果について予習・復習すること。
20 回	Reed-Muench法について予習・復習すること。
21 回	ウイルス学で利用される、血清学的試験法の種類と原理について予習・復習すること。
22 回	赤血球凝集を引き起こすことの知られているウイルスにどのようなものが存在するか予習・復習すること。
23 回	ウイルス学実習で行った全ての実験とそのデータを再度、復習しておくこと。

講義目的	動物微生物学で、基本となる無菌操作の手法および原理について理解する。加えて、バイオセーフティーに関する基本的な考え方の修得を目指す。また病原体の特性およびその取扱いについて体験的に学ぶ。さらに、微生物学的な診断法の基礎を体験的に学ぶ。細菌およびウイルス、それぞれの特性を体験的に理解することにより適切で安全に病原体を取扱える能力を身につける。また基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施する能力の修得を目指す。動物看護学科の学位授与方針項目Aに最も強く関与する。
達成目標	① バイオセーフティーの理解を深め 無菌操作の原理・手法を理解できること。 ② 細菌、ウイルスの病原微生物を対象として実験室内で実施する消毒・滅菌の方法、消毒薬の有効性試験の概念を修得すること。 ③ 細菌の増殖培地の調製方法、細菌の培地への接種方法、固形培地上での集落性状の特徴について修得すること。 ④ 細菌の形態・構造上の特徴を把握するための染色法、および細菌染色標本の光学顕微鏡下での観察方法を修得すること。 ⑤ 液体中、固形物中、培養物中に含まれる総菌量もしくは総菌数を測定する手法、生菌数を測定する方法を理解すること。 ⑥ 細菌が含まれる材料からの分離培養法を修得すること。また使用培地、好気性菌、通性嫌気性菌、偏性嫌気性菌の培養条件について理解すること。 ⑦ 生物学的・生化学的・免疫学的・遺伝子学的各種試験によって細菌の属・種を同定する方法を修得すること。 ⑧ 薬剤感受性試験の実施法、プラスミド伝達による薬剤耐性の発現について理解できること。 ⑨ ウイルスの分離・増殖・診断に必要な細胞培養法、⑩ ウイルス分離の手法、

	⑪ ウイルスの増殖方法、⑫ ウイルスの定量法、⑬ ウイルス同定の方法について原理を学び、各手技を修得すること。 ⑭ 血清中の抗体、抗原との反応を用いた診断法を修得すること。 全項目(A)。
キーワード	細菌、ウイルス、分離、同定、培養、消毒と滅菌、抗原抗体反応、無菌操作
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	実習中質疑応答での成績、レポート、小テストなど平常点による総合評価。病原性微生物の取扱い、分離・培養法、同定のための試験法についての知見を小テスト50 %、レポート50%の配分比で評価を行う。 60点を合格点とする。
教科書	獣医微生物学第4版／ 関崎勉 [ほか] 編／文永堂 / I S B N 9784830032707
関連科目	動物微生物学、動物公衆衛生学、人獣共通感染症学、動物免疫学
参考書	獣医微生物学：コアカリ / 日本獣医学会微生物学分科会編／文永堂／I S B N 9784830032578
連絡先	獣医学部棟5階521研究室, s-watanabe@vet.ous.ac.jp, 電話 0898-52-9080, オフィスアワー毎週水曜日昼休み
授業の運営方針	病原体を扱う実習のため、実習中の飲食・スマートホンの使用は認めない。 レポートは、合格の基準に達してない場合には、書き直しを求める。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	小テストの解答の解説は授業時間内に実施する。レポート課題の解答と解説は、希望者には個別に対応する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	実習専用にディスポの白衣を配布する。白衣は実習室から持ち出さないこと。必要に応じて参考となる資料を配付する。長髪の場合には、ゴム等で髪をうしろにまとめること。注意点は、実習の最初に説明する。

科目名	生物物理学 (FVP3U110)
英文科目名	Biophysics
担当教員名	齊藤真也 (さいとうしんや)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	物質の状態についての基本的な概念および熱力学の法則の理解に必要な概念を学習する。
2 回	相平衡を理解し、生体高分子の相転移を学習する。
3 回	熱力学的な観点から化学平衡を理解する。
4 回	生体分子の構造を理解するために必要な量子論を概説し、分子の形を決めている力を学習する。
5 回	生体高分子の観察に用いられる電子顕微鏡法および走査プローブ顕微鏡法を概説し、生体高分子の構造を学習する。
6 回	生体分子の大きさを計測する方法並びに生体高分子の形を観察するX線回折法を学習する。
7 回	分光法とその応用を学習する。
8 回	生体イメージング法を学習する。

回数	準備学習
1 回	教科書の基本概念から熱力学第二法則までを。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	教科書の相平衡についての章中で相転移の理解に必要な項目を。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	教科書の化学平衡についての章を。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間180分)
4 回	教科書の量子論及び分子の形を決めている力についての項目を。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間180分)
5 回	教科書の構造の階層についての項目を。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間180分)
6 回	教科書の分子の大きさと形の測定についての項目を。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間180分)
7 回	教科書の光分光法と光生物学についての項目を。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間180分)
8 回	磁気共鳴の原理と磁気共鳴イメージングの項目を。また講義後に、講義内容に該当する部分を教科書で再確認し、復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	生体は分子を単位とした、複雑な動的システムとして理解されている。生物物理学 (Biophysics) は、様々な生命現象を物理学的に理解し、生命の本質の究明や医薬品や医療機器等の研究開発での応用を目指す学問である。一般的に、生物物理学はとらえどころのない難しい学問であるという印象を与えてきたが、本講義では、まず細胞と生体膜の構造と機能を、基本高分子である蛋白質、核酸、ゲノム、遺伝子等の構造と機能に関連づけて学修する。次に、蛋白質の3次元構造と機能、受容体の構造と細胞膜シグナリングシステムの作動機構、ATPを介したエネルギー変換と蛋白質の分子運動について学修し、生体の基本構造と機能の基本的な物理を理解する。加えて、生物物理学の研究方法としてのX線回析法と電子顕微鏡、核磁気共鳴法 (MRI)、ポジトロン断層法 (PET) 等のイメージング技術について、基本原理と応用について学習する。(獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aに強く関与する)
達成目標	1) 生命現象の基礎となる生体分子の挙動を熱力学的に説明できる。(獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aに強く関与する) 2) 生命体を構築する高分子の構造と機能を理解し、説明できる。(獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aに強く関与する) 3) 様々な高解像度の顕微鏡法および生体イメージング法の原理と特徴を理解し、説明できる。(獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aに強く関与する)
キーワード	蛋白質、核酸、酵素、自由エネルギー、顕微鏡、生体イメージング
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	成績は講義期間中に実施する提出課題 (レポート) (達成課題1)と2)を評価) 40%、最終評価試験 (達成課題1)~3)を評価) 60%により評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、特典が100点満点中60点未満の場合は不合格とする。
教科書	「生命科学のための物理化学 (第2版)」/アトキンス/東京化学同人/9784807908387
関連科目	動物薬理学、動物生化学、化学
参考書	「物理化学入門」/アトキンス/東京化学同人/9784807908615
連絡先	研究室 創薬研究室 (A634)

	直通電話 0898-52-9137 E-mail s-saito@vet.ous.ac.jp オフィスアワー 木曜日9:00～12:00
授業の運営方針	提出課題は決められた期限までに提出すること。 講義に関する連絡事項は講義の冒頭に行うので、遅刻は避けること。 講義資料はポータルサイトにアップする。ただし、他者への再配布は禁止する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題と最終試験のフィードバックはポータルサイトに提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物形態機能学Ⅰ（FVP3X110）
英文科目名	Animal Functional MorphologyⅠ
担当教員名	九郎丸正道（くろうまるまさみち）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	解剖学用語、犬の運動装置： 基本的な解剖用語を理解する。次に、犬の頭蓋骨、脊柱、前肢・後肢の骨、肋骨、胸骨などの骨格系、ならびに前肢、後肢の関節を学ぶ。さらに、頭部、頸胸部、腰部、殿部、前肢、後肢の筋群について学ぶ。
2回	犬の内臓学： 犬の消化器系（歯、消化管、消化腺）、呼吸器系、脾臓、泌尿器系、雄性、雌性生殖器系、感覚器、内分泌腺などについて学ぶ
3回	犬の脈管学： 犬の心臓の各部位の名称、胸部、腹部における動脈の走行と名称、上腕、前腕、大腿、下腿、骨盤、頭頸部、脳における動脈の分布と名称、頭頸部、胸部、前肢、後肢、脳における静脈の分布と走行、全身のリンパ管系などを学ぶ。
4回	犬の神経学： 犬の脳の各部位の名称と位置、小脳の区分と名称、脳幹の各部の名称と位置、脳神経12対の名称、走行および機能、各脊髄神経の走行と名称、交感神経、副交感神経の走行と名称などを学ぶ。
5回	猫、豚の解剖学： 犬の解剖学で学んだことをベースに、猫、豚の骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、雄性、雌性生殖器系、血管系、神経系について、比較解剖学的観点から、それぞれの家畜種のもつ形態学的特徴を学ぶ。
6回	反芻類の解剖学：

	反芻類の骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、雄性、雌性生殖器系、血管系、神経系について、その形態学的特徴を学ぶ。
7回	馬の解剖学： 馬の骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、雄性、雌性生殖器系、血管系、神経系について、その形態学的特徴を学ぶ。
8回	鶏の解剖学： 鶏の骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、雄性、雌性生殖器系、血管系、神経系について、その形態学的特徴について学ぶ。

準備学習	
回数	
1回	事前に教科書「犬の解剖 カラーリングアトラス」における解剖学用語、犬の運動装置（骨格系、筋系、関節）の項によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の犬の運動装置の項も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）
2回	事前に教科書「犬の解剖 カラーリングアトラス」の犬の内臓学の項によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の犬の内臓学の項も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）
3回	事前に教科書「犬の解剖 カラーリングアトラス」の犬の脈管学の項によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の犬の脈管学の項も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）
4回	事前に教科書「犬の解剖 カラーリングアトラス」の犬の神経学の項によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の犬の神経学の項も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）

5回	事前に第1回～第4回の配付資料によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の猫、豚の項および「猫の解剖 カラーリングアトラス」も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）
6回	事前に第5回での配付資料によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の反芻類の項も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）
7回	事前に第5回、第6回での配付資料によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の馬の項も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）
8回	事前に第5回～第7回での配の資料によく目を通しておくこと。可能ならば、「カラーアトラス獣医解剖学」の鶏の項も参考にする。講義終了後、配付プリントを用いて講義の内容を復習すること。（標準学習時間80分）

講義目的	最初に、犬の身体各部の諸構造について理解する。基本的な解剖用語を身に付けることから始め、犬の骨、関節、筋肉等の運動装置について、さらに各内臓の位置、特徴、各部の名称、血管系の名称と走行、脳、脊髄の各部の名称、末梢神経系の名称と分布等について順次理解する。次に、犬以外の家畜（猫、豚、反芻類、馬、兎）および家禽（鶏）について、これまで学習した犬の解剖学についての知識を基に、体の構造に関する種間差を理解する。（獣医保健看護科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する）
達成目標	1) 犬の骨、筋、各種内臓諸器官、血管、神経について、その解剖学用語と位置、形状、機能等を説明できること。 2) 犬以外の猫、豚、反芻類、馬、兎、鶏等について、比較解剖学的観点からの種間差を説明できること。 （以上は、獣医保健看護学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する）

キーワード	運動装置、内臓学、脈管学、神経学
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テストは犬の骨、筋、各種内臓諸器官、血管、神経についての理解を評価する。最終評価試験は犬に加えて、猫、豚、反芻類、馬、兎、鶏についての解剖学的特徴の理解を評価する。 小テスト20%、最終評価試験80%により、成績評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	カラーアトラス獣医解剖学 上巻 増補改訂第2版／カラーアトラス獣医解剖学編集委員会 監訳／緑書房／978-4895312516：カラーアトラス獣医解剖学 下巻 増補改訂第2版／カラーアトラス獣医解剖学編集委員会 監訳／緑書房／78-4895312523：犬の解剖 カラーリングアトラス、日本獣医解剖学会監修、学窓社、4-87362-117-8 C3061
関連科目	形態機能学実習
参考書	新編 家畜比較解剖図説 上巻／加藤嘉太郎／山内 昭二 著／養賢堂、978-4842503400：新編 家畜比較解剖図説 下巻／加藤嘉太郎／山内 昭二 著／養賢堂、978-4842503417：ビジュアルで学ぶ伴侶動物 解剖生理学／浅利昌男、大石元治 監修／緑書房／978-4895312189：猫の解剖 カラーリングアトラス／九郎丸正道 監修／学窓社／978-4-87362-747-2
連絡先	獣医学部棟5階533号室 電話：0898-52-9090 mail address: m-kurohmaru@vet.ous.ac.jp オフィスアワー； 火曜日昼休み
授業の運営方針	各回の講義前に講義資料を配布し、それに沿ってパワーポイントスライドで解説を行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	小テスト、最終評価試験ともに模範解答を提示し、疑問点があれば学生個々に対応して説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談すること。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物生理学【月1水2】（FVP4A110）
英文科目名	Animal Physiology
担当教員名	村田拓也（むらたたくや）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ホメオスタシスの維持機構という獣医生理学の基本的な考え方を学修し、細胞機能、膜輸送、体液の区分、体液の酸塩基平衡について理解する。
2回	神経を構成する細胞、静止電位と活動電位の発生機序および関連するイオンチャネル、ならびにシナプスにおける興奮の伝達機序について理解する。
3回	大脳と脳幹の構成と機能、視床下部による生命維持機構、および小脳による運動調節機構を理解する。
4回	動物の感覚、運動、反射に関与する体性神経系、内臓機能の調節に関与する自律神経系からなる末梢神経系、および骨格筋収縮の機序やエネルギー代謝について理解する。
5回	体性感覚、聴覚・前庭感覚、視覚、味覚、嗅覚の受容機構について理解する。
6回	内分泌系による細胞間情報伝達機構の特徴、ホルモンの構造や分泌調節機構、およびフィードバックシステムについて理解する。
7回	成長、糖代謝、および水・電解質代謝の調節に関わる各種ホルモンの作用と分泌調節機構について理解する。
8回	骨の生理学、カルシウム代謝、ストレス応答、および繁殖に関わる各種ホルモンの作用と分泌調節機構について理解する。
9回	各種栄養素の消化吸收機構と反芻動物における発酵過程、および消化管機能の内在神経系とホルモンによる調節機構を理解する。
10回	哺乳類における熱産生と熱放散のバランスによる体温維持機構と、感染時の発熱のしくみについて理解する。
11回	血液を構成する各種細胞の分化やそれぞれの機能、止血と血液凝固の機序、および黄疸について理解する。
12回	呼吸運動とその調節機構、肺の機能的構造とガス交換機序、および血液による酸素と二酸化炭素の運搬を理解する。
13回	心筋の構造と刺激伝導系、心周期と心電図、および血管系の構成と機能を学び、心血管系の調節機構を理解する。
14回	腎臓とネフロンの機能的構造、クリアランスを理解するとともに、尿の生成機序やその調節機構を理解する。
15回	卵巣における排卵と黄体形成、精巣における精子形成の過程とその調節機構、および乳汁の産生と分泌機構を理解する。

回数	準備学習
1回	教科書の細胞および恒常性維持を参照して、動物細胞について予習し、生命の定義について考えるとともに、動物細胞の構造と各細胞小器官の基本的な機能、膜タンパク質の機能、および緩衝液についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
2回	教科書の神経生理学を参照して、膜電位の発生に関連するタンパク質や神経伝達物質について予習し、それらがどのように神経系の働きに関わっているのかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
3回	教科書の神経生理学を参照して、中枢神経系の構成と各部位の機能について予習し、それらの機能が動物の行動にどのように関わっているかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
4回	教科書の神経生理学を参照して、末梢神経系の構成と機能、神経伝達物質、および骨格筋の収縮について予習し、それらがどのように生体の機能調節に関わっているのかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
5回	教科書の神経生理学を参照して、感覚の受容に関連する分子について予習し、それらがどのように受容され情報として伝えられるのかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
6回	教科書の内分泌系を参照して、ホルモンによる生体機能の制御機構に関する一般概念について予習し、ホルモンがどのようにしてホメオスタシスの維持に関わっているのかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
7回	教科書の内分泌系を参照して、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓から分泌されるホルモンについて予習し、それらのホルモンがどのように調節され作用しているのかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
8回	教科書の内分泌系を参照して、甲状腺、上皮小体、副腎、性腺から分泌されるホルモンについて予

	習し、カルシウム代謝、ストレス応答、および繁殖におけるホルモンの役割についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
9回	教科書の消化吸収と栄養代謝を参照して、消化管機能と消化管内微生物による基質の発酵について予習し、単胃動物と複胃動物の消化吸収過程の違いについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
10回	教科書の生体防御機構を参照して、環境との間の熱交換や視床下部による体温調節機構について予習し、体温調節のしくみについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
11回	教科書の血液と造血器を参照して、血液の構成細胞や構成成分とそれらの機能について予習し、血液のホメオスタシスにおける役割についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
12回	教科書の呼吸とその調節を参照して、肺における換気とガス交換について予習し、外気中の酸素を取り入れ、二酸化炭素を外気中に放出するしくみと意義についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
13回	教科書の血液循環とその調節を参照して、心臓血管系の構造と機能、およびその神経性・液性調節について予習し、血液循環調節されているしくみをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
14回	教科書の体液調節と尿の生成を参照して、腎臓の構造、糸球体濾過、溶質の再吸収機構について予習し、代謝老廃物を除去・排泄するしくみをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
15回	教科書の性と生殖を参照して、雌の生殖周期、妊娠、泌乳および雄の生殖生理学について予習し、生殖機能とその調節に関わるホルモンについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	動物生理学では、主として哺乳類の体を構成する各種の細胞や器官系の機能およびそれらの調節機構を理解するための基本的知識を修得し、動物が自己の個体および種を維持する仕組みについて、分子・細胞レベルから個体レベルに至るまで理解を深める。さらに、生体の内部環境恒常性維持の重要性とその機序を理解し、調和のとれた個体の生命現象を統合的に捉える考え方を身につける。また、動物種の違いによる機能の多様性についても理解を深める。（獣医学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与する）
達成目標	①動物細胞は、おかれている環境との相互作用の上で生きていることを学び、多細胞生物にとって内部環境の恒常性の維持が必須であることを説明できる(A)。 ②ニューロンにおける活動電位の発生、伝導、伝達のしくみを学ぶとともに、中枢神経系、体性神経系、自律神経系の構成と機能を説明できる(A)。 ③骨格筋収縮の分子機作および感覚の受容機構とその基本的性質を説明できる(A)。 ④各種ホルモンの生合成と分泌調節およびその作用について学ぶとともに、内分泌系による成長、代謝、ストレス応答などの統合調節の意義を説明できる。 ⑤単胃動物と複胃動物の消化吸収機構の違い、および消化管機能の神経性、液性調節機構を説明できる(A)。 ⑥恒温動物における熱産生と熱放散について学び、体温調節の機序を説明できる(A)。 ⑦肺呼吸によって酸素を取り入れ二酸化炭素を排出する機構、および呼吸運動の調節機構を説明できる(A)。 ⑧血液成分の構成と機能、ならびに心臓の血液駆出機序と血液循環について学び、心機能や血圧の調節機構を説明できる(A)。 ⑨腎臓の尿生成機能について学び、濾過・再吸収・濃縮の機序とその調節機構を説明できる(A)。 ⑩雌雄の配偶子がどのように形成されるか、受精後どのように妊娠が維持され分娩に至るかを説明できる(A)。
キーワード	動物生理、生体恒常性、細胞間情報伝達、消化吸収、呼吸循環、排泄、生殖
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は、達成目標①～⑩に対応した最終評価試験（80%）および小テスト（10%）・レポート（10%）により評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠専門基礎分野 動物形態機能学／全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会／インターズー／ISBN：978-4-89995-809-3
関連科目	生命科学、物質生命科学、動物生化学
参考書	獣医生理学（第2版）／高橋迪雄監訳／文永堂出版／ISBN4-8300-3181-6 動物生理学（環境への適応）／沼田英治・中嶋康裕監訳／東京大学出版会／ISBN978-4-13-060218-1
連絡先	研究室 A2棟5階 536 直通電話 0898-52-9095 E-mail: t-murata@vet.ous.ac.jp オフィスアワー月曜日3時限
授業の運営方針	小テストやレポート提出を複数回行うことにより、予習・復習の時間を増やすとともに、理解度を確認しながら授業を進める。講義資料は、最前列の机の上に置くので、各自取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験、小テストおよびレポートにおいて、間違いの多い課題あるいは箇所については、授業あるいは補講で説明する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	動物毒性学実習【月3火3】（FVP4C210）
英文科目名	Practice of Toxicology
担当教員名	西木禎一（にしきていいち）、水野理介（みずのりすけ）、向田昌司（むこうだまさし）、齋藤文代（さいとうふみよ）、早川晃司（はやかわこうじ）、藤原信行（ふじわらのぶゆき）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	【オリエンテーション】 毒性学実習をはじめるにあたり、その実施方法と運営方針、ならびに実習を安全に実施する上での注意点について知る。 【毒性試験の意義】 毒性学実習の実施に先立ち、毒性試験とな何か、どういう社会的役割を担っているのか、その重要性について議論する。 （西木 禎一、齋藤 文代、早川 晃司）
2回	【環境毒性】（前半） 化学物質の生態系への影響を評価する毒性試験法を理解するため、魚類を用いた急性毒性試験を実施する。被験物質を溶解させた試験溶液と溶媒対象を溶解させたコントロール溶液とをそれぞれ調製し、魚類への暴露を行う。 【in vivo コメットアッセイ】（初回） げっ歯類を用いたDNA損傷・修復検出試験の一つ、単細胞ゲル電気泳動試験（いわゆるコメットアッセイ）を実施する。動物に変異原性物質を投与する。 （全教員）
3回	【環境毒性】（後半） 魚類を用いた急性毒性試験を引続き実施する。暴露後の魚類について異常遊泳や外観の変化等を観察する。死亡魚がある場合は、50%致死濃度（LC50）を算出する。得られた結果を整理し、レポートを作成する。 【in vivo コメットアッセイ】（第2回） げっ歯類を用いたコメットアッセイを引続き実施する。変異原性物質を投与した動物を麻酔下で解剖し、大腿骨を摘出する。大腿骨から採取した骨髓細胞を回収し、電気泳動にかけけるための化学処理をする。 （全教員）
4回	【臓器・機能毒性】（初回） 肝臓に対する臓器毒性の特徴とその機序を理解し、肝機能検査法を実施するため、代表的な肝毒性物質を実験動物に投与する。 【催奇形性試験】（前半） 化学物質の生殖発生毒性を理解するため、鶏卵を用い催奇形性試験を実施する。孵卵5日目の鶏卵に被験物質を投与し、人工孵化を続ける。 【in vivo コメットアッセイ】（最終回） 前回作製した試料を電気泳動後、化学染色により解析し、泳動像からDNA損傷の度合いを判定する。得られた結果をまとめ、レポートを作成する。 （全教員）
5回	【臓器・機能毒性】（第2回） 肝毒性の特徴およびその機序を理解し、肝機能検査法を実施するため、前回肝毒性物質を投与した実験動物にブロムサルファレン（BSP）色素を投与する。採血後、動物を麻酔下で安楽死させる。凝固させた血液から遠心分離した血清を分析まで冷凍保存する。動物を解剖し、肝臓に生じた変化を肉眼で観察し、所見を記録する。得られた結果を整理し、レポートを作成する。 （全教員）
6回	【Amesテスト】（前半） 化学物質の遺伝毒性を理解するため、医薬品の遺伝毒性試験に関するガイドライン推奨の標準的バクテリイ法に組み込まれている細菌を用いた突然変異試験（Amesテスト）を実施する。変異原性物質で

	処理した細菌を寒天培地に播き、培養を開始する。 【臓器・機能毒性】（第3回）肝毒性について理解し、肝機能検査法を実施するため、調整後凍結保存していた血清を材料とし、BSPの残留量を調べる。得られた結果を整理し、レポートを作成する。 （全教員）
7回	【臓器・機能毒性】（最終回） 肝毒性について理解し、肝機能検査法を実施するため、調整後凍結保存していた血清を材料とし、肝細胞より漏出した酵素の血中濃度を生化学的に測定し、各測定値を基準値と比較する。得られた結果を整理し、レポートを作成する。 【化学物質の生体内動態】 化学物質の体内動態や代謝に影響を与える因子について理解を深めるため、コンピューターソフトを用いて化合物の動態シミュレーションを実施する。薬剤の投与方法による薬物動態の違いや、コンパートメントモデル、分布容積や全身クリアランスの意味について理解を深める。得られた結果を整理し、レポートを作成する。 （全教員）
8回	【催奇形性試験】（後半） 鶏卵を用いた催奇形性試験を引続き実施する。被験物質を投与した鶏卵を孵卵19日目に割卵し、ヒナの形態を観察し、所見を記録する。得られた結果を整理し、レポートを作成する。 【Amesテスト】（後半） Amesテストを引続き実施する。37度で48時間培養後冷蔵保存していた寒天培地を観察し、形成されたコロニーの数を計測する。結果から、被験物質の変異原性を判定する。得られた結果を整理し、レポートを作成する。 （全教員）
9回	【フィードバック】 提出されたレポートに対するフィードバックを、講義形式で行う。 （西木 禎一, 齋藤 文代）
10回	最終評価試験 （全教員）

準備学習	「獣医学部履修規程」第3条(2)に従い、当該実習は教室内での授業時間22.5時限（33.75時間）をもって1単位とし、単位の修得には準備学習を含め授業時間外の自主学習を必要としない。レポート作成を含めすべての学修は、授業時間内に行う。 上記のことは、学生の自主的な当該実習科目に係る授業時間外学習を妨げるものではない。秋2学期に履修する他の科目の学修に影響のない範囲で、かつ自身の心身の健康状態が良好に保たれる範囲で、関連科目で修得した知識と実験手技を実習に先立ち復習しておくことは、実習における学習効果を上げると期待される（各回10分程度）。また、提出したレポートをフィードバックを参考にし、データの整理力、および論述力を磨くことは、将来獣医関連専門家として効果的に情報発信する際の基盤となる（岡山理科大学ディプロマポリシーB, D）。
講義目的	化学物質が人や動物そして環境に及ぼす有害作用を明らかにするために法令で実施が定められている主な毒性試験法について、基礎的知識と手技の修得を目的とする（獣保B）。加えて、実験動物学実習で習得した基本的動物実験手技のレベルを高める（獣保A）。一連の実習を通して、将来ライフサイエンス分野で活躍・貢献できる基盤となる毒性学の基礎的知識の定着を図る（獣保B）。さらに、実習レポートの作成により、得られた結果を科学的に整理する力を身につける（岡理B）。これらに加え、グループ活動を通して、協調性を身につけチームワーク力またはリーダーシップを身につける（岡理C）。 文末のカッコ内の「岡理」は岡山理科大学の、「獣保」は獣医保健看護学科のそれぞれ学位授与方針の強く関連する項目を示す。
達成目標	① 毒性試験に必要な基本的手技を、定められた手順書に従って実施できる（獣保A, D）。 ② 毒性試験に用いる代表的な実験動物に対し基本的な実験手技が動物福祉に基づき実施できる（獣保A, D）。 ③ 主な毒性試験について基礎的な知識を認知できる（獣保B）。 ④ 得られた結果を科学的に整理することができる（岡理B）。 ⑤ グループ内での役割を認識し、メンバーとの相互理解を図り協働してグループ活動ができる（

	岡理C)。 (順不同) 文末のカッコ内の「岡理」は岡山理科大学の、「獣保」は獣医保健看護学科のそれぞれ学位授与方針の強く関連する項目を示す。
キーワード	毒性試験、体内動態、遺伝毒性、催奇形性、肝毒性、環境毒性
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	能動的学習態度を重視するため、総括的評価（10%）だけでなく形成的評価（90%）を最終成績評価に含める。100点満点のうち60点以上を合格とする。 総括的評価は筆記試験により行い、当該実習に関わる毒性学の基礎知識を有しているか判断する（達成目標③）。試験は「動物毒性学」（シラバスコードFVM4K210）の最終評価試験と同時に実施する。 形成的評価は次の事柄によって行い、期待される水準に達していない者に対しては勧告する。基本的な動物実験手技が実施できるか、実習中の実技を現認して評価する（達成目標②）。データを正しく記録し、科学的に整理できているか、提出レポートをルーブリックにより評価する（達成目標①、④）。グループ活動の様子は、実習中に現認して評価する（到達目標⑤）。 積極的な実習参加を重視するため、実習中の学習目的以外の電子機器の利用等の行為は非積極的参加態度とみなし減点の対象となる。 毒性物質に加えて、実験動物や鋭利な器具を取扱う実習の性質上、事故につながる危険な行為、グループ活動に影響を及ぼす迷惑行為、教員の制止に反する行為をした場合、評価の対象から除外される場合がある。
教科書	実習書（A4サイズ）を初回に配布する。ルーズリーフ用紙と同様30穴の予定なので、各自持ち運びと保管が容易になるようバインダーを用意して綴じること。
関連科目	当該実習科目では、講義科目「動物毒性学」で修得する知識のなかで、実際に実験を行い観察することにより、さらに理解が深まったり、知識の定着が促進されたりする課題に取り組む。このように両科目は密接な関係にあり、同時に履修することにより相乗的教育効果が生じるよう構成されているため、両科目をともに履修することをきわめて強く勧める。 また、毒性化学物質を実験動物に投与しその影響を観察し、統計学的手法を用いて評価するという当該実習の特質上、「動物看護技術学実習Ⅰ」、「動物実験学」、「実験動物学実習Ⅰ」、「動物微生物学実習」および「生物統計学」を履修している学生の学修を優先する。しかし、それらの科目の履修の有無は当該実習科目の履修を制限するものではなく、未履修の場合でも、教育上有益と判断されれば履修を認めることがある。
参考書	薬理学・毒性学実験／比較薬理学毒性学会 著／文永堂出版／ISBN978-4830032165 獣医学教育モデル コア・カリキュラム準拠 獣医毒性学／石塚真由美・尾崎博・佐藤晃一・下田実・寺岡宏樹 編集／近代出版／ISBN978-4-87402-192-7：獣医学教育モデル コア・カリキュラム準拠 獣医薬理学／池田正浩・伊藤茂男・尾崎博・下田実・竹内正吉 編集／近代出版／ISBN978-4-87402-190-3
連絡先	〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘1-3 岡山理科大学 獣医学部獣医学科 毒性学講座 TEL:0898-52-9000（代表） FAX:0898-52-9022 各担当教員の研究室、電子メールアドレス、直通電話番号、およびオフィスアワー等はmylog参照のこと。
授業の運営方針	・原則、すべての回に出席すること。 ・初回と最終回を除き、1回の授業は3授業時間から構成される。課題によっては、90分単位で行うことができず、時間割通りの時刻に休憩を設けることができない。また、2授業時間以上を連結して行うこともある。学生への負担等が大きいと判断された場合、教育効果を考慮した上で途中10分程度の休憩を設ける。 ・出席は、実施日の最初と最後だけでなく実施中も適宜、確認する。 ・当日の授業開始5分後までは出席、それ以降25分間は遅刻、それ以降に入室した場合は欠席として扱う。 ・原則、当日の実習終了時刻から30分以上前の退席も欠席として扱い、それ以降の退室は早退として扱う。 ・3回の遅刻または早退をもって1回の欠席とみなす。 ・欠席が2回以上の場合、原則として最終評価試験の受験資格を失う。 ・欠席扱いの回のレポートを提出しても評価の対象としない。

	・授業中の電子機器の使用は、教員の指示に従うこと。 ・授業内容の録音・撮影を原則として禁止する。 ・SNSを含めインターネットを利用した授業内容にかかわる情報発信は、個人の感想や見解を含め禁止する。 詳しくは初回に説明する。
アクティブ・ラーニング	・全授業時間に対する「講義形式」：「非講義形式」の実施割合・・・30%：70% ・非講義形式授業中のアクティブラーニング 【協働的活動】グループワーク、ディスカッション 【対話的活動】教員からの問いかけ 【思考活動】素朴な科学的疑問の想起とそれに対する探究、作業中に生じた問題に対する解決策の考案 【理解の確認・促進】レポートの作成
課題に対するフィードバック	レポートに対するフィードバックは最終回に総括して講義形式で行うとともに、希望者には個別にe-learningシステムまたはオフィスアワー等を利用して行う。但し個別対応ができる件数には限りがあることを申し添える。最終評価試験では、正答または解答例を公表するとともに、必要に応じ出題意図や解説を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	担当教員の一人、齋藤文代は毒性評価の実務経験を持つ。それを活かし、各種法令の下で実施される毒性試験の実際についても紹介する。
その他（注意・備考）	毒性学実習が他の実習科目と大きく異なる点は、毒性の高い化学物質を取り扱うことである。実習中は教員の指示に従うとともに、初回に説明する安全心得を遵守し、事故を起こすことのないよう細心の注意を払って実習に取り組むこと。 実習課題の実施順序は、講義日程との対応、実験動物の搬入状況、当日の進行状況等により変更される場合がある。変更された場合、実際のスケジュールは初回のオリエンテーションあるいはその都度連絡する。

科目名	生物統計 (FVP4F210)
英文科目名	Biostatistics
担当教員名	神林康弘 (かんばやしやすひろ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	統計学とは、バイオサイエンス領域の研究や実際（実験データ、保健所など行政関連で得られるデータ、臨床データ、疫学データ、畜産現場でのデータなど）において、効率的なデータ収集、解析、解釈に関する理論と方法論を提供する学問分野である。統計解析とは何か、統計解析で何が分かるか、実際にどのようなデータ処理が行なわれているかについて概説する。
2 回	前回内容の小テストを実施する。尺度について説明し、パラメトリックとノンパラメトリックで使える尺度について理解する。データ収集の集計（単純集計、クロス集計）や、基本統計量について説明する。クロス集計で使用される比率の検定（カイ二乗検定）や相関について概説する。統計解析ソフトEZRを用いた基本統計量の求め方、カイ二乗検定、相関について紹介する。
3 回	前回内容の小テストを実施する。2群間の平均値の比較（パラメトリック）について概説する。EZRを用いた平均値の比較について紹介する。
4 回	前回内容の小テストを実施する。3群以上の間で平均値を比較する方法について概説する。どこかに差があることを見つける検定（一元配置分散分析）と、その後のどこに差があるかを見つける多重比較について説明する。EZRを用いた一元配置分散分析について紹介する。レポート課題を課す。
5 回	前回内容の小テストを実施する。2群間、または、3群間以上の代表値の比較（ノンパラメトリック）について概説する。EZRを用いた代表値の比較について紹介する。
6 回	前回内容の小テストを実施する。統計解析を行う上で気をつけておくべき点について概説する。具体的には、誤差、バイアス、交絡因子について説明する。
7 回	前回内容の小テストを実施する。統計データを読む時に注意すべき点について概説する。統計解析の応用について紹介する。
8 回	前半：試験。後半：解説および復習。

回数	準備学習
1 回	予習：統計学とはどのような学問であるか調べておくこと。復習：次回の小テストに備えて、講義内容について再確認すること。実際に統計解析がどのように使用されているか調べてみること。（標準学習時間60分）
2 回	予習：パラメトリックとノンパラメトリックについて調べておくこと。また、EZRについても調べておくこと。復習：次回の小テストに備えて、講義内容について再確認すること。実際にカイ二乗検定や相関がどのように使用されているか調べてみること。（標準学習時間60分）
3 回	予習：対応のないt検定と対応のあるt検定について調べておくこと。復習：次回の小テストに備えて、講義内容について再確認すること。実際に平均値の比較がどのように使用されているか調べてみること。（標準学習時間60分）
4 回	予習：一元配置分散分析と多重比較について調べておくこと。復習：次回の小テストに備えて、講義内容について再確認すること。実際に一元配置分散分析がどのように使用されているか調べてみること。（標準学習時間60分）
5 回	予習：代表値の差の比較方法について調べておくこと。復習：次回の小テストに備えて、講義内容について再確認すること。実際に代表値の比較がどのように使用されているか調べてみること。（標準学習時間60分）
6 回	予習：バイアス、交絡因子について調べておくこと。復習：次回の小テストに備えて、講義内容について再確認すること。バイアスにはどのようなことがなりうるか、交絡因子となりうる因子について考えてみること。（標準学習時間60分）
7 回	予習：統計データを読む時にどのような点について注意すれば良いか考えておくこと。復習：講義で触れたことを参考にして統計データを読む時にどのような点について注意すれば良いか考えること。（標準学習時間60分）
8 回	予習：試験に備えて全体の復習をしておくこと。復習：試験内容を中心に、講義全体の復習をすること。（標準学習時間180分）

講義目的	農業生産現場や畜産現場では多種多様なデータが収集されている。これらのデータを有効活用することが生産性の向上や疾病の予防につながることを生産者や畜主に十分理解してもらうことが重要である。生物統計学は、生命科学の分野で日常的に使用される不可欠なツールであり、現象の背後に存在する法則性に関して科学的推論を行うことが可能になる。本講義では、記述的な統計学を中心にエクセルを使い疫学や農業生産に関連する身近なデータを扱いながら、統計学の目的、初歩的な分析方法とその結果が何を意味するかなどについて説明する。
------	---

達成目標	データを正確に解釈し、評価するのに必要な生物統計学の基礎的な知識と技能を修得する。 1. データを整理し、その特徴を理解することができる。 2. データの種類に応じた統計手法を選択し、実施できる。 3. 統計解析時の注意点について概説できる。
キーワード	統計解析、尺度、パラメトリック、ノンパラメトリック、基本統計量、カイ二乗検定、相関、平均値の比較、代表値の比較、交絡因子、バイアス。
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	2～7回目の講義の初めに小テストを行う（5点×6＝30点）、レポート（20点）、試験（50点）。10点満点中60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。配布資料とスライドを使用する。
関連科目	「情報リテラシー」、「獣医疫学」、「動物公衆衛生学」があります。
参考書	EZRでやさしく学ぶ統計学 EBMの実践から臨床研究まで 改定2版／神田善伸 著／中外医学社／ISBN 9784498109018 初心者でもすぐにできるフリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析／神田善伸 著／南江堂／ISBN9784524261581
連絡先	研究室 獣医学教育病院棟4階424 直通電話 0898-52-9201 E-mail:y-kambayashi@vet.ous.ac.jp オフィスアワー 木、金曜日15-17時
授業の運営方針	病欠の場合は、医師の診断書を提出すれば、課題を課すなどして出席扱いとする。また、特別な理由での欠席（忌引きなど）の場合も、配慮するので相談すること。
アクティブ・ラーニング	講義で概説したことや予習したことをもとに、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	小テストや試験終了後、解答について解説する。レポートに対する評価とコメントをLMSを使用し、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	臨床動物栄養学（FVP4G210）
英文科目名	Veterinary Clinical Nutrition
担当教員名	星史雄（ほしふみお）, 川重結子＊（かわしげゆうこ＊）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	臨床動物栄養学とはどのような学問か、何を扱い、何を目的としているかを説明する（イントロダクション）。栄養学の基礎である糖質・脂質・アミノ酸の生体内移行経路と代謝経路を説明し、さらに、ビタミンとミネラルの機能とその欠乏症、過剰症を解説する。 （星 史雄）
2回	健常動物にいて、臨床栄養学の意義を説明し、また、各種疾病や各種病態にあわせた栄養管理の意義とその方法論を概説する。 （星 史雄）
3回	疾患として特に主要な消化器疾患を取り上げ、その病態と食事（栄養素）による増悪・改善因子を説明する。併せて、特に糖尿病に焦点を当ててその病態と栄養管理法の関係について説明する。 （星 史雄）
4回	古くから食事療法が実施されている疾患として泌尿器疾患、特に腎疾患を取り上げ、急性および慢性の腎不全時における食事療法の意義と実際を説明する。 （星 史雄）
5回	古くから食事療法が試みられている疾患として特に尿石症を取り上げ、尿石症発症時における食事療法および尿石症の予防法を、尿石症の種類に分けて説明する。 （星 史雄）
6回	疾患として特に心疾患を取り上げ、心疾患時に発症する高血圧に対する栄養学的対処法およびうっ血性心不全時における栄養管理法を説明する。 （星 史雄）
7回	疾患として特にアレルギー性皮膚疾患、アレルギー性腸炎を取り上げ、食事性因子とその病態との関係性およびこれらのアレルギー疾患の栄養学的管理法を説明する。 （星 史雄）
8回	疾患として主要な骨関節疾患を取り上げ、食事性因子とその病態との関係性、およびその栄養管理法を説明する。 また、最後の45分間で臨床動物栄養学の最終評価試験を行う。 （星 史雄）
9回	人・犬・猫の進化の過程から、食性による消化器官の違いと特徴について説明し、それぞれの必須栄養素と「総合栄養食」の概念を解説する。 （川重 結子＊）
10回	ペットフードの種類と目的、原材料、製造方法などについて説明する。特に原材料の栄養学的特徴やアミノ酸プロファイルを詳しくみていく。 （川重 結子＊）
11回	担癌動物の栄養管理のため、さまざまな癌の特徴、担癌動物の代謝の変化と癌悪液質、癌細胞の栄養と担癌動物の栄養補給について解説する。 （川重 結子＊）
12回	外部とのバリアとしての皮膚の構造と、動物種による被毛の違いとターンオーバー、猫に特徴的な疾患としての毛球症について説明する。 （川重 結子＊）
13回	近年、犬猫でも増加してきた肥満症について、機序と病態、減量計画の立て方と実践、個別指導のためのカウンセリングなどを説明する。

	(川重 結子*)
1 4 回	口腔衛生管理と食餌の関係、犬猫での発生率が高い歯周病の予防と管理について説明する。
	(川重 結子*)
1 5 回	非経口栄養(チューブフィーディングと点滴栄養)の理論と実践について説明する。
	(川重 結子*)
1 6 回	最終評価試験を実施する。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	臨床動物栄養学の全体構成がどの様になっているかを、教科書の全ページを俯瞰しながら予習すること。また、栄養学の基礎であるエネルギー代謝に関して、生理学・生化学の教科書も参考にしつつ予習し、第1回授業を復習すること。
2 回	第2回授業までに、健康な状態と疾患状態での栄養学的意味合いの違いに関して予習を行うこと。
3 回	第3回授業までに、獣医消化器病学および獣医内分泌代謝病学のテキストを参照し、異なる消化器疾患および糖尿病で栄養学的にどのような変化が起き、どのような栄養管理をすれば、その病態を改善、予防できるかを考察してみる。
4 回	第4回授業までに、獣医泌尿生殖器病学のテキストを参照し、異なる腎疾患で栄養学的にどのような変化が起き、どのような栄養管理をすれば、その病態を改善、予防できるかについて予習を行うこと。
5 回	第5回授業までに、獣医泌尿生殖器病学のテキストを参照し、異なる尿石症で栄養学的にどのような変化が起き、どのような栄養管理をすれば、その病態を改善、予防できるかについて予習を行うこと。
6 回	第6回授業までに、獣医呼吸・循環器病学のテキストを参照し、異なる心疾患で栄養学的にどのような変化が起き、どのような栄養管理をすれば、その病態を改善、予防できるかについて予習を行うこと。
7 回	第7回授業までに、獣医皮膚病学のテキストを参照し、アレルギー性皮膚疾患およびアレルギー性腸炎で栄養学的にどのような変化が起き、どのような栄養管理をすれば、その病態を改善、予防できるかについて予習を行うこと。
8 回	第8回授業までに、獣医運動器病学のテキストを参照し、骨関節疾患で栄養学的にどのような変化が起き、どのような栄養管理をすれば、その病態を改善、予防できるかについて予習を行うこと。
9 回	第9回授業までに、人と犬・猫のフードの違いについて考えてくる。
1 0 回	第10回授業までに、ドッグフードとキャットフードそれぞれ2製品ずつ、原材料と成分表を調べてくる。
1 1 回	第11回授業までに、「癌」とはどのような疾患か調べてくる。
1 2 回	第12回授業までに、皮膚と被毛の役割について調べてくる。
1 3 回	第13回授業までに、動物の肥満の原因について考えてくる。
1 4 回	第14回授業までに、人と犬猫の歯の形状の違いと理由について考えてくる。
1 5 回	特になし。

講義目的	健康動物（犬および猫）の基本的な栄養管理法を習得し、各種疾患を持った動物の病態を理解すると共に、それらの病態に対する理想的な栄養補助、それらの病態の悪化防止法、または、それらの疾患発生を抑える栄養学的な予防法を含む栄養管理法について理解することを目的とする。特に栄養学的な管理法の違いにより大きくQuality of Life (QOL) が変動する消化器疾患、糖尿病、腎疾患、尿石症、心疾患、アレルギー性疾患、関節疾患を取り上げ概説する。
達成目標	①消化吸収された糖質、脂質、タンパク質等の体内での利用および代謝経路について理解し、各栄養素の過不足と病態の関係についての基礎知識を修得すること。 ②小動物分野における臨床栄養学の概念と必要性を理解すること。 ③消化器および内分泌疾患の病態を理解し、食事性因子について理解すること。 ④腎不全、尿石症などの泌尿器疾患ならびに主要な心疾患における栄養管理について理解すること。 ⑤アレルギー性皮膚疾患や骨関節疾患などの疾患における栄養管理について理解すること。
キーワード	【星】 糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝、補充療法、線維物、オメガ3脂肪酸、オメガ6脂肪酸、尿毒素原性栄養因子、プロバイオティクス、カリウム、無機リン、ナトリウム、マグネシウム、アンモニウム、タウリン、低分子プロテイン、グルコサミン、コンドロイチン 【川重】 完全肉食、雑食、生物学的利用率、悪液質、セラミド、バリア機能、インスリン感受性、アディポサイトカイン、歯垢、歯石、バイオフィルム、歯周ポケット、経腸栄養、点滴栄養

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験により成績評価する。60%以上を合格とする。
教科書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠、専門分野 動物栄養管理学 /全国動物保険看護系大学協会カリキュラム検討委員会編／interzoo
関連科目	栄養学
参考書	なし
連絡先	【星】研究室：病院棟3階325
授業の運営方針	最終時間に最終評価試験を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、結果の公表は行わない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	栄養学 (FVP4H110)
英文科目名	Nutrition
担当教員名	内田英二 (うちだえいじ)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	犬猫の基礎栄養 (1) 炭水化物の種類 (糖質、食物繊維)、構造、生理作用 (炭水化物の消化吸収、解糖系、グルコース) とその供給源、含まれる食物を理解する。
2 回	犬猫の基礎栄養 (2) 脂質の種類 (必須脂肪酸)、構造、生理作用 (脂肪の消化吸収) とその供給源、含まれる食物を理解する。その過剰症、欠乏症についてを理解する。
3 回	犬猫の基礎栄養 (3) タンパク質とアミノ酸の種類、構造、生理作用 (タンパク質の分解とアミノ酸代謝) とその供給源、含まれる食物を理解する。その過剰症、欠乏症についてを理解する。
4 回	犬猫の基礎栄養 (4) ビタミンの種類 (脂溶性と水溶性ビタミン) とミネラルの種類 (主要および微量元素)、生理作用とその供給源、含まれる食物を理解する。その過剰症、欠乏症についてを理解する。
5 回	犬猫の基礎栄養 (5) 犬猫の食性、摂食行動、嗜好性、異嗜、摂食量、飲水量 (水の過剰、不足) による生体の生理作用を理解する。含まれる食物を理解する。その過剰症、欠乏症についてを理解する。
6 回	栄養評価法 (1) 犬猫のエネルギー要求量 (Resting Energy Requirement; RER (安静時エネルギー要求量)、Maintenance Energy Requirement; MER (維持期エネルギー要求量) など) を理解する。また、栄養状態 (ボディーコンディショニングスコア; BCS、肥満、消瘦) の確認方法を理解する。
7 回	栄養評価法 (2) 犬猫の栄養要求 (食性、摂食行動、嗜好性、異嗜、摂食量) のガイドラインを理解する。また、ライフステージ別による栄養管理の特徴を理解する。ペットフードの歴史、種類、目的 (総合栄養食、療法食、間食、一般食)、製造方法、サプリメント、法律の概要を理解する。
8 回	栄養補助・管理が必要な腎疾患の病態を理解し、それら疾患に関する食事性増悪因子・改善因子、食事療法を理解する
9 回	栄養補助・管理が必要な心疾患の病態を理解し、それら疾患に関する食事性増悪因子・改善因子、食事療法を理解する
10 回	栄養補助・管理が必要な消化器疾患の病態を理解し、それら疾患に関する食事性増悪因子・改善因子、食事療法を理解する
11 回	栄養補助・管理が必要な肝疾患の病態を理解し、それら疾患に関する食事性増悪因子・改善因子、食事療法を理解する
12 回	栄養補助・管理が必要な糖尿病の病態を理解し、それら疾患に関する食事性増悪因子・改善因子、食事療法を理解する。
13 回	栄養補助・管理が必要な皮膚疾患、アレルギー疾患、歯科疾患の病態を理解し、それら疾患に関する食事性増悪因子・改善因子、食事療法を理解する
14 回	栄養補助・管理が必要な関節疾患、担がん動物の病態を理解し、それら疾患に関する食事性増悪因子・改善因子、食事療法を理解する。
15 回	強制給餌法 (経管あるいは経静脈) による栄養補給の必要な症例に対し、適切な投与経路、投与方法を選択できると共に、その手技、投与内容物の調整法、栄養バランスをについて理解する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
2 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
3 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
4 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
5 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
6 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
7 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
8 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
9 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
10 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
11 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
12 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
13 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)
14 回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと (標準学習時間180分)

15回	栄養学教科書の関連項目に目を通しておくこと（標準学習時間180分）
講義目的	動物の成長、健康維持には6大栄養素の取得は不可欠である。その種類、構造、生理作用とその供給源、含まれる食物を理解することは大切である。本講義では犬猫における栄養特性、ライフステージの理解を進め、そのステージごとの栄養管理について教授する。健康状態、ライフステージ別、疾病のエネルギー要求量の理解を進め、その要求量の算定式を教授する。また、ペットフードの種類、原料、製造方法、保存方法等および法令の概要についても教授する。さらに 栄養補助・管理が必要な主要疾患の病態を理解し、それらの食事性増悪因子・改善因子食事療法等の栄養管理技術の理論を教授する。 獣医保健看護学科学位授与の方針（DP）のA、Bと深く関連している。
達成目標	炭水化物（糖質）、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの供給源、含まれる食物、生理作用について説明できること。 エネルギー要求量（Resting Energy Requirement; RER（安静時エネルギー要求量）、Maintenance Energy Requirement; MER（維持期エネルギー要求量）など）を説明できること。 栄養状態の確認方法を説明できること。 栄養補助・管理が必要な主要疾患の病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できること。 経腸あるいは非経腸栄養補給法の必要な病気を理解しその方法を説明できること
キーワード	動物栄養学、6大栄養素、イヌ食性、ネコ食性、エネルギー要求量、食事療法、栄養補助・管理
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中に実施する小テスト20%、最終評価試験80%により成績評価し、60%以上を合格とする。
教科書	獣医の学生：獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 臨床栄養学／監修:左向敏紀／インターズー／ISBN:978-4-89995-876-5 看護の学生：動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物栄養管理学／編：全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会／監修：左向敏紀／インターズー／ ISBN：978-4-89995-820-8
関連科目	動物栄養学、動物生化学、動物生理学、動物形態機能学、動物免疫学、動物微生物学
参考書	・小動物の臨床栄養学 第5版／Michael S. Hand／岩崎利郎監訳／インターズー／ISBN：978-4-89995-823-9 ・小動物栄養マニュアル／Tony Buffington／本好茂一監訳／ファームプレス／ISBN-10: 493880770X／ISBN-13: 978-4938807702 ・as BOOKS ライフステージ別・疾患別 基本からよくわかる犬と猫の栄養管理／島田真美／インターズー／ISBN：978-489995-538-2
連絡先	研究室 獣医学教育病院棟3階313研究室 直通電話0898-52-9271 e-mail: e-uchida@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	・獣医師、動物看護師が小動物病院で実践的に必要な知識を基本として講義するので、特に復習を充分にすることが必要です。 ・ペット栄養学会が認定するペット栄養管理士試験にも対応させています。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の模範解答と解説は、mylog ポートフォリオで公開します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	産業動物看護学【水2金2】（FVP4L210）
英文科目名	Veterinary Technology of Farm Animals
担当教員名	永幡肇（ながはたはじめ）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	産業動物（家畜）としての飼育の歴史と現状について学修する。
2回	乳用牛の特性、品種、生体機能（解剖・生理）について学修する。
3回	乳用牛のライフステージごとの飼養管理および乳生産に必要な栄養管理と搾乳について学修する。
4回	肉用牛の品種、生体機能および飼養管理について学修する。
5回	乳用牛・肉牛で問題となる疾病について学修する（1）。
6回	乳用牛・肉牛で問題となる疾病について学修する（2）。
7回	豚の品種、生体機能、飼養管理および問題となる疾病について学修する（1）。
8回	豚の品種、生体機能、飼養管理および問題となる疾病について学修する（2）。
9回	鶏（肉養鶏・産卵鶏）の品種、生体機能、育成法・飼養管理および問題となる疾病について学修する。
10回	山羊の品種、生体機能、育成法・飼養管理および問題となる疾病について学修する。
11回	羊の品種、生体機能、育成法・飼養管理および問題となる疾病について学修する。
12回	食用馬の用途、生体機能、育成法・飼養管理および問題となる疾病について学修する。
13回	産業動物の生産衛生と農場HACCPについて学修する（1）。
14回	産業動物の生産衛生と農場HACCPについて学修する（2）。
15回	動物の飼育と倫理配慮（アニマルウェルフェア）について学修する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習では教科書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
2回	教科書の予習および復習に努めること。（標準学習時間180分）
3回	予習では教科書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
4回	予習では教科書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
5回	予習では教科書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
6回	予習では教科書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
7回	予習では教科書の内容を学習しておくこと。復習では授業の内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
8回	予習では教科書の内容を学習しておくこと。復習では授業の内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
9回	予習では教科書の内容を学習しておくこと。復習では授業の内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
10回	予習では教科書の内容を学習しておくこと。復習では授業の内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
11回	予習では教科書の内容を学習しておくこと。復習では授業の内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
12回	予習では教科書の内容を学習しておくこと。復習では授業の内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）
13回	予習では図書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。特に中央畜産会・農林水産省のホームページを検索すること。（標準学習時間180分）
14回	予習では図書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。特に中央畜産会・農林水産省のホームページを検索すること。（標準学習時間180分）
15回	予習では図書やインターネットを活用し学習に努めること。復習では授業内容を整理し理解すること。（標準学習時間180分）

講義目的	産業動物看護学では、①産業動物（牛、馬、豚、羊、山羊、鶏）における家畜としての飼育の歴史や用途、国内での飼育の現状、②生体機能（解剖・生理）の特性、③ライフステージごとの飼育方法、④各家畜の問題となっている疾病とその原因や背景要因、⑤生産物である畜産食品・畜産物の生産段階におけるHACCPを活用した衛生管理手法（農場HACCP）による生産性の向上と食品安全の確保
------	--

	保、⑥動物の飼育と倫理配慮（アニマルウェルフェア）について講義する。獣医学科学位授与の方針（DP）のBと深く関連している。
達成目標	達成目標は下記のとおりとする。 ①各動物の飼育の歴史や日本における現状が説明できる。 ②各動物の主な品種、動物の特性および生体機能（解剖・生理）の特徴が説明できる。 ③各動物のライフステージごとの飼養管理法が説明できる。 ④各動物に多い疾病、施される獣医療、そのときの看護法が説明できる。 ⑤農場HACCPの概要が説明できる。 ⑥動物の飼育管理上の倫理配慮から、アニマルウェルフェアの定義と基本原則が説明できる。
キーワード	産業動物、アニマルウェルフェア、農場HACCP、飼養衛生管理基準
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績評価は最終評価試験100%により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は用いない
関連科目	産業動物看護学実習
参考書	獣医内科学／日本獣医内科学アカデミー編／文永堂出版／978-4-8300-3252-3 C3061：子牛の科学／日本家畜臨床感染症研究会／チクサン出版／978-4-88500-429-2 C3045：子牛の医学/家畜感染症学会／チクサン出版／978-4-89531-049-9 C3047：新編畜産ハンドブック／扇元敬司他／講談社／978-4-06-153739-2 C3061：畜産学入門／唐沢豊 他／文永堂／978-4-8300-4123-5 C3061
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	講義内容を記載したパワーポイント資料を配布するが、あくまでも講義の概要を記載したものなので講義ではノートや資料の余白なども活用して要点を聞きながら記載する方法を学んでほしい。講義では、質問しながら学習者の考えを聞きながら展開します。
アクティブ・ラーニング	適切な課題があれば実施したいと考えています。
課題に対するフィードバック	課題提出に対しては、内容や構成についてコメントを適宜加えます。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	産業動物看護学実習（FVP4M210）
英文科目名	Practice for Industrial Animal Nursing Technology
担当教員名	永幡肇（ながはたはじめ）, 小野哲嗣（おのてつし）, 中村翔（なかむらしょう）, 山田裕（やまだゆたか）, 野原正勝（のほらまさかつ）, 久枝啓一（ひさえだけいいち）
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	産業動物飼育施設の消毒方法について、消毒剤の特徴と施設に適した消毒剤の組み合わせを理解し、消毒に用いる器具などを用いて実際に消毒薬を調整し学修する。（共同） （全教員）
2 回	産業動物の一般的な飼育施設・構造の特徴を理解し、給与飼料の栄養的あるいは物理的特徴を実際に観察し学修する。（共同） （全教員）
3 回	牛や他の産業動物の外貌（身体部位）の名称を理解し、保定および誘導のために使用する器具、特にロープワークについて学習する。さらに、鎮静等使用する薬剤について学修する。（共同） （全教員）
4 回	個別飼育あるいは群飼育における家畜のの疾病兆候を早期に発見するための注意点、および異常を発見したときに実施すべき診察手順を学修する。（共同） （全教員）
5 回	非常力の強い家畜からの採血、注射および投薬を実行するための保定方法について学習するや。（共同） （全教員）
6 回	牛の直腸検査の手技と意義について学修する。（共同） （全教員）
7 回	牛の第四胃変位整復手術の方法を理解し、それぞれに対応した保定方法および術野の準備ならびに手術器具類や術野の清拭方法、麻酔方法に等助手としての役割学修する。（共同） （全教員）
8 回	牛の輸液療法における投与方法（保定・器具。輸液経路など）および使用する薬剤について学修する。（共同） （全教員）

回数	準備学習
1 回	消毒剤の種類と使用に適した施設および消毒器具について理解すること
2 回	家畜ごとの飼育施設および給与飼料の特徴について調べておくこと
3 回	家畜ごとの保定および誘導方法、および鎮静に必要な薬品について調べておく
4 回	体調不良となった家畜を発見するために注目すべき観察点について調べておくこと
5 回	産業動物における死活、注射部位および投薬方法について調べておくこと
6 回	牛の生殖器の解放的構造および腹腔内における位置、発情周期および妊娠に伴い変化について調べておく
7 回	牛の第四胃変位の病態および手術法について調べておくこと
8 回	牛における輸液について、小動物とは投与量および使用器具などが全く異なるのでそれらについて調べておくこと

講義目的	産業動物看護学実習では、①牛や豚、鶏などの多頭飼育された産業動物飼育施設の消毒方法と消毒薬の特性、②各産業動物における飼養管理方法や畜舎施設に関する基礎的な知識、③各産業動物の外貌の名称と動物の保定方法、診察手順、投薬方法および直腸検査方法の手技と臨床的意義、④牛の第四胃変位開腹手術を想定した手術器具類の準備と術野の清拭法及び麻酔方法、⑤産業動物の輸液療法の実践について修得する。獣医保健看護学科学学位授与の方針(DP)のBおよびCと深く関連している。
達成目標	達成生目標は下記のとおりとする。 ①産業動物飼育施設の消毒方法および消毒薬の特性について説明できる。

	②各産業動物の飼育管理方法について説明できる。 ③動物ごとの外貌の名称と保定方法が説明できる。 ④疾病の早期発見のため診察の進め方が説明できる。 ⑤薬剤の投薬方法および採血方法が説明できる。 ⑥牛の直腸検査方法の手技を修得し意義が説明できる。 ⑦開腹手術に係る器具類の準備から術後治療までの一連について説明できる。
キーワード	消毒薬、診察、投薬方法、直腸検査、第四胃変位
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業中に出題する課題をレポート提出し、それを成績評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	産業動物看護学
参考書	適宜紹介する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
授業の運営方針	・実習では専門職に必要とされる基本的知識および技術の習得と共に資質を養うことも目的とする。 ・予習復習のみならず他科目との関係についても考えながら学修する態度が望まれる。 ・予習復習ノート、実習ノートは自分の言葉で仕上げる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出課題における見解や誤解については実習中にコメントし、解説する。 ・予習、復習、実習ノートの評価については実習中にコメントする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	動物看護学概論【水4金1】（FVP4N110）
英文科目名	Veterinary Technology Outline
担当教員名	小野文子（おのふみこ）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	獣医療と動物看護の歴史、そして持続可能な社会を構築する上で、獣医と協働して獣医事に取り組む獣医関連専門家VPP:Veterinary para-professionalについて理解する。
2 回	動物看護の基本となる概念ー動物・環境・健康・動物看護・人間ーを基にして、ワンヘルスに基づく獣医療・保健・福祉のなかで動物看護の果たす役割について理解する。
3 回	動物看護の本質を考えるための基盤となる基本的理念と倫理規程である動物看護者の倫理綱領について理解する。
4 回	人と動物が共存・共生するOne Healthを健康・福祉・Quality of life向上を考える上で、動物看護の対象としての動物とそれに影響を与える環境について学習する。災害時動物のリスク危機マネジメントとV P P の役割についてグループに分かれてフィッシュボーンマッピングを作成する。
5 回	人と動物が共存・共生する上で関わる伴侶動物と動物看護における見る業務について学習する。グループで作成した伴侶動物の被災動物へのケアについて発表する。聴講する学生は、ルーブリック評価により相互評価する。
6 回	人と動物が共存・共生する上で関わる実験動物、産業動物、野生動物と動物看護における見る業務について学習する。特に、感染症に対するバイオセーフティについて理解する。
7 回	動物看護を系統的・科学的に行うために必要な動物看護過程の原理と方法について説明する。臨床現場における動物看護師の役割、獣医学的な診療の補助看護の視点に基づいたアプローチの実践、看護診断 看護介入について学習する。
8 回	アセスメントの最初に位置するスクリーニング、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントにつづき、フォーカスアセスメントへと看護の対象となる動物を観察し、それに基づいてアセスメントを実施するために必要な知識を修得する。さらに、それらを適切に報告し、記録する方法について概説する。具体的な症例を示しアセスメントの実施方法について学習する。
9 回	動物看護の視点でのアプローチであるアセスメント、看護診断、看護計画、看護実践、看護計画をととして看護目標を達成するプロセスについて概説する。具体的な症例について看護計画を立案する。
1 0 回	動物看護師、V P P が獣医療施設をはじめとする多様な動物看護の場において専門性を発揮し、多様化する社会のニーズに応えていくことの意義とあり方について理解する。職域拡大についてグループワークを行い発表する。
1 1 回	社会における獣医療の提供に関して、獣医療施設そのものというハード面と、適切な獣医療を確保するための業務のあり方というソフト面から概説する。 適正な獣医療を提供するためのインフォームドコンセント等獣医療倫理について理解する。
1 2 回	獣医療においては多職種が多段階の獣医療業務に関与している。その上で、動物や飼い主にとって最適な獣医療を効率的に提供するため、動物看護師がチーム獣医療の調整役となることの重要性について理解する。さらに、獣医療上の事故（院内感染を含む）は日常的に起こる可能性があることを認識し、事故を防止するためには組織的なリスク管理について説明する。
1 3 回	動物看護師の地位の発展と向上のために、専門性を発展させていくこと、および自己研鑽と生涯学習を継続することの重要性について概説する。O I E が国際的に持続可能な開発目標としているV P P の能力開発プログラムについて概説する。
1 4 回	動物看護活動の場について、動物看護関連法規、動物看護師が獣医療施設をはじめとする多様な動物看護の場において専門性を発揮し、多様化する社会のニーズに応えていくことの意義とあり方、獣医療チーム医療について説明する。1年で学んだ科目に関連する模試を実施する。
1 5 回	現代の動物看護学の発展段階について説明し、動物看護師としての職域の拡大、動物看護学を学ぶことで、獣医保健看護学研究とVPPとして活躍する上でどのように活かすかを概説する。動物の健康レベルの変化の特徴に適した経過別看護の展開について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：教科書を一読するとともに、OIEの提言するVPPについて調べておくこと。復習：動物看護の知識と技術の基盤に必要なことをまとめておくこと。（標準学習時間180分）
2 回	予習：「One World - One Health (1つの世界、1つの健康)」の実現と維持に獣医事において、どのような取り組みが行われているか調べておくこと。復習：看護理論と動物看護理論の比較について

	てまとめておくこと。（標準学習時間180分）
3回	予習：教科書を一読し、動物看護の基本理念を理解しておくこと。復習：動物看護者の倫理綱領についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
4回	予習：各自の自治体における動物愛護防災計画について調べておくこと。復習：各グループで伴侶動物の災害サイクルにおける動物看護の担う被災動物へのケアについてフィッシュボーンマッピングを完成させること。（標準学習時間180分）
5回	予習：災害時動物のリスク危機マネジメントにおける動物看護の役割についての発表準備を行うこと。復習：健康時および疾患ステージにおける伴侶動物のQOLについてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
6回	予習：実験動物、産業動物、野生動物のQOLについて考えをまとめておくこと。復習：実験動物、産業動物、野生動物の人獣共通感染症についてレポートを作成すること。（標準学習時間180分）
7回	予習：教科書を一読し、動物看護過程を理解しておくこと。復習：動物看護過程の具体的な方法についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
8回	予習：教科書を一読し、動物看護におけるアセスメントについて理解しておくこと。復習：動物看護におけるアセスメントの要点、専門的用語についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
9回	予習：適切な看護計画の立案について理解しておくこと。復習：アセスメントを実施した症例について看護計画を立案しまとめておくこと。入院期間中の治療薬投与量について正確に計算方法を習得すること。（標準学習時間180分）
10回	予習：動物関連キャリア概論で得た情報を元に動物看護師、VPPの職域について調べておくこと。さらに可能性のある職域について選りよのようなニーズに応えることができるか考えをまとめておくこと。復習：各グループが発表した職域において貢献するために今後学ぶべきことについて考えを整理しておくこと。（標準学習時間180分）
11回	予習：1年で学んだ獣医療にかかわる関連法規についてまとめておくこと。復習：近年の獣医療における発展と問題点についてまとめておくこと（標準学習時間180分）
12回	予習：獣医療で起こりうる事故について例をあげ、リスク危機マネジメントについて調べておくこと。復習：獣医療上の事故を未然に防ぐ方法についてまとめておくこと。（標準学習時間180分）
13回	予習：VPPの担うべき役割について考えをまとめておくこと。復習：OIEのVPP能力開発プログラムにおける動物看護学の位置づけについてまとめておくこと（標準学習時間180分）
14回	予習：チーム獣医療について理解しておくこと。復習：模試の問題について正解を導きだしておくこと。（標準学習時間180分）
15回	予習：獣医看護学を学ぶことによる社会への貢献について考えをまとめておくこと。復習：経過別看護について、ステージごとにまとめておくこと。模試正解について確認しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	獣医療と動物看護の歴史、動物看護学の基礎となる概念、さらには職域拡大する動物看護師の業務、他職種との関連において動物看護の果たす役割について理解する。動物看護者の倫理綱領を理解し、動物の生活や様々な環境条件を踏まえ、動物の適切な飼養方法を理解し、動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼養管理するための知識を修得する。また、ヒトと動物の安心・安全な共生社会を築く上で獣医学の基礎的知識と動物看護学の概念に裏打ちされた専門的知識と技能を持つ動物看護師としての基盤を構築し、さらに専門分野を学ぶ「獣医関連専門家（VPP：Veterinary Para-Professional）」が担うべき役割と今後展開される獣医保健看護学全体の学びへの動機付けを図る。 獣医保健看護学科学位授与の方針（DP）のB、C、Dと深く関連している。
------	--

達成目標	動物看護の基礎となる概念について理解し、動物種、生活様式、環境要因に基づく適切な飼養方法、疾病予防、健康保持についての知識を修得し説明できるようになる。 1. ケアの原理を理解できる。 2. 獣医療と動物看護の歴史の基礎を理解できる。 3. 動物看護学の重要概念を説明できる。 4. 動物看護の提供システムに関する基礎知識を理解できる。 5. ヒトと動物が共生する上での健康・福祉・QOL向上を説明できる。 6. VPPの担うべき役割について自己の考えを表現することができる。
キーワード	獣医療の歴史、動物看護の歴史、資格制度、職域、職務範囲、動物看護者の倫理綱領、獣医療倫理、インフォームドコンセント、Veterinary para-professional、Quality of life, One World - One Health
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績の評価は、講義期間中に実施する講義復習小テスト、レポート、グループ発表（30%）、最終評価試験（マークシートおよび筆記試験70%）により行う。採点の基準は100点満点中60点以上を合格とする
教科書	動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 基礎動物看護学／若尾義人／インターズー /978-4-89995-816-1
関連科目	動物看護技術学、臨床動物看護学総論
参考書	参考書は適宜紹介する。
連絡先	研究室 獣医学教育病院棟3階316研究室 直通電話0898-52-9268 e-mail: f-ono@vet.ous.ac.jp オフィスアワー 金曜日2限
授業の運営方針	・授業は配布資料に基づいて講義を行う ・授業資料を配布するとともに、ファイルをポータルにアップする。 ・グループワークでは各自の意見を書きだし、フィッシュボーンマップに体系的にまとめてグループの意見を整理し発表する。 ・具体的な症例を用いて看護計画を立案する際は、想定される問題点等について十分に考慮するとともに、薬用量計算が正確、迅速にできるようトレーニングする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション グループワークではフィッシュボーンチャート形式で問題点について影響を及ぼす原因を系統たててあらわし、解決策について検討を行い、そこに至った経緯について発表する。聴講する学生はその発表についてルーブリック評価を行うとともに、積極的に質問を行う。
課題に対するフィードバック	講義期間中に行う小テストは採点后返却する。マークシート試験模擬試験を実施し、正解について概説する。発表に対するルーブリック評価について整理し各グループの発表の評価資料を提示する。提出したレポートはコメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	霊長類医科学研究において約2000頭の繁殖群、実験群の臨床、高度医科学研究における周術期管理、ABS L3感染症研究等を通じ共に働くVPPによる動物の観察、看護、高度技術が医科学研究基盤を支えていることを講義で伝える。
その他（注意・備考）	実践的な看護学を学ぶ前に、その基礎となる概念についての理解、動物看護の果たす役割について理解する。学習の進め方において、グループワークの時間をとり、提示したテーマに関してグループおよびクラス全体で意見交換を行う。講義期間中に復習小テストを実施する。

科目名	動物毒性学 (FVP4P210)
英文科目名	Toxicology
担当教員名	齋藤文代 (さいとうふみよ)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【毒性学と社会】 毒性学を学修するにあたり、その目的を知るとともに、対象とする範囲を大別する。毒性物質を自然毒と人工毒に分け、その代表例を学ぶ。薬害や公害について歴史的な大きな事件を例にして、化学物質の持つ有害作用が社会に及ぼす深刻な被害について学び、社会・経済活動の責任について知る。
2 回	【毒性の発現様式と因子】 化学物質による毒性の発現様式、用量反応、その発現に影響を与える因子について学習する。
3 回	【化学物質の生体内動態】 生体内動態とは、人または動物に投与した薬物が体内でたどる運命のことである。生体内動態を知るために、化学物質の生体内での吸収・分布、代謝に関わる酵素群とその反応について学ぶとともに、生体外への排泄機構について学習する。さらに、投与後の化学物質の生体内動態の重要な数学的解析法であるトキシコキネティクスのモデルについて学び、その重要なパラメータについて学習する。
4 回	【毒性試験の実施と評価】 毒性試験には、薬剤の安全性や毒性に関する情報を得るための動物実験等がある。その種類と方法を知り、毒性試験及び評価法について学ぶ。主に器質的变化を評価する毒性試験に対し、生命維持に重要な器官に生じる機能的変化を中心に評価する安全性薬理試験について学習する。毒性試験実施の基準となるGLP、さらに毒性試験に用いる実験動物の特徴を知り、統計学的解析手法の重要性を知る。
5 回	【化学物質のリスクアナリシス】 化学物質の使用における毒性発現確率評価法の重要性を知る。化学物質暴露時の健康被害発生確率を評価するリスクアセスメント、その被害回避のためのリスクマネジメントについて学ぶ。両者に関わる機関・法規制について知識を身につける。私たちの生活を支える化学物質の管理と規制について学習する。リスクに関する情報交換を通じ意思疎通を行うリスクコミュニケーションについて学ぶ。
6 回	【環境毒性】 環境毒性とは、有害化学物質が環境中に放出された後、移動や生物濃縮などによって人や野生生物などの生理や生態に及ぼす影響のことである。環境毒性を持つ化学物質の環境中の動態について学び、それらの毒性作用および生態系への影響について学習する。生態系に対する環境汚染化学物質の影響を評価する毒性試験について知るとともに、環境汚染物質に関する法規制や国際的な取り組みについて知識を身につける。
7 回	【遺伝毒性】 遺伝毒性とは、化学物質によるDNAの変化により生じる体細胞および生殖細胞に遺伝的变化が健康に被害を及ぼす性質のことをいう。遺伝毒性の発生原因について、DNA損傷の修復機構と関連付けて学習する。遺伝毒性を示す主な化学物質を知るとともに、遺伝毒性物質を検出する遺伝毒性試験について学習する。
8 回	【発がん性】 発がん性とは、正常な細胞をがん細胞に変化させ悪性腫瘍を発生させる性質のことである。実験動物を暴露したときに、陰性対照群に比べより高い悪性腫瘍の発生頻度を示す化学物質を発がん性物質と呼ぶ。化学物質によりがんが発生するメカニズムについて学習し、主な発がん性物質とその特徴について知る。さらに、発がん性試験の方法と評価法を学ぶ。
9 回	【生殖発生毒性】 生殖発生毒性とは、生物の生殖能（生殖器官の形態異常や、受精、性周期、受胎能、分娩の機能異常）、さらに胚・胎児への障害などに影響を及ぼす毒性である。雄性ならびに雌性生殖器、個体の発生における化学物質の毒性発現について学習する。また、代表的な生殖発生毒性物質を学ぶとともに、化学物質の生殖発生毒性を検査する試験方法について知識を身につける。
10 回	【肝毒性・腎毒性】 肝臓および腎臓の機能や形態に異常が現れる特殊毒性について学ぶ。各臓器毒性の概要を知り、それらを引き起こす毒性物質の特徴を学び、両臓器の機能障害の指針となる検査方法について学習する。
11 回	【呼吸器毒性・循環器毒性・免疫毒性】 呼吸器ならびに循環器や、免疫系の細胞の機能や形態に異常が現れる特殊毒性について学ぶ。各臓器毒性の概要を知り、それらを引き起こす毒性物質の特徴を学び、その試験方法について学習する。さらに、循環器毒性物質についてはその発現機構についても学ぶ。

1 2 回	【皮膚毒性、感覚器・運動器毒性、内分泌毒性】 皮膚、感覚器、運動器、ならびに内分泌系の機能や形態に異常が現れる特殊毒性について学ぶ。各臓器毒性の概要を知り、それらを引き起こす毒性物質の特徴を学習する。さらに、皮膚毒性についてはその試験方法についても学ぶ。
1 3 回	【血液毒性、神経毒性、消化管毒性】 血液、神経系、ならびに消化管の機能や形態に異常が現れる特殊毒性について学ぶ。各臓器毒性の概要を知り、それらを引き起こす毒性物質の特徴を学習する。
1 4 回	【化学物質の有害作用】（その1） 動物用を含めた医薬品ならびに化粧品の有害作用について、事例をもとに学習する。また、医薬品との相互作用により毒性を誘発しうる食品について知る。食品や飼料は材料の収穫から加工を経て供給されるまでに多くの処理が加えられるため、食材だけでなく添加物の安全性も重要である。食品添加物および飼料添加物の有害作用、ならびに食品を汚染する有害物質について学習する。また、現在使用されている農薬は一般的に人や有益生物に対して毒性はきわめて低い、決して無毒ではない。農薬の種類について知り、その有害作用と中毒症状や生態系への影響について学習する。
1 5 回	【化学物質の有害作用】（その2） 工業化学物質等の一般化学物質や依存性を示す薬物や嗜好品ならびに嗜好品中に含まれる成分、その有害作用と毒性について知識を身につける。また、自然環境に存在する植物性、細菌性、真菌性、あるいは動物性の天然毒性物質の有害作用について学び、放射線および紫外線の有害作用について学習する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバス及び教科書の第1章の第1節と2節を通読し、学習する事項を把握したうえで、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと（30分）。
2 回	受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第1章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。
3 回	教科書の第2章を通読し、吸収・分布・代謝・排泄及び生体内動態を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第2章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。
4 回	教科書の第3章を通読し、毒性試験の種類、試験実施のための体制（GLP）、統計手法を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第3章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。
5 回	教科書の第5章を通読し、化学物質の毒性試験結果からどのようにリスク評価（リスクアセスメント）を行い、そのリスクを管理していくか（リスクマネジメント）を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第5章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。
6 回	教科書の第9章を通読し、環境中に放出された化学物質が生体及び生態系に及ぼす毒性影響を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第9章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。
7 回	教科書の第6章の第1節を通読し、遺伝毒性とその要因、試験方法を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認すること（30分）。
8 回	教科書の第6章の第2節を通読し、発がん性と遺伝毒性との関連性、発がんメカニズム及び試験方法を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第6章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。
9 回	教科書の第7章を通読し、生殖器及び生殖機能、個体発生の機序、試験方法を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第7章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。
1 0 回	教科書の第8章の第4節と第5節を通読し、化学物質の代謝・排泄に重要な役割を果たす肝臓・腎臓の機能と毒性を示す物質を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、各節の演習問題に取り組むこと（30分）。
1 1 回	教科書の第8章の第1節から第3節を通読し、呼吸器、循環器、免疫系に毒性を示す物質と各試験方法を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、各節の演習問題に取り組むこと（30分）。
1 2 回	教科書の第8章の第6節から第8節を通読し、皮膚、感覚器、運動器、内分泌系の機能と各臓器系

	に毒性を示す物質を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、各節の演習問題に取り組むこと（30分）。
1 3 回	教科書の第8章の第9節から第11節を通読し、血液、神経系、消化管の機能と各臓器系に毒性を示す物質を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、各節の演習問題に取り組むこと（30分）。
1 4 回	教科書の第4章の第1節から第3節を通読し、動物用を含む医薬品及び食品、農薬の有害作用を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認すること（30分）。
1 5 回	教科書の第4章の第4節から第7節を通読し、工業化学物質等の一般化学物質、麻薬、自然毒、紫外線等による有害作用を知っておくこと。履修済みの科目で学習した関連事項を復習しておくこと。受講後、教科書を再通読し、概要が理解できるようになったか確認するとともに、第4章の章末の演習問題に取り組むこと（30分）。

講義目的	・化学物質が人や動物そして環境に及ぼす有害作用を明らかにすること、さらにその有害作用を防止することの重要性を理解する。 ・化学物質の生体での有害作用及び体内動態について学習し、各臓器及び生体機能に対する化学物質の毒性の特性及びメカニズムを理解する。 ・地域ならびに地球規模での化学物質の動態や環境への影響に関する知識を身につける。 ・毒性学における網羅性の重要性を理解する。 ・化学物質のリスク評価について学び、リスク管理に関わる機関ならびに法規制について理解する。
達成目標	① 毒性学の目的とその範囲について概要を理解し、化学物質の毒性発現様式と影響を与える因子について概説できる。 ② 生体における化学物質の動態について概要を理解し、生体内動態に影響を与える因子を列挙でき、その評価手法を概説できること。 ③ 毒性試験の基準、実施方法、評価方法を類別できること。 ④ 生体および環境に有害な作用を及ぼす化学物質を列挙でき、医薬品とその他の化学物質による毒性の違いを概説できること。 ⑤ 化学物質により毒性が発現する確率の評価法と判定について概要を理解し、その回避方法と法規制を概説できること。 ⑥ 遺伝毒性および発がん性物質の毒性発現の機序や特徴を理解し、その試験方法を選択できること。 ⑦ 生殖発生毒性の概要を理解し、原因となる毒性物質を列挙でき、およびその試験方法を概説できること。 ⑧ 臓器および生体機能に対する化学物質の毒性の特徴の概要を理解し、その試験方法を概説できること。 ⑨ 環境中における化学物質の動態と生体および生態に対する影響について概要を理解し、評価法および防止法について概説できること。
キーワード	化学物質、医薬品、化粧品、食品、飼料添加物、農薬、安全性試験、動物実験、突然変異、腫瘍、生殖発生毒性、肝毒性、腎毒性、臓器毒性、環境汚染、健康被害（順不同）
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業内容の復習テスト（第2回～15回目の講義で実施、約10分間、評価割合20%）と、最終評価試験（評価割合80%）によって総括的評価を行い、単位取得の可否を決定する。なお、総括的評価では得点率60%を基準とし、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者を合格とする。最終評価試験の問題形式は、短文記述、選択、穴埋め、正誤などを組み合わせる。 受講期間中の学習過程の改善を目的とする形成的評価は、出席率および受講態度を元に行い、期待される水準に達していない者のみに対して勧告する。なお、形成的評価は総括的評価に含めない。
教科書	獣医学教育モデル コア・カリキュラム準拠 獣医毒性学／石塚真由美・尾崎博・佐藤晃一・下田実・寺岡宏樹 編集／近代出版／ISBN978-4-87402-192-7
関連科目	選択科目の化学、動物生化学（以上1年次）、動物薬理学総論・各論、動物病理学、動物実験学、実験動物学、動物公衆衛生学（以上2年次）を履修済みであることが望ましい。 1年次に履修した生命科学Ⅰ・Ⅱ、動物形態機能学、および動物生理学で習得した知識と関連付けて学習すると効果的である。 同時期に開講される毒性学実習ならびに食品衛生学を履修し、4年次に開講される医薬品・食品安全性評価演習を続けて履修することを推奨する。
参考書	教科書の内容理解を助ける書籍を次に列挙する。教科書の内容を元に、より専門的知識を得るための参考書は獣医学科のシラバスを参照すること。 毒と薬の科学／船山信次／朝倉書店／ISBN978-4-254-10205-5：毒の科学 毒と人間のかかわり／船山信次／ナツメ社／ISBN978-4-8163-5409-0：知らないと怖い 毒の話／井上浩義／アーク出版／ISBN978-4-86059-164-9：ニュースになった毒／Anthony T Tu 著／東京化学同人／ISBN978-4-8079-1

	290-2：社会の中に潜む毒物／Anthony T Tu 著／東京化学同人／ISBN978-4-8079-1291-9
連絡先	〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘1-3 岡山理科大学 獣医学部獣医学科 毒性学講座 TEL:0898-52-9000 (代表) FAX:0898-52-9022 *担当教員の研究室、メールアドレス、オフィスアワーなどはmylogを参照のこと。
授業の運営方針	・授業中の電子機器の使用は、教員の指示に従うこと。 ・授業内容の録音・撮影は原則禁止する。特別な理由がある場合は事前に教員に相談すること。 ・SNSなどインターネットを利用した授業内容の情報発信は、個人の感想なども含め禁止する。 ・授業開始5分以内は出席とするが、開始5分～30分間は遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。 ・授業終了前30分以上の退出は欠席とし、終了前30分～終了時までの退出は早退とする。 ・3回の遅刻もしくは早退をもって、1回の欠席として扱う。 ・原則として、5回以上の欠席で最終評価試験の受験資格を失う。
アクティブ・ラーニング	・授業の最初に前回授業の復習テストを行い、学生の理解度に応じた授業を行う。 ・「シンク・ペア・シェア」(2人組で議論し、その内容を全体で共有する)を行い、学生の能動的学習を促進する。 ・教員から学生への問いかけを積極的に行い、双方向型の授業を行う。
課題に対するフィードバック	・復習テスト(小テスト)は解答例を公表するとともに、出題意図などの解説を行う。 ・最終評価試験では、採点結果の度数分布や平均点とともに総評(正答を導き出すための思考など)をフィードバックする。 ・総括的評価では、各学生にグレード(S、A、B、C、D)をフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	日頃から、自分の生活に影響を及ぼす有害物資について、例えば築地市場の豊洲移転問題における土壌汚染など化学物質の毒性に関わる報道に関心を持ち、身近な問題として捉える習慣を身につけるようにすること。